

2008年度以降入学者対象 学部基礎科目

コミュニケーション障害論

吉川雅博

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ことばによるコミュニケーションは人間の特徴である。コミュニケーションの道具として当たり前として使っていることばの機能や重要性を知る機会は少ない。本講義では、一般的に知られていないコミュニケーション障害について学習し、ことばの多様な機能や脳の機能の複雑さ、さらにわかりやすい話し方などを学ぶことを目的とする。

【授業の目標】

1. コミュニケーションの障害について理解する。
2. コミュニケーションの障害を持つ人との接し方を理解する。

【授業計画】

講義形式により、テキストに沿って、説明を加えていく。

- 第1回 授業の進め方、言語障害の種類、障害の次元
- 第2回 ことばとは
- 第3回 ことばを生み出すメカニズム (1)
- 第4回 ことばを生み出すメカニズム (2)
- 第5回 ことばを生み出すメカニズム (3)
- 第6回 聴覚障害 (1) (ビデオ)
- 第7回 聴覚障害 (2) (ビデオ)
- 第8回 聴覚障害 (3) (ビデオ)
- 第9回 構音障害
- 第10回 音声障害、吃音
- 第11回 失語症 (1) (ビデオ)
- 第12回 失語症 (2)
- 第13回 言語発達遅滞 (ビデオ)
- 第14回 言語検査、まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

試験の成績による

【テキスト】

絵でわかる言語障害 (毛東真知子著、学習研究社) 2002年、1800円 (税別)

保健福祉論

棚橋昌子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

保健・医療・福祉の統合を進める最近の動向を踏まえて、地域や職域等における保健福祉の現状を理解する。特に母子保健・高齢者保健は住民の身近な問題として、地域保健法により地域密着型となり、地域福祉との接点が大きくなった。具体例により保健福祉の課題とあり方を学習する。

【授業の目標】

- 1、保健と福祉の接点を理解し、21世紀福祉ビジョンを主体的に考える能力を養う。
- 2、日常生活 (映像) の中から福祉の課題を考える能力を養う

【授業計画】

- 1回 保健と福祉の関連
- 2回 保健と福祉の接点1 保健からみた福祉
- 3回 保健と福祉の接点2 福祉からみた保健
- 4回 保健と福祉の接点3 生活の中の保健福祉
- 5回 地域保健法
- 6回 21世紀福祉ビジョン
- 7回 児童と家庭をとりまく環境 1
- 8回 児童と家庭をとりまく環境 2
- 9回 少子化対策と育児支援
- 10回 高齢者の保健福祉 1
- 11回 高齢者の保健福祉 2
- 12回 地域の福祉の実態 (民生委員活動)
- 13回 生活習慣病予防と介護予防
- 14回 保健福祉の課題
- 15回 まとめ

【評価方法】

受講態度および演習・テストの総合評価

【テキスト】

毎回プリントを配布する。
授業の理解度を高めるためにVHS or DVDを使用する。

【参考文献・資料】

保健福祉学概論 (日本保健福祉学会編 川島書店)
これからの地域保健 (厚生労働省健康政策局編 中央法規出版)
社会福祉の動向 (社会福祉の動向編集委員会編 中央法規出版)
国民衛生の動向 (厚生統計協会)

公衆衛生学

棚橋昌子

福祉貢献学科 2年 後期 選択 2単位
言語聴覚学専攻 2年 後期 選択 2単位
視覚科学専攻 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

生活環境の変化により、大気・水等の環境汚染や運動不足・飽食による糖尿病等の生活習慣病が問題となっている。医療保健統計から公衆衛生の現状を学び、健康を保持・増進する視点から、疾病予防対策をたてる公衆衛生の理論と実践について学習し、保健医療対策の現状を理解する。

【授業の目標】

医療従事者・福祉従事者として必要な公衆衛生学の基礎を学修する

【授業計画】

- 第1回 健康の定義、健康の理解
- 第2回 公衆衛生の歴史、疾病構造の変化
- 第3回 生活習慣病 (1) 基礎疾患
- 第4回 生活習慣病 (2) 循環系疾患
- 第5回 生活習慣病 (3) 悪性新生物
- 第6回 生活環境と健康 (1)
- 第7回 生活環境と健康 (2)
- 第8回 生活環境と健康 (3)
- 第9回 文明の発展と健康被害
- 第10回 健康づくり対策
- 第11回 保健・医療統計 (1) 人口・出生・死亡
- 第12回 保健・医療統計 (2) 疾病統計
- 第13回 地域保健福祉 (1) 母子保健
- 第14回 地域保健福祉 (2) 高齢者保健
- 第15回 まとめ

【評価方法】

受講態度・授業内演習・テストの総合評価

【テキスト】

毎回プリントを配布する

【参考文献・資料】

国民衛生の動向 (厚生統計協会)
国民の福祉の動向 (厚生統計協会)
医学一般 社会福祉士養成講座13 (中央法規出版)
21世紀の予防医学・公衆衛生 (杏林書院)

加齢医学

井口昭久

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

加齢に伴う身体、生理、心理の変化について理解し、特に老年期に障害をきたすことの多い各種疾患について、それらの病態障害像について理解し、それらに対する治療、援助のあり方について学ぶ。

【授業の目標】

- 1: 高齢社会について知る
- 2: 老化: 寿命について学ぶ
- 3: 認知症を理解する
- 4: 高齢者の疾患について学ぶ

【授業計画】

- 講義日程
- 1回: 高齢社会の疫学
 - 2回: 老年学とは
 - 3回: 老化学説
 - 4回: 老化現象
 - 5回: 認知症
 - 6回: 認知症の症状
 - 7回: メタボリック症候群
 - 8回: 高齢者の疾患総論
 - 9回: 高齢者の疾患総論
 - 10回: 高齢者の疾患総論
 - 11回: 高齢者の糖尿病
 - 12回: 高齢者疾患の特徴
 - 13回: 高齢者の検査・薬剤
 - 14回: 多元的高齢者総合評価
 - 15回: テスト

【評価方法】

筆記テストによる

【テキスト】

これからの老年学: 井口昭久編: 名古屋大学出版会

【参考文献・資料】

老年医学テキスト: 日本老年医学会編

実験心理学

川嶋英嗣

福祉貢献学科	1年	前期	選択	2単位
言語聴覚学専攻	3年	前期	必修	2単位
視覚科学専攻	1年	前期	必修	2単位

【授業の概要】

実験心理学の科学的立場づけについて理解し、感覚、知覚、認知・学習、生理、情動、行動などの人間の諸能力を実験的に測定する技法やこれまでの知見について学ぶ。

【授業の目標】

様々な測定技法の理論的背景を理解し、それらの技法を用いた心理実験の実施を可能にする。

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 精神物理学的測定法 (1)
- 第3回 精神物理学的測定法 (2)
- 第4回 精神物理学的測定法 (3)
- 第5回 精神物理学的測定法 (4)
- 第6回 精神物理学的測定法 (5)
- 第7回 ウェーバー・フェヒナーの法則
- 第8回 一対比較法 (1)
- 第9回 一対比較法 (2)
- 第10回 マグニチュード推定法
- 第11回 信号検出理論 (1)
- 第12回 信号検出理論 (2)
- 第13回 SD法
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席、期末試験(筆記)により評価する。

【テキスト】

音の評価のための心理学的測定法(難波精一郎・桑野園子著 コロナ社)

【参考文献・資料】

心理物理学—方法・理論・応用(上巻)—(G.A.ゲンシャイダー 著 宮岡徹・倉片憲治・金子利佳・芝崎朱美 訳 北大路書房)

090648001_0070 掲載順 : 0070

MASTER ★

社会学

安藤純子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

【授業計画】

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方、良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業の目標】

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

【授業計画】

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新法学レッスン(中島編 成文堂)。

【参考文献・資料】

参考資料は当方で作成し、随時配布する。

090648001_0080 掲載順 : 0080

MASTER ★

保育学

本山ひふみ

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

保育という言葉の意味の理解に基づき、従来の身体発育・精神発達観の検討を通して、保育の基本に対する理解を深める。さらに、家族の多様化や地域社会の変化、幼保一元化の行政上の動向等、子どもをとりまく生活環境の変化の中で、保育の課題について学習する。

【授業の目標】

乳幼児がもっている自分自身で伸びようとする力に気づき、それを支援する大人のかかわりや環境構成の大切さを理解し、次世代育成の意識を身に付ける。

【授業計画】

- 第1回 社会の変化と保育学
- 第2回 母体の健康と胎児の成長
- 第3回 出産と出生
- 第4回 乳児の身体発達
- 第5回 乳児の精神発達
- 第6回 幼児期の発達
- 第7回 遊びを通して育つもの
- 第8回 遊びに対する養育者の役割
- 第9回 子育て支援の概念
- 第10回 子育て支援の実践
- 第11回 幼稚園・保育所などの制度
- 第12回 家庭・保育所における乳児期の生活
- 第13回 幼児期の教育
- 第14回 これから求められる保育
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

保育原理(小泉裕子編 学芸図書)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

健康科学

杉浦信彦

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人が自らに与えられた環境の中で、心身ともに健全な生活を営むことができるように、健康の維持と増進を目指し、正しい生活習慣を確立するための手段を実践的に学習する。健康の概念、食習慣、運動習慣等を授業テーマとして取り上げ、望ましい生活条件の追求、生活活動条件の整備について医学的見地から学ぶ。

【授業の目標】

1. 体の仕組みとその動きの概要を理解する。
2. 人の健康を脅かす種々の要因について学ぶ。
3. 健康の維持と増進に関する実践的知識の習得を目指す。

【授業計画】

以下のテーマを中心に学習する。

1. オリエンテーション
2. 健康の定義
3. 体の仕組み
4. 女性とカルシウム
5. 健康科学実験（1）骨密度の測定
6. 血液の仕組みと働き
7. 健康科学実験（2）血液標本の顕微鏡観察
8. 肥満と生活習慣病
9. 健康科学実験（3）体脂肪率の測定
10. まとめ

授業の進め方は講義を主体に、テーマによりVTRの視聴や、簡単な計測、課題レポートの作成なども行う予定である。

【評価方法】

メモリーシート（授業内容についてのレジメ）および研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時指示する。

090648001_0110 掲載順 : 0110

MASTER ★

統計の基礎

犬飼朋恵

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

統計学の基本について理解を深める。社会諸科学などでは統計的な分析はツールとして用いられるが、本講義ではそこでの数値やその散らばりがどのような意味を持ち、なぜツールとして用いられるのかを解説する。また講義では関数電卓を使用します。他の講義でも必要となる場合がありますので下記を参照の上、各自で用意してください。

【授業の目標】

社会諸科学における分析ツールとしての統計学の原理について理解することを目標とする。本講義ではそれらに重点を置き、他の統計学に関する開講科目の基本となる概念の理解を深める。

【授業計画】

本講義では特に次の5点に重点を置く。(1) 得られたデータを系統的に示す方法。(2) 統計的分析の仕組み。(3) データのばらつききの理論。(4) 標本と母集団の考え方。(5) 二つの値の統計的な比較。

【評価方法】

課題・レポートおよび出席 40%
定期試験 60%

【テキスト】

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。受講生は参考資料を参照してください。また、他の講義で指定されているテキストを参照してもよい。

【参考文献・資料】

心理学のためのデータ解析テクニカルブック（森俊昭・吉田寿夫（編著）北大路書房）
本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫（著）北大路書房）
マンガでわかる統計学（高橋信・トレンドプロ（著）オーム社）

090648001_0120 掲載順 : 0120

MASTER ★

医療福祉統計演習

棚橋昌子 西和久 山田雅之 行松慎二

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

医療保健福祉分野の統計の見方および分析の基本を学ぶ。独自に収集した資料を適切に集計・分析するために統計解析ソフトの利用法を学習し、分布・平均値・相関等の統計解析の基本を習得する。また、解析結果を正しく解釈、推論する技能を習得する。

【授業の目標】

推測統計学の基本的な考え方を理解するとともに、統計解析ソフトSPSSを用いた統計処理の技法を学習する。最終的には実験・調査の計画に即して適切な統計的検定を施し、算出された結果を正確に読み取ることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの入力方法（ExcelおよびSPSS）
- 第3回 統計ソフトSPSSによる基本統計量の算出と区間推定
- 第4回 課題演習（1）
- 第5回 2つの母平均の差の検定（1）：独立したサンプルのt検定
- 第6回 2つの母平均の差の検定（2）：対応のあるサンプルのt検定
- 第7回 ウィルコクソンの順位和検定と符号付順位検定
- 第8回 課題演習（2）
- 第9回 一元配置の被験者間分散分析
- 第10回 二元配置の被験者間分散分析
- 第11回 課題演習（3）
- 第12回 反復測定分散分析
- 第13回 母比率の差の検定（1）：2×2のカイ二乗検定
- 第14回 母比率の差の検定（2）：L×Mのカイ二乗検定と残差分析
- 第15回 課題演習（4）

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度：40点）および授業内課題（4回実施：60点）により評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第5版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

医療・看護のためのやさしい統計学：基礎編（山田覚著 東京図書）
実践心理データ解析（田中敏著 新曜社）
よく分かる医療・看護のための統計入門（石村貞夫・萬里小路直樹著 東京図書）

心理アセスメント演習

永田忠夫

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の能力やパーソナリティなど直接観察測定できない人の心の状態を科学的方法を用いて査定する（心理アセスメント）方法を学ぶ。心理査定理論、技法、応用などについて学び、医療現場で活用されている諸心理検査の特性や仕組みについて理解し、それを用いて適正な心理アセスメントする技法を習得する。

【授業の目標】

1. 心理アセスメントの理論・方法を学び、具体的例についての適用の仕方を体験する。
2. 心理的アセスメントの技法を訓練し、修得する。

【授業計画】

1. 心理アセスメント法について
 - 1) 心理査定理論
 - 2) 心理査定の方法
 - 3) 心理査定法の具体例
2. 心理アセスメント技法と評価
 - 1) 知能検査
 - 2) 性格検査（質問紙法）
 - 3) 性格検査（作業検査法）
 - 4) 性格検査（投影法）

【評価方法】

受講態度・出席回数・レポート・筆記試験等を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

福祉貢献学科中心基礎科目 (2009年度入学対象)

基礎ゼミ

杉浦信彦 須永進 諏訪真美 棚橋昌子 永田忠夫 西和久

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

大学での授業に主体的に関わる姿勢を確立することを目的に、ゼミ形式の少人数授業を行う。福祉貢献学科の基礎となる文献検索法および文献読み取り、レポート作成の基本、意見の表明と集約技術の基本等を学習する。

【授業の目標】

1. 授業に主体的に参加する姿勢を養う
2. 文献検索・レポート作成等の基本を学修する

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
第2～6回
講義活用法、文献検索法、文献講読の基本、発表の基本、レポート作成の基本 等
第7～14回
テーマ研究演習
各自が設定したテーマに関するレポートを作成し、発表する。
第15回 予備(学術講演等)

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

相談援助の基盤と専門職 II

春見静子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

相談援助の理論と方法、精神保健福祉援助技術各論および演習・実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業の目標】

1. 相談援助の理念について理解する。
2. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
3. 相談援助にかかわる専門職の概念と範囲および専門職倫理について理解する。
4. 総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解する。

【授業計画】

- 第1回 相談援助の理念 (1) 人権尊重と社会正義
第2回 相談援助の理念 (2) 利用者本位と権利擁護
第3回 相談援助の理念 (3) 自立支援
第4回 相談援助の理念 (4) ソーシャルインクルージョンとノーマライゼーション
第5回 相談援助における権利擁護の意義 (1) 権利擁護の概念
第6回 相談援助における権利擁護の意義 (2) 成年後見制度と地域権利擁護事業
第7回 相談援助にかかわる専門職の概念
第8回 相談援助にかかわる専門職 (1) 福祉行政における専門職
第9回 相談援助にかかわる専門職 (2) 民間施設・組織における専門職
第10回 専門職倫理 (1) 専門職倫理の概念
第11回 専門職倫理 (2) 倫理綱領
(日本社会福祉士会、国際ソーシャルワーカー協会)
第12回 総合的かつ包括的援助 ジェネラリストの視点
第13回 他職種連携援助 チームアプローチの意義と内容
第14回 諸外国の専門援助の技術の動向
第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内で指示する。

【参考文献・資料】

講義内で指示する。

相談援助の基盤と専門職 I

春見静子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、相談援助の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の視点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する(精神障害者を含む)。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ(精神障害者に対する体系を含む)。

【授業の目標】

1. 社会福祉士の役割(総合的かつ包括的な援助および地域福祉の基盤整備と開発含む)と意義について理解する。
2. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
3. 相談援助の概念と範囲について理解する。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉士の役割と意義 (1) 定義と義務
第2回 社会福祉士の役割と意義 (2) 資格制定の経緯
第3回 社会福祉士の役割と意義 (3) 法制度見直しの背景
第4回 社会福祉士の役割と意義 (4) 社会福祉士の専門性
第5回 精神保健福祉士の役割と意義 (1) 定義と義務
第6回 精神保健福祉士の役割と意義 (2) 資格制定の経緯
第7回 精神保健福祉士の役割と意義 (3) 法制度見直しの背景
第8回 精神保健福祉士の役割と意義 (4) 精神保健福祉士の専門性
第9回 相談援助の概念 (1) ソーシャルワークの定義
第10回 相談援助の概念 (2) ソーシャルワークの形成過程イギリス
第11回 相談援助の概念 (3) ソーシャルワークの形成過程アメリカ
第12回 相談援助の範囲 (1) ソーシャルワークの対象
第13回 相談援助の範囲 (2) ソーシャルワークの方法
第14回 相談援助の範囲 (3) ソーシャルワークと関連領域
第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内で指示する。

【参考文献・資料】

講義内で指示する。

精神保健福祉論 I

瀧 誠

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

障害者福祉一般に通じる理念(基本的価値、障害の概念)、施策、実践課題の基本的理解とそれを土台にした精神障害者の諸課題を学ぶ。とりわけ、偏見・差別といった社会的障壁の下に置かれてきた精神障害者の人権擁護の視点を掘り下げるとともに、社会福祉基礎構造改革、市町村を基盤にした障害者福祉の一元的推進施策下での新しい援助のあり方について理解を深める。併せて、諸課題に対する当事者、地域社会の取り組みの歴史を学ぶことで今日的課題の意義を理解する。

【授業の目標】

1. 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。
2. 精神障害者の人権について理解する。

【授業計画】

1. 障害者福祉の理念と意義
1) 障害者福祉の理念
1 障害者福祉の発達
2 ノーマライゼーション
3 リハビリテーション
4 生活の質(QOL)
5 生活支援
2) 障害及び障害者
1 障害の概念
2 障害分類(国際障害分類を含む)
3 精神障害の特性
3) 障害者福祉の基本施策
1 障害者基本法
2 障害者プラン
4) 現代社会と精神障害者
1 精神障害者の概念
2 精神障害者と家族
3 精神障害者と地域社会
4 精神障害者のノーマライゼーション
2. 精神障害者の人権
1) 精神障害者の権利擁護
2) 精神医療における権利擁護
3) インフォームドコンセント
4) 地域社会における精神障害者の人権

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座 第4巻 精神保健福祉論 中央法規出版

【参考文献・資料】

その都度指示をする。

高齢者福祉論 I

神波幸子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者の精神的・身体的諸特徴や介護の概念・対象・理念について学ぶ。また、高齢者福祉制度の発展過程を学ぶとともに、高齢者のニーズの把握方法、支援の技法や過程、サービス供給組織と専門職のあり方を学習する。同時に、近年の政策動向を踏まえ、高齢者福祉の課題、今後のあり方を学ぶ。

【授業の目標】

1. 高齢者の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について理解する。
2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。
3. 介護の概念や対象およびその理念等について理解する。
4. 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
5. 終末期ケアのあり方(人間観や倫理を含む)について理解する。

【授業計画】

- 1～2. 高齢者福祉の社会的背景
3. 高齢者福祉の理念
- 4～6. 高齢者保健・福祉制度の発展と法体系
- 7～8. 高齢者の特性
9. 介護とは、介護の理念、介護の対象、介護と住環境
10. 介護過程、介護予防
11. 介護福祉士と社会福祉士及びその他の専門職者との協働の範囲と相違点、他機関・他職種との連絡・連携の在り方について
- 12～13. 認知症ケアについて
14. 高齢者の終末期ケアについて
15. 高齢者のライフステージと相談援助、高齢者福祉の課題まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新社会福祉士養成講座13巻「高齢者に対する支援と介護保険制度」中央法規出版

【参考文献・資料】

参考文献は、授業の中で紹介する。資料は、授業内容にそって配布する。

児童福祉論 I

谷口純世

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の中での子どもの成長および発達について、また、児童・家庭福祉の方法・体系と、現代社会のなかで子どもおよびその家庭をとりまく環境についての理解を深める。このうえで児童・家庭福祉の理念と意義、さらに子どもとその家庭のニーズの把握とニーズに対して実施されるサービスの体系および関係する法体系について学ぶ。

【授業の目標】

1. 児童・家庭の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉需要（子育て、ひとり親家庭、児童虐待および家庭内暴力の実態を含む）について理解する。
2. 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。
3. 児童の権利について理解する。
4. 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

【授業計画】

1. 児童・家庭の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉需要（子育て、ひとり親家庭、児童虐待および家庭内暴力の実態を含む）
2. 児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の定義と権利
3. 児童福祉法
4. 児童虐待の防止等に関する法律、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、売春防止法
5. 母子及び寡婦福祉法、母子保健法
6. 児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当等の支給に関する法律
7. 次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法
8. 児童・家庭福祉制度における組織および団体の役割と実際（1）：児童・家庭福祉制度と国
9. 児童・家庭福祉制度における組織および団体の役割と実際（2）：児童・家庭福祉制度と地方公共団体
10. 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際（1）：児童・家庭福祉と社会福祉専門職
11. 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際（2）：児童・家庭福祉と社会福祉外の専門職
12. 児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワークと実際
13. 児童相談所の役割と実際（1）：児童相談所の仕事と役割
14. 児童相談所の役割と実際（2）：児童相談所の援助活動の流れ
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内で指示する。

【参考文献・資料】

講義内で指示する。

障害者福祉論 I

谷口明広

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会における障害者がおかれている立場と障害者福祉の目標、理念を理解する。特に、リハビリテーション、ノーマライゼーションといった障害者福祉の理念の発達とその意義について講義する。また、障害者福祉ニーズの把握方法について講義し、障害者福祉制度の発展過程や近年の政策動向を踏まえながら障害者福祉の達成と今後の課題を学ぶ。

【授業の目標】

1. 障害者の生活実態とこれをとりまく社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）について理解する。
2. 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
3. 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

【授業計画】

1. 障害者の生活実態とこれをとりまく社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む）
2. 障害者福祉制度の発展過程
3. 障害者自立支援法（1）
4. 障害者自立支援法（2）
5. 障害者自立支援法における組織および団体の役割と実際
6. 障害者自立支援法における専門職の役割と実際
7. 障害者自立支援法における他職種連携、ネットワークと実際
8. 相談支援事業所の役割と実際
9. 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健および精神障害者福祉に関する法律
10. 発達障害者支援法、障害者基本法
11. 心身喪失等の状態で重大な他害行為をおこなった者の医療および観察等に関する法律
12. 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律
13. 障害者の雇用の促進等に関する法律
14. 障害者に対する相談援助活動
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

「障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント」谷口明広 著 ミネルヴァ書房 2005年

地域福祉論 I

鳥居一頼

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。具体的な地域福祉の推進のための資源と具体的な推進方法を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。

【授業の目標】

1. 地域福祉の基本的考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む)について理解する。
2. 地域福祉の主体と対象について理解する。
3. 地域福祉にかかわる組織、団体および専門職の役割と実際について理解する。
4. 地域福祉におけるネットワーク(多職種・多機関との連携を含む)の意義と方法およびその実際について理解する。
5. 地域福祉の推進方法(ネットワーク、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む)について理解する。

【授業計画】

- 1～2. 地域福祉における人権尊重
- 3～4. 地域福祉における権利擁護
- 5～6. 地域福祉における自立支援
- 7～8. 地域福祉における地域生活支援、地域移行、社会的包摂
- 9～11. 地域福祉の主体
- 12～14. 地域福祉の対象
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

地域福祉論(大島侑監修 ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

福祉の哲学(阿部志郎 誠信書房)
子どもと学ぶボランティア(鳥居一頼 大阪ボランティア協会)
ソーシャル・インクルージョンの社会福祉

医学概論 I

錦見尚道

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

まず、人間の成長発達と、基本的な人体の機能と構造について学習する。さらに、現代社会における疾病や障害の概要について学習するとともに、リハビリテーションの考え方やその診断と評価、具体的展開について学習する。

【授業の目標】

1. 心身機能と身体構造およびさまざまな疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
3. リハビリテーションの概要について理解する。

【授業計画】

- 1～2. 人の成長・発達
- 3～5. 心身機能と身体構造の概要
- 6～7. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要
- 8～9. 健康のとらえ方
- 10～12. 疾病と障害の概要
- 13～14. リハビリテーションの概要
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内で指示する。

090648302_0120 掲載順:0120

MASTER ★

介護概論

小田香里

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

施設中心の介護から在宅介護まで含めて、理論としての介護や介護技術を総合的に学習し、よりよい介護とは何かを考える。高齢者・障害者等の自立的生活を援助する視点から、介護の目的と原則、健康維持のメカニズムの基本を学習し、看護・介護・家事援助の関連性を理解する。

【授業の目標】

1. 介護理論を理解し、技術を習得する。
2. 介護の役割と範囲を理解するとともに、看護・医療および家政との関係について理解する。
3. 具体的な介護の展開過程や介護の実際について理解する。
4. 身体的および精神的な変化に対する観察能力を身に付け、それに対処できる能力を養い、他職種との連携ができるようにする。
5. 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、予防措置を講じることができるようにする。

【授業計画】

1. 介護のはたらき
2. 介護と社会福祉、家政、看護・医療との関係
- 3～5. 介護関係維持のための技法
 - 1) コミュニケーション技法
 - 2) 障害形態に応じた介護技法
 - 3) 健康や生活への観察
- 6～14. 介護技法

1) 住生活環境の整理	2) 体位変換・移動の介護
3) 食事の介護	4) 衣服の着脱
5) 身体の清潔	6) 排泄の介護
7) 褥創予防と介護	8) あん法
9) 服薬の介護	10) 受診時・往診時の介護
11) 緊急・事故時の対応	12) 終末期の援助
15. 介護過程の展開

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版・社会福祉学習双書 2009 介護概論
〔新版・社会福祉学習双書〕編集委員会/編 全国社会福祉協議会

【参考文献・資料】

絵でみる介護 (福祉教育カレッジ/編 医学評論社)
在宅看護論 (渡辺裕子/監修 日本看護協会出版会)

精神医学 I

高橋俊彦

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

精神を患うとはどういうことなのか。最近の精神医学で明らかになった脳および神経の生理を学び、精神障害・精神医学の概念を理解する。同時に精神医療の歴史を学び、精神障害の程度の診断技術の発達および現代の精神医学の課題を理解する。

【授業の目標】

1. 精神医学、精神医療の歴史を理解する。
2. 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。
3. 精神医学の概念について理解する。
4. 精神医学診断の基本的な方法について理解する。
5. 代表的な精神障害について理解する。

【授業計画】

1. 精神医学、精神医療の歴史
 - 1) 西洋の歴史
 - 2) 日本の歴史
2. 脳および神経の生理・解剖
 - 1) 神経系の発生と構成
 - 2) 中枢神経系
 - 3) 末梢神経系
3. 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
4. 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
5. 代表的な精神障害 (その1)
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害 (老人性痴呆を含む)
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 統合失調症、分裂病型人格障害および妄想性障害
 - 4) 気分 (感情) 障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学 (高橋・近藤編 岩崎学術出版社)

090648302_0130 掲載順:0130

MASTER ★

保育原理 I

白石淑江

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

子どもは、一人の人間として尊重され、社会の一員として豊かに育つ権利があります。そして、親をはじめ社会の大人たちは、子どもたちの安心、安全な生活を保障し、健やかな育ちを支え応援する責務があります。本講義では、保育の基本的な理念や歴史を学ぶとともに、子どもの育ちを支援する家庭や、保育園・幼稚園、地域社会の役割について考えます。

保育は、子どもを観察するところから始まります。家の近所で、通学途中や街の中で、子どもたちに関心を持ち、観察したり、ふれあう機会をつくってみましょう。

【授業の目標】

子どものこと、保育の仕事に関心を持つこと！

【授業計画】

1. 講義の目的と概要
2. 子どもの特性と保育の意義
3. 子ども観の変遷
4. 子どもの権利と子どもの権利条約
5. 乳児期の発達と保育の課題
6. 幼児前期の発達と保育の課題
7. 幼児後期の発達と保育の課題
8. 子どもが育つ環境 (家庭)
9. 子どもが育つ環境 (保育園、幼稚園)
10. 子どもが育つ環境 (地域)
11. 子どもの生活と遊び
12. 子ども観察ノートづくり
13. 子ども観察から学んだこと (報告会)
14. 保育の仕事
15. まとめ

【評価方法】

出席、課題の提出、試験

【テキスト】

「現代保育論」 亀谷・宍戸・丹羽編、かもがわ出版

【参考文献・資料】

講義時に提示する

養護原理

西川 信

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

養護原理は、今日の子ども達をとりまく社会状況における、社会的養護の役割や仕組みについて理解し、その取り組みの基盤として位置付けられる、児童養護の理念や原理・原則について、その内容と意義を学び、実践に役立つことを目的とする。

【授業の目標】

教科書や資料による基礎的知識の習得と共に、社会で起きている、子どもに関わる出来事や、児童福祉の現場での様々なエピソードを取り上げるなかで、自分自身や家族に関わる身近な問題としても、関心を持ち捉えられるようになることを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 社会的養護の現状
- 第2回 社会的養護の歴史と今日的課題
- 第3回 児童養護の理念と施設養護の原理・原則
- 第4回 発達課題と児童養護
- 第5回 施設養護の実践と方法①
- 第6回 施設養護の実践と方法②
- 第7回 子どもの権利擁護
- 第8回 社会的養護の領域と概要①（養護系施設 里親）
- 第9回 社会的養護の領域と概要②（障害系施設）
- 第10回 社会的養護の領域と概要③（情緒・行動系施設）
- 第11回 地域の社会的児童養護機関
- 第12回 施設養護の職員
- 第13回 職員の専門性
- 第14回 施設運営と財政措置
- 第15回 児童養護の現場で職員に求められるもの

【評価方法】

- 出席、授業中の提出物 30%
レポート試験 70%

【テキスト】

児童養護の原理と内容（神戸賢次・喜多一憲編 みらい）

障害児保育

羽根由美子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害児保育・統合保育の実際について学びます。
障害を持つ子どもも必ず発達します。
個別的な障害の理解、働きかけとともに、
保育所などでともに遊び生活することで意欲が生まれ、
発達のドラマが生まれます。
他の子どもも人の多様性を学び、保育者はその役割を問われます。
できるだけ保育・療育の現場に近づけ学びます。

【授業の目標】

- ・ 障害の基礎知識を学ぶ。
- ・ 乳幼児発達について学ぶ。
- ・ 障害児・統合保育の実践から保育方法・技術を学ぶ。
- ・ 乳幼児療育の現状と課題について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 障害児保育・統合保育とは何か
- 第3回 障害児保育の歴史と制度
- 第4回 障害児の生活と発達 (1) 乳児
- 第5回 障害児の生活と発達 (2) 幼児
- 第6回 保育園見学 障害・統合保育の実際
- 第7回 障害児保育の実践から学ぶ (1) 乳児
- 第8回 障害児保育の実践から学ぶ (2) 幼児
- 第9回 気になる子どもの保育 軽度発達障害について
- 第10回 障害児保育の実践から学ぶ (1) 自閉症候群など
- 第11回 障害児保育の実践から学ぶ (2) 肢体不自由など
- 第12回 療育機関見学
- 第13回 関係機関との連携ネットワークづくりについて
- 第14回 父母への援助とともに育てる
- 第15回 まとめ

【評価方法】

授業への参加・討論およびレポート提出により判断。

【テキスト】

テキスト障害児保育（近藤直子・白石正久・中村尚子 編著 全障研出版部）

保育者論

須永 進

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

保育の多様化が進むこんにち、保育者に対する社会的期待は大きく、それに応えるべく保育者のあり方が問われている。この講義では、保育の意義にはじまり、人的環境としての保育者と子どもの成長と発達やその理解、保育者として果たすべき役割など近接する諸点から論ずる。特に、近年広がりを見せる「子育て支援」における保育者の役割や活動の他、保育者の自己点検・評価や子どもの人権保障のための保育者の役割などに言及する予定である。

【授業の目標】

この授業は、保育者として求められるテーマを中心に、多様化する保育ニーズや社会的動向をふまえ、望ましい保育者にアプローチすることを目的としている。言い換えると、保育の目的である子どもの豊かな成長と発達の保障をどのように実現するか、求められる保育者の役割とは、などの人的環境のひとつである保育者のあり方や方向性について考えることがこの「保育者論」の目的といえる。

【授業計画】

- 1回 本講義のねらい・目的、進め方、評価の方法、履修上の留意点
- 2回 子どもの保育と保育者の役割
- 3回 保育者養成とその現状
- 4回 保育者の職種とその役割 (1) 保育所の保育者 (保育士)
- 5回 保育者の職種とその役割 (2) 児童福祉施設の保育者 (保育士)
- 6回 保育者の職種とその役割 (3) 幼稚園の保育者 (教諭)
- 7回 保育者の職種とその役割 (4) 外国の障がい児教育
- 8回 1回から7回までの確認と9回以降の講義内容の概要説明
- 9回 保育者による指導事例 (1)
- 10回 保育者による指導事例 (2)
- 11回 子育て支援と保育者の役割 (1)
- 12回 子育て支援と保育者の役割 (2)
- 13回 保育者による自己点検とその必要性について
- 14回 子どもの人権保障と保育者の責務
- 15回 講義全体のまとめ

【評価方法】

1. 試験あるいはレポート 70%
2. 授業・出席状況 30%

【テキスト】

特に指定しないが、講義の内容により下記の参考文献に目を通すこと。

【参考文献・資料】

1. 「子どもの福祉－最善の利益のために－」須永進 編著、八千代出版
 2. 「改革期の保育と子どもの福祉」須永進 編著、八千代出版
 3. 「子育て支援を考えるために」須永進 編著、蒼丘書林
- なお、講義に関連する資料については、講義時に配布予定。

福祉貢献学科中心専門科目 (2009年度入学対象)

高齢者福祉論 II

神波幸子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者福祉の中で福祉専門職(ソーシャルワーカー)が保健・医療・福祉の他職種との連携の中で果たす役割について学習し、相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。このうえで、高齢者に対する相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業の目標】

1. 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。
2. 高齢者福祉のなかでの福祉専門職の果たす役割、他職種との連携について理解する。

【授業計画】

1. 介護保険法の経緯、目的、保険財政、保険契約
- 2～3. 介護保険法利用の流れと要介護認定
- 4～5. 介護保険のサービス体系(居宅・施設)
6. 介護保険法における専門職の役割と実際
7. 介護保険法におけるケアマネジメントの実際
8. 地域包括支援センターの役割と実際(介護予防・特定高齢者、権利擁護、虐待事例など)
- 9～10. 老人福祉法制定の背景、目的、措置と契約
11. 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)
12. 高齢者の福祉用具「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」
13. 高齢者のバリアフリー「高齢者の居住の安定確保に関する法律」
14. 高齢者福祉における福祉専門職の果たす役割と他機関・他職種との連携
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・社会福祉士養成講座第13巻「高齢者に対する支援と介護保険制度」

中央法規出版

【参考文献・資料】

参考文献は講義の中で紹介する。また、資料は、授業内容に沿ってその都度配布する。

児童福祉論 II

谷口純世

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

児童福祉論Ⅰの学習をもとに、さらに関連法についての理解を深め、公民の児童福祉サービスの現状と意味について、またこれからのサービスを担う子ども家庭福祉援助専門職のあり方と、同専門職間・他専門職間での連携のあり方、地域における援助の展開方法について学ぶ。

【授業の目標】

1. 児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待および家庭内暴力の実態を含む)について理解する。
2. 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。
3. 児童の権利について理解する。
4. 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉にかかわる他の法制度について理解する。

【授業計画】

- 以下の内容を、それぞれ事例を用いて学習する。
1. 児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉需要(1): 家族形態・家族員の役割の変化と家庭生活における問題・課題
 2. 児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢、福祉需要(2): 家庭生活の現状と福祉ニーズ
 3. 子どもの権利(1): 子どもの権利の現状
 4. 子どもの権利(2): 子どもの権利擁護の方法
 5. 組織および団体の役割と実際(1): 児童福祉サービスと国・都道府県
 6. 組織および団体の役割と実際(2): 児童福祉サービスと市町村
 7. 組織および団体の役割と実際(3): 児童福祉サービスと家庭裁判所
 8. 専門職の役割と実際(1): 児童福祉と社会福祉士・児童指導員
 9. 専門職の役割と実際(2): 児童福祉と家庭支援専門相談員
 10. 専門職の役割と実際(3): 児童福祉と保育士
 11. 多職種連携、ネットワークと実際(1): 児童福祉と医療関係者
 12. 多職種連携、ネットワークと実際(2): 児童福祉と教育関係者
 13. 児童相談所の役割と実際(1): 児童相談所の役割
 14. 児童相談所の役割と実際(2): 児童相談所の援助活動の実際
 15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内で指示する。

【参考文献・資料】

講義内で指示する。

障害者福祉論 II

谷口明広

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害者福祉論Ⅰを踏まえ、事例を用いて、障害者(障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者)に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深める。そのうえでソーシャルワーカーとしての具体的な援助方法、援助組織、関連他職種との連携のあり方について学ぶ。また、こうした相談援助活動について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業の目標】

1. 障害者の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む)について理解する。
2. 障害者福祉制度の発展過程について理解する。
3. 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

【授業計画】

以下の内容について、それぞれ事例を用いて学習する。

1. 障害者の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要(1)
2. 障害者の生活実態とこれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要(2)
3. 障害者自立支援法(1)
4. 障害者自立支援法(2)
5. 組織および団体の役割と実際(1)
6. 組織および団体の役割と実際(2)
7. 専門職の役割と実際(1)
8. 専門職の役割と実際(2)
9. 障害者自立支援法における他職種連携、ネットワークと実際(1)
10. 障害者自立支援法における他職種連携、ネットワークと実際(2)
11. 相談支援事業所の役割と実際(1)
12. 相談支援事業所の役割と実際(2)
13. 障害者に対する相談援助活動(1)
14. 障害者に対する相談援助活動(2)
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

「障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント」
谷口明広 著 ミネルヴァ書房 2005

発達心理学

永田忠夫

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の受胎から死にいたるまでの一生を通して、心身の変化の過程を実証された事実やそれに基づいたさまざまな発達理論を学ぶ。今後経験していくであろう他者や自分自身の理解を深めるため、胎児期から老年期までの各発達段階の特徴を理解し、さまざまな発達段階にある人間との対人コミュニケーションを円滑にする知識やそれを分析する技能を学ぶ。

【授業の目標】

生涯にわたる人間の発達過程を実証された事実と理論によって理解する。特に対人援助専門職を目指す学生にとって有用な各発達段階における心理的特徴・コミュニケーション行動の特徴を理解する。また、日常生活におけるさまざまな発達段階にある人々とのコミュニケーションのスキルやその査定法を学習し、互いがより豊かな交流関係を持って、相互の人格をより豊かなものになるような学習をする。

【授業計画】

1. 発達とはなにか
2. 発達の規定因(個人差をもたらすもの)
3. 発達のプロセス(発達段階と発達課題)
 - 1) ハヴィーガースト
 - 2) エリクソン
 - 3) ピアジェ
4. コミュニケーション行動の発達についての理解とかかわり方
 - 1) 胎児期・新生児のコミュニケーション
 - 2) 乳児期・児童期
 - 3) 青年期
 - 4) 成人期
 - 5) 老年期
5. 対人コミュニケーションのもち方とコミュニケーションスキル

【評価方法】

受講態度、出席回数、レポート、筆記試験等を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業時間の中でプリントを配布したり、文献を紹介したりする。

絵本論

青木文美

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

絵本には、大人たちのどのような願いが込められているのだろうか。この授業では、子どもの感性に寄り添い、生活習慣や好奇心を育む絵本の魅力について学ぶとともに、児童養護施設などの幼児指導員としてすぐれた絵本を選び、子どもたちに読み聞かせる力を養う。

【授業の目標】

絵本の性質を理解し、子どもの年齢に合った絵本を選び、手渡す力を修得すること

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 子どもと向き合う人として
 第3回 絵本とはなにか
 第4回 赤ちゃん絵本「もこもこもこ」他
 第5回 2歳頃の絵本「おやすみなさいのほん」他
 第6回 3歳頃の絵本「はなをくんくん」他
 第7回 4、5才頃の絵本「こいぬがうまれるよ」他
 第8回 科学絵本「木をかこう」他
 第9回 絵を読む絵本「アンジュール」他
 第10回 物語と絵との関係を考える―昔話絵本を手がかりにして
 第11回 絵本の作り方①
 第12回 絵本の作り方②
 第13回 絵本の読み聞かせ①
 第14回 絵本の読み聞かせ②
 第15回 まとめ

【評価方法】

出席、授業への参加態度、授業中に提出する小レポート 20%
 グループ発表 40%
 期末レポート 40%

【テキスト】

松居直『絵本の現在 子どもの未来』（日本エディタースクール出版部）

【参考文献・資料】

鳥越信編『新版子どもが選んだ子どもの本』（創元社）

090648503_0070 掲載順:0070

MASTER ▲

子どもと音楽

堀江幹雄

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

子供と音楽的な関わりを持つ指導者には演奏力のみでなく、理論的な知識も必要になる。楽譜から音楽を読み取る力を養い、より豊かな演奏のために必要な「音楽理論」と音楽的な表現のために「即興演奏」について解説し実習する。また、鑑賞（一部演奏も）を通じ音楽の素晴らしさを感じる心を育て、音楽する喜びを味わう。

【授業の目標】

音名、音階、調性など一般的な音楽理論の習熟とともに、様々な音楽に触れて音楽が伝えようとするものを感じ取る心を養う。また、感情や情景などを音楽で表現する方法として即興演奏の初歩的な技術の習得を目指す。

【授業計画】

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 音楽理論/譜表、音名 | 鑑賞・歌唱/唱歌、童謡 |
| 2. 音楽理論/音符、休符 | 鑑賞・歌唱/歌（歌曲、オペラなど） |
| 3. 音楽理論/拍子 | 鑑賞・歌唱/歌（ミュージカル、合唱） |
| 4. 音楽理論/音程① | 鑑賞/鍵盤楽器（ピアノ、オルガン） |
| 5. 音楽理論/音程② | 鑑賞/木管楽器 |
| 6. 音楽理論/音階（長音階） | 鑑賞/金管楽器 |
| 7. 音楽理論/音階（短音階） | 鑑賞/打楽器 |
| 8. 音楽理論/調号 | 鑑賞/弦楽器 |
| 9. 音楽理論/楽語 | 鑑賞/室内楽 |
| 10. 音楽理論/和音 | 鑑賞/オーケストラ |
| 11. 即興演奏/コードネーム | 鑑賞/日本の音楽 |
| 12. 即興演奏/変奏技術 | 鑑賞/世界の民族楽器 |
| 13. 即興演奏/主題の変化 | 鑑賞/ジャズ、ロック、ポップス |
| 14. 即興演奏/自由な表現 | 鑑賞/現代音楽 |
| 15. 試験 | |

【評価方法】

試験、出席、各課題への取り組み姿勢などを総合して評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で紹介する

児童文学

青木文美

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

児童文学には、普遍的な人の在り方や心の成長などを描いた物語がある。この授業では、その典型である昔話やメルヘンを丹念に読むことを通して、子どもの感情や思考力に関わる物語の特徴について学ぶとともに、声で物語を語る意義に注目し、想像力を喚起する語り聞かせの方法を実践的に学ぶ。

【授業の目標】

〈物語〉の構造分析を通して、子どもの成長に必要な〈物語〉の特徴を理解し、児童養護施設などの幼児指導員として子どもたちにすぐれた児童文学を手渡す力を修得すること

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 〈物語〉とはなにか
 第3回 昔話を知る①「桃太郎」
 第4回 昔話を知る②「花咲かじい」
 第5回 昔話を知る③「三びきの子ぶた」
 第6回 昔話から物語へ①「旅の仲間」
 第7回 昔話から物語へ②「旅の道づれ」
 第8回 日本の児童文学を知る①「おしいれのぼうけん」
 第9回 日本の児童文学を知る②「ごん狐」
 第10回 日本の児童文学を知る③「一房の葡萄」
 第11回 〈物語〉の構造を知るために
 第12回 語りの方法
 第13回 ものがたりの実践①
 第14回 ものがたりの実践②
 第15回 まとめと試験

【評価方法】

出席、授業への参加態度、授業中に実施する小テスト 20%
 グループ発表 30%、期末試験 50%

【テキスト】

脇明子『物語が生きる力を育てる』（岩波書店）
 マーガレット・マーヒー『魔法使いのチョコレート・ケーキ』（福音館文庫）

【参考文献・資料】

授業時に適宜指示する。

090648503_0080 掲載順:0080

MASTER ★

子どもと造形

寺田康雄

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

子供の持つ自由闊達な造形力を自然に引き出させる為に、多種多様な素材に接し素材の持つ特性を把握する事が必要です。〈陶芸、漆芸、紙工芸、金属工芸等々〉それぞれの専門分野で活躍されている人達の作品、生活等をビデオ、DVDの鑑賞を通して紹介します。

【授業の目標】

子ども達が常日頃何の変哲もなく触れている素材を改めて見直し、その素材を使ってどのような造形が可能か、どのように遊びと結びつくかを考えて貰いその上で一人[個人]での造形とグループでの造形計画の違いを把握して貰う事が目的です。

【授業計画】

第1回 素材とは何か、粘土、漆、竹、木、金属について：第2回 各種の素材作家の創作と生活と創作：第3回 初心I[土谷 武]のDVD：第4回 初心II[土谷 武]のDVD：第5回 焼き物織部の歴史I：第6回 焼き物織部の歴史2：第7回 焼き物織部の歴史3：第8回 製作あそび百科[粘土I]：第9回 製作あそび百科[粘土II]：第10回 製作あそび百科[木]：第11回 製作あそび百科[木漆]：第12回 製作あそび百科[紙]：第13回 製作あそび百科[金属]：第14回 作品と価値観に就いての討論会：第15回 まとめレポート提出

【評価方法】

出席・授業中の質疑応答 30パーセント
 期末レポート提出 70パーセント

【テキスト】

製作あそび百科 竹井 史 著 ひかりのくにに社
 基本から学ぶ土と成形 寺田 康雄 著 双葉社

【参考文献・資料】

テキストと同じ

音楽基礎技能 I

堀江幹雄

1年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

人間の音に対する感覚が最も成長するといわれる幼児期からの子供に対する音楽教育について、過去の音楽家の実例をもとに解説する。また、音楽作品、よく演奏される作品および幼児期の楽曲にも注目し鑑賞する。

【授業の目標】

英才教育を施されたW.A.Mozartへの父親の音楽教育およびその他の教育活動と、彼の音楽作品誕生への過程を見つめる。
また、600曲以上におよぶ彼の作品より各時期の特徴ある楽曲について鑑賞し、音楽からもその成長過程を聴き取る。

【授業計画】

1. モーツァルトについての概説（生涯、時代背景、作品など）
2. 父親レオポルト（音楽家）について
3. 姉ナンネルへの音楽教育について
4. モーツァルトの才能の目覚めと父親の教育
5. モーツァルトの旅／神童と呼ばれて①
6. モーツァルトの旅／神童と呼ばれて②
7. モーツァルトの旅／母の死と挫折
8. 父親以外からの音楽教育
9. 故郷ザルツブルグ時代のモーツァルト
10. ザルツブルグとの訣別、父親との別れ
11. 音楽家としての自立、結婚
12. ウィーン時代のモーツァルト①
13. ウィーン時代のモーツァルト②
14. 同時代の人から見たモーツァルト
15. まとめ

【評価方法】

試験（レポート）、出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で紹介する。

造形基礎技能（A・B）

寺田康雄

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

塑造・粘土を中心に造形表現を体験して頂きます。
粘土による造形を中心に学習体験をし、さらに造形された粘土作品を釉、焼成することにより強度ある焼物作品になるまでを学んで頂きます。
180分授業なので毎回最初の30分間は、工芸の歴史や現状を教えたいと思います。

【授業の目標】

粘土による体験学習は、表現の幅を限り無く広げ、その他の素材を扱う時の基礎になります。粘土は可塑性に富むため、画用紙にイメージーションデッサンを描くことと同じ役割を果たし立体的なデッサン力を養います。

【授業計画】

第1回 粘土とは何かⅠ：第2回 粘土とは何かⅡ：第3回 釉薬とは何かⅠ：第4回 釉薬とは何かⅡ：第5回 日本の焼き物の現状Ⅰ：第6回 日本の焼き物の現状Ⅱ：第7回 窯とは何かⅠ：第8回 窯とは何かⅡ：第9回 上絵付けとは何かⅠ：第10回 上絵付けとは何かⅡ：第11回 金継ぎとは何かⅠ：第12回 金継ぎとは何かⅡ：第13回 楽焼とは何かⅠ：第14回 楽焼とは何かⅡ：第15回 まとめ及び講評。

【評価方法】

出席及び授業態度 30パーセント： 完成作品 30パーセント：
期末レポート 40パーセント。

【テキスト】

基本から学ぶ土と成形 寺田 康雄 著 双葉社： 製作あそび百科
ひかりのくに社 竹井 史 著。

【参考文献・資料】

テキストと同じ。

音楽基礎技能 II

堀江幹雄

1年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

様々な音楽へのアプローチの中から演奏と創作を取り上げて、ボディーパーカッション、ミュージックベルや演奏が容易な打楽器などを用いてリズムアンサンブルを実施する。

【授業の目標】

音楽を作り上げようとする協調のもとに、互いの役割を理解し合い集団での音楽表現の喜びや感動を味わう。

【授業計画】

1. リズム理解のために 音楽表現上の約束（音楽理論の基礎）
2. ボディーパーカッション① 単一のリズムでの演奏表現
3. ボディーパーカッション② 複数のリズムでの演奏表現
4. ボディーパーカッション③ リズムの組み合わせ
5. ボディーパーカッション④ 既成曲の練習
6. ボディーパーカッション⑤ 各グループごとに発表
7. ミュージックベルなど① 各楽器の奏法と取り扱い
8. ミュージックベルなど② 基本奏法
9. ミュージックベルなど③ 既成曲の練習
10. ミュージックベルなど④ 既成曲の練習
11. ミュージックベルなど⑤ 各グループごとに発表
12. オリジナルの創作
13. オリジナルの練習①
14. オリジナルの練習②
15. 発表（試験）

【評価方法】

試験（演奏）、課題レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で紹介する

保育原理 II

白石淑江

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

今日、保育所の社会に果たす役割はますます大きくなっています。保育所は、子どもの生活と発達を保障するとともに、親の子育てを支援する役割を担っています。本講義では、児童福祉施設としての保育所の歩みや制度的な枠組みについて理解するとともに、「保育所保育指針」を中心に、保育所保育の原理、保育内容、保育の計画などについて学びます。
保育所とはどんなところか、保育士の仕事は何かを、できれば見学等、実地の体験を通して理解しましょう。

【授業の目標】

保育所の役割や保育士の仕事を理解しよう！

【授業計画】

1. 講義の目標と概要
2. 日本の保育所の歴史
3. 保育所保育の目的と特性
4. 保育所保育の目標と方法
5. 保育の環境
6. 保育所の一日
7. 保育の内容（生活・遊び・学び）
8. 保育の内容（3歳未満児）
9. 保育の内容（3歳以上児）
10. 保育実践と指導計画
11. 保護者への支援
12. 特別な支援を必要とする子どもの保育
13. 食育、健康安全への配慮
14. 保育所保育士の仕事
15. まとめ

【評価方法】

出席率 課題の提出 試験

【テキスト】

「現代保育論」 亀谷・穴戸・丹羽編 かもがわ出版

「保育所保育指針解説書」 厚生労働省 フレーベル館

【参考文献・資料】

講義時に提示する

教育原理

植村広美

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視覚から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
 - (1) 外国
 - (2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

福祉貢献学科中心基礎科目 (2008年度入学者対象)

社会福祉原論 I

伊藤春樹

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する(老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む)。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念(人権尊重、権利擁護、自立支援等)とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論(中央法規)

【参考文献・資料】

社会福祉のキーワード補訂版(平岡公一他編 有斐閣双書)
社会福祉小六法(ミネルヴァ書房)

社会保障論 I

見平 隆

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解する。
- 2 社会保障制度の体系について理解する。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険(雇用保険)
 - 6) 家族手当(児童手当)
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ～(棕野美智子・田中耕太郎 著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

社会保障の手引-施策の概要と基礎資料-(中央法規)

家族福祉論

佐々木政人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

本科目では、現代家族が抱えている様々な福祉課題やニーズを分析し、社会生活上の問題に対する家族援助の技法を学びます。問題分析の枠組みは、ライルサイクル論を主に活用し、個人や家族が日常生活で直面する生活課題と家族危機を探索する。取り上げる生活課題は、結婚、出産、子育てをはじめ、親子間・夫婦間コミュニケーション、離婚、老親介護、その他である。

【授業の目標】

クラスは家族をテーマにした映画、ビデオ、文学作品などを教材として活用し、履修者参加型の運営とする。本科目においては、家族をテーマにしたドラマ作品作り(形式は問わない)を通して、現代家族が抱える生活課題を理解する。ドラマ作品の制作は、5-7人程度のグループを基盤に、学期終了時点までに、一作品を完成させる。また、作品に登場する家族が織り成す家族課題・問題を支援するための方策を整理する。

【授業計画】

各回の授業スケジュールは、以下のとおりである。

1. 講義内容の紹介及びグループ作り(第1回)
2. 家族と出会う:異性交際と結婚をめぐる家族課題(第2回~5回)
3. 家族と出会う:出産と子育てをめぐる家族課題(第6回~9回)
4. 家族と出会う:子どもの巣立ちとゴールデンエイジをめぐる家族課題(第10回~13回)
5. ふりかえり:(第14回~15回)

上記テーマの理解を、映像を通して実施し、かつ課題図書にて、理論的内容を把握し、さらにこうした学びを、シナリオ作りの課題に反映する。

【評価方法】

出席状況、クラスでの発表・貢献、レポートの成績などを総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

- (1) 臨床に必要な家庭福祉(宮本和彦 弘文堂 2007年)
- (2) 家族社会学入門(望月嵩著 培風館 1996年)
- (3) 家族心理学(柏木恵子 東京大学出版会 2003年)

社会保障論 II

見平 隆

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実情などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

【授業の目標】

- 1 我が国の年金保険について熟知する。
- 2 我が国の医療保険について熟知する。
- 3 我が国の介護保険について熟知する。
- 4 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解する。
- 5 社会保障の実施体制及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 我が国の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
 - 4) 障害基礎年金
- 2 我が国の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 3 我が国の介護保険とその具体的内容
- 4 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 5 社会保障の実施体制及び専門職

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての社会保障(棕野美智子・田中耕太郎 著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

社会保障の手引-施策の概要と基礎資料-(中央法規)
「厚生」の指標 臨時増刊 保険と年金の動向(財団法人 厚生統計協会)

公的扶助論

見平 隆

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）

【参考文献・資料】

はじめての社会保障（椋野美智子・田中耕太郎 著 有斐閣アルマ）
社会福祉小六法

医学概論 II

井口昭久

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業の目標】

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

医学概論3版：中外医学社

【参考文献・資料】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

社会福祉法制論

初谷良彦

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉は、憲法25条の生存権保障による狭義の社会保障＝所得保障機能と深くかかわっている。しかし社会福祉法制は、金銭給付のみでは充足できない生活要求にこたえるものとしての、いわゆる社会福祉サービスをその内容として持つ。福祉サービスの質の高さの保障のために、権利擁護、苦情解決、契約手続等利用者の手続的権利ないし自己貫徹的権利の制定等人間の尊厳を基底とした社会福祉法制の改革等について学ぶ。

【授業の目標】

社会福祉の原理を究明し、複雑な社会福祉の諸制度の現状と問題点を明らかにし、その課題と方向を探る。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉法制の体系と目的と対象
- 第2回 福祉三法から福祉六法そして福祉八法の展開
- 第3回 社会福祉行政機関
- 第4回 社会福祉基礎構造改革と利用契約の導入
- 第5回 社会福祉法制と財政
- 第6回 障害者基本法
- 第7回 障害者自立支援法
- 第8回 児童福祉法
- 第9回 母子及び寡婦福祉法
- 第10回 社会福祉法
- 第11回 老人福祉法
- 第12回 成年後見制度
- 第13回 介護保険制度の改革
- 第14回 生活保護制度
- 第15回 年金制度

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

福祉貢献学科中心専門科目 (2008年度入学者対象)

社会福祉原論 II

伊藤春樹

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解する。
- 2 社会福祉関係職種の内容について理解する。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 4 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解する。

【授業計画】

- 1 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 2 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 3 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論 (中央法規)

【参考文献・資料】

社会福祉小六法 (ミネルヴァ書房)
社会福祉のキーワード補訂版 (平岡公一編 有斐閣双書)
適宜、紹介する。

社会福祉援助技術各論 II

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論IIにおいては、コミュニティワーク、社会福祉調査法、社会福祉の運営と計画を中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

対人援助技術の中でも間接援助技術であるコミュニティワーク、社会福祉調査法、ソーシャルアクション、ソーシャルウェルフェア・プランニングの体系や技術を学び、社会福祉の問題を多面的に捉え、複合的な方法論を用いることができるよう、各援助論の理解を深める。

【授業計画】

1. 間接援助技術とは何か
2. コミュニティワークとネットワークング
 - (1) コミュニティワークの基礎理論
 - (2) コミュニティワークの援助過程
 - (3) コミュニティワークの課題
 - (4) ネットワークングの基礎理論と技術過程、課題
3. 社会福祉調査法 (ソーシャルワーク・リサーチ)
 - (1) 社会福祉調査法の基礎理論
 - (2) 社会福祉調査法の技術過程
 - (3) 社会福祉調査法
4. 社会活動法 (ソーシャルアクション)
 - (1) ソーシャルアクションの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルアクションの展開事例
 - (3) ソーシャルアクションの課題
5. 社会福祉計画法 (ソーシャルウェルフェア・プランニング)
 - (1) ソーシャルウェルフェア・プランニングの基礎理論と技術過程
 - (2) ソーシャルウェルフェア・プランニングの実施事例
 - (3) ソーシャルウェルフェア・プランニングの課題

【評価方法】

出席状況と課題提出を基本に、筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新・社会福祉方法原論 (改訂版) (ミネルヴァ書房)

【参考文献・資料】

社会福祉援助技術各論 (社会福祉士養成テキストブック) (ミネルヴァ書房)

社会福祉援助技術各論 I

春見静子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Iにおいては、ケースワーク、グループワークを中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業の目標】

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する (ケースワーク、グループワーク)。

【授業計画】

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - (ア) 個別援助技術 (ケースワーク)
 - 1 個別援助技術における過程の意味
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の展開期
 - 4 援助の終結期
 - (イ) 集団援助技術 (グループワーク)
 - 1 援助の準備期
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の作業期
 - 4 援助の終結期

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

ケースワーク研究 (岡本民夫 ミネルヴァ書房 1973)
グループワークの歴史 (K.E.リード 勁草書房 1992)
ケースワークとは何か (M.リッチモンド 誠信書房 1963)

社会福祉援助技術演習 I

伊藤勝也 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口明広 谷口純世

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導 (ロールプレイング等) を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連しながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習 (演習課題)
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術演習 II

伊藤勝也 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口明広 谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連しながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

- 1 演習実施のための枠組み（高齢者・障害者福祉分野の事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

精神医学 II

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

代表的な精神障害として、老年性認知症、てんかん、睡眠障害、アルコール関連精神障害、薬物依存その他の身体因性障害、神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、気分障害、妄想障害、さらに統合失調症等、医療現場、福祉現場と関連があると予想される精神障害について理解する。また、病院精神医療と地域精神医療との関連等を学習する。

【授業の目標】

- 1 代表的な精神障害について理解する。
- 2 治療の概要について理解する。
- 3 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

【授業計画】

- 1 代表的な精神障害（その2）
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達障害
 - 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
- 2 治療法
 - 1) 身体的療法
 - 1) 薬物療法とその副作用
 - 2) 電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
- 3 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

看護のための精神医学（第2版）中井久夫、山口直彦（著）医学書院

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

社会福祉援助技術現場実習指導 I

伊藤春樹 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口純世 春見静子

2年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講和等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるように指導する。
- 3 実践的な技術等を体得できるよう指導する。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できるように指導する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
- 4 事前指導（個別事前指導も含む）

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

精神保健学 I

諏訪真美

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目は精神保健における基本的知識について理解する事が目的である。人間のライフサイクル（乳児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の各段階で発達課題を知り、それぞれの精神保健を理解する。また、個人のライフサイクルとともに家庭におけるサイクルを理解し、家族関係の成長・発達を知る。さらに家庭・学校・地域・職場での精神保健活動について理解する。また、地域精神保健に関する関係法規についても学習する。

【授業の目標】

- 1 精神保健についての基本知識について理解する。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解する。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性認知症疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座2 改訂 精神保健学（中央法規）

精神保健学 II

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神保健における基本的知識のもとに、さらに個別の理解を深める事を目的とする。精神障害者対策、老人性認知症疾患、薬物問題対策、思春期精神保健等の個別課題について学習する。また、社会の変化に基づく精神保健の新しい課題についても学習する。そして地域精神保健活動についてその実際の状況を学習し、関係期間の取り組みを参考にして個別課題の問題解決について考える。

【授業の目標】

- 1 地域精神保健と地域保健について理解する。
- 2 諸外国における精神保健の概要について理解する。
- 3 関連法規および施設について理解する。

【授業計画】

- 1 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 2 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施設
- 3 諸外国における精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

精神保健福祉士養成講座2 改訂 精神保健学（中央法規）
その他 随時授業内で指示する

精神保健福祉論 III

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神障害者の医療、保健、福祉に渡る精神保健福祉法、精神保健福祉法の歴史的意義と関連法を含めた法体系の具体的理解を目指す。また、法に基づいた精神保健福祉諸施策の概要と、立ち遅れが指摘されている医療、福祉サービスの到達点の評価と諸課題を学ぶ。併せて、精神障害者の自立の土台となる雇用・就労、所得保障等関連施策の概要を学ぶとともに関連領域との連携のあり方についての理解を深める。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉法、精神保健福祉法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。
- 2 精神保健福祉施策の概要について理解する。
- 3 精神保健福祉の関連施策について理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
 - 1) 精神保健福祉法の意義と内容
 - 2) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 3) 関連法について
2. 精神保健福祉施策の概要
 - 1) 精神保健福祉に関する行政組織
 - 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度（工費負担医療費）
 - 3) 精神保健福祉施策の課題
 - 1) 精神障害者福祉対策
 - 2) 社会復帰対策
 - 4) 精神保健福祉における社会資源
 - 1) 精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
 - 2) 社会資源
3. 精神保健福祉の関連施策
 - 1) 雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
 - 2) 所得保障
 - 3) 経済負担の軽減
 - 4) 生活環境の改善

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉論 中央法規出版

【参考文献・資料】

参考文献は、その都度紹介。
プリント配布。

精神保健福祉論 II

伊藤勝也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士の意義、役割について理解する。とりわけ、精神保健福祉の歴史上の諸問題とそこでの精神科ソーシャルワーカーの厳しい自己点検の経過を学ぶことで精神保健福祉士の意義を理解する。また、精神障害者の生活状況の把握を出発点として精神保健福祉士に要求される専門性、倫理について学ぶとともに、精神障害者の社会的障壁からの解放、主体性の尊重といった基本的価値に基づいた各現場での相談援助の実践について学ぶ。

【授業の目標】

1. 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。
2. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。

【授業計画】

1. 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
2. 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - 1) 医療施設における相談援助活動
 - 2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - 3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座 精神保健福祉論 中央法規出版

【参考文献・資料】

プリント配布。参考文献は、その都度紹介する。

精神保健福祉援助技術各論 I

瀧 誠

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、これまで学習してきた精神障害者の疾病および障害についての理解に基づいて、個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）について理解する事を目的とする。具体的事例について、個別援助（ケースワーク）の計画・実施について考える。さらに集団援助（グループワーク）についても、具体的事例に基づいて、その計画・実施を考え、関係者それぞれの役割を理解する。

【授業の目標】

- 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解する。
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適応分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
- 3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - 1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - 2) 社会資源の活用と開発
 - 3) 地域社会における連携と調整機能
 - 4) 家族会、自助グループの支援
 - 5) ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - 6) 地域援助
 - 3) 具体的事例検討

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉援助技術各論 中央法規出版

【参考文献・資料】

新版 社会福祉学双書2009 社会福祉援助技術論 全国社会福祉協議会
未知との遭遇・嚆しとしての面接（奥川幸子著）
グループワークの専門技術（黒本保博他著 中央法規）
その都度紹介する。

精神保健福祉援助技術各論 II

瀧 誠

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神障害者のケアマネジメント・地域援助技術（コミュニティワーク）について理解することを目的とする。ケアマネジメントの技法について学習し、それを活用した地域援助について理解する。また、具体的事例について、ケアマネジメントの技法を用いて、その援助計画について検討する。これらによって、地域での精神障害者援助の実践について、関係機関の連携・チームアプローチのありかたについて考える。

【授業の目標】

- 1 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解する。
- 2 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解する。

【授業計画】

- 1 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - 1 ケアマネジメント
 - 2 適応と対象
 - 3 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 1 ケアマネジメントの意義と留意点
 - 2 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - 1 受面接（インテーク）
 - 2 ニーズの把握とその評価
 - 3 目標設定と計画的実施
 - 4 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
- 2 精神障害者援助と関連専門職との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉援助技術各論 中央法規出版

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

地域生活支援サービス論

谷口明広

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

在宅福祉・在宅医療を展開する上で不可欠な援助方法であるケアマネジメントの理論と方法を学習する。ケアマネジメントは介護保険法の施行により、介護保険利用者や医療福祉援助者とを結びつける要となる位置にあり、具体例を通して福祉援助専門職の役割を学ぶ。

【授業の目標】

ケアマネジメントの歴史と実践を学び、介護保険法において介護支援専門員が用いるケアマネジメント技法や障害者自立支援法において相談支援専門員が用いる障害者ケアマネジメント技法を修得する。

【授業計画】

- 1 日目 授業のガイダンス
- 2 日目 ケアマネジメントの歴史の展開
- 3 日目 公的介護保険とケアマネジメント
- 4 日目 要介護認定の考え方と実際
- 5 日目 障害者自立支援法とケアマネジメント
- 6 日目 障害程度区分認定の考え方と実際
- 7 日目 ケアマネジメントのプロセスを学ぶ①
- 8 日目 ケアマネジメントのプロセスを学ぶ②
- 9 日目 ケアマネジメントのプロセスを学ぶ③
- 10 日目 社会資源開発とソーシャル・アクション
- 11 日目 連絡調整とネットワーク
- 12 日目 セルフ・ケアマネジメントの理論と実践
- 13 日目 ケアマネジメント事例の検討①（高齢者）
- 14 日目 ケアマネジメント事例の検討②（障害者）
- 15 日目 まとめに代えて

【評価方法】

出席の状況と受講の態度や姿勢、レポートの提出、試験の結果を総合的に評価する

【テキスト】

「ケアマネジメント」白澤政和 渡辺裕美 福富昌城 編
中央法規出版 2002年

【参考文献・資料】

「障害をもつ人たちの自立生活とケアマネジメント」
谷口明広 著 ミネルヴァ書房 2005年

医療ソーシャルワーク論

山口みほ

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

歴史を押さえながら医療ソーシャルワークと現代の医療福祉制度の基礎を学習する。その上で、利用者と家族の抱える問題を理解し、事例を通じて社会保障制度の利用の仕方および専門職としての援助のあり方を学ぶ。

【授業の目標】

- (1) 医療ソーシャルワークを中心に医療福祉の基礎を理解する
- (2) 保健・医療サービスの利用者の立場からも医療福祉を考察する視点を身につける

【授業計画】

1. オリエンテーション－医療福祉とソーシャルワーク－
2. 医療福祉の発生 (1) イギリス・アメリカ
3. 医療福祉の発生 (2) 日本
4. 医療福祉の歴史と医療ソーシャルワーク実践 (1)
5. 医療福祉の歴史と医療ソーシャルワーク実践 (2)
6. 日本の医療供給体制の現状と特色
7. 医療保障制度の現状と課題
8. 医療制度改革の動向と患者・家族の抱える問題
9. 経済的問題の解決・調整援助と「新たな貧困」問題
10. 退院援助と「退院計画」・「クリティカル・パス」
11. 難病患者と家族への心理・社会的援助
12. 依存症者の回復支援とセルフヘルプ・グループ
13. 医療ソーシャルワーカーの資格制度問題
14. これからの医療福祉
15. まとめ・試験

【評価方法】

主に試験（筆記）の結果によって評価するが、出席状況（毎回のミニ・レポートの提出をもって確認）および受講態度を加味する。

【テキスト】

特定のテキストは用いない。レジュメと資料を配布する。

【参考文献・資料】

講義中に随時紹介する。

マイノリティと現代社会

西 和久

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「マイノリティに対する偏見と差別」および「マイノリティによる積極的な社会参画」といった現代の問題について理解を深める。「偏見・差別」については、エイズ患者、HIV感染者、障害者等の社会的弱者における事例を取り上げ、偏見・差別の特質と問題点を、心理学的・社会学的視点から理解する。「積極的な社会参画」については、心理学における「少数派影響」の知見に基づき、マイノリティがいかにして積極的に社会に関わることが可能なのか、その今日的意義とは何かについて、具体的事例とともに理解を深める。

【授業の目標】

マイノリティに関わる諸問題およびその心理・社会的背景を社会心理学的パースペクティブを通じて理解する。同時にマイノリティの問題を具体的に解決していくためにはどのような社会的取り組みが必要なのかについて考察を行う。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション；マイノリティとは何か？
- 第2回 ステレオタイプ・偏見・差別の心理学的関連性
- 第3回 マイノリティに対する偏見形成のメカニズム(1)
- 第4回 マイノリティに対する偏見形成のメカニズム(2)
- 第5回 偏見の変遷；現代的偏見の心理学的特質
- 第6回 偏見/差別の解消に向けた社会心理学の方略
- 第7回 HIV感染者/エイズ患者に対する差別の実態
- 第8回 HIV感染者/エイズ患者に対する偏見の心理学的特質
- 第9回 同性愛者/両性愛者に対する偏見の心理学的特質
- 第10回 同性愛者/両性愛者のメンタルヘルスの実態
- 第11回 マジョリティによる社会的圧力と同調のメカニズム
- 第12回 マイノリティ・インフルエンス（少数派影響）
- 第13回 アクティブ・マイノリティによる社会的変化の実態
- 第14回 総合討論
- 第15回 学期末試験

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）、授業内小レポート、および学期末試験により総合的に評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

講義中、適宜紹介する。

マイノリティ運動論

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この講義では、“マイノリティ”と言われる「少数派」の人たちが、自らの権利を護り、人権が保障されるように、“マジョリティ”と言われる「多数派」の人たちや行政に対して、差別や偏見を無くそうとして戦ってきた運動史を学ぶ。社会福祉の歴史は、強く大きなものに対して、弱い小さいものが戦いを臨んできたことを明白に物語っている。この運動史を学ぶことにより、社会的弱者への深い理解へとつながるのである。

【授業の目標】

1. 社会的弱者を生み出すに至った理由を歴史的に認識する
2. “マイノリティ”とは、どのような人たちかを知る
3. “マイノリティ”が実施してきた運動論を知る
4. “マイノリティ運動”の特徴を明らかにする

【授業計画】

- 1回目 授業ガイダンス（マイノリティとしての経験から）
- 2回目 黒人解放運動の歴史①（キング牧師）
- 3回目 黒人解放運動の歴史②（マルコムX）
- 4回目 黒人初の大統領“オバマさん”で、何が変わったか
- 5回目 被差別部落解放運動の歴史①（水平社宣言）
- 6回目 被差別部落解放運動の歴史②（狭山事件をめぐる）
- 7回目 ネイティブ・アメリカン解放運動の歴史①
- 8回目 ネイティブ・アメリカン解放運動の歴史②
- 9回目 女性解放運動の歴史①（フェミニズム運動）
- 10回目 女性解放運動の歴史②（平塚らいてふ）
- 11回目 【障害者】自立生活運動の歴史①（専門家否定）
- 12回目 【障害者】自立生活運動の歴史②（C I L創設）
- 13回目 【障害者】自立生活運動の歴史③（A D A制定）
- 14回目 “マイノリティ”の運動論に見る共通性の理解
- 15回目 まとめに代えて（どうして人間は戦うのか）

【評価方法】

出席状況と受講態度を考慮して、レポートと期末試験による総合的な評価をしたい。

【テキスト】

毎回、資料を作成し、配布するようにしている。

2008年度以降入学者対象 医療貢献学科 言語聴覚学専攻中心基礎科目

言語聴覚学基礎演習

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚障害学、言語聴覚学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業の目標】

言語聴覚士に必要な考え方と基礎的知識を学ぶと同時にデータベースの使い方、文献探索、レポートの書き方を学ぶ。
また、介護と保育の施設で体験学習をすることで、成人と小児の臨床を経験する。

【授業計画】

ゼミ形式（5-6人）で以下の事柄を学ぶ。

1. 言語聴覚学研究法
2. データベースの使い方(文献探索)
3. 図書館の利用法
4. レポートの書き方
5. 言語聴覚学とその障害の基礎知識
6. 言語聴覚士の臨床
7. 言語聴覚士法
8. 言語聴覚士の倫理
9. 施設体験学習（介護と保育）

【評価方法】

出席、レポート、体験学習の内容を評価する。

【テキスト】

授業にて紹介する。

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

心理実験法演習 I

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の感覚・知覚について、特に視覚、聴覚、触覚の各モダリティーに重点を置き、心理物理学的測定法の諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することによって、コミュニケーション障害に関する研究技能の基礎を習得する。

【授業計画】

学生は2つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション（全学生）
第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。
- ・ ミュラー・リヤール錯視：調整法
 - ・ 明るさの測定：マグニチュード推定法
 - ・ 絶対閾の測定：信号検出理論
 - ・ レミニにセンス効果の測定：実験スケジュールの調整
 - ・ 対連合学習と系列暗記学習：経験破壊法
 - ・ 鏡像描写：知覚-運動協応と両側性転移
 - ・ 伝言ゲーム：コミュニケーションによる情報の変容
 - ・ 触二点閾：極限法
 - ・ リッカート法：尺度構成法
- 第14回・第15回
まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（13点満点）、各課題のレポート（8点×9=72点満点）とし、60点以上取得で合格とする。
ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

実験計測演習

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理物理学研究における刺激や関連の物理量の正確な計測に必要な基礎的事項について理解し、物理計測器や光計測器を、その機能、特性の理解に基づいて正しく活用する技能を学習する。
（川嶋英嗣准教授）照度の測定
（高橋啓介教授）色の測定
（高橋伸子教授）輝度の測定

【授業の目標】

基本的な計測機器の取り扱いとデータの処理法について、測定を通して習得する。

【授業計画】

受講生を3つのグループに分け、それぞれについて以下のスケジュールで演習を行う。

- 第1回 オリエンテーション（全グループ合同）
第2回～第4回
Aグループ：照度の測定・Bグループ：輝度の測定・
Cグループ：色の測定
第5回～第7回
Aグループ：輝度の測定・Bグループ：色の測定・
Cグループ：照度の測定
第8回～第10回
Aグループ：色の測定・Bグループ：照度の測定・
Cグループ：輝度の測定
第11回～第13回 コンピュータを用いた計測（全グループ合同）
第14回～第15回 まとめ

【評価方法】

出席（15点）、演習態度（25点）、レポート（15点×4回）の合計100点満点で、60点以上を合格とする。

【テキスト】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

心理実験法演習 II

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の視覚、聴覚、触覚の各モダリティーの認知的特性や機能について、実験的に測定、追究する諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法技能の定着を目指すとともに、尺度構成法に習熟することで、コミュニケーション障害の諸研究を行う高度な技能の習得をめざす。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。
1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション（全学生）
第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。
- ・ 実体鏡視：マグニチュード推定法
 - ・ 味覚の測定：マグニチュード推定法
 - ・ 大きさの恒常性：極限法
 - ・ 色視野の測定：調整法
 - ・ ストループ効果：信号検出理論
 - ・ 色の弁別閾の測定：恒常法
 - ・ SD法：尺度構成法
- 第14回・第15回（グループ別演習）
まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（15点満点）、各課題のレポート（10点×7=70点満点）とし、60点以上取得で合格とする。
ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

認知・学習心理学

河野和明

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報処理的アプローチによる人間の視覚認知や聴覚認知、注意、記憶、知識と表象などの研究から基本的な事項や代表的モデルを取り上げて解説するとともに、人間の環境適応を支える基礎的課程である学習の特性、メカニズム、機能について解説する。

【授業の目標】

認知心理学および学習心理学の諸概念を把握し、基本的な考え方を理解した上で応用的な側面を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 人間の適応の心理的基盤
- 第2回 知覚情報処理
- 第3回 短期記憶
- 第4回 長期記憶
- 第5回 忘却
- 第6回 知識表象の構造
- 第7回 注意過程
- 第8回 バヴロフ型条件づけ(1)
- 第9回 バヴロフ型条件づけ(2)
- 第10回 バヴロフ型条件づけ(3)
- 第11回 オペラント条件づけ(1)
- 第12回 オペラント条件づけ(2)
- 第13回 オペラント条件づけ(3)
- 第14回 観察学習とモデリング
- 第15回 まとめ

【評価方法】

開講期間中数回の小テストを実施し評価する。進度等により期末試験を課す。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

【参考文献・資料】

山内光哉・春木豊(編著) 2001 グラフィック学習心理学 サイエンス社
 ラックマン,R. ラックマン, J. L. バターフィールド 1988 認知心理学と人間の情報処理Ⅰ～Ⅲ サイエンス社
 その他は、授業において示す。

臨床心理学

戸田裕美子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人格理論、発達各期における心理臨床的問題や意識障害、適応障害などについて学び、さらにそれらに対する心理療法やカウンセリングの構造や特性について学ぶ。

【授業の目標】

1. 臨床心理学について学び、現代社会に生じる心理臨床的問題、意識障害、適応障害について、そのメカニズムを含め考察する。
2. 人格理論にもとづいた実践である心理療法を学び、心理的援助の理解を深める。

【授業計画】

1. 「臨床心理士」について(自己紹介)
2. 心理臨床的問題について
 - ・発達段階において考える
乳幼児期、児童期・思春期、青年期、中年期、老年期
 - ・精神障害
3. 人格理論と心理療法
 - ・クライエント中心療法
 - ・精神分析療法
 - ・行動療法
4. アセスメント
5. 他職種との連携

【評価方法】

期末試験及び授業内に行われる小レポートによるが、授業への参加関与度を考慮する

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する

生涯発達心理学

松岡弥玲

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

人間の生涯の発達について、心身がいかに変化、成熟するかについて理解する。胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解するとともに、その過程を説明するさまざまな発達理論について学ぶ。

【授業の目標】

生涯にわたる人間の発達という複雑な現象を、発達心理学の領域ではどのように捉えてきたのか。発達心理学の基礎を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 代表的な発達理論
- 第3回 遺伝と環境
- 第4回 発達の初期の認知発達
- 第5回 愛着の発達
- 第6回 ことばの発達
- 第7回 情動の発達
- 第8回 パーソナリティの発達
- 第9回 児童期
- 第10回 青年期
- 第11回 中年期
- 第12回 老年期
- 第13回 発達の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席、授業時間中に実施するショートレポート、テストの成績による

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

必要な資料は、授業時間中に配布する。

音響学・聴覚心理学

城哲哉 吉川雅博

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超筋節的要素の音響的特徴について学習するとともに、音声情報処理の生理機構、可聴範囲、音の心理物理学、マスキング現象、両耳聴の効果と音源定位、生活環境と聴覚との関係などについて学習する。

【授業の目標】

- 1 音声や音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
- 2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつかを理解する。
- 3 病的音声の音響分析や聴力測定などの音響の応用的側面について理解を深める。

【授業計画】

講義は二人の担当者が分担して行い、まず前半(第1回～第7回)で音の物理的特性や音声の音響特徴に触れ、後半(第8回～第14回)で音声の聴覚処理について講義を進める。テキスト(「言語聴覚士のための音響学」)の該当章を下に示す。

- 第1回 音の物理入門(第1章)
- 第2回 スペクトル(第3章)
- 第3回 音声生成の音響学(第5章)
- 第4回 前回の続き(第5章)
- 第5回 音のデジタル信号処理(第6章)
- 第6回 日本語音声の音響的特徴(第7章)
- 第7回 前回の続き(第7章)
- 第8回 信号としての音波(第2章)
- 第9回 病的音声の音響的特徴(第8章)
- 第10回 聴覚の基本構造(第9章)
- 第11回 伝達関数(第4章)、聴覚フィルタとマスキング(第10章)
- 第12回 音の大きさの知覚と認知(第11章)
- 第13回 音の高さの知覚と認知(第12章)
- 第14回 音声の知覚と認知(第13章)
- 第15回 まとめと試験

【評価方法】

最終試験(国試に準じた5択式)により評価する。

【テキスト】

言語聴覚士のための音響学(今泉敏著 医歯薬出版株式会社)
 図解雑学 音のしくみ(中村健太郎著 ナツメ社)

【参考文献・資料】

- ・音入門ー聴覚・音声科学のための音響学(チャールズ・E.スピークス著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・音声の音響分析(レイ・D.ケント、チャールズ・リード著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・音声知覚の基礎(ジャック・ライアルズ著、今富祺子、菅原勉、荒井隆行 監訳)
- ・音声・聴覚のための信号とシステム(スチュアート・ローゼン、ピーター・ハウエル著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・言語聴覚士の音響学入門(吉田友敬著)

以上の5冊すべて出版社は、海文堂です。

言語学

出嶋真由美

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語を生物としてのヒトとの関係でとらえ、言語の単位と構造について理解する。語彙、形態論、統語論、意味論、音韻論、語用論について、基礎的理解を形成し、個別言語として日本語の構造と特徴について学ぶ。さらに、言語と社会、文化との関係についても学習する。

【授業の目標】

日本語と英語を対照しながら、言語の構造を理解する。日本語の特徴を理解し、言語発達や言語障害の基礎知識を構築する。

【授業計画】

- 第1回 言語学の出発点
- 第2回 意味論
- 第3回 意味論と語彙
- 第4回 品詞と語彙
- 第5回 統語論
- 第6回 統語論
- 第7回 形態論
- 第8回 形態論
- 第9回 音韻論
- 第10回 音韻論と形態論の接点
- 第11回 文法理論：格文法
- 第12回 文法理論：生成文法
- 第13回 文法理論：創発主義
- 第14回 語用論
- 第15回 語用論

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

よくわかる言語学入門：解説と演習（町田健・初山洋介著 バベル・プレス）

【参考文献・資料】

基礎日本語文法—改訂版（増岡隆志・田窪行則著 くろしお出版）

基礎医学 II（解剖学）

安藤富士子

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

人体の基本的構造や機能について学習する。系統解剖学的に器官系、器官、組織の形態・構造の特徴、機能との関連について発生学的観点を加えつつ理解する。生体全体としての正常な機能遂行のための神経系、内分泌系の働きについても学習する。

【授業の目標】

人体の形、構造を正しく理解し、人体の機能や病態を理解するための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

- 1.総論
 - 人体の構成（細胞・組織・器官、器官系）
 - 生体の防御機構
- 2.各論
 - 運動器
 - 循環器
 - 消化器
 - 呼吸器
 - 神経・感覚器
 - 腎・尿路・生殖器
 - 内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ヒューマンバイオロジー—人体と生命（坂井建雄ら監訳、医学書院）
 ロス&ウイリソン健康と病気のしくみがわかる解剖生理学（島田達生ら訳、西村書店）
 ネット解剖生理学アトラス（相磯真和ら訳、南江堂）
 わかりやすい解剖生理 構造と機能への入門（石川春律ら訳、文光堂）
 からだの構造と機能（三木明徳ら訳、西村書店）
 コアテキスト1 人体の構造と機能（下 正宗編 医学書院）
 図解ワンポイントシリーズ1 解剖学 人体の構造と機能（渡邊 酷、医学芸術社）

基礎医学 I（医学総論）

安藤富士子

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

人類に対して医学が持つ意味について解説する。人の生涯における健康と疾病の概念を学習する。遺伝の成り立ちや生まれてから、死亡するまでの正常な成長、発達、老化について学ぶと同時に特に成人期以降に多い疾患や障害について学習する。

【授業の目標】

医学・医療に携わる者が必要な基礎知識を習得し、患者・弱者のQOLに貢献する心構えを形成する。

【授業計画】

講義形式による。

- ・健康・疾病の概念
- ・公衆衛生・疫学・保健統計
- ・生命の誕生
- ・遺伝と環境
- ・生命と倫理
- ・日本人に多い疾患（生活習慣病、老年病等）
- ・高齢化と医療

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

国民衛生の動向 2008（厚生労働協会）
 平成20年度 厚生労働白書（厚生労働省）
 平成20年度 高齢社会白書（厚生労働省）
 ヒューマンバイオロジー—人体と生命（坂井建雄ら監訳、医学書院）
 フィッツジェラルド人体発生学（平野茂樹ら訳、西村書店）

基礎医学 III（生理学）

清水 暁

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

医学・生物学の広範な学問領域を包含する人体生理・生化学の概念を体系的に効率よく学ぶことを目的とする。精緻な身体の内面とその機能について、重要な基本的概念を理解し不可欠な基礎知識を習得すべく、体液・呼吸・栄養・代謝・内分泌・感覚等主として人体の植物的機能の生理機序を中心に学習する。

【授業の目標】

ヒトの身体はいろいろな器官から成り立っており、これらが調和して機能することにより生命が維持されている。各種器官系の機能について概説し、生命の仕組みについての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 生理・生化学の基礎
- 第2～7回 人体の機能系について
 - 体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系
 - 栄養と代謝
- 第8回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

【テキスト】

やさしい生理学（森本武利、彼末一之編、南江堂）

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

基礎医学 IV (病理学)

安藤富士子

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

身体、器官、組織における正常な構造、機能と対比して、疾病や障害の病態や回復過程について学習する。病理学総論では疾病の原因や炎症、腫瘍、循環障害等の病気の基本概念を正しく学習する。病理学各論では臓器や器官ごとの機能が疾病によってどのように変化するか、その経時的な過程と生体の反応による回復過程について学習する。

【授業の目標】

身体における疾病と障害の成り立ちと回復過程について理解する。疾患を表層的にとらえるのではなく、常に解剖学、生理学における正常像と疾病に於ける異常像を対比してとらえ、病態とその回復過程を病因論的に理解することにより、臨床医学を学ぶための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

- 総論
 - 病理学とは
 - 疾病の原因
 - 細胞・組織の障害と修復、再生
 - 病理的变化 (循環障害、炎症、先天異常、老化、腫瘍)
 - 遺伝と免疫
- 各論
 - 運動器
 - 循環器
 - 消化器
 - 呼吸器
 - 神経・感覚器
 - 腎・尿路・生殖器
 - 内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ルービン カラー基本病理学 (河原栄ら監訳、西村書店)
 カラーで学べる病理学 (渡辺照男、ノベルヒロカワ)
 カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理 (松尾 理監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル)

090649506_0170 掲載順 : 0170

MASTER ★

臨床医学 I (内科学・精神医学・小児科学)

大野電三 諏訪真美 渡邊一功

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

内科学の位置づけ、内科疾患の原因論とその学問的發展について理解し、臨床上重要な症候群について学ぶ。さらに正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。そしてさまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。

【授業の目標】

- 体のしくみと機能を学ぶ。
- 医療福祉関係者として働く際、知っておくべきよく見られる病気について理解する。
- 小児の発達について理解し、代表的な疾患について理解する。
- 精神障害、精神的疾患について理解し、その治療や援助について学ぶ。

【授業計画】

- 生きてゆくための体の機能 (血液、血圧、ホルモン、免疫など)
- よくみられる病気 (1) (心臓、呼吸器、胃腸など)
- よくみられる病気 (2) (がん、感染症、血液など)
- 生活習慣病 (種類、予防法など)
- 多肢選択式筆記試験
- 小児の発達
- 小児保健
- 小児の疾患 (1)
- 小児の疾患 (2)
- 小児の疾患 (3)
- ライフサイクルにおける精神保健
- 精神の疾患 (1)
- 精神の疾患 (2)
- 精神の疾患 (3)
- 治療技法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

090649506_0180 掲載順 : 0180

MASTER ★

臨床医学 II (臨床神経学)

岡田 久

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚・聴覚、言語の領解や発語、身体運動・感覚などの脳・神経機能の基礎を学び、脳・神経系の主要症候、疾患について、病状、発現機序、病因、検査法および治療について学ぶ。

【授業の目標】

- 臨床神経学の概要を理解する。
- 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の解剖・機能および、検査・評価法について理解する。
- 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候を理解する。
- 言語および視覚機能に関連した脳・神経系の主要疾患および医療現場で知っておくべき脳・神経系疾患の病状、発現機序、病因、治療およびEvidence Based Medicine(EBM)について理解する。

【授業計画】

- 言語および視覚機能を中心とした脳・神経機能の基礎
 - 脳・神経系の解剖
 - 脳・神経系の機能
 - 脳・神経系の検査・評価法
- 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候
 - 意識障害・精神症状・知能障害・睡眠障害
 - 失語・失音
 - 失行・失認
 - 構音障害・嚥下障害
 - 眼球運動障害・眼振・瞳孔異常・視野障害・眼瞼異常
- 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要疾患
 - 病状・発現機序・病因・治療
 - 脳血管障害
 - 認知症・変性疾患
 - 感染症・中毒・腫瘍
 - 発作性疾患
 - 脊髄・末梢神経・筋疾患
 - 脱髄疾患・代謝性疾患・遺伝性疾患
 - 内科疾患などに伴う神経疾患

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

出席確認は講義中の携帯メール送信、または講義終了時の出席調査票提出のどちらかで行う。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

講義で使用したスライド・資料などは、適宜インターネット上で閲覧可能とする。

臨床医学 III (耳鼻咽喉科学)

丹羽英人

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、気管・食道科学について、構造、機能、疾患などについて学ぶ。

【授業の目標】

耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域の解剖学・生理学・疾患の病態を理解し診断方法や治療方法を知る。

【授業計画】

- 第1回 耳科領域の解剖、生理 (1)
- 第2回 耳科領域の解剖、生理 (2)
- 第3回 鼻科領域の解剖、生理
- 第4回 咽頭、喉頭科領域の解剖、生理
- 第5回 頭頸部領域の解剖、生理
- 第6回 耳科領域の症候学
- 第7回 鼻科領域の症候学
- 第8回 咽頭喉頭の症候学
- 第9回 耳科領域の疾患の診断学
- 第10回 鼻科領域の疾患の診断学
- 第11回 咽頭喉頭領域の疾患の診断学
- 第12回 頭頸部領域の診断学
- 第13回 耳科領域の疾患の治療
- 第14回 鼻科領域の疾患の治療
- 第15回 咽頭喉頭領域の疾患の治療

【評価方法】

期末試験の成績

【テキスト】

授業のはじめに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

臨床医学 V (形成外科学)

大久保文雄

1年 後期集中 必修 1単位

【授業の概要】

創傷治療と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

- 1 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 2 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 3 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患（頭頸部腫瘍を中心に）を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

- 1 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 3) 創傷治療と組織移植
- 2 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
- 3 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定なし

【参考文献・資料】

講義中に配布

臨床歯科医学・口腔外科学

鈴木 聡 夏目長門 西村叔枝 古川博雄 山田祐敬

オムニバス 1年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

歯、歯周組織の発生、構造、機能、疾患と、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能と疾患について学ぶ。また、言語障害と関係のある、種々の口腔機能障害についても学習する。

【授業の目標】

- 1 歯・口腔・顎・顔面部に発症する疾患の病状、治療の概要を理解する。
- 2 それらによって引き起こされる構音を中心とした口腔機能障害についても理解する。

【授業計画】

- (鈴木聡 / 1.5回) 歯・口腔・頭頸部解剖、発生 について学ぶ。
 (夏目長門 / 1回) 先天異常 (奇形) について学ぶ。
 (西村叔枝 / 1回) 歯科学概論 について学ぶ。
 (古川博雄 / 3回) 炎症、後天異常 (変形)、外傷、顎関節、唾液腺、神経疾患について学ぶ。
 (山田祐敬 / 1回) 嚢胞・腫瘍 について学ぶ。

【評価方法】

毎回、出欠席を調査をし、小テスト等により成績評価する。
 期末試験は行わない。

【テキスト】

言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 (医学書院)

【参考文献・資料】

標準口腔外科学 第3版 (野間弘康・瀬戸皖一 医学書院)
 看護のための最新医学講座 第23巻 歯科口腔系疾患 (山本悦秀 中山書店)

臨床医学 VI (外科・整形外科・泌尿器科)

小野佳成

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

外科の基本は切開、切除、縫合、結紮であり、これらの操作により内科的処置で治療しない腫瘍をはじめとする各種病変の切除等の治療を行う。外科は消化管、および肝臓・胆嚢・膵臓などの消化器を扱う。整形外科は全身の骨格と関節と、それらに結合する骨格筋、腱および靭帯を扱う。泌尿器は、尿を作る腎臓、尿を体外に排出する尿管、膀胱、尿道、男性の生殖を司る精巣、精囊、前立腺を扱う。

【授業の目標】

上記を理解し、外科、整形外科、泌尿器科がどのような疾患を扱うのかを理解する。出血、熱傷、骨折、尿閉などの救急処置を理解する。

【授業計画】

- 以下の予定で行います。
- 1、外科学総論1 (歴史、全身管理)
 - 2、外科学総論2 (全身管理)
 - 3、外科学総論3 (全身管理)
 - 4、外科学総論4 (救急疾患と処置、創傷、熱傷、等)
 - 5、外科学総論5 (救急疾患と処置、出血とショック等)
 - 6、整形外科の救急疾患と処置 (骨折等)
 - 7、泌尿器科の救急疾患と処置 (尿閉等)
 - 8、消化管疾患 (食道、胃、大腸、直腸等) に対する外科的治療
 - 9、消化器疾患 (肝臓、膵臓、胆嚢等) に対する外科的治療
 - 10、整形外科疾患 (骨と関節、骨格筋、腱および靭帯)
 - 11、整形外科疾患 (骨の代謝性疾患: 骨粗鬆症等)
 - 12、泌尿器疾患 (腎臓、尿管、膀胱、尿道、副腎)
 - 13、男性生殖器疾患 (精巣、精巣上体、前立腺、精囊)
 - 14、女性生殖器疾患 (卵巣、卵管、子宮)
 - 15、まとめ

【評価方法】

各講義ごとに小テストを行い評価します。

【テキスト】

特にありません。講義で紹介します。

【参考文献・資料】

特にありません。

神経系の構造・機能・病態

平野裕滋

2年 後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

身体全体における神経系の位置づけを正しく把握した上で、神経系の構造、機能、病態について理解を深める。

【授業の目標】

神経系の構造、機能、病的状態についての基本的知識を体得する。

【授業計画】

- 第1回 神経解剖学の基礎事項
- 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
- 第3回 随意運動のための神経伝導路
- 第4回 大脳皮質下の運動中枢
- 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
- 第6回 自律神経系、視床下部
- 第7回 脳神経
- 第8回 聴覚伝導路
- 第9回 視覚伝導路と視覚反射
- 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
- 第11回 大脳皮質
- 第12回 髄膜、脳室系、脳血管支配
- 第13回 中枢神経系の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、期末試験による

【テキスト】

リープマン神経解剖学、第2版 (山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

【参考文献・資料】

臨床のための神経機能解剖学 (後藤文雄 天野隆弘著 中外医学社 ISBN:4-498-02880-5)
 カラー図解神経の解剖と生理 (Ben Greenstein Adam Greenstein [著]/大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN9784895922692)
 カラー図解臨床でつかえる神経学 (Reinhard Rohkamm著 大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN978-4-89592-438-2)

聴覚系・発声発語系の構造・機能・病態

丹羽英人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚系の構造、機能、病態について、聴覚医学視点から理解を深める。また呼吸・発声・発語器官の各々について、その構造、機能、病態を学び、発声障害、構音障害および摂食・嚥下障害との関連について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚系及び発声発語系は相互に補充し合う気管である。それらの局所解剖学及び生理学を理解し、聴覚障害、発声・発語障害、それに伴う嚥下障害の病態を理解するための基礎を確立する。

【授業計画】

- 第1回 聴器の解剖学（末梢）
- 第2回 聴器の解剖学（中枢）
- 第3回 聴器の生理学
- 第4回 聴器の機能検査（聴覚心理学的1）
- 第5回 聴器の機能検査（聴覚心理学的2）
- 第6回 聴覚生理学的機能検査（末梢）
- 第7回 聴覚生理学的機能検査（中枢）
- 第8回 発声器官の解剖学
- 第9回 構音器官解剖学
- 第10回 発声器官の生理学
- 第11回 構音器官の生理学
- 第12回 音声の検査法

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績

【テキスト】

授業の始めに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

社会福祉論 I（社会保障制度）

小口将典 木村淳也 酒井美和

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉の理念、価値、目的などについて基本的な理解を深め、現代社会における社会福祉に関する制度、政策、現状について知識を深める。

【授業の目標】

医療専門職として、患者を支える上で必要な社会福祉の基本的な考え方、各分野の現状、援助の方法や福祉の仕事に対する理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 社会保障の構造と考え方
3. 社会保障の方法と財源
4. 年金保険制度①
5. 年金保険制度②
6. 医療保険制度①
7. 医療保険制度②
8. 介護保険制度①
9. 介護保険制度②
10. 労働保険制度①
11. 労働保険制度②
12. 公的扶助①
13. 公的扶助②
14. 諸外国の社会保障
15. まとめ

【評価方法】

授業態度、レポートなどの結果から総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指示する

【参考文献・資料】

開講時に指示する

社会福祉論 II（関係法規・リハビリテーション概論）

初谷良彦 原田良實

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚士法を始めとする医療福祉分野の関係法規の概要について理解する。また、リハビリテーションの由来や定義を正しく理解したうえで、病気と障害の相違・関係、障害の統計、障害の階層的分類、対策、ノーマライゼーション、インフォームド・コンセント、障害者の自己決定権、障害の告知等の問題について学習する。

【授業の目標】

人類の大きな課題の一つは、適切な社会関係を確立することである。障害者に対する社会の変化が、福祉の発展をもたらした歩みを見るとともに、障害に関連する法規等を身につける。

【授業計画】

- 第1回 言語聴覚士法、精神保健福祉法、視能訓練士法等。
- 第2回 福祉八法の概要
- 第3回 障害の概念の変遷
- 第4回 WHO（世界保健機関）の取り組み
- 第5回 インフォームド・コンセント
- 第6回 障害者の自己決定権
- 第7回 自己権利擁護
- 第8回 障害者の裁判を受ける権利
- 第9回 国連・障害者権利条約の実現に向けて
- 第10回 社会リハビリテーション
- 第11回 医学的リハビリテーション
- 第12回 職業リハビリテーション
- 第13回 教育リハビリテーションにおけるエンパワーメントとインクルージョン
- 第14回 バリアフリーとユニバーサルデザイン
- 第15回 盲導犬による行動訓練の課題

【評価方法】

平常点及びレポートにより評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

色彩心理学

坂田勝亮

1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

色発現の光学的メカニズムと心理メカニズムについて理解し、色知覚の諸現象の特性、メカニズム、その応用について学ぶ。

【授業の目標】

心理現象としての色彩について理解するとともに、その物理学的、生理学的基礎についても理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 色彩とは
- 第2回 色彩の光学的基礎
- 第3回 スペクトルの観察
- 第4回 照明光源
- 第5回 混色とメタメリズム
- 第6回 色彩の生理学的基礎
- 第7回 色覚モデル
- 第8回 表色系・均等色空間
- 第9回 色名と基本色彩語
- 第10回 色彩の心理的現象1: 錯視
- 第11回 色彩の心理的現象2: 同化と対比
- 第12回 色彩の心理的現象3: 主観色
- 第13回 色彩の心理的現象4: 順応と恒常性
- 第14回 色彩の心理的現象5: 連想とイメージ
- 第15回 試験

なるべく多くの実体験を供するよう、実習を交えながら講義形式で行う

【評価方法】

授業中における勉強状況、および試験を実施する予定

【テキスト】

カラーコーディネーターのための色彩心理入門（近江源太郎著 日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

必要に応じ、講義中に指示する

漢方医学概論

楊 衛平

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

古来の漢方医学の考え方、独特な生理・病理学・診断学・治療学・薬物学について総合的に概説し、漢方医学の基礎理論知識を学ぶ。

【授業の目標】

伝統漢方医学における陰陽五行などの基礎理論を通じて、人体の認識、疾病の把握、治療体系についての理解を深め、医療現場に活用するための基本的知識と技能を修得する。

【授業計画】

中国伝統医学の歴史
日本漢方医学の歴史
東・西両医学の相違
漢方医学の基本構造
漢方医学的の生理学
漢方医学的の病理学
漢方医学的の診断学
漢方医学的の治療学
漢方医学的の薬物学
漢方生薬の基礎分類
医食同源と健康食育
経絡学と鍼灸・指圧
日常における養生術
漢方医学の活用注意
期末テストの実施

【評価方法】

出席、討論質疑30%、レポート30%、期末テスト40%。

【テキスト】

学生のための漢方医学テキスト
日本東洋医学会編集・発行

2008年度以降入学者対象 医療貢献学科 言語聴覚学専攻中心専門科目

音声学・音韻論

出嶋真由美

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

母音、各種子音について、構音（調音）的特徴や音節、プロソディ（韻律的特長）、日本語の音声の種類と特徴について学習する。また、言語音声の基底にある規則とその表示原則について日本語および他の言語の音韻体系を通して学習する。

【授業の目標】

- 1 音声学・音韻論の概要を理解する
- 2 日本語音声の調音のしくみを理解する
- 3 日本語音声の音韻体系を理解する

【授業計画】

- 1 音声学・音韻論の役割
- 2 音声器官の構造と機能
- 3 子音の分類・母音の分類
- 4 日本語の音声1
- 5 日本語の音声2
- 6 音声の有標性
- 7 音声学まとめ
- 8 日本語の音声と音素1
- 9 日本語の音声と音素2
- 10 音節とモーラ
- 11 アクセント
- 12 イントネーション・プロミネンス等
- 13 音韻論まとめ
- 14 全体のまとめ・復習
- 15 学期末試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

意味論・語用論

中野弘三

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

記号や言語表現が指し示すものの意味と言語表現とその使用者の関係やコミュニケーション機能について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。

【授業の目標】

1. 言葉の意味の基本的な問題を理解する。
2. コミュニケーションの場での文の意味を考える。

【授業計画】

- 第1回 意味とは
- 第2回 意味の種類
- 第3回 意味と指示
- 第4回 語の意味分析(1)
- 第5回 語の意味分析(2)
- 第6回 意味の場
- 第7回 コミュニケーションの場での文の意味(1)
- 第8回 コミュニケーションの場での文の意味(2)
- 第9回 発話行為(1)
- 第10回 発話行為(2)
- 第11回 会話の含意
- 第12回 日英語の丁寧表現(1)
- 第13回 日英語の丁寧表現(2)
- 第14回 日英語のほかし言葉
- 第15回 期末試験

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (池上嘉彦ほか著 大修館書店)
 語の意味と意味役割 (米山三明・加賀信宏著 研究社)
 発話行為 (山梨正明著 大修館書店)

形態論・統語論

出嶋真由美

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

語の単位である語彙の特質と、語の結合による文や句の機能および構造の規則について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。必要に応じて、代表的な文法理論についても学習する。

【授業の目標】

- 1 形態論・統語論の概要を理解する
- 2 日本語の言語事実理論的分析を与える
- 3 言語の理論的分析の意義を理解する

【授業計画】

- 1 言語の構造(形態論・統語論の役割)
- 2 言語学概論
- 3 形態論1形態素
- 4 形態論2形態素の結び付き、異形態
- 5 形態論3形態素分析
- 6 形態論4日本語の語形成
- 7 形態論5語の構造
- 8 形態論まとめ
- 9 統語論1文の構造・生成文法理論について
- 10 統語論2句構造規則
- 11 統語論3日本語の統語分析1
- 12 統語論4日本語の統語分析2
- 13 統語論5言語の個別性と普遍性について
- 14 補足・復習・全体のまとめ
- 15 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する

言語聴覚障害学

井脇貴子 加藤正子 豊島義哉 船嶋康広 吉田 敬

オムニバス 1年 前期・前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害の種類と障害の特徴を学び、治療、援助のあり方を学習する。(井脇貴子教授) 聴覚障害について学ぶ。
 (加藤正子教授) 小児の構音障害について学ぶ。
 (船嶋康広准教授) 発達障害について学ぶ。
 (豊島義哉兼任講師) 成人の構音障害及び嚥下障害について学ぶ。
 (吉田敬准教授) 失語症について学ぶ。

【授業の目標】

1. さまざまな言語聴覚障害について知識を習得する。
2. 障害の構造を科学的に把握する方法を学ぶ。
3. 各障害への基本的アプローチを知る。

【授業計画】

- 講義方式による。
- 第1回 聴覚障害
 - 第2回 聴覚障害
 - 第3回 言語発達遅滞
 - 第4回 自閉症
 - 第5回 広汎性発達障害
 - 第6回 構音障害
 - 第7回 構音障害
 - 第8回 構音障害
 - 第9回 嚥下障害
 - 第10回 嚥下障害
 - 第11回 嚥下障害
 - 第12回 失語症
 - 第13回 失語症
 - 第14回 高次神経機能障害
 - 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

広瀬肇「言語聴覚士テキスト」医歯薬出版

言語聴覚診断学

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 船崎康広 吉田 敬

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害学について、評価・診断法の基礎的な概念と知識を学ぶ。
 (井脇貴子教授) 聴覚障害について学ぶ。
 (加藤正子教授) 言語臨床の流れ、小児の発語障害について学ぶ。
 (船崎康広准教授) 言語発達障害について学ぶ。
 (鈴木朋子准教授) 成人の構音障害及び嚥下障害について学ぶ。
 (吉田敬准教授) 失語症について学ぶ。

【授業の目標】

言語聴覚障害を評価・診断する意味と方法論を理解する。
 各言語障害別に検査法・評価法・治療法の概論を学ぶ。

【授業計画】

第1回	言語聴覚障害の臨床の流れ	
第2回	評価・診断の基礎的理念	
第3回	言語発達の評価と障害の診断	1
第4回	言語発達の評価と障害の診断	2
第5回	言語発達の評価と障害の診断	3
第6回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	1
第7回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	2
第8回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	3
第9回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	4
第10回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	5
第11回	成人のコミュニケーションの評価と障害の診断	6
第12回	聴覚評価と障害の診断	
第13回	小児の聴覚評価と障害の診断	
第14回	成人の聴覚評価と障害の診断	
題15回	期末試験	

【評価方法】

出席・授業態度・小テスト・レポート・期末試験

【テキスト】

新版 言語治療マニュアル (伊藤元信、笹沼澄子編 医歯薬出版 2002)
 言語聴覚士 国家試験出題基準 医療研修推進財団 医師薬出版 2008)

【参考文献・資料】

授業で示す。

失語症 II

杉浦加奈子 鈴木朋子 吉田 敬

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

1. 失語症の臨床における情報収集、検査、評価について理解する。
2. 失語症のリハビリテーションおよび介入の方法について理解する。

【授業計画】

1. 失語症臨床の概略・基本的態度
2. 情報収集、インテーク
3. 検査
 - 1) スクリーニング検査
 - 2) 失語症検査
 - 3) その他の検査
4. 評価
 - 1) 失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別
 - 2) 失語症のタイプ分類、重症度の判断
 - 3) その他
5. リハビリテーション・介入方法
 - 1) 訓練計画
 - 2) 言語機能へのアプローチ
 - 3) 実用コミュニケーション能力へのアプローチ
 - 4) 環境へのアプローチ、失語症者の社会参加
6. 急性期における言語臨床の実際
7. 他職種・他機関との連携

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テスト、課題および期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

伊藤元信・笹沼澄子 (編) (2002) 『新編 言語治療マニュアル』 医歯薬出版。
 竹内愛子 (編) (2003) 『失語症臨床ガイド』 協同医書出版社。
 日本高次脳機能障害学会 (編) (2003) 『標準失語症検査マニュアル』 新興医学出版社。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

失語症 I

吉田 敬

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症を理解するために必要な基礎的な神経学的知識を踏まえた上で、失語症研究の歴史、失語の症状、失語症候群について学習する。

【授業の目標】

1. 成人における他のコミュニケーション障害と失語症の違いについて理解する。
2. 失語の症状を理解する。
3. 失語症の下位タイプを理解する。
4. 失語症研究の歴史を理解する。

【授業計画】

1. 失語症とは、他のコミュニケーション障害との違い
2. 失語症に関する神経系の基礎知識
3. 失語の症状
 - 1) 発語
 - 2) 聴覚的理解
 - 3) 復唱
 - 4) 読解・音読
 - 5) 書字
4. 失語症の下位タイプ
 - 1) 古典分類
 - 2) その他
5. 失語症に関連するその他の高次脳機能障害
6. 失語症研究の歴史

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テストおよび期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

NPO法人和音 (編) (2008) 『改訂 失語症の人と話そう 失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために』 中央法規。
 紺野加奈江 (2001) 『失語症言語治療の基礎』 治療と診断社。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

失語症 III

鈴木朋子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションの実際を学習する。

【授業の目標】

1. 失語症リハビリテーションの実際を学習する。
2. 失語症臨床に必要な知識と技能を習得する。

【授業計画】

1. 失語症臨床の実際 (演習を含む)
 - ・ 情報収集
 - ・ 評価
 - ・ 診断
 - ・ 治療計画
 - ・ アプローチ
 - ・ 記録
2. 失語症地域リハビリテーション
 - ・ 介護保険下での対応
 - ・ 友の会活動
 - ・ 社会参加の支援

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験

【テキスト】

失語症臨床ガイド (竹内愛子編集 協同医歯薬出版社)

【参考文献・資料】

失語症の人と話そう (地域ST連絡会編集 中央法規)
 その他適宜指示

高次脳機能障害 I

鈴木朋子 八田武志

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

脳の構造、機能を学習した上で、脳損傷による言語以外の動作、認知、記憶などの高次脳機能障害の症状とその発生メカニズム、および、それらの評価、診断について学習する。

【授業の目標】

脳損傷による高次脳機能障害の病態、およびそれらの評価、診断について学習する。

【授業計画】

- I. 高次脳機能障害の基礎
 - 1) 脳の構造と機能
 - 2) 脳の画像所見
- II. 高次脳機能障害の病態
 - 1) 意識障害
 - 2) 失行
 - 3) 失認
 - 4) 記憶障害
 - 5) 注意障害
 - 6) 前頭葉・遂行機能障害
 - 7) 認知症
 - 8) 右半球障害
 - 9) 小児の高次脳機能障害
- III. 高次脳機能障害の評価・診断

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、テスト

【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ (八田武志著 医歯薬出版 2008)
高次脳機能障害学 (石合純夫著 医歯薬出版 2004)

【参考文献・資料】

神経心理学評価ハンドブック (田川皓一編 西村書店 2004)
高次脳機能障害マエストロシリーズ②画像のみかた・使いかた (三村将著 医歯薬出版 2006)

言語発達障害 II

船崎康広

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

小児期のさまざまな原因による言語発達障害について、幼児期、学童期などの発達段階に応じた評価と診断の手法を学び、それぞれの障害に適した治療のアプローチを構築する技能を習得する。

【授業の目標】

言語発達障害児・者に対する支援の枠組みを構築するための知識を習得する

【授業計画】

- 第1回 ことばの問題の捉え方
- 第2回 言語獲得理論 I
- 第3回 言語獲得理論 II
- 第4回 言語獲得理論 III
- 第5回 学習理論 (行動主義的)
- 第6回 学習理論 (認知的科学的)
- 第7回 前言語期の支援
- 第8回 単語獲得期の支援
- 第9回 文形成期の支援
- 第10回 読み書き技能の支援
- 第11回 家族への支援
- 第12回 様々なアプローチ I
- 第13回 様々なアプローチ II
- 第14回 言語評価
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、期末テストの成績を総合して評価する

【テキスト】

言語聴覚士のための言語発達障害学 (石田宏代、大石敬子編 医歯薬出版)

【参考文献・資料】

ことばの発達入門 (秦野悦子編 大修館書店)
ことばの障害入門 (西村辨作編 大修館書店)
ことばの障害の評価と指導 (大石敬子編 大修館書店)

言語発達障害 I

船崎康広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

自閉症、精神遅滞、聴覚障害、脳性麻痺、学習障害などを原因とする乳幼児期および学童期の言語発達障害について学び、子供の言語・コミュニケーション障害をそれぞれの障害の特徴に即して学ぶ。さらにこれらの障害に対して適切な評価や治療を行うための知識と技能を習得する。

【授業の目標】

言語発達障害について、それぞれの障害の本質を理解する

【授業計画】

- 第1回 ことばの障害が意味するところ
- 第2回 知的障害 I
- 第3回 知的障害 II
- 第4回 知的障害 III
- 第5回 自閉症 I
- 第6回 自閉症 II
- 第7回 自閉症 III
- 第8回 学習障害 I
- 第9回 学習障害 II
- 第10回 学習障害 III
- 第11回 脳性まひ I
- 第12回 脳性まひ II
- 第13回 脳性まひ III
- 第14回 特異的言語発達障害
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、期末テストの成績を総合して評価する

【テキスト】

言語聴覚士のための言語発達障害学 (石田宏代、大石敬子編 医歯薬出版)

【参考文献・資料】

ことばの発達入門 (秦野悦子編 大修館書店)
ことばの障害入門 (西村辨作編 大修館書店)
ことばの障害の評価と指導 (大石敬子編 大修館書店)

吃音

板倉寿明 廣瀨 忍

オムニバス 2年 後期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

発話の非流暢性の特徴、吃音学の歴史、吃音の原因、進展過程、心理過程、評価・診断法、各年齢に応じた治療法について学ぶ。

【授業の目標】

吃音の特性、吃音の原因論、欧米での言語訓練の方法を学び、吃音の支援には何が可能であるのかを理解する。

【授業計画】

1. 吃音の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・ 廣瀨
2. 発吃と自然治癒・・・・・・・・・・・・ 廣瀨
3. 吃音の進展・・・・・・・・・・・・・・ 廣瀨
4. 吃音の原因 (器質論)・・・・・・・・ 廣瀨
5. 吃音の原因 (学習論)・・・・・・・・ 廣瀨
6. 吃音の生理・・・・・・・・・・・・・・ 廣瀨
7. 吃音の診断と評価・・・・・・・・・・ 廣瀨
8. 吃音の言語治療の歴史・・・・・・・・ 廣瀨
9. 吃音の言語治療の方法・・・・・・・・ 廣瀨
10. 言語通級指導教室での吃音支援・・・ 板倉
11. 吃音の心理 (子ども)・・・・・・・・ 板倉
12. 吃音の心理 (成人)・・・・・・・・・・ 板倉
13. 吃音児・者の自己意識と障害認識・・・ 板倉
14. セルフヘルプグループ・・・・・・・・ 板倉
15. 吃音児へのグループ支援・・・・・・・・ 板倉

【評価方法】

授業への参加の評価および学期末定期試験による

【テキスト】

子どもがどもっていると感じたら (廣瀨忍・堀彰人編著、大月書店)

【参考文献・資料】

推薦参考図書
・吃音の基礎と臨床 (バリー・ギター著、長澤泰子監訳、学苑社)

音声障害

丹羽英人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発声の生理、物理的特性、その調節、さらに音声障害の定義、器質性音声障害、機能性音声障害について学ぶ。音声の検査、評価・診断法について具体的に理解し、また音声障害の治療、無喉頭音声、気管切開への対応、音声障害患者の社会復帰を学ぶ。

【授業の目標】

音声障害をきたす疾患の病態を理解し、音声障害治療方法を系統的に知る。

【授業計画】

- 第1回 音声障害の検査法
- 第2回 音声障害の診断
- 第3回 音声障害とその治療－喉頭の基質的障害
- 第4回 音声障害とその治療－全身障害に伴う音声障害
- 第5回 音声障害とその治療－機能性発声障害
- 第6回 音声障害とその治療－音声障害の治療
- 第7回 言語障害－言語障害の種類
- 第8回 言語障害の検査
- 第9回 言語発達遅滞
- 第10回 機能的構音障害
- 第11回 口蓋裂に伴う言語障害
- 第12回 難聴による小児言語障害
- 第13回 失語症
- 第14回 嚥下障害
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際に紹介。

小児構音障害 I

加藤正子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

音産生のメカニズムと臨床音声学の基礎的知識、正常な小児の構音・音韻発達、機能性構音障害の概念、発生原因、特徴、検査法、評価・診断法について学ぶ。

【授業の目標】

発声発語器官の形態と運動、誤り音の表記法、小児の構音と音韻の産生、発達、及びその障害を理解し、評価法と治療法について学ぶ。

【授業計画】

1. 構音の概念
2. 子どもの構音・音韻の概念
3. 構音器官の解剖と機能
4. 臨床音声学 1
5. 臨床音声学 2
6. 構音障害に影響を及ぼす要因
7. 構音・音韻発達
8. 構音障害の種類
9. 誤り音の記述 1
10. 誤り音の記述 2
11. 構音評価 1
12. 構音評価 2
13. 構音検査 1
14. 構音検査 2

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験、授業態度

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

構音と音韻の障害 (船山美奈子・岡崎恵子監訳 協同医書2000)
articulation and phonological disorders (J.E.Berthal,N.W.Bankson,Allyn & Bacon 2004)

嚥下障害 I

豊島義哉

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

正常な摂食・嚥下のメカニズムを学び、さらに、その障害と評価方法について理解を深める。

【授業の目標】

摂食・嚥下障害のスクリーニングの方法および精密検査による問題点の抽出能力を身につける。

【授業計画】

下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。

- 1 摂食・嚥下障害についての概論
- 2 摂食・嚥下に関する生理学
- 3 摂食・嚥下に関する生理学
- 4 摂食・嚥下に関する解剖学
- 5 摂食・嚥下の原因と病態と分類
- 6 摂食・嚥下の原因と病態と分類
- 7 摂食・嚥下障害の合併症
- 8 機能の発達と加齢による変化
- 9 摂食・嚥下障害の評価
- 10 摂食・嚥下障害の評価
- 11 摂食・嚥下障害の評価
- 12 気管切開、カニューレの種類
- 13 栄養状態と水分出納のアセスメント
- 14 まとめ
- 15 試験

【評価方法】

筆記試験を主に出席状況や授業態度などを加味して総合して評価する。

【テキスト】

脳卒中中の摂食・嚥下障害 第2版 (藤島一郎著 医歯薬出版)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

小児構音障害 II

加藤正子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

器質性構音障害 (舌摘出後構音障害、口蓋裂など) の病理学的特徴、検査法、評価・診断法、チームアプローチによる治療法について学ぶ。小児の構音障害について、各構音障害に応じた体系的な治療方法を具体的に学ぶ。

【授業の目標】

1. 器質性構音障害の評価・診断法と治療法について学ぶ
2. 口蓋裂言語の評価・診断および治療法について学ぶ。

【授業計画】

1. 器質性構音障害の種類と構音の特徴 1,2
2. 舌摘出後患者の構音と治療法
3. 口蓋裂に伴う問題
4. 口蓋 (口蓋裂) の解剖と発生
5. 口蓋裂の言語治療
6. 鼻咽腔閉鎖機能の評価・診断 1,2,3
7. 口蓋裂の構音障害 1,2
8. 構音訓練の原則
9. 構音障害の訓練法
10. チームアプローチ

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験

【テキスト】

1. 口蓋裂の言語臨床第2版 (岡崎恵子・加藤正子 医学書院 2005)
2. 構音障害の臨床(阿部雅子 金原出版 2003)

【参考文献・資料】

授業中に示す。

成人構音障害 I

高ノ原恭子 村瀬幸恵

オムニバス 1年 後期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

成人の運動障害性構音障害、器質性構音障害について、障害のメカニズム、評価・診断・訓練方法を学ぶ。

【授業の目標】

発声発語器官の解剖生理についての基礎的知識を習得し、運動障害性構音障害の発生メカニズムとその病態及びその評価・診断・訓練方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 発声発語器官の解剖・生理
2. 運動障害性構音障害の病態
3. 運動障害性構音障害の評価
4. 運動障害性構音障害の診断
5. 運動障害性構音障害の合併症

【評価方法】

出席・授業態度・小テスト・レポート・期末試験

【テキスト】

言語聴覚士のための運動障害性構音障害学（廣瀬肇・柴田貞雄・白坂康俊著：医歯薬出版株式会社）

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示

成人構音障害 II

杉本雅子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

成人の運動障害性構音障害、器質性構音障害に対するリハビリテーションの実践について学ぶ。

【授業の目標】

構音障害の症例について

1. 発話特徴を把握する。
2. 様々な検査結果や情報を基に問題点を把握する。
3. 適切な治療計画を立てる。

【授業計画】

1. 運動障害性構音障害のリハビリテーションの流れ
- 2～4. 運動障害性構音障害の訓練
- 5～11. 症例検討
- 12～14. 器質性構音障害のリハビリテーション
15. 期末試験

【評価方法】

出席、授業態度、レポート、期末試験

【テキスト】

言語聴覚士のための運動障害性構音障害学（廣瀬肇・柴田貞雄・白坂康俊著：医歯薬出版株式会社）

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示

聴覚障害 I

荒尾はるみ 井脇貴子 箕谷健三

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

小児の聴覚障害に関する医学的知識の習得、乳幼児の聴力検査法ならびに言語心理学的評価法、言語聴覚指導法について学習する。

（荒尾はるみ講師）医学的側面から小児聴覚障害について学習する。
（箕谷健三兼任講師）教育学的側面から小児聴覚障害について学習する。
（井脇貴子教授）言語聴覚的側面から小児聴覚障害について学習する。

【授業の目標】

主に小児の聴覚障害について学習する。乳幼児聴力検査、小児聴覚障害の原因・種類、聴覚障害児の発達、聴覚障害児の検査と評価、聴覚障害児の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 聴覚系の成熟と聴覚機能の発達
- 第2回 聴覚障害の早期発見と療育
- 第3回 検査法の種類と適用
- 第4回 新生児聴覚スクリーニング
- 第5・6回 小児聴覚障害の原因と種類
- 第7回 聴覚障害児の心理面・行動面の発達、情緒・社会性の発達
- 第8回 聴覚障害児の言語能力・コミュニケーションの発達
- 第9回 関連情報の収集
- 第10・11回 検査と評価
- 第12・13回 聴覚障害児の指導・訓練プログラムの立案
- 第14回 関係機関の連携とチームアプローチ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）

聴覚障害 II

井脇貴子 丹羽英人

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

成人の聴覚機能の診断に必要な各種聴覚機能検査の原理について学び、検査から診断にいたる具体的な方法について学習する。また視覚聴覚の二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深めると共に、新しいコミュニケーション手段や補助手段について学習する。

【授業の目標】

成人聴力検査、成人聴覚障害の種類と特性、成人聴覚障害の検査と評価、成人聴覚障害の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 検査法の種類と適用 純音聴力検査
- 第2回 検査法の種類と適用 語音聴力検査
- 第3・4回 検査法の種類と適用 中耳機能検査、内耳機能検査（SISI等）
- 第5回 成人聴覚障害の種類と特性 先天性難聴、後天性難聴
- 第6回 関連情報の収集
- 第7回 検査と評価
- 第8～10回 成人聴覚障害者の指導・訓練プログラムの立案
- 第11回 聴覚障害をサポートする各種機器
- 第12回 環境調整
- 第13回 相談・助言
- 第14回 関係機関の連携とチームアプローチ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き（服部浩、中山書店、1100円）

小児言語障害臨床演習 I

加藤正子 船崎康広

2年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

学内において、発達障害児並びに構音障害児の臨床をととして、小児の接し方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学び、小児の言語障害の問題と言語聴覚士の臨床を理解する。

【授業の目標】

言語発達障害児並びに構音障害児に実際に接して、小児とのコミュニケーションのとり方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学ぶ。

【授業計画】

少人数のグループに分かれて、言語発達障害、構音障害とも各7回、実際の障害児を対象にして実習を行い、以下の内容を学ぶ。

1. 言語発達障害、小児構音障害の概念、
2. 基礎的な知識
3. 知能検査・言語発達検査、構音検査の習熟
4. 観察法・評価法
5. 治療法
6. 記録の仕方
7. 症例報告の書き方
8. 家族の面接の仕方
9. 家族支援の方法

【評価方法】

出席・レポート・実習内容

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

特になし

聴覚障害臨床演習 I

井脇貴子 箕谷健三 奥田実穂 丹羽英人

2年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

実際の言語聴覚臨床に接し、聴覚障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、面談の技法、各検査法・評価法、治療法、家族・環境への支援、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚検査法の実践について学び、機器の使用、検査の施行が基本的に行えるようにする。聴覚障害の臨床に必要な知識や技能を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害者を対象とした臨床実習について ガイダンス
- 第2-7回 聴覚検査
- 第8-15回 聴覚活用訓練

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学 (喜多村健、医歯薬出版、4200円)
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き (服部浩、中山書店、1100円)
4. 補聴器ハンドブック (Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円)

成人言語障害臨床演習 I

北山裕子 鈴木朋子 村瀬幸恵 吉田 敬

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

成人の言語障害者に対する臨床活動を通して、コミュニケーション障害をもつ人が抱える問題、対象者への接し方について学ぶ。

【授業の目標】

1. 患者様との言語聴覚士としての接し方を学ぶ。
2. 症状、セラピー場面の観察をし、記録する方法を学ぶ。
3. 検査の実施方法を学び実施する。
4. 日常所見と検査結果を統合して症状をまとめる。
5. 検査結果などの情報を統合、解釈して、実際に訓練計画を立てる。
6. 計画に基づいて、訓練を実施し、内容を検討する。
7. 体験を通して学んだことをまとめ、自分自身の課題を知る。

【授業計画】

失語症、運動障害性構音障害、嚥下障害への言語聴覚療法の実際を体験を通して学ぶ。

1. インテーク方法
2. 情報収集の仕方
3. 評価の実際
4. 症状のまとめ
5. 訓練計画の立案
6. 訓練の実際
7. 症状の観察、記述方法

【評価方法】

出席、授業態度、レポート、臨床実践の内容

【テキスト】

履修した関連授業のノート

【参考文献・資料】

授業中、適宜紹介する。

言語聴覚学文献講読演習

加藤正子 丹羽英人 吉田 敬

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学に関連する参考図書や参考文献の検索・入手方法を学び、基本文献を購読する。

【授業の目標】

言語聴覚学の研究を行う上での文献の収集、整理方法を身につける。卒業論文に向かって独自のテーマに関連分野の参考文献の検索方法・読み方を学ぶ。言語聴覚学の基礎文献を講読しながら、効率よく文献から要求する情報を得る技術を学ぶ。

【授業計画】

全15回の演習で以下の内容を扱う。

1. 学術論文の検索
2. 学術論文の構成
3. 文献整理の方法
4. 文献レビューの作成

【評価方法】

出席状況、発表、提出物 (文献のまとめ; 検索結果の整理; 文献レビュー) を元に評価。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

レポート・論文の書き方 (古田健正 (著) ナカニシヤ出版)

2008年度以降入学者対象 医療貢献学科 視覚科学専攻中心基礎科目

視覚科学基礎演習

安藤富士子 川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介
高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視能矯正学、視覚科学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業の目標】

1. 文献の検索方法を習得する
2. 視能訓練士が扱う検査機器について理解を深める
3. 初歩的な実験計画法に基づく実験の実施と統計分析法について理解を深める

【授業計画】

講義と演習形式を併用して行う。

- 第1回 オリエンテーション
 第2回 文献検索法1 (付属図書館での検索実習)
 第3回 文献検索法2 (Webを利用した資料検索法)
 第4回 視覚科学専攻関連施設の見学 (1)
 第5回 視覚科学専攻関連施設の見学 (2)
 第6回 視覚科学専攻関連施設の見学 (3)
 第7回 実験と統計処理の基礎 (1):サイコロ実験
 第8回 実験と統計処理の基礎 (2):統計の基礎
 第9回 実験と統計処理の基礎 (3):実験レポート講評
 第10回 実験と統計処理の基礎 (4):錯視実験
 第11回 実験と統計処理の基礎 (5):オリジナル実験
 第12回 Web検索文献発表会
 第13回 オリジナル実験発表会
 第14回 まとめ1
 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

医療福祉学部基礎演習テキスト
心理・教育のための統計法 第2版 (山内光哉著 サイエンス社)

【参考文献・資料】

バイオサイエンスの統計学 (市原清志著 南江堂)

心理実験法演習 I

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

人間の感覚・知覚について、特に視覚、聴覚、触覚の各モダリティーに重点を置き、心理物理学的測定法の諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することによって、コミュニケーション障害に関する研究技能の基礎を習得する。

【授業計画】

学生は2つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション (全学生)
 第2回～第13回 (グループ別演習) 以下の全課題を演習で扱う。
 ・ ミュラー・リヤー錯視:調整法
 ・ 明るさの測定:マグニチュード推定法
 ・ 絶対閾の測定:信号検出理論
 ・ レミニにセンス効果の測定:実験スケジュールの調整
 ・ 対連合学習と系列暗記学習:経験破壊法
 ・ 鏡像描写:知覚-運動協応と両側性転移
 ・ 伝言ゲーム:コミュニケーションによる情報の変容
 ・ 触二点閾:極限法
 ・ リッカー法:尺度構成法
 第14回・第15回
 まとめ

【評価方法】

出席 (15点満点)、授業態度 (13点満点)、各課題のレポート (8点×9=72点満点)とし、60点以上取得で合格とする。
 ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ (利島保 (編)
北大路書房 1993年)
心理学マニュアル質問紙法 (鎌原雅彦 (編) 北大路書房 1998年)

実験計測演習

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理物理学研究における刺激や関連の物理量の正確な計測に必要な基礎的事項について理解し、物理計測器や光計測器を、その機能、特性の理解に基づいて正しく活用する技能を学習する。
 (川嶋英嗣准教授) 照度の測定
 (高橋啓介教授) 色の測定
 (高橋伸子教授) 輝度の測定

【授業の目標】

基本的な計測機器の取り扱いとデータの処理法について、測定を通して習得する。

【授業計画】

受講生を3つのグループに分け、それぞれについて以下のスケジュールで演習を行う。

- 第1回 オリエンテーション (全グループ合同)
 第2回～第4回
 Aグループ:照度の測定・Bグループ:輝度の測定・
 Cグループ:色の測定
 第5回～第7回
 Aグループ:輝度の測定・Bグループ:色の測定・
 Cグループ:照度の測定
 第8回～第10回
 Aグループ:色の測定・Bグループ:照度の測定・
 Cグループ:輝度の測定
 第11回～第13回 コンピュータを用いた計測 (全グループ合同)
 第14回～第15回 まとめ

【評価方法】

出席 (15点)、演習態度 (25点)、レポート (15点×4回) の合計100点満点で、60点以上を合格とする。

【テキスト】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

心理実験法演習 II

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の視覚、聴覚、触覚の各モダリティーの認知的特性や機能について、実験的に測定、追究する諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法技能の定着を目指すとともに、尺度構成法に習熟することで、コミュニケーション障害の諸研究を行う高度な技能の習得をめざす。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。
 1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション (全学生)
 第2回～第13回 (グループ別演習) 以下の全課題を演習で扱う。
 ・ 実体鏡視:マグニチュード推定法
 ・ 味覚の測定:マグニチュード推定法
 ・ 大きさの恒常性:極限法
 ・ 色視野の測定:調整法
 ・ ストループ効果:信号検出理論
 ・ 色の弁別閾の測定:恒常法
 ・ SD法:尺度構成法
 第14回・第15回 (グループ別演習)
 まとめ

【評価方法】

出席 (15点満点)、授業態度 (15点満点)、各課題のレポート (10点×7=70点満点)とし、60点以上取得で合格とする。
 ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル-入門から基礎・発展へ (利島保 (編)
北大路書房 1993年)
心理学マニュアル質問紙法 (鎌原雅彦 (編) 北大路書房 1998年)

認知・学習心理学

河野和明

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報処理的アプローチによる人間の視覚認知や聴覚認知、注意、記憶、知識と表象などの研究から基本的な事項や代表的モデルを取り上げて解説するとともに、人間の環境適応を支える基礎的課程である学習の特性、メカニズム、機能について解説する。

【授業の目標】

認知心理学および学習心理学の諸概念を把握し、基本的な考え方を理解した上で応用的な側面を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 人間の適応の心理的基盤
- 第2回 知覚情報処理
- 第3回 短期記憶
- 第4回 長期記憶
- 第5回 忘却
- 第6回 知識表象の構造
- 第7回 注意過程
- 第8回 バヴロフ型条件づけ(1)
- 第9回 バヴロフ型条件づけ(2)
- 第10回 バヴロフ型条件づけ(3)
- 第11回 オペラント条件づけ(1)
- 第12回 オペラント条件づけ(2)
- 第13回 オペラント条件づけ(3)
- 第14回 観察学習とモデリング
- 第15回 まとめ

【評価方法】

開講期間中数回の小テストを実施し評価する。進捗等により期末試験を課す。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

【参考文献・資料】

山内光哉・春木豊(編著) 2001 グラフィック学習心理学 サイエンス社
 ラックマン,R. ラックマン, J. L. バターフィールド 1988 認知心理学と人間の情報処理Ⅰ～Ⅲ サイエンス社
 その他は、授業において示す。

生涯発達心理学

森 和彦

2年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

人間の発達過程において心身の心的機能がいかに変化していくかについて理解する。各発達段階における心的機能の特徴を理解し、その現象を説明する発達研究について学ぶ。

【授業の目標】

1. 視能訓練士国家試験における発達心理学分野の概略的知識内容(発達理論と発達段階およびその心理的特徴)が理解できる。
2. 特に視覚認知機能や視覚的表現の発達について、展望的に理解できる。

【授業計画】

1. 発達とは何か:生涯発達の視点とその背景
2. 視覚発達の基礎概念
3. 発達初期の基本的感覚と行動(反射を含む)
4. 視覚発達の統合理論モデル
5. 奥行き視の獲得と色覚の発達
6. 感覚世界の修飾性
7. 認識の発達(あり得ない事象の認識実験等)
8. 自己中心性と「心の理論」の問題
9. 生まれながらの行動傾向
10. コミュニケーションの発達:意思疎通とは何か
11. 発話中の身振りに関する発達から言語獲得の発達へ
12. 愛着の認識および関連した発達現象
13. 描画表現の発達-描画認知の発達
14. 児童期から青年期への認識の発達と発達課題
15. 青年期以後の発達課題(成熟と加齢による機能変化を含む)

必ずしも1コマに対応する項目ではありません。

【評価方法】

この授業に適したテキストを編集作成し、提出(返却はありませんので、必ずコピーは取って保存してください。)していただきます。A4横書き縦置き左右開きの綴じ。手書き、ワープロ、カラ、白黒どちらでも可、図表や参考書などの引用は必ず引用文献、出典を明記すること。付録(CDなど)・イラストをつけても可。評価基準は以上の条件を遵守した上で、以下の通り。

- D (不可) :一部テキストとして使えない。仮想される本講義のテストに持ち込んで役に立たない。
 C (合格) :授業でどのようなことが教授されたかがわかり、少なくとも重要な項目はすべて明記されている。
 B (良) :Cの評価基準に加えて、授業内容を理解するのに役立つ解説や説明、ポイントの指摘、補足項目もある。
 A (優) :Bの評価基準に加えて、図解や表が多く、きれいで見やすいばかりか、参考関連の内容について授業以上の内容(関連する内容で受講者の関心事)がこのテキストで自主的に学べる。未受講の学習者にも学べるように配慮されたレイアウトになっている。

【テキスト】

自分で作成していただきます。

【参考文献・資料】

授業中に必要に応じて随時紹介します。

色彩心理学

坂田勝亮

1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

色発現の光学的メカニズムと心理メカニズムについて理解し、色知覚の諸現象の特性、メカニズム、その応用について学ぶ。

【授業の目標】

心理現象としての色彩について理解するとともに、その物理学的、生理学的基礎についても理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 色彩とは
- 第2回 色彩の光学的基礎
- 第3回 スペクトルの観察
- 第4回 照明光源
- 第5回 混色とメタメリズム
- 第6回 色彩の生理学的基礎
- 第7回 色覚モデル
- 第8回 表色系・均等色空間
- 第9回 色名と基本色彩語
- 第10回 色彩の心理的現象1:錯視
- 第11回 色彩の心理的現象2:同化と対比
- 第12回 色彩の心理的現象3:主観色
- 第13回 色彩の心理的現象4:順応と恒常性
- 第14回 色彩の心理的現象5:連想とイメージ
- 第15回 試験

なるべく多くの実験を供するよう、実習を交えながら講義形式で行う

【評価方法】

授業中における勉学状況、および試験を実施する予定

【テキスト】

カラーコーディネーターのための色彩心理入門(近江源太郎著 日本色研事業株式会社)

【参考文献・資料】

必要に応じ、講義中に指示する

生理光学

川瀬芳克

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

幾何光学の基本とレンズおよびプリズムの特性を理解した上で、眼光学における屈折の原理とその測定法および視力の定義とその検査法を学習する。

【授業の目標】

1. 幾何光学の基本を理解する
2. レンズとプリズムについて理解する
3. 眼屈折および調節を光学的に理解する
4. 屈折検査および調節検査の理論を理解する

【授業計画】

- 第1回 視器の構造と眼屈折
- 第2回 光の理解 縦波・横波の実演・スペクトルの観察
- 第3回 幾何光学の基本 偏光板による光の理解
- 第4回 幾何光学の基本 反射と屈折の法則とその実習
- 第5回 レンズの種類と結像 光路図の作成
- 第6回 レンズの種類と結像 バージェンス・屈折力の理解
- 第7回 パワークロスおよび式による屈折度の表示とレンズの選択
- 第8回 パワークロスによる各種屈折異常の表現
- 第9回 パワークロスと式の変換
- 第10回 視角と視力の関係および各種視力の理解
- 第11回 対数視力の計算とグラフ表示・ログマー値の理解
- 第12回 屈折とその異常および調節
- 第13回 プリズムおよび眼鏡レンズの光学
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験の成績により評価する。また出欠席も重視する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 文光堂)
 プリントを配布する。

【参考文献・資料】

眼光学の基礎(西信元嗣 金原出版)
 新しい眼光学の基礎(西信元嗣他 金原出版)
 視力・屈折検査の進めかた(所敬・山下牧子 金原出版)
 光学の知識(山田幸五郎 電機大出版部)

生理光学演習

新井公子 川瀬芳克 田邊宗子 鬢櫛一夫

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

体験や模型を通して光の性質を理解すると共に幾何光学の基本を学ぶ。それに基づき眼屈折と調節の理論の理解と検査の実習、コンタクトレンズの基礎知識習得と操作手技の実習、正常両眼視の理論の理解と両眼視野測定や立体視検査の実習を行う。

【授業の目標】

1. 眼科検査に必要な幾何光学および眼光学を理解し、実際の屈折検査に応用できるようにする。
2. コンタクトレンズの取り扱い方法を理解し、手技を習得する。
3. 両眼視の理論的背景を理解するとともに、その見え方を体験する。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | 光の性質の理解と眼屈折理論の概略の紹介 |
| 第2回 | 幾何光学の基本 |
| 第3回 | レンズの種類と主要点および結像関係 |
| 第4回 | 屈折異常と自動屈折計による屈折測定と矯正視力測定の実習 |
| 第5回 | パワークロスによる屈折値の表示と式への変換 |
| 第6回 | コンタクトレンズ1 その歴史 オフサルモーターの実習 |
| 第7回 | コンタクトレンズ2 HCLのフィッティング |
| 第8回 | コンタクトレンズ3 HCLのフィッティングと矯正 |
| 第9回 | 調節検査、近点計検査 石原式近点計を用いて |
| 第10回 | 視野の検査 |
| 第11回 | 眼球運動の検査 |
| 第12回 | 両眼立体視の検査 |
| 第13回 | 日常立体視の検査 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | 期末試験 |

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。演習を伴うので出欠も重視する。期間中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視能学（丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子）
眼科検査ガイド（眼科プラクティス編集委員会）

視覚生理学演習

古賀一男 高橋伸子

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視機能が成立するためにはどのようなメカニズムが働いているのか、視器の各部位の活動で、光学的画像が視覚として認識されてゆく機構を演習形式で学習する。また、診療に使用される機器を実際に使用して、操作に習熟する。さらに、両眼の運動がコントロールされて共同してスムーズに動くメカニズムについても、演習を通してさらに理解を深める。また、「視覚生理学」で学んだ事項を学生同士で、検査者、被検査者となり、それぞれの検査法の実践について、実践的に学習し、理解を深める。

【授業の目標】

この授業では眼球運動に関する生理学的・行動科学の基礎を学び、それがどのように現場で応用されるかということについて例示をおこなうことで、視覚生理学の基礎について学習することを目標とする。

【授業計画】

1. 眼球運動に関する生理学的基礎
2. 網膜感度分布の視野計による測定
3. 眼球運動の生理
4. 眼球運動の記録と測定
5. 校正（calibration）と計測データの処理
6. 視機能検査の実際

【評価方法】

出席、期末試験

【参考文献・資料】

視覚情報処理ハンドブック（日本視覚学会編 朝倉書店）
眼球運動の実験心理学（荻坂良二他編 名古屋大学出版会）
新編・感覚・知覚ハンドブック（大山正 他編 誠心書房）
新編・感覚・知覚ハンドブック Part2（大山正 他編 誠心書房）
眼球運動実験ミニハンドブック（古賀一男著 労働科学研究所出版部）
講座 感覚知覚の科学 第1巻 視覚1：視覚系の構造と機能（篠森敬三編、朝倉書店）

視覚生理学

大庭紀雄

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視機能が成立する生理学的メカニズムについて、視覚入力統合において視器の各部分の活動で、光学的画像が神経信号に変換されて認識されてゆく機構を学ぶ。また、眼球はどのように動くのか、どのようにコントロールされて両眼が共同してスムーズに動くのか、眼球運動のメカニズムについても学習する。

【授業の目標】

1. 正常の視覚および視機能の基本を理解する。
2. 視覚が成立するために必要な眼球、眼球付属器、視路の解剖を理解する。
3. 眼球、眼球付属器、視路の機能を理解する。
4. 各種視力測定と視角との関係を理解し、視力値の数的処理を可能にする。
5. 視野、色覚、暗順応、両眼視の各機能について基本事項を理解する。

【授業計画】

- 講義方式による。
- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 視覚系総論。視覚系の構造と機能。視覚刺激と視覚応答 |
| 第2回 | 眼光学総論。結像光学系の特性、屈折、調節、輻輳、瞳孔 |
| 第3回 | 視覚科学総論。 |
| 第4回 | 視覚器（眼球、視路）と支援器官の構造と機能 |
| 第5回 | 眼球運動系総論。眼球運動と両眼視。 |
| 第6回 | 眼の植物生理学総論。透明性維持、循環、代謝、眼圧、涙器 |
| 第7回 | 視覚生理学の知識と視覚病態学 |
| 第8回 | 屈折と調節の基本事項、屈折調節異常の矯正 |
| 第9回 | 視力の概念。視角との関係をもとにした各種視力値の特性。 |
| 第10回 | 対数視力とその意義：対数視力の概念、計算、グラフ表示 |
| 第11回 | logMAR視力。logMAR視力の概念、計算、グラフ表示 |
| 第12回 | 視野の基本事項、概念と量的測定 |
| 第13回 | 光覚の基本事項。測定法。暗順応過程と暗順応障害。 |
| 第14回 | 電気生理学総論。ERG、EOGの概念と測定法 |
| 第15回 | 色覚総論。基本概念、先天性異常の分類と特性 |

【評価方法】

1. 授業の最初にプリテストを行なって、学生がどの程度の知識をもっているかを測定する。
2. 授業計画の中で適宜ミニテストを行なって学生の理解度を測定する。こうしたテストは形成的評価であって講義内容のチェックのために活用する。
3. 単位の認定は主として期末試験「筆記試験」によって決定する。レポートを提出させた場合は評価の一部に活用する。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫、他、文光堂）

【参考文献・資料】

適宜指示する。

基礎医学 I（医学総論）

安藤富士子

1年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

人類に対して医学が持つ意味について解説する。人の生涯における健康と疾病の概念を学習する。遺伝の成り立ちや生まれてから、死亡するまでの正常な成長、発達、老化について学ぶと同時に特に成人期以降に多い疾患や障害について学習する。

【授業の目標】

医学・医療に携わる者が必要な基礎知識を習得し、患者・弱者のQOLに貢献する心構えを形成する。

【授業計画】

講義形式による。

- ・健康・疾病の概念
- ・公衆衛生・疫学・保健統計
- ・生命の誕生
- ・遺伝と環境
- ・生命と倫理
- ・日本人に多い疾患（生活習慣病、老年病等）
- ・高齢化と医療

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

国民衛生の動向 2008（厚生労働協会）
平成20年度 厚生労働白書（厚生労働省）
平成20年度 高齢社会白書（厚生労働省）
ヒューマンバイオロジー 人体と生命（坂井建雄ら監訳、医学書院）
フィッツジェラルド人体発生学（平野茂樹ら訳、西村書店）

基礎医学 II (解剖学)

安藤富士子

1年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

人体の基本的構造や機能について学習する。系統解剖学的に器官系、器官、組織の形態・構造の特徴、機能との関連について発生学的観点を加えつつ理解する。生体全体としての正常な機能遂行のための神経系、内分泌系の働きについても学習する。

【授業の目標】

人体の形、構造を正しく理解し、人体の機能や病態を理解するための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

- 総論
人体の構成 (細胞・組織・器官、器官系)
生体の防御機構
- 各論
運動器
循環器
消化器
呼吸器
神経・感覚器
腎・尿路・生殖器
内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ヒューマンバイオロジー人体と生命 (坂井建雄ら監訳、医学書院)
ロス&ウイilson健康と病気のしくみがわかる解剖生理学 (島田達生ら訳、西村書店)
ネッター解剖生理学アトラス (相磯貞和ら訳、南江堂)
わかりやすい解剖生理 構造と機能への入門 (石川春律ら訳、文光堂)
からだの構造と機能 (三木明徳ら訳、西村書店)
コアテキスト1 人体の構造と機能 (下 正宗編 医学書院)
図解ワンポイントシリーズ1 解剖学 人体の構造と機能 (渡邊 酷、医学芸術社)

基礎医学 IV (病理学)

安藤富士子

1年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

身体、器官、組織における正常な構造、機能と対比して、疾病や障害の病態や回復過程について学習する。病理学総論では疾病の原因や炎症、腫瘍、循環障害等の病気の基本概念を正しく学習する。病理学各論では臓器や器官ごとの機能が疾病によってどのように変化するか、その経時的な過程と生体の反応による回復過程について学習する。

【授業の目標】

身体における疾病と障害の成り立ちと回復過程について理解する。疾患を表層的にとらえるのではなく、常に解剖学、生理学における正常像と疾病に於ける異常像を対比してとらえ、病態とその回復過程を病因論的に理解することにより、臨床医学を学ぶための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

- 総論
病理学とは
疾病の原因
細胞・組織の障害と修復、再生
病理的变化 (循環障害、炎症、先天異常、老化、腫瘍)
遺伝と免疫
- 各論
運動器
循環器
消化器
呼吸器
神経・感覚器
腎・尿路・生殖器
内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ルービン カラー基本病理学 (河原栄ら監訳、西村書店)
カラーで学べる病理学 (渡辺照男、ノベルヒロカワ)
カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理 (松尾 理監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル)

基礎医学 III (生理学)

清水 暁

1年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

医学・生物学の広範な学問領域を包含する人体生理・生化学の概念を体系的に効率よく学ぶことを目的とする。精緻な身体のしくみとその機能について、重要な基本的概念を理解し不可欠な基礎的知識を習得すべく、体液・呼吸・栄養・代謝・内分泌・感覚等主として人体の植物的機能の生理機序を中心に学習する。

【授業の目標】

ヒトの身体はいろいろな器官から成り立っており、これらが調和して機能することにより生命が維持されている。各種器官系の機能について概説し、生命の仕組みについての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 生理・生化学の基礎
- 第2～7回 人体の機能系について
体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系
栄養と代謝
- 第8回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。

【テキスト】

やさしい生理学 (森本武利、彼末一之編、南江堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

神経眼科学

伊佐敦靖 大庭紀雄

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

神経眼科学に関係する視覚路の解剖とその生理および臨床を学習する。神経眼科各論として、視神経疾患、視覚中枢疾患、視覚連合野疾患、そこに発現する構造と機能の障害と検査法、頭蓋内疾患と眼球運動障害、瞳孔異常、眼窩内疾患について学習する。

【授業の目標】

1. 眼球や視覚や眼球運動にかかわるさまざまな神経の構造と機能とについて説明することができる。
2. 眼球や視覚系や眼球運動系の各種疾病について神経とのかかわりを説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 神経眼科学の医学および視能学(視能矯正学)における位置づけ
- 第2回 瞳孔に関係する組織の解剖と生理
- 第3回 瞳孔の検査法、瞳孔の病理
- 第4回 視神経の解剖・生理・病理
- 第5回 視交叉部の解剖・生理・病理
- 第6回 外側膝状体、視放線、視覚皮質の解剖・生理・病理
- 第7回 視覚連合野の解剖・生理・病理
- 第8回 視覚系の病理
- 第9回 眼球運動系の解剖・生理
- 第10回 眼球運動系の異常 1. 外眼筋障害、末梢性眼球運動障害
- 第11回 眼球運動系の異常 2. 核上性眼球運動障害
- 第12回 両眼視機能と神経眼科
- 第13回 全身疾患と神経眼科
- 第14回 心因性視覚障害
- 第15回 期末試験

【評価方法】

形成的評価としてプリテスト、中間テストなどを行って授業内容の理解度を把握する。

授業の終了時には、神経眼科学のあらましについて十分に理解しているかどうかを筆記試験によって評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

適宜指示する。

神経眼科学演習

大庭紀雄 田邊宗子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「神経眼科学」の学習内容をベースに、様々な視野検査の手法、瞳孔検査法、屈折調節検査法、眼球運動検査法などの神経眼科学領域の検査法の原理を理解し、検査技能を習得する。

【授業の目標】

視能訓練士としての業務に必要な神経眼科領域の検査法や関連した疾病について学習し、臨床の実地にも応用できる知識と手技とを身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 第1回 自律神経と眼
- 第2回 散瞳薬の効果と実際
- 第3回 瞳孔の神経眼科学的検査
- 第4回 屈折の神経眼科学的検査
- 第5回 調節の神経眼科学的検査
- 第6回 視野検査 1. 動的視野検査
- 第7回 視野検査 2. 静的視野検査
- 第8回 フリックカー癒合頻度測定検査
- 第9回 網膜電図検査、眼電位図検査
- 第10回 視覚誘発反応検査
- 第11回 眼球運動検査 1
- 第12回 眼球運動検査 2
- 第13回 眼部写真撮影検査 1. 角膜内皮細胞、細隙灯顕微鏡
- 第14回 眼部写真撮影検査 2. 眼底、超音波
- 第15回 期末試験

【評価方法】

神経眼科学の検査について理解しているかどうかを評価する。ワークシヨップ形式のグループ学習とグループ討議によって授業を進めるから、グループとしての評価を行うとともに討議中に分担する個別の役割について評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

適宜指示する。

眼疾病学 I

大庭紀雄

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視器の解剖学、生理学、生化学的知識を基礎とし、临床上重要な眼疾患の病態を把握し、その検査法、治療法の概要について学ぶ。

【授業の目標】

視能検査や視能矯正や視能訓練などの視能学の実践にあたって必要な各種の眼疾患について基本的事項、疾患概念、病態、検査法、診断法、治療法、予防法を総論的および各論的に学習する。修了時の目標は以下とする。

1. 視覚障害をきたす疾病のあらましを説明することができる。
2. 視覚発達期の小児において特有の眼疾患の診断と治療について説明することができる。
3. 成人および高齢者における視覚障害の成因、検査法、治療法について説明することができる。
4. 全身疾患、とくに糖尿病や高血圧の眼合併症について説明することができる。
5. 中枢神経疾患および末梢神経疾患に伴う眼疾患について説明することができる。
6. 眼の感染症、遺伝病について説明することができる。
7. 加齢性の疾患、とくに加齢白内障、加齢黄斑変性について説明することができる。
8. 眼圧と眼疾患との関連性について説明することができる。
9. 眼の外傷について説明することができる。
10. 眼の救急疾患およびプライマリ-疾患について説明することができる。
11. 眼疾患の治療法の特徴について説明することができる。
12. 眼疾患の予防について説明することができる。

【授業計画】

- 講義方式による。
- 第1回 高度視覚障害の疫学、成因、原因疾患
 - 第2回 乳幼児期の視覚の特性、弱視の分類、診断、治療
 - 第3回 成人の眼疾患：診断と治療概要
 - 第4回 糖尿病網膜症、眼底出血
 - 第5回 視神経炎、頭蓋内病変の眼症状
 - 第6回 ウイルス性結膜炎および角膜炎、壊死性網膜炎
 - 第7回 加齢白内障、進行性加齢黄斑変性
 - 第8回 原発開放隅角緑内障、正常眼圧緑内障、閉塞隅角緑内障
 - 第9回 外傷性眼疾患。眼窩吹く抜け骨折、視神経管骨折
 - 第10回 救急性眼疾患
 - 第11回 眼疾患薬物療法
 - 第12回 眼疾患光学的療法 (眼鏡、コンタクトレンズ)
 - 第13回 眼疾患手術療法、マイクロサージャリー
 - 第14回 眼疾患の疫学
 - 第15回 まとめ、期末試験

【評価方法】

ブリテスト、中間テストなど形成的試験を随時行う。計画修了時には一般知識および基本知識の理解度を測定するための期末試験を行う。

【テキスト】

視能学 (丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

適宜照会する。

眼科薬理学

伊佐敦靖 大庭紀雄

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

眼科の診断、治療に用いられる薬物について、一般眼科診療で用いる点眼薬、内服薬、縮瞳薬、散瞳薬および自律神経薬による点眼試験について学習する。さらに、麻酔薬、視能矯正に用いる薬物について、一般的使用注意事項と点眼薬、内服薬についても学習する。

【授業の目標】

1. 眼の検査に用いる主要な薬物について理解し説明することができる。
2. 眼疾患の治療に用いる主要な薬物について理解し説明することができる。
3. 眼の検査や疾病の治療に用いる薬剤を使用する場合に留意すべきことを理解し説明することができる。
4. 眼の検査や治療に用いる薬物の副作用について説明することができる。

【授業計画】

- 第1回 瞳孔薬 (自律神経薬)
- 第2回 屈折・調節検査と薬剤 (自律神経薬)
- 第3回 眼圧下降薬 (自律神経薬)
- 第4回 抗菌薬、抗ウイルス薬
- 第5回 副腎皮質ステロイド薬
- 第6回 非ステロイド系抗炎症薬
- 第7回 抗アレルギー薬
- 第8回 代謝拮抗薬、免疫抑制薬
- 第9回 検査用薬剤
- 第10回 眼と投薬 1. 局所投与 (点眼、局所注射)
- 第11回 眼と投薬 2. 全身投与
- 第12回 眼手術と麻酔薬
- 第13回 薬剤の副作用、有害効果
- 第14回 薬効評価
- 第15回 講義のまとめと期末試験

【評価方法】

眼の薬理学や主要な薬剤について十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾 敏夫、他編、文光堂)

【参考文献・資料】

授業の際、適宜指示する。

脳波学・画像診断学

前野信久

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

病気の診断や手術の適応および治療効果の判定などに脳波や画像診断の果たす役割は極めて高い。この講義では、脳波の生理学的基礎を理解し脳の高次機能について学ぶ。また、X線、MRI、CT、超音波、核医学などの検査について、その適応や診断装置の原理、特性、相違点を学ぶ。

【授業の目標】

前期に履修した「基礎医学入門II(解剖学・生理学)」について、人体の基本的な解剖や生理機能を脳波所見や生体画像を通し再確認することを目標とする。さらに、様々な疾患による各臓器の構造的、機能的な異常が各診断装置によってどのように捉えられるのかも確認する。

【授業計画】

- 第1回 解剖と生理学の基礎知識の確認
- 第2回 脳・神経系の解剖と生理 1
- 第3回 脳・神経系の解剖と生理 2
- 第4回 脳・神経系の解剖と生理 3
- 第5回 生体の電気生理現象
- 第6回 脳波 1
- 第7回 脳波 2
- 第8回 画像診断学とは
- 第9回 US (超音波診断装置) 1
- 第10回 US (超音波診断装置) 2
- 第11回 X線関連装置 (一般撮影・X線TV・CTなど) 1
- 第12回 X線関連装置 (一般撮影・X線TV・CTなど) 2
- 第13回 MRI (磁気共鳴画像診断装置) 1
- 第14回 MRI (磁気共鳴画像診断装置) 2
- 第15回 核医学検査 (PET・SPECT)

【評価方法】

出席状況、期末試験、提出物などによって総合的に評価する。

【テキスト】

実践 生理機能検査テキスト (宮武邦夫監修 メディカ出版)

【参考文献・資料】

- ・よくわかる脳波判読 第2版 (音成龍司著 金原出版)
- ・看護師 画像検査フルコース (宗近宏次著 メディカルビュー社)

臨床医学 I (内科学・精神医学・小児科学)

大野竜三 諏訪真美 渡邊一功

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

内科学の位置づけ、内科疾患の原因論とその学問的発展について理解し、臨床上重要な症候群について学ぶ。さらに正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。そしてさまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。

【授業の目標】

- (1) 体のしくみと機能を学ぶ。
- (2) 医療福祉関係者として働く際、知っておくべきよく見られる病気について理解する。
- (3) 小児の発達について理解し、代表的な疾患について理解する。
- (4) 精神障害、精神的疾患について理解し、その治療や援助について学ぶ。

【授業計画】

- (1) 生きてゆくための体の機能(血液、血圧、ホルモン、免疫など)
- (2) よくみられる病気 (1) (心臓、呼吸器、胃腸など)
- (3) よくみられる病気 (2) (がん、感染症、血液など)
- (4) 生活習慣病(種類、予防法など)
- (5) 多肢選択式筆記試験
- (6) 小児の発達
- (7) 小児保健
- (8) 小児の疾患 (1)
- (9) 小児の疾患 (2)
- (10) 小児の疾患 (3)
- (11) ライフサイクルにおける精神保健
- (12) 精神の疾患 (1)
- (13) 精神の疾患 (2)
- (14) 精神の疾患 (3)
- (15) 治療技法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

臨床医学 VI (外科・整形外科・泌尿器科)

小野佳成

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

外科の基本は切開、切除、縫合、結紮であり、これらの操作により内科的処置で治癒しない腫瘍をはじめとする各種病変の切除等の治療を行う。外科は消化管、および肝臓・胆嚢・膵臓などの消化器を扱う。整形外科は全身の骨格と関節と、それらに結合する骨格筋、腱および靭帯を扱う。泌尿器は、尿を作る腎臓、尿を体外に排出する尿管、膀胱、尿道、男性の生殖を司る精巣、精囊、前立腺を扱う。

【授業の目標】

上記を理解し、外科、整形外科、泌尿器科がどのような疾患を扱うのかを理解する。出血、熱傷、骨折、尿閉などの救急処置を理解する。

【授業計画】

- 以下の予定で行います。
- 1、外科学総論1 (歴史、全身管理)
 - 2、外科学総論2 (全身管理)
 - 3、外科学総論3 (全身管理)
 - 4、外科学総論4 (救急疾患と処置、創傷、熱傷、等、)
 - 5、外科学総論5 (救急疾患と処置、出血とショック等)
 - 6、整形外科の救急疾患と処置 (骨折等)
 - 7、泌尿器科の救急疾患と処置 (尿閉等)
 - 8、消化管疾患 (食道、胃、大腸、直腸等) に対する外科的治療
 - 9、消化器疾患 (肝臓、膵臓、胆嚢等) に対する外科的治療
 - 10、整形外科疾患 (骨と関節、骨格筋、腱および靭帯)
 - 11、整形外科疾患 (骨の代謝性疾患: 骨粗鬆症等)
 - 12、泌尿器疾患 (腎臓、尿管、膀胱、尿道、副腎)
 - 13、男性生殖器疾患 (精巣、精巣上体、前立腺、精囊)
 - 14、女性生殖器疾患 (卵巣、卵管、子宮)
 - 15、まとめ

【評価方法】

各講義ごとに小テストを行い評価します。

【テキスト】

特にありません。講義で紹介します。

【参考文献・資料】

特にありません。

臨床医学 II (臨床神経学)

岡田 久

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚・聴覚、言語の領解や発語、身体運動・感覚などの脳・神経機能の基礎を学び、脳・神経系の主要症候、疾患について、病状、発現機序、病因、検査法および治療について学ぶ。

【授業の目標】

- 1 臨床神経学の概要を理解する。
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の解剖・機能および、検査・評価法について理解する。
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候を理解する。
- 4 言語および視覚機能に関連した脳・神経系の主要疾患および医療現場で知っておくべき脳・神経系疾患の病状、発現機序、病因、治療およびEvidence Based Medicine(EBM)について理解する。

【授業計画】

- 1 言語および視覚機能を中心とした脳・神経機能の基礎
 - 1) 脳・神経系の解剖
 - 2) 脳・神経系の機能
 - 3) 脳・神経系の検査・評価法
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候
 - 1) 意識障害・精神症状・知能障害・睡眠障害
 - 2) 失語・失音症
 - 3) 失行・失認
 - 4) 構音障害・嚥下障害
 - 5) 眼球運動障害・眼振・瞳孔異常・視野障害・眼瞼異常
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要疾患
 - 病状・発現機序・病因・治療-
 - 1) 脳血管障害
 - 2) 認知症・変性疾患
 - 3) 感染症・中毒・腫瘍
 - 4) 発作性疾患
 - 5) 脊髄・末梢神経・筋疾患
 - 6) 脱髄疾患・代謝性疾患・遺伝性疾患
 - 7) 内科疾患などに伴う神経疾患

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

出席確認は講義中の携帯メール送信、または講義終了時の出席調査票提出のどちらかで行う。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

講義で使用したスライド・資料などは、適宜インターネット上で閲覧可能とする。

神経系の構造・機能・病態

渡邊一功

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

身体全体における神経系の位置づけを正しく把握した上で、神経系の構造、機能、病態について理解を深める。

【授業の目標】

神経系の構造、機能、病的状態についての基本的知識を体得する。

【授業計画】

- 第1回 神経解剖学の基礎事項
- 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
- 第3回 随意運動のための神経伝導路
- 第4回 大脳皮質下の運動中枢
- 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
- 第6回 自律神経系、視床下部
- 第7回 脳神経
- 第8回 聴覚伝導路
- 第9回 視覚伝導路と視覚反射
- 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
- 第11回 大脳皮質
- 第12回 髄膜、脳室系、脳血管支配
- 第13回 中枢神経系の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、期末試験による

【テキスト】

リーブマン神経解剖学、第2版 (山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

【参考文献・資料】

臨床のための神経機能解剖学 (後藤文雄 天野隆弘著 中外医学社 ISBN:4-498-02880-5)
 カラー図解神経の解剖と生理 (Ben Greenstein Adam Greenstein [著]/大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN9784895922692)
 カラー図解臨床でつかえる神経学 (Reinhard Rohkamm著 大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナルISBN978-4-89592-438-2)

社会福祉論 I (社会保障制度)

小口将典 木村淳也 酒井美和

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉の理念、価値、目的などについて基本的な理解を深め、現代社会における社会福祉に関する制度、政策、現状について知識を深める。

【授業の目標】

医療専門職として、患者を支える上で必要な社会福祉の基本的な考え方、各分野の現状、援助の方法や福祉の仕事に対する理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 社会保障の構造と考え方
3. 社会保障の方法と財源
4. 年金保険制度①
5. 年金保険制度②
6. 医療保険制度①
7. 医療保険制度②
8. 介護保険制度①
9. 介護保険制度②
10. 労働保険制度①
11. 労働保険制度②
12. 公的扶助①
13. 公的扶助②
14. 諸外国の社会保障
15. まとめ

【評価方法】

授業態度、レポートなどの結果から総合的に判断する。

【テキスト】

開講時に指示する

【参考文献・資料】

開講時に指示する

臨床歯科医学・口腔外科学

鈴木 聡 夏目長門 西村叔枝 古川博雄 山田祐敬

オムニバス 1年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

歯、歯周組織の発生、構造、機能、疾患と、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能と疾患について学ぶ。また、言語障害と関係のある、種々の口腔機能障害についても学習する。

【授業の目標】

1. 歯・口腔・顎・顔面部に発症する疾患の病状、治療の概要を理解する。
2. それらによって引き起こされる構音を中心とした口腔機能障害についても理解する。

【授業計画】

(鈴木聡/1.5回) 歯・口腔・頭頸部解剖、発生 について学ぶ。
 (夏目長門/1回) 先天異常(奇形) について学ぶ。
 (西村叔枝/1回) 歯科学概論 について学ぶ。
 (古川博雄/3回) 炎症、後天異常(変形)、外傷、顎関節、唾液腺、神経疾患について学ぶ。
 (山田祐敬/1回) 嚢胞・腫瘍 について学ぶ。

【評価方法】

毎回、出欠席を調査をし、小テスト等により成績評価する。期末試験は行わない。

【テキスト】

言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学 (医学書院)

【参考文献・資料】

標準口腔外科学 第3版(野間弘康・瀬戸院一 医学書院)
 看護のための最新医学講座 第23巻 歯科口腔系疾患(山本悦秀 中山書店)

臨床医学 III (耳鼻咽喉科学)

丹羽英人

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、気管・食道科学について、構造、機能、疾患などについて学ぶ。

【授業の目標】

耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域の解剖学・生理学・疾患の病態を理解し診断方法や治療方法を知る。

【授業計画】

- 第1回 耳科領域の解剖、生理 (1)
- 第2回 耳科領域の解剖、生理 (2)
- 第3回 鼻科領域の解剖、生理
- 第4回 咽頭、喉頭科領域の解剖、生理
- 第5回 頭頸部領域の解剖、生理
- 第6回 耳科領域の症候学
- 第7回 鼻科領域の症候学
- 第8回 咽頭喉頭の症候学
- 第9回 耳科領域の疾患の診断学
- 第10回 鼻科領域の疾患の診断学
- 第11回 咽頭喉頭領域の疾患の診断学
- 第12回 頭頸部領域の診断学
- 第13回 耳科領域の疾患の治療
- 第14回 鼻科領域の疾患の治療
- 第15回 咽頭喉頭領域の疾患の治療

【評価方法】

期末試験の成績

【テキスト】

授業のはじめに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

臨床医学 V (形成外科学)

大久保文雄

1年 後期集中 選択 1単位

【授業の概要】

創傷治療と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

1. 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
2. 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
3. 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患(頭頸部腫瘍を中心に)を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

1. 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 3) 創傷治療と組織移植
2. 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
3. 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定なし

【参考文献・資料】

講義中に配布

漢方医学概論

楊 衛平

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

古来の漢方医学の考え方、独特な生理・病理学・診断学・治療学・薬物学について総合的に概説し、漢方医学の基礎理論知識を学ぶ。

【授業の目標】

伝統漢方医学における陰陽五行などの基礎理論を通じて、人体の認識、疾病の把握、治療体系についての理解を深め、医療現場に活用するための基本的知識と技能を修得する。

【授業計画】

中国伝統医学の歴史
日本漢方医学の歴史
東・西両医学の相違
漢方医学の基本構造
漢方医学的の生理学
漢方医学的の病理学
漢方医学的の診断学
漢方医学的の治療学
漢方医学的の薬物学
漢方生薬の基礎分類
医食同源と健康食育
経絡学と鍼灸・指圧
日常における養生術
漢方医学の活用注意
期末テストの実施

【評価方法】

出席、討論質疑30%、レポート30%、期末テスト40%。

【テキスト】

学生のための漢方医学テキスト
日本東洋医学会編集・発行

言語学

出嶋真由美

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

言語を生物としてのヒトとの関係でとらえ、言語の単位と構造について理解する。語彙、形態論、統語論、意味論、音韻論、語用論について、基礎的理解を形成し、個別言語として日本語の構造と特徴について学ぶ。さらに、言語と社会、文化との関係についても学習する。

【授業の目標】

日本語と英語を対照しながら、言語の構造を理解する。日本語の特徴を理解し、言語発達や言語障害の基礎知識を構築する。

【授業計画】

第1回 言語学の出発点
第2回 意味論
第3回 意味論と語彙
第4回 品詞と語彙
第5回 統語論
第6回 統語論
第7回 形態論
第8回 形態論
第9回 音韻論
第10回 音韻論と形態論の接点
第11回 文法理論：格文法
第12回 文法理論：生成文法
第13回 文法理論：創発主義
第14回 語用論
第15回 語用論

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

よくわかる言語学入門：解説と演習 (町田健・初山洋介著 バベル・プレス)

【参考文献・資料】

基礎日本語文法—改訂版 (増岡隆志・田窪行則著 くろしお出版)

聴覚系・発声発語系の構造・機能・病態

丹羽英人

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

聴覚系の構造、機能、病態について、聴覚医学視点から理解を深める。また呼吸・発声・発語器官の各々について、その構造、機能、病態を学び、発声障害、構音障害および摂食・嚥下障害との関連について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚系及び発声発語系は相互に補充し合う気管である。それらの局所解剖学及び生理学を理解し、聴覚障害、発声・発語障害、それに伴う嚥下障害の病態を理解するための基礎を確立する。

【授業計画】

第1回 聴器の解剖学 (末梢)
第2回 聴器の解剖学 (中枢)
第3回 聴器の生理学
第4回 聴器の機能検査 (聴覚心理学的1)
第5回 聴器の機能検査 (聴覚心理学的2)
第6回 聴覚生理学的機能検査 (末梢)
第7回 聴覚生理学的機能検査 (中枢)
第8回 発声器官の解剖学
第9回 構音器官解剖学
第10回 発声器官の生理学
第11回 構音器官の生理学
第12回 音声の検査法

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績

【テキスト】

授業の始めに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

音響学・聴覚心理学

城 哲哉 吉川雅博

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超筋節的要素の音響的特徴について学習するとともに、音声情報処理の生理機構、可聴範囲、音の心理物理学、マスキング現象、両耳聴の効果と音源定位、生活環境と聴覚との関係などについて学習する。

【授業の目標】

1 音声を音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつかを理解する。
3 病的音声の音響分析や聴力測定などの音響の応用的側面について理解を深める。

【授業計画】

講義は二人の担当者が分担して行い、まず前半(第1回～第7回)で音の物理的特性や音声の音響特徴に触れ、後半(第8回～第14回)で音声の聴覚処理について講義を進める。テキスト(「言語聴覚士のための音響学」)の該当章を下に示す。

第1回 音の物理入門 (第1章)
第2回 スペクトル (第3章)
第3回 音声生成の音響学 (第5章)
第4回 前回の続き (第5章)
第5回 音のデジタル信号処理 (第6章)
第6回 日本語音声の音響的特徴 (第7章)
第7回 前回の続き (第7章)
第8回 信号としての音波 (第2章)
第9回 病的音声の音響的特徴 (第8章)
第10回 聴覚の基本構造 (第9章)
第11回 伝達関数 (第4章)、聴覚フィルタとマスキング (第10章)
第12回 音の大きさの知覚と認知 (第11章)
第13回 音の高さの知覚と認知 (第12章)
第14回 音声の知覚と認知 (第13章)
第15回 まとめと試験

【評価方法】

最終試験(国試に準じた5択式)により評価する。

【テキスト】

言語聴覚士のための音響学 (今泉敏著 医歯薬出版株式会社)
図解雑学 音のしくみ (中村健太郎著 ナツメ社)

【参考文献・資料】

・音入門—聴覚・音声科学のための音響学 (チャールズ・E. スピークス著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
・音声の音響分析 (レイ・D. ケント、チャールズ・リード著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
・音声知覚の基礎 (ジャック・ライアルズ著、今富祺子、菅原勉、荒井隆行 監訳)
・音声・聴覚のための信号とシステム (スチュアート・ローゼン、ピーター・ハウエル著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
・言語聴覚士の音響学入門 (吉田友敬著)

以上の5冊すべて出版社は、海文堂です。

視覚心理学 I

高橋啓介

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

色感覚、色知覚および空間視知覚の諸視覚現象について、心理物理学的・実験心理学的研究知見に基づいて考察し、視覚モダリティの心理物理学的特性、生理学的特性について理解を深める。

【授業の目標】

- 本講義の目標は以下の通り。
- 1 錐体の分光感度と色弁別について理解する。
 - 2 反対色メカニズムについて理解する。
 - 3 明るさについて理解する。
 - 4 色覚モデルについて知る。
 - 5 色の見えの要因や刺激条件について知る。
 - 6 カテゴリカルカラーについて理解する。
 - 7 色の恒常性について理解する。
 - 8 先天性色覚異常と発達・加齢による色覚の変化について理解する。
 - 9 視対象の方向・距離・大きさの知覚について理解する。
 - 10 自己運動による網膜像の変化と空間知覚との関係について理解する。

【授業計画】

- 1 S1 視覚の科学とは
- 2 色覚 I-1 錐体分光感度と色弁別
- 3 色覚 I-2 反対色応答
- 4 色覚 I-3 明るさ
- 5 色覚 I-4 色覚モデル
- 6 色覚 II-1 色の見えとカテゴリカル色知覚
- 7 色覚 II-2 色の恒常性
- 8 色覚 II-3 先天性色覚異常と発達・加齢効果
- 9 空間視1 空間座標系と視方向
- 10 空間視2 視距離
- 11 空間視3 大きさの知覚1
- 12 空間視4 大きさの知覚2
- 13 空間視5 オプティックフロー
- 14 単位認定試験
- 15 単位認定再試験

【評価方法】

出席15点満点、授業態度15点満点、単位認定試験（再試験実施の場合は、加点）70点満点とし、合計得点が60点以上の場合を合格とする。ただし、4回以上を欠席した場合は、得点にかかわらず失格とする。

【テキスト】

感覚・知覚の科学1 視覚 I 視覚系の構造と初期機能（内川恵二・篠森敬三 朝倉書店 2007年）
 感覚・知覚の科学2 視覚 II 視覚系の中期・高次機能（内川恵二・塩入論 朝倉書店 2007年）

視覚心理学 III

行松慎二

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚的なパタン認識、注意、記憶、イメージ等の実験心理学的研究からいくつかの基本的な事項や代表的なモデルを取り上げて、視覚認知情報処理過程の特性について理解を深める。

【授業の目標】

視覚情報処理に関連した、奥行知覚、イメージ、注意、記憶等の研究例とモデルについて学び、それらの諸現象と特性を理解する。

【授業計画】

下記の視覚情報処理過程について、その特性やモデル、研究例の解説を行う。

- ◆ 視覚パタンの認識
- ◆ 視覚情報の記憶
- ◆ 視覚的注意
- ◆ 視覚的イメージ
- ◆ 奥行き知覚
- ◆ 両眼立体視
- ◆ 両眼情報の統合

【評価方法】

おもに試験の成績による。

【テキスト】

感覚・知覚の科学2 視覚 II 視覚系の中期・高次機能（内川恵二・塩入論 朝倉書店 2007）

視覚心理学 II

高橋伸子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚系の構造と時空間特性、明暗の知覚、形の知覚、運動の知覚について、関連する心理学的現象や実験データを通して視覚の心理物理学的特性、生理学的特性について理解を深める。

【授業の目標】

視覚系の構造や時空間特性について理解を深める。さまざまな運動視現象を通して運動視の基本特性と運動視処理にかかわる諸要因について理解し、時空間フィルタモデルについて学ぶ。また、輪郭や面の知覚、形の知覚、錯視現象について知り、形態視処理にかかわる諸要因について理解する。

【授業計画】

1. 視覚系の構造と明暗の知覚1 視覚系の構造
2. 視覚系の構造と明暗の知覚2 光覚閾
3. 視覚系の構造と明暗の知覚3 時空間特性
4. 運動視1 実際運動と仮現運動
5. 運動視2 視覚現象としての運動視
6. 運動視3 運動視の諸特性
7. 運動視4 相対運動と大域運動
8. 運動視5 窓問題とパターン運動
9. 運動視6 運動情報による物体構造復元
10. 運動視7 運動刺激の時空間座標表現と運動検出モデル
11. 形態視1 輪郭と面の知覚
12. 形態視2 形の知覚
13. 形態視3 錯視
14. 形態視3 大域処理と視覚的補完
15. 形態視4 視点と文脈効果

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

感覚・知覚の科学2 視覚 II 視覚系の中期・高次機能（内川恵二・塩入論 朝倉書店 2007）

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指定する。

視能矯正学総論

平野耕治 鬢櫛一夫

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視能矯正学の枠組みを理解し、系統的な視能矯正を構築するための基礎的技能を学習する。（オムニバス方式）
 （鬢櫛一夫兼任講師）レンズ、プリズムの理解を深め、眼球光学系の特徴、生理機能、屈折異常等について理解し、調節、輻輳の機能について学ぶ。
 （平野耕治兼任講師）屈折検査として、検査法の原理、オートレフラクトメータ、ケラトメータや角膜形状解析装置の機序を学び、眼鏡、コンタクトレンズ、眼内レンズの役割について学習する。

【授業の目標】

1. 視覚にかかわる組織の基礎をふまえて、視力、視野、色覚など視機能の成り立ちを理解する。
2. 視機能を障害する疾患を理解する。
3. 視機能とQuality of Life (QOL)の関わりを理解する。
4. 患者の立場に立った医療の基本を理解する。

【授業計画】

講義方式による。適宜プリントを配布する。また、デジタルプレゼンテーションにより視覚的に内容が理解できるよう努める。

- （鬢櫛一夫）
- 第1回 生理光学の歴史的展望
 - 第2回 角膜およびレンズの役割と調節力
 - 第3回 光学収差とプリズム視の視覚順応
 - 第4回 網膜像の成立と両眼対応点の幾何学
 - 第5回 両眼立体視と視野闘争
（平野耕治）
 - 第6回 眼球の構造と屈折に関わる組織
 - 第7回 近視・遠視・乱視・老視
 - 第8回 屈折検査の原理と実際
 - 第9回 角膜形状解析
 - 第10回 屈折矯正方法（眼鏡、コンタクトレンズ）
 - 第11回 白内障手術と屈折矯正
 - 第12回 角膜屈折矯正手術
 - 第13回 まとめ1
 - 第14回 まとめ2
 - 第15回 期末試験

【評価方法】

講義への出席状況およびレポート、期末試験にて総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介する。

視能矯正学各論 I

都築欣一 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

正常な眼球運動と両眼視について理解する。斜視・弱視の病態と発症メカニズムについて学習する。
(オムニバス方式)
(都築欣一兼任講師) 斜視の分類と病因論、弱視の成因と治療法について学ぶ。
(平井淑江教授) 正常な眼球運動やその法則、両眼共同運動、離反運動について学ぶ。正常両眼視機能の基礎となる両眼視野、網膜対応、立体視について学ぶ。

【授業の目標】

視能学(矯正学・障害学・検査学・訓練学)の枠組みを理解する。眼球の構造と仕組みを理解し正常両眼視機能について理解する。斜視と弱視の成因と治療についての基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 視能矯正学の歴史と視能訓練士
- 第2回 視能矯正学の枠組み
- 第3回 眼の光学的特性
- 第4回 外眼筋の作用と眼球運動
- 第5回 眼位と眼球運動
- 第6回 両眼視と両眼視野
- 第7回 3次元立体視と両眼視:網膜対応
- 第8回 斜視の分類と病因 その1
- 第9回 斜視の分類と病因 その2
- 第10回 斜視の治療
- 第11回 弱視の成因と治療 その1
- 第12回 弱視の成因と治療 その2
- 第13回 斜視や弱視の感覚適応とその検査
- 第14回 単位認定試験
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論 II

都築欣一 平井淑江

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視、斜視の病態の検査と方法について学習する。
(都築欣一兼任講師) 弱視、斜視の病態の総合評価ができる技能を習得する。
(平井淑江教授) 弱視、斜視の病態の検査と方法を、入力、統合、出力系の順に学習する。

【授業の目標】

偽斜視と斜位と斜視の違いを理解する。水平斜視の分類とその検査法について理解する。
上下斜視の分類とその検査法について理解する。弱視の分類とその病態について理解する

【授業計画】

- | | | |
|------|----------------------------------|----|
| 第1回 | 偽斜視と斜視 | 平井 |
| 第2回 | 外斜視 | 都築 |
| 第3回 | 外斜視の分類と検査法 | 平井 |
| 第4回 | 内斜視 | 都築 |
| 第5回 | Krimsky法、Hirshberg法 | 平井 |
| 第6回 | 上下斜視 | 都築 |
| 第7回 | AV型斜視・交代性上斜視の検査 | 平井 |
| 第8回 | 麻痺性斜視 | 都築 |
| 第9回 | Bielshwsky testとPerksの3step test | 平井 |
| 第10回 | 弱視その1 | 都築 |
| 第11回 | 斜視弱視・不同視弱視の検査 | 平井 |
| 第12回 | 弱視その2 | 都築 |
| 第13回 | 屈折性弱視・径線弱視 | 平井 |
| 第14回 | 単位認定試験 | 平井 |
| 第15回 | まとめ | 平井 |

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫他 編 文光堂)
目で見る視力・屈折検査の進めかた(所敬・山下牧子 金原出版)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能検査学総論

伊佐敷靖

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査の基礎について、主訴や眼症状によって進めていく検査の具体的プロセスについて学習する。

【授業の目標】

主な眼科疾患の病像に対応する適確な検査の選択方法とその意義を学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。可能な限り実際の症例を提示して、それぞれの事例に対応する検査法を実践的に理解させる。

- 第1回:問診・予診のとりかた
- 第2回:視力測定
- 第3回:屈折・調節
- 第4回:瞳孔のみかた
- 第5回:光覚・色覚
- 第6回:視野検査
- 第7回:眼球運動
- 第8回:両眼視・立体視
- 第9回:前眼部・透光体の所見
- 第10回:眼底所見
- 第11回:網膜・視路の電気生理
- 第12回:眼科画像診断
- 第13回:全身検査
- 第14回:症状に応じた検査の進め方
- 第15回:単位認定試験

【評価方法】

診断の手段としての眼科検査法が十分に理解されているかどうかを評価する。出席状況および単位認定試験で総合的に判定する。

【テキスト】

視能学(丸尾 敏夫 編、文光堂)

【参考文献・資料】

必要に応じて、資料を準備する。

視能検査学各論 I

田邊宗子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。
眼位、眼球運動検査、斜視角の測定、両眼視機能検査、輻輳、AC/A、視野検査などの各検査法について学習する。

【授業の目標】

- 1、眼位・眼球運動検査の手技を学びながら、両眼視機能検査を理解し、体験する。
- 2、視野検査の方法と結果の評価について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 眼位・眼球運動1
- 第2回 眼位・眼球運動2
- 第3回 眼位・斜視角の測定1
- 第4回 眼位・斜視角の測定2
- 第5回 眼位・斜視角の測定3
- 第6回 両眼視機能検査1
- 第7回 両眼視機能検査2
- 第8回 両眼視機能検査3
- 第9回 輻輳・AC/A
- 第10回 視野検査1
- 第11回 視野検査2
- 第12回 視野検査3
- 第13回 視野検査4
- 第14回 期末テスト
- 第15回 まとめ

【評価方法】

主に期末試験により評価する。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

視能学(丸尾敏夫 久保田伸枝 深井小久子 文光堂)
眼科検査メモ(澤田惇 吉田晃敏 南光堂)
眼科検査ガイド(眼科診療プラクティス編集委員編 文光堂)

【参考文献・資料】

視能矯正(弓削経一編 金原出版)
視能矯正学(栗屋忍 丸尾敏夫 金原出版)
適宜、プリントを配布する。

視能検査学各論 II

田邊宗子 玉置明野

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「視能検査学各論I」を踏まえ、さらに視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。
 (田邊宗子講師) コンタクトレンズに関する検査、眼圧検査、涙液・涙道検査、瞳孔の検査、眼底写真撮影などについて学習する。
 (玉置明野兼任講師) 色覚検査について学習する。

【授業の目標】

1. 眼科で用いられる眼圧、涙液・涙道、瞳孔検査を理解するとともに眼底写真術を体験する。
2. コンタクトレンズに関する検査の理解と手技について学習する。
3. 色覚の理論と各種色覚検査の方法を理解するとともに疾患との関係を学習する。

【授業計画】

- 第1回 コンタクトレンズの検査
- 第2回 コンタクトレンズの検査 (実習1)
- 第3回 涙液・涙道検査
- 第4回 瞳孔検査
- 第5回 色覚のメカニズム: 先天色覚異常の分類、後天色覚異常 (先天異常との違い)
- 第6回 検査法: 仮性同色表、Panel-D-15、ランタンテスト、アノマスコープ
- 第7回 先天色覚異常の遺伝: 桿体一色型色覚、錐体一色型色覚、先天赤緑異常
- 第8回 診断後の説明および指導
- 第9回 眼圧検査
- 第10回 眼圧検査 (実習1)
- 第11回 眼圧検査 (実習2)
- 第12回 眼底写真撮影
- 第13回 眼底写真撮影 (実習)
- 第14回 期末試験
- 第15回 まとめ

【評価方法】

主に期末試験 (筆記) により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

眼科検査ガイド (眼科診療プラクティス編集委員会 文光堂)

【参考文献・資料】

新編画像解析ハンドブック (高木幹雄他監修 東京大学出版会)
 先天色覚異常の検査と指導 (市川一夫他 金原出版)
 眼科New Insight 1「視覚情報処理」(若倉雅登編 メジカルビュー社)
 眼科診療プラクティス66巻「色覚の考え方」(北原健二編 文光堂)
 視能学 (丸尾敏夫他編 文光堂)

視能障害学総論

伊佐敦晴

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

様々な視能障害について概観し、視能障害に対する基本的な理解を深めるため、視力障害、視野障害、両眼視機能の障害をもたらす疾患について、その予防と治療について学ぶ。

【授業の目標】

主な眼科疾患の症状および病態について理解させる。治療法の概略についても学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。病変部位別に代表的な症例を提示して、眼科疾患の理解を深める。

- 第1回: 外眼部・前眼部・角膜の疾患
- 第2回: 屈折・調節の異常
- 第3回: 中間透光体の疾患 (白内障、硝子体混濁)
- 第4回: 緑内障
- 第5回: 色覚異常
- 第6回: 眼球運動障害 (核性麻痺、眼筋ミオパシー)
- 第7回: 斜視・弱視
- 第8回: 視覚伝達路の疾患
- 第9回: ぶどう膜炎
- 第10回: 眼底疾患
- 第11回: 網膜剥離
- 第12回: 全身異常にみる眼所見
- 第13回: 眼科疾患の治療 (屈折矯正、弱視訓練、点眼、内服、眼処置、手術)
- 第14回: 患者とその家族への接遇
- 第15回: 単位認定試験

【評価方法】

眼疾患の症状とその病態を把握できているかどうかを評価する。出席状況および単位認定試験で総合的に判定する。

【テキスト】

現代の眼科学 (所敬・金井淳編、文光堂)

【参考文献・資料】

必要に応じて、資料を準備する。

視能検査学各論 III

川瀬芳克 佐橋一浩 玉置明野

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

眼科においてその重要度を増している新しい検査法を学ぶ。
 (川瀬芳克教授) 電気生理検査。
 (玉置明野兼任講師) 超音波検査。
 (佐橋一浩兼任講師) 網膜断層撮影 (OCT)。

【授業の目標】

1. 電気生理検査の理論的背景と網膜脈絡膜疾患等との関係の理解。
2. 超音波検査の方法と画像の見方の理解および基本的手技の習得。
3. OCT、RTAなどの理論の理解と簡単な手技の習得。

【授業計画】

- 第1回 光覚と光覚検査
- 第2回 眼科領域の電気生理検査の種類と基礎知識
- 第3回 E R G検査と各種疾患における反応波形の特徴
- 第4回 E O G検査と各種疾患における反応波形の特徴
- 第5回 V E P検査と各種疾患における反応波形の特徴
- 第6回 超音波検査法の原理: 光干渉法との違いも含め
- 第7回 Bモード測定の意義と方法: 後眼部およびUBM
- 第8回 Aモード測定の意義と方法: 眼軸長およびパキメトリー
- 第9回 眼内レンズ度数決定: 白内障手術における超音波検査の重要性
- 第10回 網膜断層撮影 (光干渉断層計: OCT) の原理
- 第11回 網膜厚解析装置: RTAの原理
- 第12回 共焦点走査型レーザー検眼鏡: HRTの原理
- 第13回 測定法の実際
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験 (筆記) により評価する。出欠席、レポートも反映させる。

【テキスト】

眼科検査ガイド (眼科診療プラクティス編集委員会 文光堂)
 適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

最新眼科超音波診断法 (太根節直編 診断と治療社)
 新超音波医学 1 医用超音波の基礎 (日本超音波医学会編 医学書院)

視能障害学各論 I

伊藤照子 佐藤美保

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の発達の特性とその障害について理解を深める。
 (伊藤照子兼任講師) 視覚障害児・者の社会への適応について学ぶ。
 (佐藤美保兼任講師) 乳幼児の視覚の発達を阻害する因子とその予防と治療、小児の失明や視野障害をもたらす疾患について学習する。

【授業の目標】

小児の視機能の発達の特徴を知りその阻害因子について理解する。
 視覚障害児・者の支援の方法を習得する。

【授業計画】

- | | |
|-------------------|----|
| 第1回 小児視機能の発達 | 佐藤 |
| 第2回 視機能評価1 | 伊藤 |
| 第3回 視機能評価2 | 伊藤 |
| 第4回 小児視機能発達障害 | 佐藤 |
| 第5回 ロービジョン症例の紹介1 | 伊藤 |
| 第6回 光学的補助具の紹介1 | 伊藤 |
| 第7回 光学的補助具の紹介2 | 伊藤 |
| 第8回 小児眼疾患の予防と治療 | 佐藤 |
| 第9回 非光学的補助具の紹介 | 伊藤 |
| 第10回 ロービジョン症例の紹介2 | 伊藤 |
| 第11回 その他の補助具 | 伊藤 |
| 第12回 弱視疑似体験 | 伊藤 |
| 第13回 視覚障害に関する諸制度 | 伊藤 |
| 第14回 単位認定試験 | 伊藤 |
| 第15回 まとめ | |

【評価方法】

出席日数・授業態度・認定試験等で総合的に判断する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能障害学各論 II

川嶋英嗣

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚障害児・者の障害の特性や心理社会的側面について学習し、現状と課題について理解を深め、障害の特性に応じた教育的支援、福祉的支援のあり方について考察をおこなう。

【授業の目標】

眼の時空間特性の心理物理学特性を基に視覚障害と日常行動の関連について理解を深め、視覚障害に対する支援の方法について考える。

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 視角1
- 第3回 視角2
- 第4回 コントラスト
- 第5回 コントラスト感度特性
- 第6回 コントラスト感度検査法
- 第7回 空間周波数
- 第8回 時間周波数1
- 第9回 時間周波数2
- 第10回 読みの有効視野
- 第11回 白黒反転効果
- 第12回 ETDRSチャートによる視力測定
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 試験

【評価方法】

提出課題、試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業で指示する

視能訓練学総論

平井淑江

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視の定義と分類、乳幼児の視機能発達の特異性と感受性期間、視機能検査と評価法並びに非観血的治療法と治療基準について学ぶ。

【授業の目標】

小児の検査と視能訓練の概要を理解する。

【授業計画】

- 第1回 小児眼科の検査と治療の特徴
- 第2回 視力検査
- 第3回 屈折検査
- 第4回 眼位検査
- 第5回 両眼視機能検査
- 第6回 眼圧検査・色覚検査
- 第7回 視野検査
- 第8回 眼底検査・電気生理検査
- 第9回 発達障害児の検査・調節麻痺薬の点眼・催眠薬
- 第10回 小児の眼鏡とコンタクトレンズの適応
- 第11回 観血療法と非観血療法
- 第12回 両眼視訓練
- 第13回 弱視訓練
- 第14回 単位認定試験
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験等で総合的に判断する。

【テキスト】

小児眼科の検査と視能訓練（佐藤美保 編 メディカ出版）

【参考文献・資料】

視能学（丸尾敏夫他編 文光堂）

視能訓練学各論 I

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視能訓練の基礎となる視覚系の生理特性について学ぶ。
（オムニバス方式）
（高橋伸子教授）中枢視覚神経系での信号処理について学ぶ。
（高橋啓介教授）網膜における信号受容と処理について学ぶ。
（川嶋英嗣准教授）視覚の時空間特性について学ぶ。

【授業の目標】

視覚の時空間特性、眼球光学系の仕組み、さらに網膜から大脳皮質に至る経路の役割分担と情報処理の仕組みについて理解する。

【授業計画】

- 第1回 眼球光学系(1) 基本構造
- 第2回 眼球光学系(2) 光学要素
- 第3回 光の強さ(1) 絶対閾・増分閾
- 第4回 光の強さ(2) 明るさ知覚
- 第5回 神経生理(1) 神経回路の基礎知識
- 第6回 神経生理(2) 高次視覚領野
- 第7回 眼球運動(1) 眼球運動の仕組み
- 第8回 眼球運動(2) 眼球運動の種類
- 第9回 時空間特性(1) 視力と超視力
- 第10回 時空間特性(2) 空間的時間的足し合わせ
- 第11回 時空間特性(3) 周辺視I - 構造的相違 -
- 第12回 時空間特性(4) 周辺視II - 皮質拡大係数 -
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験
- 第15回 単位認定再試験

【評価方法】

出席15%、授業態度15%、単位認定試験70%とする。但し、4回以上を欠席した場合は得点にかかわらず失格とする。

【テキスト】

感覚・知覚の科学 視覚I - 視覚系の構造と初期機能 - (篠森敬三 編 朝倉書店)

【参考文献・資料】

視能学 増補版 (丸尾敏夫・久保田伸枝・深井小久子 編 文光堂)

視能訓練学各論 II

平井淑江 三宅三平 矢ヶ崎悌司

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

斜視・眼振の病態のメカニズムとその検査及び治療（観血療法・非観血療法）について総合的に学習する。
（オムニバス方式）
（平井淑江教授）斜視の検査について学習する。
（矢ヶ崎悌司兼任講師）特殊な斜視のタイプ及び眼振の診断法と治療法について学習する。
（三宅三平兼任講師）斜視角測定や非観血治療の基礎となるプリズムや眼球運動検査について理解する。斜視の観血・非観血治療について学習する。

【授業の目標】

様々なタイプの斜視発症メカニズムを理解し、その診断となる検査法を理解する。さらに視能訓練士が行える斜視検査についてその原理に習熟する。

【授業計画】

- | | | |
|------|---|-----|
| 第1回 | 眼位・眼球運動・眼球運動の法則と斜視の分類 | 平井 |
| 第2回 | 上下斜視・AV型斜視・回旋斜視・交代性上斜視の検査 | 平井 |
| 第3回 | Hess赤緑試験と複像検査 | 平井 |
| 第4回 | 注視野、両眼単一視野 | 平井 |
| 第5回 | 対応検査：残像検査・Bagolini検査、Worth 4灯検査等 | 平井 |
| 第6回 | 不等像視・回旋の検査 | 平井 |
| 第7回 | プリズムについて1（臨床に使えるプリズム：プリズムを用いた検査におけるプリズム使用上の注意点） | 三宅 |
| 第8回 | 斜視の治療 非観血性治療 | 三宅 |
| 第9回 | 斜視の治療 手術 | 三宅 |
| 第10回 | 眼球運動と検査 | 三宅 |
| 第11回 | 機械的斜視・筋原性斜視・牽引試験 | 矢ヶ崎 |
| 第12回 | 斜視の手術・ボツリヌス | 矢ヶ崎 |
| 第13回 | 眼振の成因・症候・治療 | 矢ヶ崎 |
| 第14回 | 単位認定試験 | 平井 |
| 第15回 | まとめ | 平井 |

【評価方法】

主に単位認定試験により評価す。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映する。

【テキスト】

プリントを配布する。
視能学（丸尾敏夫 他 編 文光堂）

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習 I

浅野典子 伊藤照子 川瀬芳克 笹倉公美 田邊宗子 平井淑江

2年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに確実な定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

基本的となる視機能検査を実習する。その検査の目的と方法を理解して自信を持って検査を行えるようにする。検査結果の記載法を習得する。検査結果の評価について理解する。

【授業計画】

1. 学生を6～8名のグループに分割し、1名の教員が一つの検査項目を担当する。
2. 学生は一つの検査項目につき、2回ずつ巡回する。(計12回)
3. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
4. 検査項目は1) 視力検査・レンズメーター 2) 静的視野検査、3) 電気生理検査 4) 両眼視機能検査 5) 眼位・眼球運動検査 6) 前眼部・眼底写真
5. 第1回は全体のオリエンテーション・14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等を総合的に評価する。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫編 文光堂）
プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

2004年度から2007年度入学対象学部基礎

医療福祉論

高橋俊彦

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

医療、保健、福祉を人権尊重という人間学的立場から統合する医療福祉学の基本的概念と社会的役割、その実践について学ぶ。

【授業の目標】

将来、医療福祉に関する職業に従事する場合もそうでない場合も、この国の医療と福祉がどのようになっているかに、常に関心をもてるよう基礎的な知識考え方を身につける。

【授業計画】

講義を中心としてときに討論の時間も作る予定

- 第1回 医療福祉の概念
- 第2回 医療福祉の歴史
- 第3回 社会保障制度
- 第4回 医療制度
- 第5回 医療保障制度
- 第6回 医療費、国民の健康、医療行政
- 第7回 介護保険制度
- 第8回 介護保険と医療保険
- 第9回 医療福祉における人権保障
- 第10回 医療福祉の援助対象者
- 第11回 医療福祉援助の方法
- 第12回 医療ソーシャルワーカーの業務
- 第13回 医療福祉の今後の展望と課題
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。場合によってレポートによることもある。

【テキスト】

現代医療福祉概論（児島美都子・成清美治 学文社）

【参考文献・資料】

講義の中で紹介することもある。

090651510_0040 掲載順:0040

MASTER ★

心理学

永田忠夫

福祉貢献学科 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業の目標】

1. 心理学の概要を理解する。
2. 人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

【授業計画】

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1) 精神分析
 - 2) 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1) 発達
 - 2) 知能
 - 3) 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

医療貢献関係法規

初谷良彦

福祉貢献学科	1年 後期 選択 2単位
言語聴覚学専攻	3年 後期 必修 2単位
視覚科学専攻	1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

医療にかかわる法律知識を身につけることによって医療に対する理解を深める。現代の医療問題は、法的観点からみても複数の専門領域にまたがり、かつ学際的な解決を必要としている。種々の福祉関連職種との連携などについても学ぶ。

【授業の目標】

医療は人のあり方そのものであり、医療制度は国のあり方そのものであるといわれる。医療に関する法を通して人のあり方、国のあり方を考えたい。

【授業計画】

- 第1回 医療の法律学の概要と医事法における方法論
- 第2回 医師法
- 第3回 医療法
- 第4回 医療制度改革
- 第5回 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
- 第6回 臓器移植法
- 第7回 医療訴訟に関する法律（民法・刑法・刑事訴訟法）
- 第8回 生命の始まりと生命の終わりに関する法律（民法・刑法・母体保護法等）
- 第9回 医療事故の解決方法
- 第10回 レセプト・カルテの開示問題
- 第11回 インフォームド・コンセント
- 第12回 先端医療技術の法的規制
- 第13回 患者の権利
- 第14回 医療倫理
- 第15回 医療の質

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

090651510_0050 掲載順:0050

MASTER ★

生理学

清水 暁

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

医学・生物学の広範な学問領域を包含する人体生理・生化学の概念を体系的に効率よく学ぶことを目的とする。精緻な身体の内側とその機能について、重要な基本的概念を理解し不可欠な基礎知識を習得すべく、体液・呼吸・栄養・代謝・内分泌・感覚等主として人体の植物的機能の生理機序を中心に学習する。

【授業の目標】

ヒトの身体は種々の器官系から成り立っており、これらが調和して機能することにより生命が維持されている。各種器官系の機能とその調節について概説し、生命の仕組みについての理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（概論）
- 第2～7回 人体の機能系
 - 体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖系
- 第8～14回 人体機能の調節系
 - 神経系（中枢神経系、感覚系、運動系、自律神経系）
 - 内分泌系
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

やさしい生理学（森本武利、彼末一之編、南江堂）

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

2004年度から2007年度入学者対象

福祉貢献論

伊藤春樹

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

普遍的な人間の尊厳についてどうあらねばならないかを講義し、それを基本とする社会のあり方や制度の問題を取り上げ、福祉マインドの基本的な態度を養う。
また、福祉とは、貢献するとはどのような意味を持っているのか、社会的側面と個人的側面から論じる。

【授業の目標】

福祉に貢献する人材となるための基礎的な素養を身につけ、福祉を学ぶ意欲や将来のスペシャリストとしての意識を喚起することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉とは。
第2回 社会福祉を考える視点
第3回 福祉の心-共感と連帯、ひとりひとりの個人の尊重
第4～5回 高齢者福祉分野における貢献例
高齢者福祉の現状と課題を紹介し、特別養護老人ホームを始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、公的介護保険の充実により、在宅生活を可能にしてきたケアマネジャーの業務を紹介し、在宅生活を支える人材として貢献している実例を見ていきたいと考えている。内容としては、高齢者が抱えている福祉的課題だけではなく、その家族が問題と感じているものにも焦点を当てていきたい。
- 第6～7回 障害者福祉分野における貢献例
障害者福祉の現状と課題を紹介し、身体障害者療護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、支援費制度がスタートし、重い障害をもつ人たちであっても地域社会で自立した生活が営めるようになった現状において、相談支援事業等に働いている相談員の業務を見ていくことにより、障害者福祉に貢献している人たちを見ていきたい。内容としては、重度障害をもつ人たちの自立生活問題が中心となるが、教育や就労の問題も取り上げていきたい。
- 第8～9回 児童福祉分野における貢献例
児童福祉の現状と課題を紹介し、乳児院や養護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、児童福祉の問題は「家族」というものと深い関係性があるので、家族を対象とする業務も紹介していきたい。少子化や離婚の問題が社会問題として取り上げられる現状において、児童福祉の分野で活躍している実例を見ていきたいと考えている。内容としては、児童虐待や放課後の問題を中心に取り上げたい。
- 第10～11回 住みよい「まちづくり」における貢献例
ハートビル法や交通バリアフリー法の制定により、誰もが住みやすい街を築いていこうとする動きが顕著になってきている。このような分野における福祉従事者の現状と課題を紹介したいと考えている。「まちづくり」は、建物や乗り物というハード面ばかりではなく、市民の関心や理解というソフト面に対する貢献も、実例をあげて見ていきたい。
- 第12～14回 精神障害者への対策などに関して
第15回 期末試験

【評価方法】

(レポート・テスト・出席状況等)を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じて参考文献を紹介したり、資料やレジュメを配付したりする。

【参考文献・資料】

必要に応じて参考文献を紹介したり、資料やレジュメを配付する。

社会福祉法制論

初谷良彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉は、憲法25条の生存権保障による狭義の社会保障=所得保障機能と深くかかわっている。しかし社会福祉法制は、金銭給付のみでは充足できない生活要求にこたえるものとしての、いわゆる社会福祉サービスをその内容として持つ。福祉サービスの質の高さの保障のために、権利擁護、苦情解決、契約手続等利用者の手続的権利ないし自己貫徹的権利の制定等人間の尊厳を基底とした社会福祉法制の改革等について学ぶ。

【授業の目標】

社会福祉の原理を究明し、複雑な社会福祉の諸制度の現状と問題点を明らかにし、その課題と方向を探る。

【授業計画】

- 第1回 社会福祉法制の体系と目的と対象
第2回 福祉三法から福祉六法そして福祉八法の展開
第3回 社会福祉行政機関
第4回 社会福祉基礎構造改革と利用契約の導入
第5回 社会福祉法制と財政
第6回 障害者基本法
第7回 障害者自立支援法
第8回 児童福祉法
第9回 母子及び寡婦福祉法
第10回 社会福祉法
第11回 老人福祉法
第12回 成年後見制度
第13回 介護保険制度の改革
第14回 生活保護制度
第15回 年金制度

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

福祉貢献学科中心基礎科目

フィールドスタディ入門

棚橋昌子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉貢献学科では、福祉施設のみでなく、広く地域の人と関わることであり、そこに発生する課題を発見し、問題解決に取り組む能力が重視される。施設・地域等のフィールドを準備し、体験レポートを作成し、現場の課題等に取り組む能力を養う。

【授業の目標】

地域または福祉施設などのフィールド体験から、課題を設定し、レポートを作成する。

【授業計画】

- 第1～2回 フィールドおよび課題の提示
担当教員からフィールドの紹介
- 第3回～14回 担当教員による指導
フィールド体験を含む授業
フィールド体験の発表・意見交換等
- 第15回 予備日

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

必要に応じ、担当教員から指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

社会保障論 I

見平 隆

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

【授業の目標】

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解する。
- 2 社会保障制度の体系について理解する。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解する。

【授業計画】

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険(雇用保険)
 - 6) 家族手当(児童手当)
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての社会保障～福祉を学ぶ人へ～(椋野美智子・田中耕太郎 著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

社会保障の手引-施策の概要と基礎資料-(中央法規)

社会保障論 II

見平 隆

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実際などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

【授業の目標】

- 1 我が国の年金保険について熟知する。
- 2 我が国の医療保険について熟知する。
- 3 我が国の介護保険について熟知する。
- 4 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解する。
- 5 社会保障の実施体制及び専門職について理解する。

【授業計画】

- 1 我が国の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
 - 4) 障害基礎年金
- 2 我が国の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 3 我が国の介護保険とその具体的内容
- 4 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 5 社会保障の実施体制及び専門職

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての社会保障 (棕野美智子・田中耕太郎 著 有斐閣アルマ)

【参考文献・資料】

社会保障の手引-施策の概要と基礎資料- (中央法規)
「厚生指針 臨時増刊 保険と年金の動向」(財団法人 厚生統計協会)

対人社会心理学

西 和久

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

他者や集団との社会的相互作用のなかで生じる様々な行動を社会心理学的に解釈することを学ぶとともに、社会心理学の知見および視点が日常生活や医療福祉の現場にどのように応用可能かについて理解を深める。具体的には、援助行動、攻撃行動、親和行動、模倣行動、競争行動と協同行動、説得的コミュニケーション、リーダーシップと同調行動、ソーシャル・サポート、ソーシャル・ネットワーク、社会的態度、集団の構造と機能等のトピックに関する代表的な研究例を紹介する。

【授業の目標】

興味深い実証研究のレビューを通じて社会心理学の理論やエビデンスを学ぶと同時に、現実社会における人間の社会的行動や人間と社会との関係性を読み解くための「社会心理学的パースペクティブ」を獲得することを目的とする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自分を知るココロ：自己と自己概念
- 第3回 他人を知るココロ：対人認知と印象形成
- 第4回 社会を知るココロ：社会的認知
- 第5回 人を好きになるココロ：対人魅力
- 第6回 人を傷つけるココロ：攻撃行動
- 第7回 人と争うココロ：対人葛藤
- 第8回 人を助けるココロ：援助行動
- 第9回 人と支えあうココロ：ソーシャル・サポート
- 第10回 人に影響されるココロ：社会的影響過程
- 第11回 人を動かすココロ：説得と態度変容
- 第12回 人とつながるココロ：ソーシャル・ネットワーク
- 第13回 個人と社会の板挟みになるココロ：社会的ジレンマ
- 第14回 社会問題を解決するココロ：応用社会心理学的研究
- 第15回 学期末試験

【評価方法】

平常点 (出席状況、受講態度)、リアクション・ペーパー、学期末試験の成績を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

- 講義の理解を深める上での参考文献
ザ・ソーシャル・アニマル—人間行動の社会心理学的研究 (E・アロンソン著、岡隆・亀田達也訳 サイエンス社)
- 心理系公務員受験の試験対策のための書籍
試験にでる心理学 社会心理学編 (高橋美保著 北大路書房)

生活衛生学

杉浦信彦

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ヒトの生命や健康を脅かす目に見えない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力の涵養を目指す。授業においては生活(くらし)の安全を確保することを主眼に、食生活の生物的安全性、化学的安全性、飲料水を含めて安全な生活用水のあり方および疾病予防等について学習する。

【授業の目標】

1. 食生活の安全を脅かす生物、化学的要因について理解する。
2. 安全で健康的なくらしを守るための実践的手段の習得を目指す。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 食生活の安全 (1) 食品表示・食品添加物・農薬のメリット・デメリットを中心に食生活の生物・化学的安全性について学ぶ。
3. 食生活の安全 (2) 飲料水の汚染の現状と安全対策について学ぶ。
授業は講義を中心にVTR・演習を交えて進める。

【評価方法】

課題レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布する。

2004年度から2007年度入学者対象

社会福祉援助技術演習 I

木村淳也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習（演習課題）
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術現場実習指導 I

伊藤春樹 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口純世 春見静子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講義等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
- 4 巡回指導
- 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
- 6 実習の評価全体総括会

(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。

(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- 7 実習前においては、下記の点に留意して個別指導を行う。
 - a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- 8 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
 - a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

福祉貢献学科中心専門科目

社会福祉援助技術演習 II

小口将典

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術演習Iをさらに発展させ、より困難な事例、さまざまな価値や倫理が錯綜し、判断が難しい事例などを取り上げ、学生同士の討議を積極的に取り入れながら、援助技術に関わる知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業の目標】

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

【授業計画】

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 演習実施のための枠組み（事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例
 - 1) ソーシャルワークの実践事例の検討
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術現場実習指導 II

伊藤春樹 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口純世 春見静子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実習中の指導については、社会福祉援助技術現場実習指導Iの内容を継続して指導する。実習後については、実習記録に基づく実習の振り返りを通じて実習経験を自分のものとするとともに、総括のための報告会を開き、現場指導者、教員とともに評価を行う。

【授業の目標】

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
- 4 巡回指導
- 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
- 6 実習の評価全体総括会

(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。

(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- 7 実習前においては、下記の点に留意して個別指導を行う。
 - a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- 8 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
 - a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習 I

伊藤春樹 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口純世 春見静子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場における実習経験を通して、社会福祉士としての専門知識、技能、関連知識をさらに深めるとともに、それを実際に応用し、活用する能力を高める。また、専門職としての倫理を実習を通じて自らのものとし、体现できるようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要な資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。
なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
- 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
- 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
- 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

精神保健福祉援助演習 I

瀧 誠

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士としての専門的援助技術および精神リハビリテーション技法について、臨床場面を想定して、ロールプレイや事例検討を行い、対人援助者としての心構えや視点を養う。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 精神保健福祉の援助技術
 - 1) 演習課題と到達目標
 - 2) 演習課題と展開方法
- 2 個別援助技術の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) 保健医療施設等におけるケースワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるケースワーク
- 3 集団援助技術の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) 保健医療施設等におけるグループワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるグループワーク
 - 3) セルフヘルプ・グループとグループワーク
- 4 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 5 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 6 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業開始後指示する。

【参考文献・資料】

その都度紹介する。

社会福祉援助技術現場実習 II

伊藤春樹 小口将典 木村淳也 神波幸子
酒井美和 佐々木政人 谷口純世 春見静子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術現場実習IIにおける学習をさらに深めるとともに、実習担当者、受け入れ側実習担当者との緊密な連携の下、利用者との関係を作る力、多面的、重層的に問題を捉える力を養い、経験を単なる経験としてではなく専門職種として応用する力が身につくようにする。

【授業の目標】

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要な資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

【授業計画】

社会福祉援助技術現場実習を実施する。
なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
- 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
- 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
- 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

精神保健福祉援助演習 II

瀧 誠

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習を行うにあたって、精神病院等の医療施設および社会復帰施設におけるモデル的な事例を学習し、現場実習での留意事項を学ぶ。また、現場実習終了後に実習記録をもとに問題点の整理をする。

【授業の目標】

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

【授業計画】

- 1 地域援助技術の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) 保健医療等におけるコミュニティワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるコミュニティワーク
 - 3) 地域組織化とコミュニティワーク
- 2 地域ケア活動の実践と展開

<事例検討の意図>

 - 1) チームアプローチによる援助
 - 2) ケアマネジメントによる援助
 - 3) ソーシャルサポート・ネットワーク援助
- 3 実技指導等
 - 1) 面接実技指導
 - 2) 記録実技指導
 - 3) 集団実技指導
 - 4) 評価・効果測定実技指導
- 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
- 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業開始後指示する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

精神保健福祉援助実習 I

瀧 誠

3年 前期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じ行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業開始後指定する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

ノーマライゼーション論

初谷良彦

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

ノーマライゼーションの原理は、知的障害児・者を「ノーマルな人にする」ことを目的としているのではなく、その障害を共に受容することであり、彼らにノーマルな生活条件を提供することである。この原理は1960年代、北欧で着想され、アメリカで操作的・科学的に深化されたものである。この理念が「国際障害者年」（1981年）の「完全参加と平等」に結実した。近年、高齢者等の領域でも用いられるようになり、社会福祉の基本理念となっている。このようなあたりまえの思想が我々の社会に本当に根づいていくためにはどうしたらよいか考えていきたい。

【授業の目標】

ノーマライゼーション原理は、差別されたり権利が侵害されているあらゆる領域に普遍的に適用されなければならない原理であることを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 ノーマライゼーション原理の理論と展開
- 第2回 バンク・ミッケルセンの理論と思想
- 第3回 ニイリエの理論と思想
- 第4回 北欧における法的発展
- 第5回 ヴォルフェンスベルガーの理論と思想
- 第6回 ビーブルファースト
- 第7回 自己権利擁護
- 第8回 ノーマライゼーション原理と脱施設化
- 第9回 日本の「脱施設化」の持つ問題点
- 第10回 イギリスのノーマライゼーション原理
- 第11回 イギリスにおける実践
- 第12回 ノーマライゼーション原理と集団訴訟
- 第13回 ノーマライゼーションの原理の誤解へのヴォルフェンスベルガーの反論
- 第14回 バンク・ミッケルセンの反論
- 第15回 ニイリエの反論

【評価方法】

主として平常点とレポートによって評価する

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

ノーマライゼーション原理の研究（中園康夫 海声社）

精神保健福祉援助実習 II

瀧 誠

3年 後期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身に付ける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

【授業の目標】

- 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。
- 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようにする。
- 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

【授業計画】

精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助実習には、精神障害者のプライバシーに十分配慮しつつ、下記の内容を必ず含める。但し、4は必要に応じ行う。

- 1 実習オリエンテーション
- 2 視聴覚実習
- 3 現場体験学習
- 4 見学実習（急性期病棟など）
- 5 専門援助技術実習指導
- 6 リハビリテーション実習指導
- 7 配属実習
- 8 全体総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業開始後指示する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

福祉開発論

伊藤春樹

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉の領域で法や制度にとらわれない新しい領域を創造する活動に焦点を当てる。既存の法制や制度の枠組みの中では「社会福祉」とは認められていない、あるいは認められてこなかった活動は多くの場合、先駆的な個人や組織によって「開発」されてきた。社会福祉と他領域との連携や、多様なニーズに対応するための福祉供給体制のあり方が求められる現代社会においては、こうした視点が不可欠であろう。講義では福祉開発が必要とされる背景、そのための手法、具体的な個人、NPO、ボランティアなど市民の主体的活動による具体例、こうしたイニシアティブを支援する枠組みなどを国内外の事例から取り上げ、福祉開発の理論と実際を理解する。

【授業の目標】

福祉を広い意味で捉え、先駆的な活動をどのように展開するべきかを論じる。

【授業計画】

- 第1講 福祉とは（その1）
- 第2講 福祉とは（その2）
- 第3講 開発とは（その1）
- 第4講 開発とは（その2）
- 第5講 進歩とは何か
- 第6講 進歩とは何か
- 第7講 社会福祉基礎構造改革とは
- 第8講 社会福祉基礎構造改革とは
- 第9講 社会福祉基礎構造改革がもたらしたものと
- 第10講 社会的ニーズとは
- 第11講 社会的ニーズとは
- 第12講 新しい福祉活動を展開するために
- 第13講 新しい福祉活動を展開するために
- 第14講 新しい福祉活動を展開するために
- 第15講 テスト

【評価方法】

授業への出席とテストとレポートで評価する。

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

福祉計画論

小沼春日

3年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

現在我が国の社会福祉は積極的な「福祉改革」が進められている。このなかで高齢者、児童、障害者については「福祉3プラン」が策定され計画的な推進が図られている。さらに「社会福祉基礎構造改革」に関して社会福祉法が制定され地域福祉計画が法制化された。これらを背景として福祉計画の重要性について理解を深める。

【授業の目標】

1. 社会福祉の史的変遷に伴う計画の意義を体系的に理解する
2. 計画立案の視点・方法を理解する
3. 計画策定プロセスにおける住民参加の意義を理解する

【授業計画】

1. 福祉計画の理念と展開
2. 福祉計画の理論と技法 (1) 計画の主体と過程
3. 福祉計画の理論と技法 (2) 計画の策定方法と留意点
4. 福祉計画の理論と技法 (3) 計画の評価方法
5. 福祉計画の種類 (1) 老人保健福祉計画・介護保険計画
6. 福祉計画の種類 (2) 障害者計画・障害福祉計画
7. 福祉計画の種類 (3) 児童育成計画・次世代育成支援行動計画
8. 社会福祉基礎構造改革と地域福祉計画
9. 地域福祉計画策定の実際—先駆的自治体取組事例— (1)
10. 地域福祉計画策定の実際—先駆的自治体取組事例— (2)
11. 地域福祉計画策定の実際—先駆的自治体取組事例— (3)
12. 福祉計画立案における住民参加の理念と技法 (1)
13. 福祉計画立案における住民参加の理念と技法 (2)
14. 事例研究
15. まとめ (レポート作成)

【評価方法】

出席状況及びリアクションペーパー	50%
レポート	50%

【テキスト】

特に指定しないが、随時プリントを配布

【参考文献・資料】

新・社会福祉士養成講座第10巻「福祉行政と福祉計画」(中央法規2009)
 地域福祉計画による社会福祉の総合化を目指して (全社協 2006)
 地域福祉計画を創る (地域福祉研究会編 中央法規出版社 2002)
 社会福祉計画 (定藤丈弘・坂田周一・小林良二編 有斐閣 2000)
 社会福祉供給システムのパラダイム転換 (古川孝順編 誠信書房 1992)
 地域福祉計画と地域福祉実践 (大橋謙策・原田正樹編 万葉舎 2001)
 コミュニティとソーシャルワーク 社会福祉基礎シリーズ(9) (平野隆之・宮城孝・山口聡編 有斐閣 2002)
 ソーシャルワーク演習 (下) 社会福祉基礎シリーズ(5) (黒木保 博・小林良二・坂田周一他編 有斐閣 2003)
 地域福祉論 (岡村重夫著 光生館 1974) 他

090652512_0130 掲載順 : 0130

MASTER ★

福祉と人権

初谷良彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉の制度や諸サービス自体の実体的内容と、その運営の実際の過程に人権の観念がどれだけ生かされているか。人権保障を打ち出すことにはあまりにも消極的であるといわれる。本当の意味で人権としての社会福祉が実現するにはどのようにしたらよいかについて考える。さらに、自己決定権の法理と適正手続きの処遇を受ける権利の現状についての分析もする。自己決定権、個人の尊厳、プライバシー等の権利の実効性を確保し、質の高いサービスを保障するためにはどのような仕組みが必要であるかについても学ぶ。

【授業の目標】

自分の意見に確信をもつことは大切であるが、ひとりよがりな考えにはなっていない。たえず異なる意見に耳を傾けて欲しい。福祉と人権を学ぶにあたっては、こうした柔軟性を持って欲しいと願っている。できるかぎり諸外国の実態との比較検証もしたい。

【授業計画】

1. 人権の権利性
2. 人権の保障構造
3. 人権としての社会福祉理念の展開
4. 世界の福祉
5. インクルージョンの福祉
6. 権利擁護の理念と実践
7. 障害者の裁判を受ける権利
8. 障害者自立支援法の課題
9. 介護保険制度の課題
10. 生活保護制度の課題
11. 子どもと家庭の福祉
12. 高齢者の福祉
13. 医療と福祉
14. 福祉援助の理念と方法
15. 生活の質 (QOL)

【評価方法】

主として平常点と期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

福祉施設運営論

梅村展子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者や児童および障害者を擁護し育成する目的をもつ福祉施設の役割や制度、さらに具体的運営に関わるシステムやマネージメントの課題を学習する。多様なサービスを求める社会的ニーズに対応する施設運営のあり方を模索する。

【授業の目標】

1. 社会福祉施設の種類と、その役割を理解する。
2. これからの社会福祉施設の果たすべき役割を理解する。
3. 契約制度におけるサービス利用者と提供者の関係を理解する。
4. これからの社会福祉施設運営には、社会福祉援助の方法と、経営管理の方法とが必要なことを理解する。

【授業計画】

1. 社会福祉施設運営管理の基礎
 - 1) 社会福祉施設の社会的役割
 - 2) 社会福祉施設の種類
 - 3) 社会福祉施設の推移と動向
 - 4) これからの社会福祉施設と経営 (運営) 管理
2. 社会福祉施設における施設経営・運営の視点
 - 1) 労務管理
 - 2) 人事管理
 - 3) 財務管理
3. 社会福祉施設の福祉サービス管理
 - 1) 社会福祉施設におけるサービス
 - 2) 福祉サービスの評価
 - 3) リスクマネジメント
 - 4) 契約によるサービス利用と権利擁護

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績を総合し評価する。

【テキスト】

新版・社会福祉学習双書2008 社会福祉施設運営(経営) 論
 「新版・社会福祉学習双書」編集委員会編 社会福祉法人 全国社会福祉協議会発行

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

090652512_0140 掲載順 : 0140

MASTER ★

福祉と多文化共生

杉本正次

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会ではかつてない地球規模での人間の移動によって、国籍や民族を異にする人びとからなるクロスボーダー社会が出現している。国内でも、学校や職場、地域などで文化や生活様式を異にする人びとからなる多様な生活空間が形成されている。こうした現状認識の下に、社会福祉援助技術を用いて多文化共生社会を実現するために何が出来るのか具体例をまじえて学ぶ。

【授業の目標】

多文化共生について学びながら、日本の現状や問題点に対して自分の考えをもち、これからの社会と福祉を作り上げる観点や方法を身に付ける。
 ※授業は、グループディスカッション、学生発表等を多用するので、積極的な参加が望ましい。

【授業計画】

- 第1回 福祉と多文化共生のテーマ紹介
- 第2回 多文化共生を考える
- 第3回 多文化共生と私たち
- 第4回 日本人と外国人、どう違う?
- 第5回 日本の国際化と外国人
- 第6回 NGOやボランティアの役割
- 第7回 外国人の人権保障
- 第8回 多文化共生と保健医療
- 第9回 多文化共生と結婚、離婚
- 第10回 多文化共生社会と教育
- 第11回 外国人から見た日本その1
- 第12回 外国人から見た日本その2
- 第13回 多文化共生社会作りその1
- 第14回 多文化共生社会作りその2
- 第15回 まとめと試験

【評価方法】

出席50%と期末試験(筆記)50%により評価する。

【テキスト】

自作プリントや新聞記事のコピーなどを使用しテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

在日外国人の教育保障 愛知のブラジル人を中心に 新版(新海英行、加藤良治ほか 大学教育出版 2002)

福祉とジェンダー

山口佐和子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

男女共同参画社会の形成に向け、福祉についてジェンダーの視点からとらえる。福祉の中にあるジェンダーバイアスを制度の中から具体的に取り上げながら、ジェンダーからみた福祉改革の方向とそのあり方を考える。

【授業の目標】

社会的・文化的につくられた「ジェンダー」視点をもとに授業を進める。ジェンダー視点は、普段、私たちが「当たり前」のこととして受け入れているものを、違った角度から見ようとする、人生のツールのひとつである。このツールを使って、社会や、福祉領域に横たわるさまざまな問題を捉えなおし、将来の社会福祉施策に何が必要か、一緒に考えていく。

【授業計画】

1. ジェンダー視点を習得する
- 第1回 イントロダクション、ジェンダー概念について
- 第2回 ジェンダー概念の誕生と法律（国際法・国内法）制定の歴史
- 第3回 映画作品からジェンダーを考える
- 第4回 学校教育からジェンダーを考える
- 第5回 女性シンガー（Diva）からジェンダーを考える
- 第6回 性同一性障害からジェンダーを考える
- 第7回 TVジャンルからジェンダーを考える
2. 福祉問題をジェンダーの視点で捉える
- 第8回 ドメスティック・バイオレンス問題
- 第9回 シングルマザー問題、国際比較
- 第10回 シングルファザー問題
- 第11回 高齢者介護問題
- 第12回 労働問題
- 第13回 結婚、出産、少子化問題
- 第14回 全体のまとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

- 出席、授業に対する意欲 40%
短い筆記試験 30%
レポート 30%

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

講義時に、適宜、参考図書を示す。

090652512_0170 掲載順 : 0170

MASTER ★

福祉と自助活動

谷口明広

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

セルフヘルプグループとは、慢性病や不治の病あるいは障害などをもった人々が社会で自立＝自律してゆくための、病者/障害者を主体として、場合によってはそれ以外の家族やボランティアなどで構成される自助組織である。こうした組織の福祉領域における役割や意義、専門職との連携や援助方法などについて理解する。

【授業の目標】

1. 自助組織や活動には、どのようなものが存在するのかを知る
2. 自助活動の歴史を知り、差別や偏見と戦ってきた変遷を確認する
3. 自助活動の中にある様々な援助技術論のアプローチを勉強する
4. 社会福祉援助における当事者団体や組織の重要性を認識・確認する

【授業計画】

- 1回目 授業のガイダンス（自助集団の重要性を語る）
- 2回目 「自助」とは何か、を知る
- 3回目 「自助」「共助」「互助」「公助」の違いを知る
- 4回目 「自助組織」や「自助グループ」のあらまし
- 5回目 自助組織で用いられる技術や技能
- 6回目 セルフヘルプ・グループの組織化過程を探る
- 7回目 ピアカウンセリングの歴史
- 8回目 ピアカウンセリングの効用と問題点
- 9回目 自助組織への参加体験と発表①
- 10回目 自助組織への参加体験と発表②
- 11回目 自助組織への参加体験と発表③
- 12回目 具体的なソーシャル・アクションに学ぶ①
- 13回目 具体的なソーシャル・アクションに学ぶ②
- 14回目 自助集団の問題点と課題
- 15回目 まとめとして

【評価方法】

出席状況と受講態度や姿勢、レポート提出、試験結果を総合的に評価する

【テキスト】

基本的に講師が作成した資料やレジュメを配布する

【参考文献・資料】

「セルフヘルプ・グループの理論と展開 わが国の実践をふまえて」
久保絃章 著 石川到覚 編 中央法規出版 1998年

福祉とセクソロジー

谷口明広 武田康晴

オムニバス 3年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、福祉の専門職として必要とされる性的自立と性的共生能力についての基本を理解することを目的とする。また、セクシュアル・マイノリティの人権の現実を学ぶことで、性に関する正しい人権意識をもち、偏見のない援助行動が取れる基盤を作る。

【授業の目標】

障害をもつ人々を「性」のある存在としてみることは、人間の尊厳に関わる問題でもある。障害をもつ人々の「性」を考えることによって、命の大切さや尊厳を再確認する機会にしていきたい。「性」という漢字は、心が生きると書くが、この意味を考えていけるような講義にしていきたいと思っている。

【授業計画】

- 1日目 「性」が持つ意味を考える（セックスとセクシャリティーの違い）
- 2日目 「性」が持つ三つの意味
- 3日目 性教育の在り方考える
- 4日目 歴史的に見る障害をもつ人々の「性」
- 5日目 わが国における「性教育」に関する問題点①（一般学校）
- 6日目 わが国における「性教育」に関する問題点②（特別支援学級）
- 7日目 わが国における「性教育」に関する問題点③（家庭内親子）
- 8日目 障害をもつ人々の「性」問題に関する現状と課題①（肢体障害）
- 9日目 障害をもつ人々の「性」問題に関する現状と課題②（視覚障害）
- 10日目 障害をもつ人々の「性」問題に関する現状と課題③（知的障害）
- 11日目 障害をもつ人々に保障されるべき「性の権利」①
- 12日目 障害をもつ人々に保障されるべき「性の権利」②
- 13日目 障害をもつ人々の「性」に関するグループ討議①
- 14日目 障害をもつ人々の「性」に関するグループ討議②
- 15日目 「性のノーマライゼーション」を目指して

【評価方法】

出席、授業中の態度、演習への貢献度、試験を総合的に評価する

【テキスト】

障害をもつ人々の性 - 性のノーマライゼーションをめざして - (明石書店)

【参考文献・資料】

講義の際に配布資料を準備する

090652512_0180 掲載順 : 0180

MASTER ▲

コミュニティビジネス論

久野美奈子 西井勢津子

オムニバス 3年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

地域を元気にする仕事、コミュニティビジネス。現在、様々な分野で様々なスタイルのコミュニティビジネスが生まれている。本授業では、地域への貢献とビジネスとしての経営の両面を併せ持つコミュニティビジネスについての概要を理解し、コミュニティビジネス計画・運営の基礎を学ぶものとする。

【授業の目標】

自分の暮らし方や働き方が地域とどう関わっているかを体得し、コミュニティビジネスの多面的な意義や可能性について理解することを目標とする。また座学だけでなく多様なワークショップを通じて、起業家精神（アントレプレナーシップ）に触れ、就職や社会人生活において大切な自ら気づく力を高めることを目標とする。

【授業計画】

- 第1講 オリエンテーション
- 第2講 コミュニティビジネス概論
- 第3講 コミュニティビジネス事例紹介
- 第4講 グループワーク：共感を生み出すコミュニケーション
- 第5講 コミュニティビジネス経営概論
- 第6講 グループワーク：経営感覚を学ぶゲーム
- 第7講 グループワーク：経営感覚を学ぶゲーム（2）
- 第8講 グループワーク：経営感覚を学ぶゲーム（3）
- 第9講 コミュニティビジネス起業概論
- 第10講 ワーク：事業計画づくり
- 第11講 計画発表会
- 第12講 試験

【評価方法】

グループワークにおける参加度・貢献度、および最終成果物である事業計画発表と試験により評価する。

【テキスト】

コミュニティビジネスガイドブック（特定非営利活動法人起業支援ネット 監修・発行）

【参考文献・資料】

好きなまちで仕事を創る（特定非営利活動法人ETIC編 TOボックス発行）

住環境コーディネイト論

渥美正子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者や障害者のQOLを高める視点から生活環境を見直すバリアフリーの段階から、すべての人間が快適に生活するためのユニバーサルデザインへと広がった歴史と意義を理解する。具体的に生活環境の中でユニバーサルデザインを創出する基礎を学習する。

【授業の目標】

高齢者や障害者の自立支援における住環境整備の重要性を理解すること。

【授業計画】

1. 住まいは生活の「器」
2. 住生活の変遷
3. 高齢者の自立支援と住環境整備
4. 高齢者の居住状況
5. 高齢者の住宅内事故
6. 高齢者の住宅改善支援の視点
7. 事例にみる高齢者の住宅改修
8. 介護保険と住宅改修
9. 住宅政策における高齢者向け施策
10. 生活の場としての施設居住
11. 高齢者の新しい居住スタイル
12. 高齢者の住環境整備のめざす方向

【評価方法】

試験とレポートによって行う。

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

授業にて指示する。

地域環境論

西 和久

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

住民参加を進める視点から「住民参加型社会の現状」を理解し、課題を明らかにするとともに、福祉を進める視点からも地域環境を見直していく。具体的には、地域内における住民と社会全体との相互関係を社会心理学的に理解した上で、「環境問題」「医療・健康問題」「福祉問題」等の事例を取り上げ、地域内における住民個人、ボランティア・グループ、行政といった多様な人材が、独自にあるいは相互に連携して、地域環境の問題解決にかかわり関与していけばよいのかについて応用心理学的観点から理解を深める。

【授業の目標】

アクション・リサーチの具体的な事例を通じてコミュニティの問題解決のための様々なアプローチ方法を学ぶとともに、よりよい地域環境を創造するためにはどのような視点が重要であるかについて理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 コミュニティとコミュニティ心理学
- 第3回 コミュニティ心理学のアプローチ
- 第4回 コミュニティ心理学の歴史的背景
- 第5回 コミュニティ心理学と社会制度
- 第6回 関連する学問領域・理論・モデル
- 第7回 コミュニティ心理学的介入・援助とその評価
- 第8回 社会的支援とその組織づくり
- 第9回 コミュニティ心理学的アプローチの実践的展開
- 第10回 環境問題に対する実践例の検討
- 第11回 医療・健康問題に対する実践例の検討
- 第12回 福祉問題に対する実践例の検討 (1)
- 第13回 福祉問題に対する実践例の検討 (2)
- 第14回 総合討論：Change Agentとしての人間
- 第15回 学期末レポートの説明

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）、授業内小レポート、学期末レポートの成績を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

コミュニティ心理学：地域臨床の理論と実践（山本和郎著 東京大学出版会）
臨床・コミュニティ心理学：臨床心理学的地域援助の基礎知識（山本和郎ら編著 ミネルヴァ書房）

家族関係論

永田忠夫

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代家族の多様性と急速に変化する社会情勢・価値観のなかで、最も基本的ではあるが最も危機をはらんだ家族関係を考察し、理解する。家庭内で交わされる家族成員間の関係を把握・分析する方法を学ぶ。また、家族全体の安定を生み出す要因と不安定さを改善する方法を模索する。

【授業の目標】

1. 社会の流動性の中で変容する「家族観」を理解し、認識する。
2. 家族内の人間関係を把握・分析できる力をつける。
3. 家族内で生じている危機の状況を分析し、家族の今後の展望を考察できる。

【授業計画】

以下のテーマで講義する。
進捗は、学生の問題意識・理解度・意欲などを考慮しつつ進めるので、テーマによって講義時間の長短が出てくる。

1. 家族とは何か
 - 1) 家族の定義
 - 2) 家族の構造・機能の変化をもたらしたもの
 - 3) 現代社会における家族観
2. 家族の健康とは
 - 1) 家族の健康をめぐる概念
 - 2) 家族に関する研究
 - 3) 統合的な家族理解
3. 家族ライフサイクル
 - 1) 個人の発達と家族の発達
 - 2) 家族づくりの準備（結婚前）
 - 3) 夫婦について
 - 4) 親子関係について

【評価方法】

出席状況、レポート、テスト等の成績を総合して評価する。

【テキスト】

家族の心理－家族への理解を深めるために－（平木典子・中益洋子共著 サイエンス社）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

公衆衛生論

棚橋昌子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

健康を社会医学の視点から考察する。文明が発展する過程のなかで、国民の健康への影響が明らかになり、半健康状態が一般化している。長寿社会では半健康状態のなかでも快適に生きることは必須の課題である。生活環境と疲労、ストレス対策、生活習慣病を予防するための生活改善等、具体的な事例を通して、公衆衛生の課題を学習する。

【授業の目標】

1. 社会福祉士または精神保健福祉士として必要な公衆衛生学の基礎を学修する。
2. 具体的な日常生活の中から福祉の課題を考える能力を養う。

【授業計画】

- 1回 健康の定義・健康の理解
- 2回 公衆衛生の歴史、疾病構造の変化
- 3回 生活習慣と疾病 (1)
- 4回 生活習慣と疾病 (2)
- 5回 生活習慣と疾病 (3)
- 6回 健康づくり対策と行政
- 7回 生活環境と健康 (1)
- 8回 生活環境と健康 (2)
- 9回 生活環境と健康 (3)
- 10回 文明の発展と健康
- 11回 保健・医療統計 (1)
- 12回 保健・医療統計 (2)
- 13回 地域保健福祉
- 14回 公衆衛生の課題
- 15回 まとめ

【評価方法】

受講態度と授業内演習・テストの総合評価

【テキスト】

毎回プリントを配布する。
関連する課題についての映像を利用する。

【参考文献・資料】

国民衛生の動向（厚生統計協会）
国民の福祉の動向（厚生統計協会）
公衆衛生学入門（吉永文隆編 南山堂）
公衆衛生マニュアル（南山堂）

健康管理論

杉浦信彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢化社会を生きる人々がQOLを維持しつつ生涯にわたって健康で豊かなくらしを営むことができるように、人間の生命を支えるからだの仕組みとその働きを中心に、正しい健康管理のあり方について栄養科学の視点から学ぶ。授業においては食物と栄養素、消化吸収、栄養素の代謝、食習慣病の予防等について栄養生理学的講義を行う。

【授業の目標】

1. 健康の概念を理解する。
2. からだの仕組みとその働きを学ぶ。
3. 栄養科学的側面から正しい健康管理のあり方を考察する。

【授業計画】

1. 健康の定義と指標
2. 生命を支える栄養素とその働き
3. 日本人の栄養摂取の現状と問題点
4. 生命と健康を脅かす要因と対策
 - ・生物的汚染（感染症を中心に）
 - ・化学的汚染（環境汚染を中心に）
5. 加齢と健康管理

【評価方法】

課題レポート等の提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時配布する。

090652512_0250 掲載順:0250

MASTER ★

高齢者医療論

井口昭久

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活習慣病を多く体现すると予想される高齢者の健康状態に配慮し、高齢者の病気の付き合い方はいかにあるべきか、を考える。一方、体力づくりに励む元気な高齢者も増加しており、個人差を念頭において、各自のQOLを高める医療のあり方を学ぶ。

【授業の目標】

高齢者の病態について学ぶ。
高齢者の疾患を理解する。

【授業計画】

- 1) 老化のメカニズム
 - 老化、動脈硬化、脳と老化、寿命
- 2) 高齢者疾患の特徴
- 3) 高齢者の検査
- 4) 高齢者の薬剤
- 5) 多元的高齢者機能評価
- 6) 高齢者の栄養
- 7) 高齢者のかかりやすい病気
 - 1: 心筋梗塞
 - 2: 脳卒中
 - 3: 癌
 - 4: 肺炎
 - 5: 認知症
 - 6: メタボリック症候群
 - 肥満、糖尿病、高血圧、高脂血症、
 - 7: パーキンソン氏病
 - 8: 高齢者の鬱
- 8) 老年症候群
 - 尿失禁、転倒・骨折、せん妄、脱水、褥瘡、電解質異常
- 9) 高齢者の終末期医療

【評価方法】

主に筆記試験による。

【テキスト】

これからの老年学：井口昭久編：名古屋大学出版会

【参考文献・資料】

エンド オブ ライフ・ケア ー終末期の臨床指針-K.Kキューブラ、PHベリー、DEハイドリッヒ
監訳：鳥羽研二：医学書院

東洋的健康論

楊 衛平

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

西洋医学を基礎として構築されている現代の健康観に対して、東洋医学を基礎とした東洋的健康観の特徴を学ぶ。薬膳料理や漢方薬の成り立ち、気功や経絡に基づく鍼灸の原理等を具体的に学び、健康維持における有用性を理解する。

【授業の目標】

東洋医学と西洋医学の特徴を比較し、両医学の相違についての認識を深め、健康増進、病気を予防・治療するために役立つ伝統医学の知識を身につけ、臨床に活用できる能力と技法を持つ人材を養成することを目標とする。

【授業計画】

1. 統合医療と未病医学の新課題
2. 東洋西洋両医学の相違と接点
3. 東洋医学の二重構造と疾病観
4. 陰陽論と五行説の特徴と応用
5. 経絡の構成と鍼灸指圧の原理
6. 生薬の自然属性と薬名の由来
7. 身近な薬用動物と植物の分類
8. 医食同源と薬膳の作り・処方
9. 健康増進に役立つツボと技法
10. 生活習慣病の東洋医学的対策
11. 美容と瘦身に活用できる知恵
12. 高齢者に優しい滋養剤の活用
13. 春夏秋冬における摂生と養生
14. 健康保険にキク漢方と選び方
15. 試験を実施する

【評価方法】

テストの結果30%、レポートと平常点70%を合わせて総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示

【参考文献・資料】

漢方治療のABC（日本医師会）
中医学基礎（日中共同編集、東洋学術出版社）
中医学臨床のための中薬学（神戸中医学研究会、医菌薬出版株式会社）

090652512_0260 掲載順:0260

MASTER ★

母子医療論

渡邊一功

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

少子化が進行するなかで、妊娠出産に関する生殖医療から小児医療まで、医療の現実とあり方を学習する。

【授業の目標】

妊娠、出産に関する医療、不妊治療を中心とする生殖医療、新生児医療の現状と問題点について理解する。

【授業計画】

- 第1回 女性の性機能
- 第2回 妊娠の生理・異常妊娠
- 第3回 子宮内膜症・不妊
- 第4回 性感染症
- 第5回 分娩の生理分娩の異常
- 第6回 産科処置・産褥期
- 第7回 新生児の分類・適応生理
- 第8回 ハイリスク新生児
- 第9回 新生児仮死・分娩損傷
- 第10回 新生児呼吸疾患・循環器疾患
- 第11回 新生児の中枢神経疾患
- 第12回 新生児の消化器疾患・血液疾患・黄疸
- 第13回 低体重出生児・早産児
- 第14回 母子保健
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と筆記試験による

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

標準産婦人科学 第3版 丸尾猛 他編 医学書院
NEW産婦人科学改訂第2版、矢嶋聰 他編、南江堂
新生児学入門 第3版、仁志田博司著、医学書院

介護技術演習

榊原美佐子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

介護の対象者とのコミュニケーション技術を学習し、日常生活で必要とされる介護の基本的技術を習得する。この科目は、介護を必要とする対象者の日常生活における身体的援助を中心に基本的介護の理論と技術を習得する。

個々の持てる力を充分に発揮し、可能な限り自立した生活ができるように援助を行うためにはどうしたらよいか、介護が全人的なケアサービスであることをふまえて、常に主体的に考え、工夫し、対象者および対象者の周囲の環境に働きかけていく姿勢を習得することを目的とする。

【授業の目標】

疾病や傷害、加齢により要介護状態にある人々に対して その人がその人らしく自立した日常生活をいきいきと送れるよう、科学的根拠に基づいた介護のあり方を学び、デモンストレーション及び演習を通して具体的な援助技術を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション（講義内容、演習方法、履修上の注意事項、評価方法提示）
社会福祉士と介護技術、コミュニケーション技術、遊びリテーション
- 第2回 特定疾患、障害のある方への介護（脳血管疾患、パーキンソン病、認知症、視覚障害、聴覚障害など）
- 第3回 介護に生かすフィジカルアセスメント、バイタルサイン 演習
- 第4回 寝たきりにならないための移動の技術（1）閉じこもりと廃用性症候群、寝返り、演習
- 第5回 寝たきりにならないための移動の技術（2）起きあがり、立ち上がり、演習
- 第6回 寝たきりにならないための移動の技術（3）車椅子への移乗、走行介助、杖歩行の介助 演習
- 第7回 口腔ケア 演習
- 第8回 食事のケア
- 第9回 食事のケア 演習
- 第10回 衣服着脱のケア 演習
- 第11回 排泄のケア
- 第12回 排泄のケア 演習
- 第13回 入浴のケア
- 第14回 入浴のケア 演習
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、演習時の実施状況と提出物（9回）、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】

介護概論（新版社会福祉士養成講座 14 中央法規）
介護技術 1, 2（新版社会福祉士養成講座 1213 中央法規）
形態別介護技術（新版社会福祉士養成講座 14第2版 中央法規）
介護技術（津久井十 介護福祉士選書 15 建邦社）
介護基礎学（竹内孝仁著 医師薬出版株式会社）
完全図解 新しい介護（大田仁史、三好春樹著 講談社）

文献講読演習

伊藤春樹 佐々木政人 杉浦信彦 須永進
諏訪真美 瀧 誠 西 和久 永田忠夫

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミで、独自のテーマに関する関連分野の参考図書や参考文献の検索方法を学び、基本文献を講読し、福祉貢献研究および卒業論文へと展開する準備を行う。

【授業の目標】

医療福祉研究を行う上での文献の収集、精読、整理の一連の作業が行えるようにする。加えて単に文献から情報を得るのみならず、批判的に論文を吟味し、内容を精査する能力を養う。

【授業計画】

- 全15回の演習で以下の内容を扱う。
1. 文献講読の基礎
 2. 学術論文の検索と収集
 3. 文献の精読と内容精査
 4. 文献整理の方法
 5. レビュー論文の執筆方法（複数の文献を統合する）
 6. 個人発表（あるトピックに添った文献を系統的にレビューし、その内容を口頭発表する）

【評価方法】

出席状況、受講態度、学期末レポートの成績を総合的に判断して評価する。本演習ではグループ・ディスカッションを重視する。したがって文献の内容を理解するとともに、積極的にディスカッションに参加することが求められる。

【テキスト】

各担当教員が指定する。
担当教員が教科書を指定した場合、必ず購入すること。

【参考文献・資料】

授業の際、別途指示する。

資料収集法

棚橋昌子 永田忠夫 西 和久

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

研究資料を収集する技法の基礎を学習する。科学的に検証に値するデータ収集と統計的処理をする能力を養う。

【授業の目標】

質問紙調査、面接調査、仮想ゲームによるデータ収集技法を習得し、そのデータを分析する能力を養う。

【授業計画】

学生は各クラスごとに各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

- 第1回 オリエンテーション（全学生）
第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

1. 質問紙調査法
 - 1) 質問紙調査法の解説・グループごとにテーマを決める
 - 2) 調査票の作成およびプレ調査
 - 3) 調査票の整理および分析
 - 4) 調査結果のまとめ
 2. 面接法
 - 1) 面接法の解説・グループごとにテーマを決める。
 - 2) 面接内容の細部検討・面接記録用紙を作成する。
 - 3) 面接記録の整理と分析
 - 4) 面接記録のまとめ
 3. 仮想ゲーム
 - 1) 研究デザイン、実験手続きおよび測定方法を理解する。
 - 2) ゲームあるいは実験を実施し、データを収集する。
 - 3) 収集されたデータを集計・統計解析を施し、仮説の検証を行う。
 - 4) 研究結果をレポートにまとめる。
- 第14回・第15回（全体演習） まとめ

【評価方法】

各資料収集法担当ごとに、出席、授業態度、レポート等によって総合的に評価する。その上で3つの資料収集法の平均をこの授業科目の評価とする。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

福祉貢献研究Ⅰ

井口昭久 伊藤春樹 神波幸子 佐々木政人 杉浦信彦 須永進
諏訪真美 瀧 誠 棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 西 和久 春見静子

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

主に専任教員による少人数ゼミナールである。習得した知識・技術・技能・実習体験を活用して、幅広い視点から福祉貢献の課題を発見し、問題意識を形成する。

【授業の目標】

各学生がこれまでに学習した専門領域に関する学問的知識や技能あるいは実習体験をもとに問題意識を明確にしながら自主的な研究テーマを選定し、それらに関連した文献研究を学習した上で、絞り込まれた福祉貢献研究レポート・卒業論文のテーマを決定する。

【授業計画】

- ゼミナール形式で授業を運営する。各自の進度に合わせて指導する。
1. 問題意識の整理
 2. 文献・資料の検索及び収集
 3. 研究テーマの絞込み
 4. 研究テーマに基づき、問題及び目的を明確化する。
 5. 研究計画の報告

【評価方法】

出席状況、受講態度（ゼミでの発言状況や発表への取り組み方など）、課題の達成度（進捗ごとの発表・報告レポートにより評価）、福祉貢献研究計画書等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

各ゼミ担当者の選定による。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

福祉貢献研究 II

井口昭久 伊藤春樹 神波幸子 佐々木政人 杉浦信彦 須永進
諏訪真美 瀧 誠 棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 西 和久 春見静子

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「福祉貢献研究I」の成果を踏まえて、主体的に具体的な調査または実験等を計画し、専門の研究を深める。ゼミナール指導教員の特徴を生かした授業計画により進行し、学術研究を展開する。

【授業の目標】

福祉貢献研究Iの学習成果をさらに発展させ、実証的態度で検証し、論理的な展開でまとめ上げた福祉貢献研究レポートを完成させる。

【授業計画】

ゼミナール形式で授業を運営する。各自の進度に合わせて指導する。

福祉貢献研究Iで作成した研究計画に基づき、問題及び目的を実証・検証できる資料・データを収集し、その結果を整理し、考察を加えて、研究レポートとしての体裁を整えた福祉貢献研究レポートを作成する。

【評価方法】

出席状況、受講態度（ゼミでの発言状況や発表への取り組み方など）、課題の達成度、福祉貢献研究レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

各ゼミ担当者の選定による。

【参考文献・資料】

必要に応じて授業内で指示する。

2004年度から2007年度入学者対象

言語聴覚学基礎演習

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚障害学、言語聴覚学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業の目標】

言語聴覚士に必要な考え方や基礎的知識を学ぶと同時にデータベースの使い方、文献探索、レポートの書き方を学ぶ。また、介護と保育の施設で体験学習をすることで、成人と小児の臨床を経験する。

【授業計画】

ゼミ形式（5-6人）で以下の事柄を学ぶ。

1. 言語聴覚学研究法
2. データベースの使い方(文献探索)
3. 図書館の利用法
4. レポートの書き方
5. 言語聴覚学とその障害の基礎知識
6. 言語聴覚士の臨床
7. 言語聴覚士法
8. 言語聴覚士の倫理
9. 施設体験学習（介護と保育）

【評価方法】

出席、レポート、体験学習の内容を評価する。

【テキスト】

授業にて紹介する。

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

実験計測演習

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理物理学研究における刺激や関連の物理量の正確な計測に必要な基礎的事項について理解し、物理計測器や光計測器を、その機能、特性の理解に基づいて正しく活用する技能を学習する。
(川嶋英嗣准教授) 照度の測定
(高橋啓介教授) 色の測定
(高橋伸子教授) 輝度の測定

【授業の目標】

基本的な計測機器の取り扱いとデータの処理法について、測定を通して習得する。

【授業計画】

受講生を3つのグループに分け、それぞれについて以下のスケジュールで演習を行う。

第1回 オリエンテーション（全グループ合同）

第2回～第4回

Aグループ：照度の測定・Bグループ：輝度の測定・

Cグループ：色の測定

第5回～第7回

Aグループ：輝度の測定・Bグループ：色の測定・

Cグループ：照度の測定

第8回～第10回

Aグループ：色の測定・Bグループ：照度の測定・

Cグループ：輝度の測定

第11回～第13回 コンピュータを用いた計測（全グループ合同）

第14回～第15回 まとめ

【評価方法】

出席（15点）、演習態度（25点）、レポート（15点×4回）の合計100点満点で、60点以上を合格とする。

【テキスト】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

医療貢献学科 言語聴覚学専攻中心基礎科目

リハビリテーション概論

原田良實

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

リハビリテーションとは何か、その言葉の由来、定義、沿革、病気と障害の相違・関係、障害の統計、障害の階層的分類、対策、ノーマライゼーション、インフォームドコンセント、障害者の自己決定権、障害の告知等の学習を通して、リハビリテーションが障害者の全人格的復権を目的とする行為であることを理解する。

【授業の目標】

障害者全般について概観するなかで、リハビリテーションについて、その位置と重要性を理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜にプリントを配布する。

第1回 「リハビリテーション」とは何か。言葉と定義

第2回 「障害者」とは何か。言葉と定義

第3回 障害者の歴史と障害者観

第4回 調査にみる障害者の実態

第5回 障害を持つということ

第6回 障害の告知・受容・リハビリテーション

第7回 障害をもつ人の福祉 (1)

第8回 障害をもつ人の福祉 (2)

第9回 相談援助

第10回 リハビリテーションの事例から考える (1)

第11回 リハビリテーションの事例から考える (2)

第12回 リハビリテーションの事例から考える (3)

第13回 リハビリテーション・障害者福祉関連情報

第14回 期末試験

第15回 「リハビリテーション」とは、まとめ

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視覚障害リハビリテーション概論（坂本洋一 中央法規出版）
社会生活力プログラム・マニュアル（赤塚光子 中央法規出版）

言語聴覚学研究法

古田嘉照 堀田千絵 村木恭子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学で必要とされる実験法、観察法、質問紙調査法について学び、「言語聴覚学研究」へ展開する準備を行う。

【授業の目標】

卒業研究の準備として科学的研究の基礎を演習することを目的に調査法、実験法などについて研究計画立案から結果の処理までの過程をグループで演習形式でワークで学習する。（クール制；4回ずつ）

【授業計画】

1回目 オリエンテーション

2回目 言語理解に関する実験（村木先生）

3回目 言語理解に関する実験

4回目 言語理解に関する実験

5回目 言語理解に関する実験

6回目 レポート課題評価

7回目 言語表出に関する実験（古田先生）

8回目 言語表出に関する実験

9回目 言語表出に関する実験

10回目 言語表出に関する実験

11回目 実態調査の質問紙試作と集計（堀田先生）

12回目 実態調査の質問紙試作と集計

13回目 実態調査の質問紙試作と集計

14回目 実態調査の質問紙試作と集計

15回目 まとめ

【評価方法】

課題と授業程度により評価

【テキスト】

必要に応じて資料配布

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアルー入門から基礎・発展へ（利島保（編）
北大路書房 1993年）
心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編） 北大路書房 1998年）

心理実験法演習Ⅰ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の感覚・知覚について、特に視覚、聴覚、触覚の各モダリティーに重点を置き、心理物理学的測定法の諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法に習熟することによって、コミュニケーション障害に関する研究技能の基礎を習得する。

【授業計画】

学生は2つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション（全学生）
 第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。
- ・ ミュラー・リヤー錯視：調整法
 - ・ 明るさの測定：マグニチュード推定法
 - ・ 絶対閾の測定：信号検出理論
 - ・ レミニにセンス効果の測定：実験スケジュールの調整
 - ・ 対連合学習と系列暗記学習：経験破壊法
 - ・ 鏡像描写：知覚－運動協応と両側性転移
 - ・ 伝言ゲーム：コミュニケーションによる情報の変容
 - ・ 触二点閾：極限法
 - ・ リッカート法：尺度構成法

第14回・第15回
 まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（13点満点）、各課題のレポート（8点×9＝72点満点）とし、60点以上取得で合格とする。
 ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル－入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
 心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

090653013_0070 掲載順:0070

MASTER ★

対人技術演習

小川昌代

3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

医療機関のスタッフの一員として働くために必要なコミュニケーション技術やマナーについて理解する。理解した事が相手に伝わるように技術を身につける。

【授業の目標】

医療現場に必要なコミュニケーションスキルを知り、身につける。特に臨床実習に向けて身につけたい基本的なコミュニケーション技術やマナーの必要性を理解し、演習で確認する。

【授業計画】

1. オリエンテーション（医療現場の現実と必要なマナー）
2. 第一印象の重要性
3. 挨拶の仕方
4. 電話応対
5. ビジネス文書（実習先 お礼状の書き方）
6. ロールプレイⅠ
7. ロールプレイⅡ

【評価方法】

出席状況と演習態度
 ロールプレイ評価

【テキスト】

配布資料のみ

【参考文献・資料】

「患者応対マナーBOOK」深堀 幸次 著 医学通信社
 「PatientSatisfaction看護マナーブック」江藤 かおる 著 学習研究社

心理実験法演習Ⅱ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の視覚、聴覚、触覚の各モダリティーの認知的特性や機能について、実験的に測定、追究する諸技法を習得する。

【授業の目標】

心理物理学的測定法技能の定着を目指すとともに、尺度構成法に習熟することで、コミュニケーション障害の諸研究を行う高度な技能の習得をめざす。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

- 第1回 オリエンテーション（全学生）
 第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。
- ・ 実体鏡視：マグニチュード推定法
 - ・ 味覚の測定：マグニチュード推定法
 - ・ 大きさの恒常性：極限法
 - ・ 色視野の測定：調整法
 - ・ ストループ効果：信号検出理論
 - ・ 色の弁別閾の測定：恒常法
 - ・ SD法：尺度構成法
- 第14回・第15回（グループ別演習）
 まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（15点満点）、各課題のレポート（10点×7＝70点満点）とし、60点以上取得で合格とする。
 ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記にかかわらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

心理学のための実験マニュアル－入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
 心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

090653013_0080 掲載順:0080

MCode:090654316_0020 ★

視覚心理特論

高橋啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

錯視現象、知覚的恒常性、両眼立体視、奥行き知覚について、これまでの実験的研究の知見に基づきながら理解を深めることを通して、逆光学推論系としての視覚の特性とメカニズムについて考察する。
 さらに、高次脳機能障害に基づく視覚障害者の症例研究から、中枢系の視覚メカニズムの特性について知見を深める。

【授業の目標】

視知覚のうち、特に初期知覚の特性についての知見を学ぶことで、課題解決推論系としての視覚情報処理系の特性について理解する。さらに、高次脳機能と視覚との関係について、症例に基づきながら知見を深める。

【授業計画】

- 第1回 ステレオグラムの実体験
- 第2回 ステレオグラムの意味するもの
- 第3回 計算推論系としての視覚情報処理系
- 第4回 ランダムドット・ステレオグラムという方法
- 第5回 ランダムドット・ステレオグラムがもたらしたもの
- 第6回 視覚系の適応性1
- 第7回 視覚系の適応性2
- 第8回 視覚系の適応性3
- 第9回 視覚系の適応性4
- 第10回 心理物理学と脳科学1
- 第11回 心理物理学と脳科学2
- 第12回 心理物理学と脳科学3
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

出席15点満点、単位認定テスト85点満点とし、両者合計で60点以上取得の者を合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

Q&Aでわかる脳と視覚－人間からロボットまで－（乾敏郎 サイエンス社）
 視覚の文法－脳が物を見る法則（ドナルド・D・ホフマン 紀伊國屋書店）
 「意識」とは何だろうか－脳の来歴、知覚の錯誤－（下條信輔 講談社現代新書）
 視覚の謎－症例が明かす〈見るしくみ〉

色彩心理学

坂田勝亮

1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

色発現の光学的メカニズムと心理メカニズムについて理解し、色知覚の諸現象の特性、メカニズム、その応用について学ぶ。

【授業の目標】

心理現象としての色彩について理解するとともに、その物理学的、生理学的基礎についても理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 色彩とは
- 第2回 色彩の光学的基礎
- 第3回 スペクトルの観察
- 第4回 照明光源
- 第5回 混色とメタメリズム
- 第6回 色彩の生理学的基礎
- 第7回 色覚モデル
- 第8回 表色系・均等色空間
- 第9回 色名と基本色彩語
- 第10回 色彩の心理的現象1: 錯視
- 第11回 色彩の心理的現象2: 同化と対比
- 第12回 色彩の心理的現象3: 主観色
- 第13回 色彩の心理的現象4: 順応と恒常性
- 第14回 色彩の心理的現象5: 理想とイメージ
- 第15回 試験

なるべく多くの実体験を供するよう、実習を交えながら講義形式で行う

【評価方法】

授業中における勉学状況、および試験を実施する予定

【テキスト】

カラーコーディネーターのための色彩心理入門（近江源太郎著 日本色研事業株式会社）

【参考文献・資料】

必要に応じ、講義中に指示する

090653013_0110 掲載順 : 0110

MCode:090649506_0060 ★

生涯発達心理学

松岡弥鈴

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の生涯の発達について、心身がいかに変化、成熟するかについて理解する。胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解するとともに、その過程を説明するさまざまな発達理論について学ぶ。

【授業の目標】

生涯にわたる人間の発達という複雑な現象を、発達心理学の領域ではどのように捉えてきたのか。発達心理学の基礎を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 代表的な発達理論
- 第3回 遺伝と環境
- 第4回 発達の初期の認知発達
- 第5回 愛着の発達
- 第6回 ことばの発達
- 第7回 情動の発達
- 第8回 パーソナリティの発達
- 第9回 児童期
- 第10回 青年期
- 第11回 中年期
- 第12回 老年期
- 第13回 発達の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席、授業時間中に実施するショートレポート、テストの成績による

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

必要な資料は、授業時間中に配布する。

音響学・聴覚心理学

城 哲哉 吉川雅博

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超筋筋的要素の音響的特徴について学習するとともに、音声情報処理の生理機構、可聴範囲、音の心理物理学、マスキング現象、両耳聴の効果と音源定位、生活環境と聴覚との関係などについて学習する。

【授業の目標】

- 1 音声を音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
- 2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつかを理解する。
- 3 病的音声の音響分析や聴力測定などの音響の応用的側面について理解を深める。

【授業計画】

講義は二人の担当者が分担して行い、まず前半（第1回～第7回）で音の物理的特性や音声の音響特徴に触れ、後半（第8回～第14回）で音声の聴覚処理について講義を進める。テキスト（「言語聴覚士のための音響学」）の該当章を下に示す。

- 第1回 音の物理入門（第1章）
- 第2回 スペクトル（第3章）
- 第3回 音声生成の音響学（第5章）
- 第4回 前回の続き（第5章）
- 第5回 音のデジタル信号処理（第6章）
- 第6回 日本語音声の音響的特徴（第7章）
- 第7回 前回の続き（第7章）
- 第8回 信号としての音波（第2章）
- 第9回 病的音声の音響的特徴（第8章）
- 第10回 聴覚の基本構造（第9章）
- 第11回 伝達関数（第4章）、聴覚フィルタとマスキング（第10章）
- 第12回 音の大きさの知覚と認知（第11章）
- 第13回 音の高さの知覚と認知（第12章）
- 第14回 音声の知覚と認知（第13章）
- 第15回 まとめと試験

【評価方法】

最終試験（国試に準じた5択式）により評価する。

【テキスト】

言語聴覚士のための音響学（今泉敏著 医歯薬出版株式会社）
図解雑学 音のしくみ（中村健太郎著 ナツメ社）

【参考文献・資料】

- ・音入門～聴覚・音声科学のための音響学（チャールズ・E.スピークス著、荒井隆行、菅原勉 監訳）
- ・音声の音響分析（レイ・D.ケント、チャールズ・リード著、荒井隆行、菅原勉 監訳）
- ・音声知覚の基礎（ジャック・ライアルズ著、今富真子、菅原勉、荒井隆行 監訳）
- ・音声・聴覚のための信号とシステム（スチュアート・ローゼン、ピーター・ハウエル著、荒井隆行、菅原勉 監訳）
- ・言語聴覚士の音響学入門（吉田友敬著）

以上の5冊すべて出版社は、海文堂です。

090653013_0120 掲載順 : 0120

MCode:090649506_0070 ★

臨床心理学

戸田裕美子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人格理論、発達各期における心理臨床的問題や意識障害、適応障害などについて学び、さらにそれらに対する心理療法やカウンセリングの構造や特性について学ぶ。

【授業の目標】

1. 臨床心理学について学び、現代社会に生じる心理臨床的問題、意識障害、適応障害について、そのメカニズムを含め考察する。
2. 人格理論にもとづいた実践である心理療法を学び、心理的援助の理解を深める。

【授業計画】

1. 「臨床心理士」について（自己紹介）
2. 心理臨床的問題について
 - ・発達段階において考える
 - 乳幼児期、児童期・思春期、青年期、中年期、老年期
 - ・精神障害
3. 人格理論と心理療法
 - ・クライエント中心療法
 - ・精神分析療法
 - ・行動療法
4. アセスメント
5. 他職種との連携

【評価方法】

期末試験及び授業内に行われる小レポートによるが、授業への参加関与度を考慮する

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する

認知・学習心理学

河野和明

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

情報処理的アプローチによる人間の視覚認知や聴覚認知、注意、記憶、知識と表象などの研究から基本的な事項や代表的モデルを取り上げて解説するとともに、人間の環境適応を支える基礎的課程である学習の特性、メカニズム、機能について解説する。

【授業の目標】

認知心理学および学習心理学の諸概念を把握し、基本的な考え方を理解した上で応用的な側面を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 人間の適応の心理的基盤
- 第2回 知覚情報処理
- 第3回 短期記憶
- 第4回 長期記憶
- 第5回 忘却
- 第6回 知識表象の構造
- 第7回 注意過程
- 第8回 バヴロフ型条件づけ(1)
- 第9回 バヴロフ型条件づけ(2)
- 第10回 バヴロフ型条件づけ(3)
- 第11回 オペラント条件づけ(1)
- 第12回 オペラント条件づけ(2)
- 第13回 オペラント条件づけ(3)
- 第14回 観察学習とモデリング
- 第15回 まとめ

【評価方法】

開講期間中数回の小テストを実施し評価する。進捗等により期末試験を課す。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

【参考文献・資料】

山内光哉・春木豊(編著) 2001 グラフィック学習心理学 サイエンス社
 ラックマン,R. ラックマン, J. L. バターフィールド 1988 認知心理学と人間の情報処理Ⅰ～Ⅲ サイエンス社
 その他は、授業において示す。

090653013_0341 掲載順:0145

MCode:090649506_0271 ●

言語学

出嶋真由美

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語を生物としてのヒトとの関係でとらえ、言語の単位と構造について理解する。語彙、形態論、統語論、意味論、音韻論、語用論について、基礎的理解を形成し、個別言語として日本語の構造と特徴について学ぶ。さらに、言語と社会、文化との関係についても学習する。

【授業の目標】

日本語と英語を対照しながら、言語の構造を理解する。日本語の特徴を理解し、言語発達や言語障害の基礎知識を構築する。

【授業計画】

- 第1回 言語学の出発点
- 第2回 意味論
- 第3回 意味論と語彙
- 第4回 品詞と語彙
- 第5回 統語論
- 第6回 統語論
- 第7回 形態論
- 第8回 形態論
- 第9回 音韻論
- 第10回 音韻論と形態論の接点
- 第11回 文法理論: 格文法
- 第12回 文法理論: 生成文法
- 第13回 文法理論: 創発主義
- 第14回 語用論
- 第15回 語用論

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

よくわかる言語学入門: 解説と演習 (町田健・初山洋介著 バベル・プレス)

【参考文献・資料】

基礎日本語文法—改訂版 (増岡隆志・田窪行則著 くろしお出版)

発達障害学

渡邊一功

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害等の発達障害について学習し、それらの障害の発生原因、機序、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業の目標】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害などの発達障害の発生原因、病態、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業計画】

- 第1回 発達障害とは
概念 原因
- 第2回 精神発達障害(1)
知的障害
- 第3回 精神発達障害(2)
コミュニケーション障害 学習障害
- 第4回 精神発達障害(3)
注意欠陥多動障害
- 第5回 精神発達障害(4)
広汎性発達障害
- 第6回 運動発達障害(1)
脳性麻痺
- 第7回 運動発達障害(2)
神経筋疾患
- 第8回 重症心身障害児
- 第9回 発達障害の医療的ケア(1)
てんかん
- 第10回 発達障害の医療的ケア(2)
呼吸障害 摂食障害
- 第11回 発達障害の医療的ケア(3)
栄養障害 消化器疾患 睡眠障害
- 第12回 発達障害児の療育
- 第13回 発達障害の教育
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

発達障害児の医療・療育・教育(松本昭子・土橋圭子編 金芳堂)

【参考文献・資料】

発達障害医学の進歩1-20(診断と治療社)
 小児神経学(加我牧子 稲垣真澄 有馬正高編著 診断と治療社ISBN:9784787816559)

090653013_0180 掲載順:0180

MASTER ★

音声学・音響学特論

城 哲哉

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

調音音声学について実演を交え理解する。さらにソフトウェアを利用して音声の音響分析を行う。

【授業の目標】

- 次のような力の涵養を目標とする。
- 1) IPA(国際音声学)による音の表記、発音、聴き取り能力
 - 2) 音響分析の基本的な技量
 - 3) 調音器官の動きと音響出力の関係を理解する力
 - 4) 音響分析の結果を分かりやすく提示する表現能力

【授業計画】

- 第1回 授業概要説明
- 第2回 IPA(国際音声学)による日本語音声表記
- 第3回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(1)
- 第4回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(2)
- 第5回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(3)
- 第6回 音声の録音、再生、処理、加工
- 第7回 音声分析法
- 第8回 日本語音声による分析法の実際: 母音
- 第9回 日本語音声による分析法の実際: 破裂音
- 第10回 日本語音声による分析法の実際: 摩擦音
- 第11回 日本語音声による分析法の実際: 鼻音、流音
- 第12回 日本語音声による分析法の実際: プロソディ
- 第13回 調音運動と音響特性(1)
- 第14回 調音運動と音響特性(2)
- 第15回 まとめ

【評価方法】

授業中の提出物 50%
 最終レポート 50%

【テキスト】

音声工房を用いた音声処理入門(石井直樹著 コロナ社)

【参考文献・資料】

国際音声記号ガイドブック(国際音声学会編、竹林滋、神山孝夫訳 大修館書店)
 日本語音声入門(斉藤純男著 三省堂)
 実践音声入門(J.C.Catford著、竹林滋 他訳 大修館書店)
 音声研究入門(今石元久編 和泉書院)
 音声生成の科学(Ingo R. Titze著、新美成二監訳 医歯薬出版株式会社)
 音声の音響分析(R.D.Kent、C.Read著、荒井隆行 他訳 海文堂)
 新ことばの科学入門(G.J.Borden 他著、廣瀬肇訳 医学書院)

言語聴覚学と社会福祉

遠藤尚志 山口千恵子

オムニバス 4年 前期・前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

福祉・介護分野での言語聴覚士の役割について理解する。特に介護保険制度の仕組み、高齢者福祉・介護におけるリハビリテーションの位置づけ、福祉・介護領域の専門職が対象とする領域、福祉・介護領域の専門職との連携方法について学ぶ。

【授業の目標】

失語症者の長期継続ケア（生活ケア）活動を日本の社会福祉制度（特に介護保険制度）の中で位置づけた上で、言語聴覚士が社会リハビリテーション活動を行うための原理と方法を身につける。

【授業計画】

1. 言語聴覚士の職業活動を支える財源、制度および社会資源についての理解を深める。
2. 言語聴覚士の社会的役割が分析的・論理的思考による問題の「診断と評価」にあることを知って、その認識のもとに評価報告書の作成を体験する。
3. 言語聴覚士の活動が、「医学モデル」（障害を治す、軽減する）と「生活モデル」（ADLを外界とのコミュニケーションの出発点とする）と「社会モデル」（障害をもつ人を社会が受け入れる）の3つの交わる点にあることを理解する。
4. 言語聴覚士の行う仲間づくりの活動の具体例から、「言葉で20%しか表現できないなら残りの80%は周りの私たちが引き受ける」という失語症者にやさしい社会への展望をもつ。

【評価方法】

1. 事前レポートの提出（10点）
2. 講義中の演習1～5の成績（各8点。計40点）

【テキスト】

広瀬肇（監修）「言語聴覚士テキスト」。医歯薬出版、2005年

【参考文献・資料】

遠藤尚志「言葉の海へ－失語症ケアの始まりと深まり」。筒井書房、1996年
大田仁史・遠藤尚志・失語症者家族「失語症と言われたあなたへ」。エスコーアル、2008年

090653013_0210 掲載順 : 0210

MCode:090649506_0150 ★

基礎医学II（解剖学）

安藤富士子

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

人体の基本的構造や機能について学習する。系統解剖学的に器官系、器官、組織の形態・構造の特徴、機能との関連について発生学的観点を加えつつ理解する。生体全体としての正常な機能遂行のための神経系、内分泌系の動きについても学習する。

【授業の目標】

人体の形、構造を正しく理解し、人体の機能や病態を理解するための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

1. 総論
人体の構成（細胞・組織・器官、器官系）
生体の防御機構
2. 各論
運動器
循環器
消化器
呼吸器
神経・感覚器
腎・尿路・生殖器
内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ヒューマンバイオロジー人体と生命（坂井建雄ら監訳、医学書院）
ロス&ウィルソン健康と病気のしくみがわかる解剖生理学（島田達生ら訳、西村書店）
ネッター解剖生理学アトラス（相磯貞和ら訳、南江堂）
わかりやすい解剖生理 構造と機能への入門（石川春律ら訳、文光堂）
からだの構造と機能（三木明徳ら訳、西村書店）
コアテキスト1 人体の構造と機能（下 正宗編 医学書院）
図解ワンポイントシリーズ1 解剖学 人体の構造と機能（渡邊 酷、医学芸術社）

090653013_0220 掲載順 : 0220

MASTER ▲

基礎医学IV（病理学）

安藤富士子

1年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

身体、器官、組織における正常な構造、機能と対比して、疾病や障害の病態や回復過程について学習する。病理学総論では疾病の原因や炎症、腫瘍、循環障害等の病気の基本概念を正しく学習する。病理学各論では臓器や器官ごとの機能が疾病によってどのように変化するか、その経時的な過程と生体の反応による回復過程について学習する。

【授業の目標】

身体における疾病と障害の成り立ちと回復過程について理解する。疾患を表面的にとらえるのではなく、常に解剖学、生理学における正常像と疾病に於ける異常像を対比してとらえ、病態とその回復過程を病因論的に理解することにより、臨床医学を学ぶための基礎とする。

【授業計画】

講義形式による。

1. 総論
病理学とは
疾病の原因
細胞・組織の障害と修復、再生
病理的变化（循環障害、炎症、先天異常、老化、腫瘍）
遺伝と免疫
2. 各論
運動器
循環器
消化器
呼吸器
神経・感覚器
腎・尿路・生殖器
内分泌器

【評価方法】

おもに出席状況、筆記試験により評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ルービン カラー基本病理学（河原栄ら監訳、西村書店）
カラーで学べる病理学（渡辺照男、ノベルヒロカワ）
カラー図解 症状の基礎からわかる病態生理（松尾 理監訳、メディカル・サイエンス・インターナショナル）

脳波学・画像診断学

家田俊明

3年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

脳波の生理学的基礎を理解し、大脳皮質における高次機能の局在について画像診断によって習得する。

【授業の目標】

日常診療における臨床例から話題を提供し、実践的な知識を身につけるとともに、その歴史的、文化的な背景にも理解を深める。まず、実際の臨床例を紹介し、言語聴覚士がどのように臨床に関わっていくかを理解する。ついで、脳波学・画像診断学の理解に必要な神経解剖学、神経症候学的知識を復習し、脳波やさまざまな画像診断技術の基礎的な知識も身につける。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 脳卒中の診断と治療
- 第3回 脳卒中のチーム医療・地域連携医療における言語聴覚士の役割
- 第4回 アルツハイマー型認知症の臨床
- 第5回 認知症をきたすその他の疾患の臨床
- 第6回 脳波学・画像診断学のための神経解剖学
- 第7回 脳波学・画像診断学のための神経症候学 1 運動と感覚
- 第8回 脳波学・画像診断学のための神経症候学 2 高次機能
- 第9回 脳波学・画像診断学のための神経放射線学 1 CT・MRI
- 第10回 脳波学・画像診断学のための神経放射線学 2 SPECT
- 第11回 脳波学・画像診断学のための神経生理学
- 第12回 演習 1 脳卒中の診療における脳波学・画像診断学
- 第13回 演習 2 認知症の診療における脳波学・画像診断学
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

【評価方法】

期末試験

【テキスト】

高次機能マエストロシリーズ②画像の見かた・使いかた（三村将、早川裕子、石原健司、浦野雅世著 医歯薬出版株式会社）

【参考文献・資料】

画像診断のための脳解剖と機能系（Kretschmann H-J, Weinrich W 著、久留裕、真柳佳昭訳 医学書院）

臨床医学 I (内科学・精神医学・小児科学)

大野竜三 諏訪真美 渡邊一功

オムニバス 1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

内科学の位置づけ、内科疾患の原因論とその学問的發展について理解し、臨床上で重要な症候群について学ぶ。さらに正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。そしてさまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。

【授業の目標】

- (1) 体のしくみと機能を学ぶ。
- (2) 医療福祉関係者として働く際、知っておくべきよく見られる病気について理解する。
- (3) 小児の発達について理解し、代表的な疾患について理解する。
- (4) 精神障害、精神的疾患について理解し、その治療や援助について学ぶ。

【授業計画】

- (1) 生きてゆくための体の機能(血液、血圧、ホルモン、免疫など)
- (2) よくみられる病気 (1) (心臓、呼吸器、胃腸など)
- (3) よくみられる病気 (2) (がん、感染症、血液など)
- (4) 生活習慣病(種類、予防法など)
- (5) 多肢選択式筆記試験
- (6) 小児の発達
- (7) 小児保健
- (8) 小児の疾患 (1)
- (9) 小児の疾患 (2)
- (10) 小児の疾患 (3)
- (11) ライフサイクルにおける精神保健
- (12) 精神の疾患 (1)
- (13) 精神の疾患 (2)
- (14) 精神の疾患 (3)
- (15) 治療技法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

090653013_0250 掲載順:0250

MASTER ★

形成外科学

大久保文雄

2年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

創傷治療と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

- 1 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 2 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 3 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患(頭頸部腫瘍を中心に)を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

- 1 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科の治療法
 - 3) 創傷治療と組織移植
- 2 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
- 3 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定無し

【参考文献・資料】

講義中に配布

小児科学

渡邊一功

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。小児の視聴器の形態的および機能的発達について理解し、眼科疾患・言語聴覚疾患の特徴、治療法の簡単なアウトラインを学び、小児眼科検査法についても理解を深める。さらに、重度視力障害児、重度聴覚障害児のリハビリテーションについても学ぶ。

【授業の目標】

小児の成長発達、保健、小児疾患の原因、病態、治療について理解する。

【授業計画】

- 第1回 小児の成長と発達
- 第2回 小児の栄養
- 第3回 小児の生活と保健
- 第4回 出生前小児科学
- 第5回 新生児疾患
- 第6回 代謝・内分泌・栄養性疾患
- 第7回 消火器・循環器疾患
- 第8回 感染症・呼吸器疾患
- 第9回 血液疾患・腫瘍
- 第10回 アレルギー疾患・膠原病
- 第11回 神経疾患・筋疾患・心身症
- 第12回 泌尿器疾患・寄生虫疾患・事故
- 第13回 看護と救急処置
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、期末試験による

【テキスト】

最新育児小児病学、改訂第4版、南江堂 (ISBN 4-524-21682-0)

【参考文献・資料】

ネルソン小児科学 原著 第17版 原著編集 R.E.Behrmanほか 衛藤義勝 監修 エルセビア・ジャパン2006
標準小児科学 第6版(森川昭廣ほか編 医学書院 2006)
小児科学 第3版(大関武彦他総編 医学書院2008)

090653013_0260 掲載順:0260

MCode:090649506_0170 ★

臨床医学 II (臨床神経学)

岡田久

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚・聴覚、言語の領解や発語、身体運動・感覚などの脳・神経機能の基礎を学び、脳・神経系の主要症候、疾患について、病状、発現機序、病因、検査法および治療について学ぶ。

【授業の目標】

- 1 臨床神経学の概要を理解する。
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の解剖・機能および、検査・評価法について理解する。
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候を理解する。
- 4 言語および視覚機能に関連した脳・神経系の主要疾患および医療現場で知っておくべき脳・神経系疾患の病状、発現機序、病因、治療およびEvidence Based Medicine(EBM)について理解する。

【授業計画】

- 1 言語および視覚機能を中心とした脳・神経機能の基礎
 - 1) 脳・神経系の解剖
 - 2) 脳・神経系の機能
 - 3) 脳・神経系の検査・評価法
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候
 - 1) 意識障害・精神症状・知能障害・睡眠障害
 - 2) 失語・失音
 - 3) 失行・失認
 - 4) 構音障害・嚥下障害
 - 5) 眼球運動障害・眼振・瞳孔異常・視野障害・眼瞼異常
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要疾患
 - 病状・発現機序・病因・治療-
 - 1) 脳血管障害
 - 2) 認知症・変性疾患
 - 3) 感染症・中毒・腫瘍
 - 4) 発作性疾患
 - 5) 脊髄・末梢神経・筋疾患
 - 6) 脱髄疾患・代謝性疾患・遺伝性疾患
 - 7) 内科疾患などに伴う神経疾患

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

出席確認は講義中の携帯メール送信、または講義終了時の出席調査票提出のどちらかで行う。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

講義で使用したスライド・資料などは、適宜インターネット上で閲覧可能とする。

臨床医学Ⅳ（リハビリテーション医学）

木村伸也 澤田泰洋 鈴木朋子 千鳥司浩 橋詰玉枝子

オムニバス 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

リハビリテーション医学の基礎と臨床の実際について、リハビリテーション関連スタッフによる演習的内容も含めて学習する。

【授業の目標】

リハビリテーション医学の基礎とその臨床の実際について学び、関連職種によるチームアプローチについての理解を深める。

【授業計画】

- 1 リハビリテーション医学を学ぶ目的
- 2 国際生活機能分類（ICF）について
- 3 廃用症候群とは
- 4 目標指向的リハビリテーション
- 5 リハビリテーションにおけるチームアプローチ
- 6 理学療法について
- 7 作業療法について
- 8 言語聴覚療法について
- 9 介護サポート方法についての演習

【評価方法】

出席状況、授業中の態度、レポート、期末試験にて総合的に評価する。

【テキスト】

新しいリハビリテーション（大川弥生 講談社現代新書）
介護保険サービスとリハビリテーション（大川弥生 中央法規）

【参考文献・資料】

目で見えるリハビリテーション医学 第2版（上田敏 東京大学出版社）
その他、授業で随時紹介する。

ロービジョン医学演習

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「ロービジョン医学」での学習内容を踏まえ、各種補装具の選定、取り扱い、遠方・近方視訓練やロービジョンに関わるリハビリテーションの実際を学習する。

【授業の目標】

1. ロービジョンの評価法の手技を習得する
2. 各種補装具の特性を理解し操作法を習得する
3. 関係施設について知識を深める

【授業計画】

- 第1回 視覚障害に関する制度
- 第2回 ガイドヘルプの実際（1）
- 第3回 ガイドヘルプの実際（2）
- 第4回 ロービジョンでのコンピューター利用
- 第5回 読書評価に基づく拡大率の決定
- 第6回 光学的補助具の選定法
- 第7回 非光学的補助具の使用法（1）
- 第8回 非光学的補助具の使用法（2）
- 第9回 遮光眼鏡の選定法（1）
- 第10回 遮光眼鏡の選定法（2）
- 第11回 各種補助具の指導法
- 第12回 盲学校見学
- 第13回 レンズ工場見学
- 第14回 まとめ（1）
- 第15回 まとめ（2）

【評価方法】

出席を重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

視能学（丸尾敏夫・久保田伸江・深井小久子）
ロービジョンケアの実際（第2版）（高橋広編著 医学書院）
ロービジョンケアガイド（樋田哲夫編 文光堂）

ロービジョン医学

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

オムニバス 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ロービジョンの視覚科学的特性、心理社会的側面、および、その評価方法、援助方法について学ぶ。
（大庭紀雄教授）高齢者と小児におけるロービジョンの病態の違い、ロービジョンの評価法や病歴の聴取法について学ぶ。
（川嶋英嗣准教授）ロービジョンの定義や心理社会的側面、視覚特性について理解し、日常生活の行動にその視覚特性がどのように影響しているかについて理解を深める。
（川瀬芳克教授）光学的・非光学的補装具の選定や遠方視・近方視訓練のテクニックの実際について習得する。また、チーム治療の必要性や、視機能以外の評価法および視覚以外の感覚を利用したリハビリテーションの実際についても習得する。

【授業の目標】

1. ロービジョンの代表的な疾患とその経過を理解する
2. 読書の評価法と拡大率算定方法について理解する
3. 光学的補助具の特性を理解する

【授業計画】

- 第1回 ロービジョンの定義
- 第2回 視機能障害をきたす代表的な疾患
- 第3回 ガイドヘルプの理論（1）
- 第4回 ガイドヘルプの理論（2）
- 第5回 ロービジョンとコンピューター
- 第6回 読書評価（1）
- 第7回 読書評価（2）
- 第8回 光学的補助具（1）
- 第9回 光学的補助具（2）
- 第10回 遮光眼鏡（1）
- 第11回 遮光眼鏡（2）
- 第12回 各種補助具の指導法（1）
- 第13回 各種補助具の指導法（2）
- 第14回 まとめ（1）
- 第15回 まとめ（2）

【評価方法】

出席を重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

視能学（丸尾敏夫・久保田伸江・深井小久子）
ロービジョンケアの実際（第2版）（高橋広編著 医学書院）
ロービジョンケアガイド（樋田哲夫編 文光堂）

臨床医学Ⅴ（形成外科学）

大久保文雄

1年 後期集中 必修 1単位

【授業の概要】

創傷治療と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

- 1 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 2 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 3 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患（頭頸部腫瘍を中心に）を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

- 1 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 3) 創傷治療と組織移植
- 2 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
- 3 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定なし

【参考文献・資料】

講義中に配布

臨床歯科医学・口腔外科学

鈴木 聡 夏目長門 西村叔枝 古川博雄 山田祐敬

オムニバス 1年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

歯、歯周組織の発生、構造、機能、疾患と、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能と疾患について学ぶ。また、言語障害と関係のある、種々の口腔機能障害についても学習する。

【授業の目標】

1. 歯・口腔・顎・顔面部に発症する疾患の病状、治療の概要を理解する。
2. それらによって引き起こされる構音を中心とした口腔機能障害についても理解する。

【授業計画】

(鈴木聡/1.5回) 歯・口腔・頭頸部解剖、発生 について学ぶ。
 (夏目長門/1回) 先天異常(奇形) について学ぶ。
 (西村叔枝/1回) 歯科学概論 について学ぶ。
 (古川博雄/3回) 炎症、後天異常(変形)、外傷、顎関節、唾液腺、神経疾患について学ぶ。
 (山田祐敬/1回) 嚢胞・腫瘍 について学ぶ。

【評価方法】

毎回、出欠席を調査をし、小テスト等により成績評価する。
 期末試験は行わない。

【テキスト】

言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学(医学書院)

【参考文献・資料】

標準口腔外科学 第3版(野間弘康・瀬戸皖一 医学書院)
 看護のための最新医学講座 第23巻 歯科口腔系疾患(山本悦秀 中山書店)

聴覚系・発声発語系の構造・機能・病態

丹羽英人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚系の構造、機能、病態について、聴覚医学視点から理解を深める。また呼吸・発声・発語器官の各々について、その構造、機能、病態を学び、発声障害、構音障害および摂食・嚥下障害との関連について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚系及び発声発語系は相互に補充し合う気管である。それらの局所解剖学及び生理学を理解し、聴覚障害、発声・発語障害、それに伴う嚥下障害の病態を理解するための基礎を確立する。

【授業計画】

第1回 聴器の解剖学(末梢)
 第2回 聴器の解剖学(中枢)
 第3回 聴器の生理学
 第4回 聴器の機能検査(聴覚心理学的1)
 第5回 聴器の機能検査(聴覚心理学的2)
 第6回 聴覚生理学的機能検査(末梢)
 第7回 聴覚生理学的機能検査(中枢)
 第8回 発声器官の解剖学
 第9回 構音器官解剖学
 第10回 発声器官の生理学
 第11回 構音器官の生理学
 第12回 音声の検査法

【評価方法】

出席状況と期末試験の成績

【テキスト】

授業の始めに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

臨床医学Ⅲ(耳鼻咽喉科学)

丹羽英人

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、気管・食道科学について、構造、機能、疾患などについて学ぶ。

【授業の目標】

耳鼻咽喉科、頭頸部外科領域の解剖学・生理学・疾患の病態を理解し診断方法や治療方法を知る。

【授業計画】

第1回 耳科領域の解剖、生理(1)
 第2回 耳科領域の解剖、生理(2)
 第3回 鼻科領域の解剖、生理
 第4回 咽頭、喉頭科領域の解剖、生理
 第5回 頭頸部領域の解剖、生理
 第6回 耳科領域の症候学
 第7回 鼻科領域の症候学
 第8回 咽頭喉頭の症候学
 第9回 耳科領域の疾患の診断学
 第10回 鼻科領域の疾患の診断学
 第11回 咽頭喉頭領域の疾患の診断学
 第12回 頭頸部領域の診断学
 第13回 耳科領域の疾患の治療
 第14回 鼻科領域の疾患の治療
 第15回 咽頭喉頭領域の疾患の治療

【評価方法】

期末試験の成績

【テキスト】

授業のはじめに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

神経系の解剖・生理・病理

平野裕滋

1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

身体全体における神経系の位置づけを正しく把握した上で、神経系の構造、機能、病態について理解を深める。

【授業の目標】

神経系の構造、機能、病的状態についての基本的知識を体得する。

【授業計画】

第1回 神経解剖学の基礎的事項
 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
 第3回 随意運動のための神経伝導路
 第4回 大脳皮質下の運動中枢
 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
 第6回 自律神経系、視床下部
 第7回 脳神経
 第8回 聴覚伝導路
 第9回 視覚伝導路と視覚反射
 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
 第11回 大脳皮質
 第12回 髄膜、脳室系、脳血管支配
 第13回 中枢神経系の病理
 第14回 まとめ
 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、期末試験による

【テキスト】

リープマン神経解剖学、第2版(山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

【参考文献・資料】

臨床のための神経機能解剖学(後藤文雄 天野隆弘著 中外医学社 ISBN:4-498-02880-5)
 カラー図解神経の解剖と生理(Ben Greenstein Adam Greenstein [著]/大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN9784895922692)
 カラー図解臨床でつかえる神経学(Reinhard Rohkamm著 大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナルISBN978-4-89592-438-2)

2004年度から2007年度入学者対象

音声学・音韻論

出嶋真由美

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

母音、各種子音について、構音（調音）的特徴や音節、プロソディ（韻律的特長）、日本語の音声の種類と特徴について学習する。また、言語音声の基底にある規則とその表示原則について日本語および他の言語の音韻体系を通して学習する。

【授業の目標】

- 1 音声学・音韻論の概要を理解する
- 2 日本語音声の調音のしくみを理解する
- 3 日本語音声の音韻体系を理解する

【授業計画】

- 1 音声学・音韻論の役割
- 2 音声器官の構造と機能
- 3 子音の分類・母音の分類
- 4 日本語の音声1
- 5 日本語の音声2
- 6 音声の有標性
- 7 音声学まとめ
- 8 日本語の音声と音素1
- 9 日本語の音声と音素2
- 10 音節とモーラ
- 11 アクセント
- 12 イントネーション・プロミネンス等
- 13 音韻論まとめ
- 14 全体のまとめ・復習
- 15 学期末試験

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

意味論・語用論

中野弘三

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

記号や言語表現が指し示すものの意味と言語表現とその使用者の関係やコミュニケーション機能について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。

【授業の目標】

1. 言葉の意味の基本的な問題を理解する。
2. コミュニケーションの場での文の意味を考える。

【授業計画】

- 第1回 意味とは
- 第2回 意味の種類
- 第3回 意味と指示
- 第4回 語の意味分析(1)
- 第5回 語の意味分析(2)
- 第6回 意味の場
- 第7回 コミュニケーションの場での文の意味(1)
- 第8回 コミュニケーションの場での文の意味(2)
- 第9回 発話行為(1)
- 第10回 発話行為(2)
- 第11回 会話の含意
- 第12回 日英語の丁寧表現(1)
- 第13回 日英語の丁寧表現(2)
- 第14回 日英語のほかし言葉
- 第15回 期末試験

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (池上嘉彦ほか著 大修館書店)
 語の意味と意味役割 (米山三明・加賀信宏著 研究社)
 発話行為 (山梨正明著 大修館書店)

言語聴覚学専攻中心専門科目

形態論・統語論

出嶋真由美

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

語の単位である語彙の特質と、語の結合による文や句の機能および構造の規則について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。必要に応じて、代表的な文法理論についても学習する。

【授業の目標】

- 1 形態論・統語論の概要を理解する
- 2 日本語の言語事実と理論的分析を与える
- 3 言語の理論的分析の意義を理解する

【授業計画】

- 1 言語の構造(形態論・統語論の役割)
- 2 言語学概論
- 3 形態論1 形態素
- 4 形態論2 形態素の結び付き、異形態
- 5 形態論3 形態素分析
- 6 形態論4 日本語の語形成
- 7 形態論5 語の構造
- 8 形態論まとめ
- 9 統語論1 文の構造・生成文法理論について
- 10 統語論2 句構造規則
- 11 統語論3 日本語の統語分析1
- 12 統語論4 日本語の統語分析2
- 13 統語論5 言語の個別性と普遍性について
- 14 補足・復習・全体のまとめ
- 15 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する

神経言語学

吉田 敬

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

言語現象と高次脳機能との関連について言語学的側面から理解する。

【授業の目標】

言語学の各領域と脳内の言語処理活動、およびコミュニケーション障害との関連について理解する。

【授業計画】

1. 神経言語学の概要、研究目的
2. 神経言語学の研究方法
3. 失語症と言語モデル
4. 音声学、音韻論の観点から見たコミュニケーション障害
5. 形態論、統語論の観点から見たコミュニケーション障害
6. 意味論、語用論、談話研究の観点から見たコミュニケーション障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

聴覚心理学特論

岩田吉生

2年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

「聴覚心理学」で学習した内容をさらに発展させ、高次脳機能と聴覚現象との対応関係について学習する。

【授業の目標】

聴覚心理学や言語聴覚障害学の研究領域における基礎的事項を確認しながら、基礎実験及び検査等を実施し、人間の聴覚心理特性や、言語聴覚障害児者の聴覚・言語理解について理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

1. 聴覚心理学の基礎 1 音の高さと音の強さ
2. 音響心理学の基礎 2 音のスペクトル
3. 音響分析 1 音響心理学の基礎
4. 音響分析 2 音声の音響学的特徴
5. 音響分析 3 音響分析の体験
6. 人間の聴覚特性の基礎 1
7. 人間の聴覚特性の基礎 2
8. 騒音測定 1 騒音測定の方法の理解と実施
9. 騒音測定 2 騒音測定の結果と考察
10. 発音明瞭度検査 1 検査の概要と、言語聴覚障害児者の発音の聞き取り
11. 発音明瞭度検査 2 言語聴覚障害児者の発音明瞭度と、一般聴者の了解度
12. 読話理解 1 日本語発話における口唇運動の基礎
13. 読話理解 2 読話の読み取り実験 1
14. 読話理解 3 読話の読み取り実験 2
15. 講義のまとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜、紹介する。

090653514_0080 掲載順:0080

MCode:090650007_0050 ★

言語聴覚診断学

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 船崎康広 吉田 敬

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害学について、評価・診断法の基礎的な概念と知識を学ぶ。
 (井脇貴子教授) 聴覚障害について学ぶ。
 (加藤正子教授) 言語臨床の流れ、小児の発話障害について学ぶ。
 (船崎康広准教授) 言語発達障害について学ぶ。
 (鈴木朋子准教授) 成人の構音障害及び嚥下障害について学ぶ。
 (吉田敬准教授) 失語症について学ぶ。

【授業の目標】

言語聴覚障害を評価・診断する意味と方法論を理解する。
 各言語障害別に検査法・評価法・治療法の概論を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 言語聴覚障害の臨床の流れ
- 第2回 評価・診断の基礎的理念
- 第3回 言語発達の評価と障害の診断 1
- 第4回 言語発達の評価と障害の診断 2
- 第5回 言語発達の評価と障害の診断 3
- 第6回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 1
- 第7回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 2
- 第8回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 3
- 第9回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 4
- 第10回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 5
- 第11回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 6
- 第12回 聴覚評価と障害の診断
- 第13回 小児の聴覚評価と障害の診断
- 第14回 成人の聴覚評価と障害の診断
- 題15回 期末試験

【評価方法】

出席・授業態度・小テスト・レポート・期末試験

【テキスト】

新版 言語治療マニュアル (伊藤元信、笹沼澄子編 医歯薬出版 2002)
 言語聴覚士 国家試験出題基準 医療研修推進財団 医師薬出版 2008)

【参考文献・資料】

授業で示す。

言語聴覚障害学

井脇貴子 加藤正子 豊島義哉 船崎康広 吉田 敬

オムニバス 1年 前期・前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害の種類と障害の特徴を学び、治療、援助のあり方を学習する。
 (井脇貴子教授) 聴覚障害について学ぶ。
 (加藤正子教授) 小児の構音障害について学ぶ。
 (船崎康広准教授) 発達障害について学ぶ。
 (豊島義哉兼任講師) 成人の構音障害及び嚥下障害について学ぶ。
 (吉田敬准教授) 失語症について学ぶ。

【授業の目標】

1. さまざまな言語聴覚障害について知識を習得する。
2. 障害の構造を科学的に把握する方法を学ぶ。
3. 各障害への基本的アプローチを知る。

【授業計画】

講義方式による。
 第1回 聴覚障害
 第2回 聴覚障害
 第3回 言語発達遅滞
 第4回 自閉症
 第5回 広汎性発達障害
 第6回 構音障害
 第7回 構音障害
 第8回 構音障害
 第9回 嚥下障害
 第10回 嚥下障害
 第11回 嚥下障害
 第12回 失語症
 第13回 失語症
 第14回 高次神経機能障害
 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

広瀬肇「言語聴覚士テキスト」医歯薬出版

090653514_0090 掲載順:0090

MCode:090650007_0060 ★

失語症 I

吉田 敬

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症を理解するために必要な基礎的な神経学的知識を踏まえた上で、失語症研究の歴史、失語の症状、失語症候群について学習する。

【授業の目標】

1. 成人における他のコミュニケーション障害と失語症の違いについて理解する。
2. 失語の症状を理解する。
3. 失語症の下位タイプを理解する。
4. 失語症研究の歴史を理解する。

【授業計画】

1. 失語症とは、他のコミュニケーション障害との違い
2. 失語症に関する神経系の基礎知識
3. 失語の症状
 - 1) 発話
 - 2) 聴覚的理解
 - 3) 復唱
 - 4) 読解・音読
 - 5) 書字
4. 失語症の下位タイプ
 - 1) 古典分類
 - 2) その他
5. 失語症に関連するその他の高次脳機能障害
6. 失語症研究の歴史

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テストおよび期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

NPO法人和音(編)(2008)『改訂 失語症の人と話そう 失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために』中央法規。
 紺野加奈江(2001)『失語症言語治療の基礎』治療と診断社。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

失語症 II

杉浦加奈子 鈴木朋子 吉田 敬

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

1. 失語症の臨床における情報収集、検査、評価について理解する。
2. 失語症のリハビリテーションおよび介入の方法について理解する。

【授業計画】

1. 失語症臨床の概略・基本的態度
2. 情報収集、インターク
3. 検査
 - 1) スクリーニング検査
 - 2) 失語症検査
 - 3) その他の検査
4. 評価
 - 1) 失語症と他のコミュニケーション障害との鑑別
 - 2) 失語症のタイプ分類、重症度の判断
 - 3) その他
5. リハビリテーション・介入方法
 - 1) 訓練計画
 - 2) 言語機能へのアプローチ
 - 3) 実用コミュニケーション能力へのアプローチ
 - 4) 環境へのアプローチ、失語症者の社会参加
6. 急性期における言語臨床の実際
7. 他職種・他機関との連携

【評価方法】

出席状況、受講態度、小テスト、課題および期末試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

伊藤元信・笹沼澄子（編）（2002）『新編 言語治療マニュアル』 医歯薬出版。
 竹内愛子（編）（2003）『失語症臨床ガイド』 協同医書出版社。
 日本高次脳機能障害学会（編）（2003）『標準失語症検査マニュアル』 新興医学出版社。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

090653514_0120 掲載順:0120

MCode:090650007_0090 ★

高次脳機能障害

鈴木朋子 八田武志

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

脳の構造、機能を学習した上で、脳損傷による言語以外の動作、認知、記憶などの高次脳機能障害の症状とその発生メカニズム、および、それらの評価、診断について学習する。

【授業の目標】

脳損傷による高次脳機能障害の病態、およびそれらの評価、診断について学習する。

【授業計画】

- I. 高次脳機能障害の基礎
 - 1) 脳の構造と機能
 - 2) 脳の画像所見
- II. 高次脳機能障害の病態
 - 1) 意識障害
 - 2) 失行
 - 3) 失認
 - 4) 記憶障害
 - 5) 注意障害
 - 6) 前頭葉・遂行機能障害
 - 7) 認知症
 - 8) 右半球障害
 - 9) 小児の高次脳機能障害
- III. 高次脳機能障害の評価・診断

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、テスト

【テキスト】

脳のはたらきと行動のしくみ（八田武志著 医歯薬出版 2008）
 高次脳機能障害学（石合純夫著 医歯薬出版 2004）

【参考文献・資料】

神経心理学評価ハンドブック（田川皓一編 西村書店 2004）
 高次脳機能障害マエストロシリーズ②画像のみかた・使いかた（三村将ら 著 医歯薬出版 2006）

失語症 II

鈴木朋子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

1. 失語症リハビリテーションの実際を学習する。
2. 失語症臨床に必要な知識と技能を習得する。

【授業計画】

1. 失語症臨床の実際（演習を含む）
 - ・情報収集
 - ・評価
 - ・診断
 - ・治療計画
 - ・アプローチ
 - ・記録
2. 失語症地域リハビリテーション
 - ・介護保険下での対応
 - ・友の会活動
 - ・社会参加の支援

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・試験（実技・筆記）

【テキスト】

失語症臨床ガイド（竹内愛子編集 協同医歯薬出版社 2003）

【参考文献・資料】

失語症の人と話そう（地域S T連絡会編集 中央法規 2007）
 その他適宜指示

090653514_0130 掲載順:0130

MASTER ★

高次脳機能障害

鈴木朋子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

脳損傷による言語以外の動作、認知、記憶などの高次脳機能の障害の症状および、それらの評価、リハビリテーションについて学習する。

【授業の目標】

高次脳機能障害 I の知識を踏まえ、演習形式で、情報収集、評価、診断、訓練計画の立案、訓練のシュミレーションを行う。
 また、高次脳機能障害に対する臨床実践について具体的に学ぶ。

【授業計画】

- I. 高次脳機能障害 I の復習
- II. 高次脳機能障害の臨床演習
 - 1) 情報収集
 - 2) 評価
 - 3) 診断
 - 4) 訓練計画立案
 - 5) 訓練のシュミレーション
- III. 高次脳機能障害の臨床実践について学ぶ
 - 1) 認知症
 - 2) 遂行機能障害
 - 他

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、実技テスト、筆記テスト

【テキスト】

高次脳機能障害学（石合純夫著 医歯薬出版株式会社）
 その他、授業中に指示

【参考文献・資料】

神経心理学評価ハンドブック（田川皓一編 西村書店 2004）
 高次脳機能障害ハンドブック（中島八十一、寺島彰編 医学書院 2006）
 その他、授業中に指示

言語発達障害 I

船崎康広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

自閉症、精神遅滞、聴覚障害、脳性麻痺、学習障害などを原因とする乳幼児期および学童期の言語発達障害について学び、子供の言語・コミュニケーション障害をそれぞれの障害の特徴に即して学ぶ。さらにこれらの障害に対して適切な評価や治療を行うための知識と技能を習得する。

【授業の目標】

言語発達障害について、それぞれの障害の本質を理解する

【授業計画】

- 第1回 ことばの障害が意味するところ
- 第2回 知的障害 I
- 第3回 知的障害 II
- 第4回 知的障害 III
- 第5回 自閉症 I
- 第6回 自閉症 II
- 第7回 自閉症 III
- 第8回 学習障害 I
- 第9回 学習障害 II
- 第10回 学習障害 III
- 第11回 脳性まひ I
- 第12回 脳性まひ II
- 第13回 脳性まひ III
- 第14回 特異的言語発達障害
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、期末テストの成績を総合して評価する

【テキスト】

言語聴覚士のための言語発達障害学（石田宏代、大石敬子編 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

- ことばの発達入門（秦野悦子編 大修館書店）
 ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）
 ことばの障害の評価と指導（大石敬子編 大修館書店）

090653514_0160 掲載順 :0160

MASTER ★

言語発達障害 III

岩田吉生

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発達障害、聴覚障害によって生じる言語・コミュニケーション行動の障害を評価し、個々の対象に応じたリハビリテーション・プログラムの立案、実施法について学ぶ。

【授業の目標】

発達障害、聴覚障害の言語・コミュニケーション行動、音韻意識、構音、読み書き能力の発達について、その評価と指導の在り方について学ぶことを目的とする。

【授業計画】

1. 健常児の言語発達の基礎 1
2. 健常児の言語発達の基礎 2
3. 健常児の音韻意識の発達
4. 健常児の読み書き能力の発達
5. 発達障害児の言語・コミュニケーションの発達
6. 発達障害児の言語・コミュニケーションの指導
7. 発達障害児の読み書き指導 1
8. 発達障害児の読み書き指導 2
9. 発達障害児の読み書き指導 3
10. 聴覚障害児の言語・コミュニケーションの発達
11. 聴覚障害児の言語・コミュニケーションの指導
12. 聴覚障害児の読み書き指導 1
13. 聴覚障害児の読み書き指導 2
14. 聴覚障害児の読み書き指導 3
15. テスト

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、テストの成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の際に、適宜、紹介する。

言語発達障害 II

船崎康広

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

小児期のさまざまな原因による言語発達障害について、幼児期、学童期などの発達段階に応じた評価と診断の手法を学び、それぞれの障害に適した治療的アプローチを構築する技能を習得する。

【授業の目標】

言語発達障害児・者に対する支援の枠組みを構築するための知識を習得する

【授業計画】

- 第1回 ことばの問題の捉え方
- 第2回 言語獲得理論 I
- 第3回 言語獲得理論 II
- 第4回 言語獲得理論 III
- 第5回 学習理論（行動主義的）
- 第6回 学習理論（認知科学的）
- 第7回 前言語期の支援
- 第8回 単語獲得期の支援
- 第9回 文形成期の支援
- 第10回 読み書き技能の支援
- 第11回 家族への支援
- 第12回 様々なアプローチ I
- 第13回 様々なアプローチ II
- 第14回 言語評価
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート、期末テストの成績を総合して評価する

【テキスト】

言語聴覚士のための言語発達障害学（石田宏代、大石敬子編 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

- ことばの発達入門（秦野悦子編 大修館書店）
 ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）
 ことばの障害の評価と指導（大石敬子編 大修館書店）

090653514_0170 掲載順 :0170

MCode:090650007_0120 ★

吃音

板倉寿明 廣嶋 忍

オムニバス 2年 後期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

発話の非流暢性の特徴、吃音学の歴史、吃音の原因、進展過程、心理過程、評価・診断法、各年齢に応じた治療法について学ぶ。

【授業の目標】

吃音の特性、吃音の原因論、欧米での言語訓練の方法を学び、吃音の支援には何が可能であるのかを理解する。

【授業計画】

1. 吃音の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・ 廣嶋
2. 発吃と自然治療・・・・・・・・・・・・ 廣嶋
3. 吃音の進展・・・・・・・・・・・・・・ 廣嶋
4. 吃音の原因（器質論）・・・・・・・・ 廣嶋
5. 吃音の原因（学習論）・・・・・・・・ 廣嶋
6. 吃音の生理・・・・・・・・・・・・・・ 廣嶋
7. 吃音の診断と評価・・・・・・・・・・ 廣嶋
8. 吃音の言語治療の歴史・・・・・・・・ 廣嶋
9. 吃音の言語治療の方法・・・・・・・・ 廣嶋
10. 言語通級指導教室での吃音支援・・・ 板倉
11. 吃音の心理（子ども）・・・・・・・・ 板倉
12. 吃音の心理（成人）・・・・・・・・ 板倉
13. 吃音児・者の自己意識と障害認識・・・ 板倉
14. セルフヘルプグループ・・・・・・・・ 板倉
15. 吃音児へのグループ支援・・・・・・・・ 板倉

【評価方法】

授業への参加の評価および学期末定期試験による

【テキスト】

子どもがどもっていると感じたら（廣嶋忍・堀彰人編著、大月書店）

【参考文献・資料】

- 推薦参考図書
 ・吃音の基礎と臨床（バリー・ギター著、長澤泰子監訳、学苑社）

音声障害

丹羽英人

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発声の生理、物理的特性、その調節、さらに音声障害の定義、器質性音声障害、機能性音声障害について学ぶ。音声の検査、評価・診断法について具体的に理解し、また音声障害の治療、無喉頭音声、気管切開への対応、音声障害患者の社会復帰を学ぶ。

【授業の目標】

音声障害をきたす疾患の病態を理解し、音声障害治療方法を系統的に知る。

【授業計画】

- 第1回 音声障害の検査法
- 第2回 音声障害の診断
- 第3回 音声障害とその治療－喉頭の基質的障害
- 第4回 音声障害とその治療－全身障害に伴う音声障害
- 第5回 音声障害とその治療－機能性発声障害
- 第6回 音声障害とその治療－音声障害の治療
- 第7回 言語障害－言語障害の種類
- 第8回 言語障害の検査
- 第9回 言語発達遅滞
- 第10回 機能的構音障害
- 第11回 口蓋裂に伴う言語障害
- 第12回 難聴による小児言語障害
- 第13回 失語症
- 第14回 嚥下障害
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験による。

【テキスト】

随時プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際に紹介。

嚥下障害 II

豊島義哉 担当者未定

オムニバス 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

摂食・嚥下障害のリスク管理、治療、訓練（間接訓練、直接訓練）などについて学ぶ。

【授業の目標】

摂食・嚥下障害の見方と対応について学び、臨床的にそれらを適用できる能力を身につける。

【授業計画】

- 下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。
- 1 摂食・嚥下障害についての復習
 - 2 摂食・嚥下障害のリスク管理と口腔ケア
 - 3 摂食・嚥下障害の栄養方法と手術的、補綴的対応
 - 4 摂食・嚥下障害の訓練
 - 5 摂食・嚥下障害の訓練
 - 6 症例検討
 - 7 症例検討
 - 8 摂食・嚥下障害の訓練
 - 9 摂食・嚥下障害の訓練
 - 10 摂食・嚥下障害の訓練
 - 11 摂食・嚥下障害の訓練
 - 12 症例検討
 - 13 症例検討
 - 14 まとめ
 - 15 試験

【評価方法】

筆記試験を主に出席状況や授業態度などを加味して総合的に評価する。

【テキスト】

脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版（藤島一郎著 医歯薬出版）
嚥下障害ポケットマニュアル 第2版（聖隷三方原病院嚥下チーム著 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

嚥下障害 I

豊島義哉

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

正常な摂食・嚥下のメカニズムを学び、さらに、その障害と評価方法について理解を深める。

【授業の目標】

摂食・嚥下障害のスクリーニングの方法および精密検査による問題点の抽出能力を身につける。

【授業計画】

下記の項目について、体験や実技を交えて理解を深めながら講義する。

- 1 摂食・嚥下障害についての概論
- 2 摂食・嚥下に関する生理学
- 3 摂食・嚥下に関する生理学
- 4 摂食・嚥下に関する解剖学
- 5 摂食・嚥下の原因と病態と分類
- 6 摂食・嚥下の原因と病態と分類
- 7 摂食・嚥下障害の合併症
- 8 機能の発達と加齢による変化
- 9 摂食・嚥下障害の評価
- 10 摂食・嚥下障害の評価
- 11 摂食・嚥下障害の評価
- 12 気管切開、カニューレの種類
- 13 栄養状態と水分出納のアセスメント
- 14 まとめ
- 15 試験

【評価方法】

筆記試験を主に出席状況や授業態度などを加味して総合して評価する。

【テキスト】

脳卒中の摂食・嚥下障害 第2版（藤島一郎著 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

構音障害 I

加藤正子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

音産生のメカニズムと臨床音声学の基礎的知識、正常な小児の構音・音韻発達、機能性構音障害の概念、発生原因、特徴、検査法、評価・診断法について学ぶ。

【授業の目標】

発声発語器官の形態と運動、誤り音の表記法、小児の構音と音韻の産生、発達、及びその障害を理解し、評価法と治療法について学ぶ。

【授業計画】

- 1 構音の概念
- 2 子どもの構音・音韻の概念
- 3 構音器官の解剖と機能
- 4 臨床音声学 1
- 5 臨床音声学 2
- 6 構音障害に影響を及ぼす要因
- 7 構音・音韻発達
- 8 構音障害の種類
- 9 誤り音の記述 1
- 10 誤り音の記述 2
- 11 構音評価 1
- 12 構音評価 2
- 13 構音検査 1
- 14 構音検査 2

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験、授業態度

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

構音と音韻の障害（船山美奈子・岡崎恵子監訳 協同医書2000）
articulation and phonological disorders (J.E.Berthal,N.W.Bankson,Allyn & Bacon 2004)

構音障害 I

高ノ原恭子 村瀬幸恵

オムニバス 2年 後期・後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

成人の運動障害性構音障害、器質性構音障害について、障害のメカニズム、評価・診断・訓練方法を学ぶ。

【授業の目標】

発声発語器官の解剖生理についての基礎的知識を習得し、運動障害性構音障害の発生メカニズムとその病態及びその評価・診断・訓練方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 発声発語器官の解剖・生理
2. 運動障害性構音障害の病態
3. 運動障害性構音障害の評価
4. 運動障害性構音障害の診断
5. 運動障害性構音障害の合併症

【評価方法】

出席・授業態度・小テスト・レポート・期末試験

【テキスト】

言語聴覚士のための運動障害性構音障害学（廣瀬肇・柴田貞雄・白坂康俊著：医歯薬出版株式会社）

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示

構音障害 I

杉本雅子 長谷川和子

オムニバス 2年 後期・後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

構音障害の概念と理論的基礎、構音障害の検査と評価について学習する。さらに、脳損傷後の成人の言語臨床で扱われる運動障害性構音障害について、発生の原因、症状、評価、訓練、リハビリテーション医療におけるチームアプローチについて学習する。

【授業の目標】

構音障害の概念と理論的基礎をふまえ、運動障害性構音障害の発生メカニズムとその病態について学ぶ。さらに評価、治療方法について具体的に学習する。

【授業計画】

1. 構音障害とは
2. 発声発語器官の解剖と運動生理
3. 運動障害性構音障害の病態
4. 運動障害性構音障害の評価
5. 運動障害性構音障害の評価
6. リハビリテーションの流れ
7. 運動障害性構音障害の治療
8. 症例検討
9. 症例検討
10. 症例検討

【評価方法】

出席・授業態度・期末試験

【テキスト】

言語聴覚士のための運動障害性構音障害学（廣瀬肇・柴田卓雄・白坂康俊著、医歯薬出版株式会社）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介

構音障害 II

加藤正子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

機能性構音障害のメカニズム、音韻発達および構音の発達から評価・訓練計画・訓練方法について学ぶ。さらに、器質性構音障害について、まび性、形態性の障害への評価、訓練、医学的治療について学習する。

【授業の目標】

1. 器質性構音障害の評価・診断法と治療法について学ぶ
2. 口蓋裂言語の評価・診断および治療法について学ぶ。

【授業計画】

1. 器質性構音障害の種類と構音の特徴 1.2
2. 舌摘出後患者の構音と治療法
3. 口蓋裂に伴う問題
4. 口蓋裂（口蓋裂）の解剖と発生
5. 口蓋裂の言語治療
6. 鼻咽腔閉鎖機能の評価・診断 1.2.3
7. 口蓋裂の構音障害 1.2
8. 構音訓練の原則
9. 構音障害の訓練法
10. チームアプローチ

【評価方法】

出席、レポート、小テスト、期末試験

【テキスト】

1. 口蓋裂の言語臨床第2版（岡崎恵子・加藤正子 医学書院 2005）
2. 構音障害の臨床（阿部雅子 金原出版 2003）

【参考文献・資料】

授業中に示す。

聴覚障害 I

荒尾はるみ 井脇貴子 箕谷健三

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

小児の聴覚障害に関する医学的知識の習得、乳幼児の聴力検査法ならびに言語心理学的評価法、言語聴覚指導法について学習する。（荒尾はるみ講師）医学的側面から小児聴覚障害について学習する。（箕谷健三兼任講師）教育学的側面から小児聴覚障害について学習する。（井脇貴子教授）言語聴覚的側面から小児聴覚障害について学習する。

【授業の目標】

主に小児の聴覚障害について学習する。乳幼児聴力検査、小児聴覚障害の原因・種類、聴覚障害児の発達、聴覚障害児の検査と評価、聴覚障害児の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 聴覚系の成熟と聴覚機能の発達
- 第2回 聴覚障害の早期発見と療育
- 第3回 検査法の種類と適用
- 第4回 新生児聴覚スクリーニング
- 第5・6回 小児聴覚障害の原因と種類
- 第7回 聴覚障害児の心理面・行動面の発達、情緒・社会性の発達
- 第8回 聴覚障害児の言語能力・コミュニケーションの発達
- 第9回 関連情報の収集
- 第10・11回 検査と評価
- 第12・13回 聴覚障害児の指導・訓練プログラムの立案
- 第14回 関係機関の連携とチームアプローチ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）

聴覚障害 II

井脇貴子 丹羽英人

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

成人の聴覚機能の診断に必要な各種聴覚機能検査の原理について学び、検査から診断にいたる具体的な方法について学習する。また視覚聴覚の二重障害がコミュニケーションに及ぼす影響について知識を深めると共に、新しいコミュニケーション手段や補助手段について学習する。

【授業の目標】

成人聴力検査、成人聴覚障害の種類と特性、成人聴覚障害の検査と評価、成人聴覚障害の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 検査法の種類と適用 純音聴力検査
- 第2回 検査法の種類と適用 語音聴力検査
- 第3・4回 検査法の種類と適用 中耳機能検査、内耳機能検査（SISI等）
- 第5回 成人聴覚障害の種類と特性 先天性難聴、後天性難聴
- 第6回 関連情報の収集
- 第7回 検査と評価
- 第8-10回 成人聴覚障害者の指導・訓練プログラムの立案
- 第11回 聴覚障害をサポートする各種機器
- 第12回 環境調整
- 第13回 相談・助言
- 第14回 関係機関の連携とチームアプローチ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き（服部浩、中山書店、1100円）

聴覚障害臨床演習 I

井脇貴子 箕谷健三 奥田実穂 丹羽英人

オムニバス 2年 後期 必修 1単位

【授業の概要】

実際の言語聴覚臨床に接し、聴覚障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、面談の技法、各検査法・評価法、治療法、家族・環境への支援、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚検査法の実際について学び、機器の使用、検査の施行が基本的に行えるようにする。聴覚障害の臨床に必要な知識や技能を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害者を対象とした臨床実習について ガイダンス
- 第2-7回 聴覚検査
- 第8-15回 聴覚活用訓練

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き（服部浩、中山書店、1100円）
4. 補聴器ハンドブック（Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円）

聴覚障害 III

井脇貴子 箕谷健三

オムニバス 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚障害における聴覚補償の方法、特に補聴機器（補聴器・人工中耳・人工内耳など）の仕組みと原理について学習する。
・補聴器の原理、適応、調整について学習する。
・人工内耳および人工中耳の原理、適応、調整、評価、装用指導、ならびに補聴システムの利用について学習する。

【授業の目標】

聴覚補償に関する機器の変遷と効果、適応等について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害における聴覚補償について
- 第2回 身体障害者福祉法、障害者自立支援法
- 第3回 補聴器の仕組み、種類、特性について
- 第4回 補聴器の調整の基礎
- 第5回 補聴器特性測定について
- 第6回 補聴器のフィッティングについて
- 第7回 補聴器装用効果の評価
- 第8回 老人性難聴と補聴器
- 第9回 人工内耳の仕組み、原理、種類について
- 第10回 人工内耳の調整の基礎
- 第11回 人工内耳のフィッティングについて
- 第12回 人工内耳装用効果の評価
- 第13回 補聴システム
- 第14回 視覚聴覚二重障害について
- 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 補聴器ハンドブック（Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健一 医歯薬出版株式会社、4000円）

聴覚障害臨床演習 II

井脇貴子 箕谷健三 奥田実穂 丹羽英人

オムニバス 3年 前期 必修 1単位

【授業の概要】

「聴覚障害演習 I」で学んだ内容について、さらに実際の言語聴覚臨床に接し、聴覚障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、面談の技法、各検査法・評価法、治療法、家族・環境への支援、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について深く学ぶ。

【授業の目標】

聴覚検査法の実際について学び、機器の使用、検査の施行が基本的に行えるようにする。聴覚障害の臨床に必要な知識や技能を身につける。

【授業計画】

- 第1回 聴覚障害者を対象とした臨床実習について ガイダンス
- 第2-7回 聴覚検査
- 第8-15回 聴覚活用訓練

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際（日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円）
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学（喜多村健、医歯薬出版、4200円）
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き（服部浩、中山書店、1100円）
4. 教師と親のための補聴器活用ガイド（大沼直紀、コレール社、2940円）

小児言語障害演習 I

池田ゆう子 伊藤美知恵 船崎康広

オムニバス 3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

言語発達障害および構音障害など乳幼児期の言語発達障害・構音障害について総合的に学び、適切な評価や治療を行なうための知識と技能を習得する。

【授業の目標】

言語聴覚士として、小児の発声発語障害の臨床に必要な知識を学ぶ。

【授業計画】

音声の表記法、構音・音韻発達、構音障害の原因、検査法、音の誤り方の分析、診断・評価法、治療法、家族支援の方法に習熟する。

【評価方法】

出席、レポート、授業態度

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業中に示す。

小児言語障害演習 II

池田ゆう子 伊藤美知恵 船崎康広

オムニバス 3年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

「小児言語障害演習 I」で学んだ内容を踏まえ、言語発達障害および構音障害など乳幼児期の言語発達障害・構音障害について総合的に学び、適切な評価や治療を行うための知識と技能を深く習得する。

【授業の目標】

言語聴覚士として、小児の発声発語障害の臨床に必要な知識を確実にする。

【授業計画】

音声の表記法、構音・音韻発達、構音障害の原因、検査法、音の誤り方の分析、診断・評価法、治療法、家族支援の方法を確実に理解する。

【評価方法】

出席、レポート、授業態度

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に示す。

成人言語障害演習 I

杉浦加奈子 鈴木朋子 二村美也子

オムニバス 3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

成人のコミュニケーション障害の臨床に必要な評価・訓練の方法について演習形式で学ぶ。

(鈴木朋子准教授) 運動障害性構音障害、嚥下障害について学ぶ。
(杉浦加奈子講師) 急性期における言語聴覚士の職務を学ぶ。(症例呈示)
(二村美也子講師) 回復期における言語聴覚士の職務を学ぶ。(症例呈示)

【授業の目標】

失語症、高次脳機能障害、運動障害性構音障害、嚥下障害など、成人領域全般について講義で学んできた知識と技術を、症例を通して総合的、実践的に学習する。

【授業計画】

成人全領域について、以下の内容を演習形式で学習し、臨床における勘どころを身につける。

1. 情報収集の仕方
2. 検査の実施方法とその解釈
3. 症状の観察方法とそのまとめ方
4. アプローチ計画の立て方
5. アプローチ方法

【評価方法】

出席、授業態度、レポート、実技試験

【テキスト】

これまでに履修した成人領域の授業ノート。その他、授業中指示する。

【参考文献・資料】

授業にて適宜紹介する。

成人言語障害演習 II

杉浦加奈子 鈴木朋子 二村美也子

オムニバス 3年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

「成人言語障害演習 I」で学習した内容を踏まえ、成人のコミュニケーション障害の臨床に必要な評価・訓練の方法について演習形式で学び、理解を深める。

(鈴木朋子准教授) 運動障害性構音障害、嚥下障害について学ぶ。
(杉浦加奈子講師) 急性期の言語聴覚士の職務を学ぶ。(症例呈示)
(二村美也子講師) 回復期の言語聴覚士の職務を学ぶ。(症例呈示)

【授業の目標】

成人言語障害演習 I や学外実習の体験を踏まえ、さらに臨床的な知識を深め、さらなる技術の習得を目指す。

【授業計画】

成人言語障害演習 I と同様

【評価方法】

成人言語障害演習 I と同様

【テキスト】

授業開始時に指示する。

【参考文献・資料】

授業にて紹介する。

聴覚障害演習 I

井脇貴子 奥田実穂 箕谷健三

オムニバス 3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

「聴覚障害 I、II」および「聴覚医学」で学んだ内容について、実際に聴覚検査法ならびに補聴器や人工内耳の調整方法を実技・演習形式で学習する。

(井脇貴子教授) 人工内耳の調整法について学ぶ。
(奥田実穂兼任講師) 純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能検査、内耳機能検査、他覚的聴力検査について学ぶ。
(箕谷健三兼任講師) 補聴器の調整法について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚障害領域について講義で学んできた知識を総合的に復習し、臨床的技術を演習形式で習得する。

【授業計画】

- 第1回 純音聴力検査
- 第2回 語音聴力検査
- 第3回 内耳機能検査、中耳機能検査、他覚的聴覚検査
- 第4回 補聴器の特性測定
- 第5回 補聴器の調整
- 第6回 人工内耳の調整
- 第7回 補聴システム、評価
- 第8回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学 (喜多村健、医歯薬出版、4200円)
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き (服部浩、中山書店、1100円)
4. 補聴器ハンドブック (Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円)

小児言語障害臨床演習 I

加藤正子 船崎康広

2年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

学内において、発達障害児並びに構音障害児の臨床をとおして、小児の接し方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学び、小児の言語障害の問題と言語聴覚士の臨床を理解する。

【授業の目標】

言語発達障害児並びに構音障害児に実際に接して、小児とのコミュニケーションのとり方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学ぶ。

【授業計画】

少人数のグループに分かれて、言語発達障害、構音障害とも各7回、実際の障害児を対象にして実習を行い、以下の内容を学ぶ。

1. 言語発達障害、小児構音障害の概念、
2. 基礎的な知識
3. 知能検査・言語発達検査、構音検査の習熟
4. 観察法・評価法
5. 治療法
6. 記録の仕方
7. 症例報告の書き方
8. 家族の面接の仕方
9. 家族支援の方法

【評価方法】

出席・レポート・実習内容

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

特になし

聴覚障害演習 II

井脇貴子 奥田実穂 箕谷健三

オムニバス 3年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

「聴覚障害 I、II」および「聴覚医学」で学んだ内容について、実際に聴覚検査法ならびに補聴器や人工内耳の調整方法を実技・演習形式で学習する。

(井脇貴子教授) 人工内耳の調整法について学ぶ。
(奥田実穂兼任講師) 純音聴力検査、語音聴力検査、中耳機能検査、内耳機能検査、他覚的聴力検査について学ぶ。
(箕谷健三兼任講師) 補聴器の調整法について学ぶ。

【授業の目標】

聴覚障害領域について講義で学んできた知識を総合的に復習し、臨床的技術を演習形式で習得する。

【授業計画】

- 第1回 純音聴力検査
- 第2回 語音聴力検査
- 第3回 内耳機能検査、中耳機能検査、他覚的聴覚検査
- 第4回 補聴器の特性測定
- 第5回 補聴器の調整
- 第6回 人工内耳の調整
- 第7回 補聴システム、評価
- 第8回 期末試験

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学 (喜多村健、医歯薬出版、4200円)
3. 聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き (服部浩、中山書店、1100円)
4. 補聴器ハンドブック (Harvey Dillon、中川正文監訳 医歯薬出版株式会社、8000円)

成人言語障害臨床演習 I

北山裕子 鈴木朋子 村瀬幸恵 吉田 敬

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

成人の言語障害者に対する臨床活動を通して、コミュニケーション障害をもつ人が抱える問題、対象者への接し方について学ぶ。

【授業の目標】

1. 患者様との言語聴覚士としての接し方を学ぶ。
2. 症状、セラピー場面の観察をし、記録する方法を学ぶ。
3. 検査の実施方法を学び実施する。
4. 日常所見と検査結果を統合して症状をまとめる。
5. 検査結果などの情報を統合、解釈して、実際に訓練計画を立てる。
6. 計画に基づいて、訓練を実施し、内容を検討する。
7. 体験を通して学んだことをまとめ、自分自身の課題を知る。

【授業計画】

失語症、運動障害性構音障害、嚥下障害への言語聴覚療法の実際を体験を通して学ぶ。

1. インテーク方法
2. 情報収集の仕方
3. 評価の実際
4. 症状のまとめ
5. 訓練計画の立案
6. 訓練の実際
7. 症状の観察、記述方法

【評価方法】

出席、授業態度、レポート、臨床実践の内容

【テキスト】

履修した関連授業のノート

【参考文献・資料】

授業中、適宜紹介する。

小児言語障害臨床演習 II

加藤正子 船崎康広

3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

「小児言語障害臨床演習 I」で学習した内容を踏まえ、学内において、発達障害児並びに構音障害児の臨床をとおして、小児の接し方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学び、小児の言語障害の問題と言語聴覚士の臨床をさらに理解する。

【授業の目標】

言語発達障害児並びに構音障害児に実際に接して、小児とのコミュニケーションのとり方、各検査法、評価・診断法、治療法、家族への支援法を学ぶ。

【授業計画】

少人数のグループに分かれて、発達障害、構音障害とも各7回、実際の障害児を対象にして実習を行い、以下の内容を学ぶ。

1. 言語発達障害、小児構音障害の概念
2. 基礎的な知識
3. 発達検査、構音検査の習熟
4. 観察・評価法
5. 治療法
6. 記録の仕方
7. 症例報告の書き方
8. 家族の面接の仕方
9. 家族支援の方法

【評価方法】

出席、レポート、実習内容

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

特になし

090653514_0400 掲載順 : 0400

MASTER ★

学外実習 I

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

3年 前期・後期 必修 5単位

【授業の概要】

学外施設において、言語聴覚障害とその問題、言語聴覚士の臨床、コミュニケーション障害者と家族に対する基本的態度、施設における言語聴覚士の役割と位置づけ、関連職種の内容と連携の持ち方を、見学や実際に経験することでコミュニケーション障害者を支援する専門能力と臨床観を学ぶ。

【授業の目標】

病院、福祉施設、教育機関など言語聴覚士の勤務する機関にて、言語聴覚士の仕事内容を見学、体験することによって、言語聴覚士としての専門的知識、技能、臨床観を身につける。

【授業計画】

- (1) 対象者やその家族に対する言語聴覚士としての基本的態度を学ぶ。
- (2) 臨床場面の観察、対象者との面接、検査結果、訓練記録などを通して、対象者の全体像を把握する。
- (3) 実習指導者の評価、訓練プログラムの立案、訓練の実施、家族支援の実際を見学することによって、臨床業務に必要な知識と技能を学ぶ。
- (4) 実習指導者のもとで、対象者のコミュニケーション障害の特徴に応じた言語聴覚士の臨床業務（評価、訓練、指導）を実際に体験する。
- (5) 実習施設の特性と機能、及び言語聴覚部門の位置づけと役割を学ぶ。
- (6) 関連職種とのチームアプローチの実際を学ぶ。
- (7) 臨床業務の記録や症例報告の仕方について学ぶ。

【評価方法】

- (1) 実習中に、実習生としての基本的な態度がとれる。
- (2) 実習に対して熱意があり、積極的に取り組める。
- (3) 対象者と家族に対して、実習生として適切な行動がとれる。
- (4) 基本的な臨床能力（臨床に関する知識・技術・思考・行動の統合）がある。
- (5) 記録、報告書が適切に作成できる。

実習指導者が、上記の各評価項目について、評価した上、総合評価を行う。さらに、本学担当教員が実習指導者の評価結果、実習後の報告書、出席状況などをもとに最終的な評価を実施する。

【テキスト】

臨床実習の手引き
実習準備ノート他

【参考文献・資料】

関連科目のテキスト、授業ノート

成人言語障害臨床演習 II

鈴木朋子 村瀬幸恵 北山裕子 吉田 敬

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「成人言語障害臨床演習 I」で習得した事項を踏まえ、障害の評価の仕方、訓練の仕方、報告書の書き方、臨床の実際について深く学ぶ。

【授業の目標】

成人言語障害臨床演習 I と同様

【授業計画】

成人言語障害臨床演習 I と同様

【評価方法】

出席、授業態度、レポート、臨床実践の内容

【テキスト】

成人言語障害臨床実習 I と同様

【参考文献・資料】

授業中適宜紹介する。

090653514_0410 掲載順 : 0410

MASTER ★

学外実習 II

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

4年 前期・後期 必修 6単位

【授業の概要】

「学外実習 I」にて学習した内容を踏まえ、学外施設において、言語聴覚障害とその問題、言語聴覚士の臨床、コミュニケーション障害者と家族に対する基本的態度、施設における言語聴覚士の役割と位置づけ、関連職種の内容と連携の持ち方を、見学や実際に経験することでコミュニケーション障害者を支援する専門能力と臨床観をさらに深く学ぶ。

【授業の目標】

言語聴覚臨床実習 II と同様であるが、II の経験、反省内容を踏まえて、さらに、幅広い専門的知識、技能を体得する。

【授業計画】

言語聴覚臨床実習 II と同様

【評価方法】

言語聴覚臨床実習 II と同様

【テキスト】

言語聴覚臨床実習 II と同様

【参考文献・資料】

言語聴覚臨床実習 II と同様

言語聴覚学文献講読演習

井脇貴子 鈴木朋子 船崎康広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語科学、言語発達学、言語聴覚障害学に関連する参考図書や参考文献の検索・入手方法を学び、基本文献を購読する。

【授業の目標】

言語聴覚学の研究を行う上での文献の収集、整理方法を身につける。卒業論文に向かって独自のテーマに関連分野の参考文献の検索方法・読み方を学ぶ。言語聴覚学の基礎文献を講読しながら、効率よく文献から要求する情報を得る技術を学ぶ。

【授業計画】

全15回の演習で以下の内容を扱う。

1. 学術論文の検索
2. 学術論文の構成
3. 文献整理の方法
4. 文献レビューの作成

【評価方法】

出席状況、発表、提出物（文献のまとめ；検索結果の整理；文献レビュー）を元に評価。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

レポート・論文の書き方 （古田健正著 ナカニシヤ出版）

言語聴覚学研究Ⅰ

井脇貴子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

個別指導のもとに各自の研究テーマを設定し、自己学習を深める。

【授業計画】

各自が設定した研究課題について指導する。

1. テーマの設定 研究目的の明確化と研究計画
2. 関連文献の調査と整理
3. 実験・調査など研究方法の検討、実験技術の習得
4. データの収集、結果の分析と評価
5. 論文の構成要素、アウトラインの作成
6. 口頭発表による研究報告

【評価方法】

進捗状況の報告
研究結果、論文・口頭発表によって評価する

【テキスト】

使用せず

言語聴覚学研究Ⅰ

加藤正子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

小児の発話とその障害を中心とするコミュニケーション障害をテーマにして論文を書くために、著作や論文を読み、先行研究を知る。さらに小児の構音とその障害に関する研究法を学ぶ。

【授業計画】

1. 小児の発話障害のテキストを講読する。
2. 各自、構音と障害の文献を探す。
3. 各自文献の研究法を検討し、発表する。

【評価方法】

出席、レポート、プレゼンテーションの内容

【テキスト】

構音と音韻の障害 （船山美奈子監訳 協同医書）

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学研究Ⅰ

鈴木朋子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

失語症などの成人のコミュニケーション障害の先行研究について理解を深め、問題意識を持つとともに、具体的な研究方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 成人コミュニケーション障害関連テキストの購読
2. 研究方法の学習
調査法、実験法、単一事例研究法など及び、各々に対するデータ分析法について
3. 研究テーマの探索、検討
4. 先行研究の検索、抄読、発表

【評価方法】

出席状況、レポート、発表内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

言語聴覚学研究 I

丹羽英人

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

1. 各種の言語聴覚障害の詳細なメカニズムについて理解する。
2. 実際の診断方法を理解する。
3. 特殊な検査方法を実際に行うことができるようにする。

【授業計画】

1. 言語聴覚障害とは
2. 言語聴覚障害の病態
3. 言語聴覚障害の診断
4. 聴覚障害の治療
5. 聴覚障害の医学的リハビリテーション
6. 聴覚障害の臨床の実際（診断治療）

【評価方法】

出席状況、レポート、筆記試験

【テキスト】

随時プリント使用

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

言語聴覚学研究 I

船崎康広

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

自閉症その他、発達障害領域における独自の研究テーマを見つけ出し、研究計画を作成する。

【授業計画】

1. 様々な研究方法について学ぶ
2. 著作、論文や各々の体験その他から、独自の研究テーマを探る
3. 研究計画を作成し、発表する

【評価方法】

出席、レポート、プレゼンテーションの内容

【テキスト】

言語障害の研究入門（伊藤元信著 協同医書）

【参考文献・資料】

授業中に指定する

言語聴覚学研究 I

吉田 敬

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

【授業の目標】

失語症を中心とする成人のコミュニケーション障害の先行研究を理解するとともに、具体的な研究方法について学ぶ。

【授業計画】

1. 専門文献の検索、入手
2. 専門文献の講読、内容に関する討論
3. 受講者が関心を持つ研究テーマの発表

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づき評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学総合演習 I

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

オムニバス 4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚臨床で必要とされる基礎分野および専門分野の知識について総合的に学ぶ。

- (丹羽英人教授) 医学の各領域について理解を深める。
 (井脇貴子准教授) 聴覚障害について理解を深める。
 (加藤正子教授) 小児の発声発語の障害について理解を深める。
 (船崎康広准教授) 言語発達障害児の障害別特徴について理解を深める。
 (鈴木朋子准教授) 成人のコミュニケーションの障害について理解を深める。
 (吉田敬准教授) 失語症、言語学、音声学の領域について理解を深める。

【授業の目標】

言語聴覚臨床で必要とされる基礎分野および専門分野の知識を身につけ、広い視野で言語障害のメカニズムを理解する。

【授業計画】

- オムニバス形式による。
1. オリエンテーション
 - 2.4. 医学の各領域について
 - 5.6. 聴覚障害について
 - 7.8. 小児の発声発語の障害について
 - 9.10. 言語発達障害児の障害別特徴について
 - 11.-12. 成人のコミュニケーションの障害について
 - 13.-15. 失語症、言語学、音声学の領域について

【評価方法】

授業への参加状況、小テスト、期末テストに基づき評価する。

【テキスト】

医療研修推進財団（監修）（2008）『言語聴覚士国家試験出題基準』医歯薬出版
 廣瀬肇（監修）（2005）『言語聴覚士テキスト』医歯薬出版。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

言語聴覚学研究 II

井脇貴子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

「言語聴覚科学研究 I」における自己学習を踏まえ、個別指導のもとに各自の研究テーマの完成を目指す。

【授業計画】

研究の成果をまとめ卒業レポートを完成させるための指導をする。

1. データの整理、分析、評価、考察
2. 論文の書き方、参考文献の引用法
3. 論文の要旨の作成
4. プレゼンテーションのための資料の作成
5. 口頭発表と全員による討論

【評価方法】

研究レポートとプレゼンテーションによって評価する

言語聴覚学研究 II

鈴木朋子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識を発展させ、各自の研究テーマを絞り、研究計画を立案し、それに基づいて、研究を開始する。

【授業計画】

1. 先行研究を元に各自、研究テーマを選択し、発表する。
2. 研究テーマに関連した文献を購読する。
3. 各自研究計画を立案する。
4. 立案した研究計画を発表し、討論する。
5. 研究計画に基づいて、研究を開始する。

【評価方法】

出席状況、授業態度、発表内容、進行度に基づいて評価する。

【テキスト】

授業中に紹介する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

言語聴覚学研究 II

加藤正子

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

言語聴覚研究 I で学んだ内容を深め、各自研究したいテーマと研究法を考える。

【授業計画】

著作・論文を読み、先行研究から各自興味のあるテーマを探す。そのテーマで論文を書くための実験計画・調査計画を考える。予備研究を行う。

【評価方法】

研究計画と研究内容

【テキスト】

授業で明示する。

【参考文献・資料】

先行研究論文

言語聴覚学研究 II

丹羽英人

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

言語聴覚障害の中で特に成人の聴覚障害を理解する。聴覚機能検査各種を理解し聴覚生理の特殊性を実際に実験する。

【授業計画】

1. 各種の聴覚障害の詳細な病態、聴覚医学の中での位置づけ。
2. 伝音難聴の診断治療、リハビリテーション。
3. 内耳性難聴の診断治療、リハビリテーション。
4. 後迷路性難聴の診断治療、リハビリテーション。
5. 聴覚の年齢変化とは、感覚器系の退行性変化。
6. 上記内容を臨床的に検討。

【評価方法】

出席状態、レポート、筆記試験

【テキスト】

随時プリント配布

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

言語聴覚学研究 II

船崎康広

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

独自のテーマに基づいた調査、実験等を実施し、データの蓄積・分析等を行い、卒業論文の執筆の準備をする

【授業計画】

1. 各テーマに基づく調査・実験の実施
2. 各テーマに基づく調査・実験の結果の分析および報告
3. 卒業論文の執筆

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況、プレゼンテーションの内容に基づき評価する

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

授業中に指定する

言語聴覚学研究 II

吉田 敬

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

独自のテーマに基づいた調査・実験を行い、卒業論文の執筆の準備をする。

【授業計画】

1. 各受講者による調査・実験
2. 各受講者の調査・実験結果の分析および報告
3. 卒業論文の執筆

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づき評価する

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

言語聴覚学総合演習 II

井脇貴子 加藤正子 鈴木朋子 丹羽英人 船崎康広 吉田 敬

オムニバス 4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「言語聴覚学総合演習 I」で習得した内容を踏まえ、以下の基礎分野および専門分野の知識を深める。

- (丹羽英人教授) 医学の各領域について理解を深める。
 (井脇貴子准教授) 聴覚障害について理解を深める。
 (加藤正子教授) 小児の発声発語の障害について理解を深める。
 (船崎康広准教授) 小児の発達障害について理解を深める。
 (鈴木朋子准教授) 成人のコミュニケーションの障害について理解を深める。
 (吉田敬准教授) 失語症、言語学、音声学の領域について理解を深める。

【授業の目標】

「言語聴覚学総合演習 I」で習得した内容を踏まえ、言語聴覚士に必要な基礎分野および専門分野の知識を確実なものとする。

【授業計画】

オムニバス形式による。

1. オリエンテーション
- 2-4. 医学の各領域について
- 5-6. 聴覚障害について
- 7-8. 小児の発声発語の障害について
- 9-10. 言語発達障害児の障害別特徴について
- 11-12. 成人のコミュニケーションの障害について
- 13-14. 失語症、言語学、音声学の領域について

【評価方法】

期末テストに基づき評価する。

【テキスト】

医療研修推進財団（監修）（2008）『言語聴覚士国家試験出題基準』医歯薬出版。
 廣瀬肇（監修）（2005）『言語聴覚士テキスト』医歯薬出版。

【参考文献・資料】

授業内で提示

言語聴覚学研究 III

井脇貴子

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究 I・II」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

- (1) 独自の研究テーマの再確認を行う。
- (2) 計画に基づいて実施する。

【授業計画】

1. 卒業研究の完成をめざし、個々に指導する。
研究計画、並びに結果についてプレゼンテーションを行い、その内容について討議する。
2. 言語聴覚士になるために必要な、基礎分野および専門分野の知識を復習し、確実なものにする。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、自らの研究へのとりくみを総合的に評価する。

言語聴覚学研究 III

加藤正子

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

研究論文を作成する事で、言語聴覚学の研究法を学ぶ。

【授業計画】

卒業論文を完成させる。

【評価方法】

論文の完成度

【テキスト】

授業で明示する。

【参考文献・資料】

研究論文に必要な文献

言語聴覚学研究 III

鈴木朋子

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

各自、研究計画に基づいて開始した研究を完成させ、論文を執筆する。

【授業計画】

1. 研究計画に基づいて開始した研究を継続する。
2. 結果の分析、考察を行い、議論する。
3. 論文の執筆をする。
4. 研究を発表する。

【評価方法】

研究の実施状況、論文の内容に基づいて評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

言語聴覚学研究 III

丹羽英人

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

授業にて明示する。

【授業計画】

言語聴覚士になるために必要な、基礎分野および専門分野の知識を復習し、確実なものにする。

【評価方法】

授業にて明示する。

言語聴覚学研究 III

船崎康広

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

研究論文を作成することで、言語聴覚学の研究法を学ぶ。

【授業計画】

1. 卒業論文の完成
2. 研究内容のプレゼンテーション

【評価方法】

卒業論文の完成度、プレゼンテーションの内容に基づき評価する

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

研究論文に必要な文献

言語聴覚学研究 III

吉田 敬

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

【授業の目標】

独自のテーマに基づいた卒業研究を行う。

【授業計画】

1. 各受講者の調査・実験結果の分析および報告
2. 卒業論文の執筆
3. 研究内容のプレゼンテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題の提出状況に基づき評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に指定する。

2004年度から2007年度入学者対象

リハビリテーション概論

原田良實

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

リハビリテーションとは何か、その言葉の由来、定義、沿革、病気と障害の関連・関係、障害の統計、障害の階層的分類、対策、ノーマライゼーション、インフォームドコンセント、障害者の自己決定権、障害の告知等の学習を通して、リハビリテーションが障害者の全人格的復権を目的とする行為であることを理解する。

【授業の目標】

障害者全般について概観するなかで、リハビリテーションについて、その位置と重要性を理解する。

【授業計画】

- 講義方式による。授業中、適宜にプリントを配布する。
- 第1回 「リハビリテーション」とは何か。言葉と定義
 - 第2回 「障害者」とは何か。言葉と定義
 - 第3回 障害者の歴史と障害者観
 - 第4回 調査にみる障害者の実態
 - 第5回 障害を持つということ
 - 第6回 障害の告知・受容・リハビリテーション
 - 第7回 障害をもつ人の福祉 (1)
 - 第8回 障害をもつ人の福祉 (2)
 - 第9回 相談援助
 - 第10回 リハビリテーションの事例から考える (1)
 - 第11回 リハビリテーションの事例から考える (2)
 - 第12回 リハビリテーションの事例から考える (3)
 - 第13回 リハビリテーション・障害者福祉関連情報
 - 第14回 期末試験
 - 第15回 「リハビリテーション」とは、まとめ

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。)期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視覚障害リハビリテーション概論(坂本洋一 中央法規出版)
社会生活力プログラム・マニュアル(赤塚光子 中央法規出版)

聴覚心理学

城 哲哉 吉川雅博

オムニバス 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超分節的要素の音響的特徴について学習するとともに、音声情報処理の生理機構、可聴範囲、音の心理物理学、マスキング現象、両耳聴の効果と音源定位、生活環境と聴覚との関係などについて学習する。

【授業の目標】

- 1 音声を音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
- 2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつかを理解する。
- 3 病的音声の音響分析や聴力測定などの音響の応用的側面について理解を深める。

【授業計画】

講義は二人の担当者が分担して行い、まず前半(第1回～第7回)で音の物理的特性や音声の音響特徴に触れ、後半(第8回～第14回)で音声の聴覚処理について講義を進める。テキスト(「言語聴覚士のための音響学」)の該当章を下に示す。

- 第1回 音の物理入門(第1章)
- 第2回 スペクトル(第3章)
- 第3回 音声生成の音響学(第5章)
- 第4回 前回の続き(第5章)
- 第5回 音のデジタル信号処理(第6章)
- 第6回 日本語音声の音響的特徴(第7章)
- 第7回 前回の続き(第7章)
- 第8回 信号としての音波(第2章)
- 第9回 病的音声の音響的特徴(第8章)
- 第10回 聴覚の基本構造(第9章)
- 第11回 伝達関数(第4章)、聴覚フィルタとマスキング(第10章)
- 第12回 音の大きさの知覚と認知(第11章)
- 第13回 音の高さの知覚と認知(第12章)
- 第14回 音声の知覚と認知(第13章)
- 第15回 まとめと試験

【評価方法】

最終試験(国試に準じた5択式)により評価する。

【テキスト】

言語聴覚士のための音響学(今泉敏著 医歯薬出版株式会社)
図解雑学 音のしくみ(中村健太郎著 ナツメ社)

【参考文献・資料】

- ・音入門-聴覚・音声科学のための音響学(チャールズ・E.スピークス著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・音声の音響分析(レイ・D.ケント、チャールズ・リード著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・音声知覚の基礎(ジャック・ライアルズ著、今富祺子、菅原勉、荒井隆行 監訳)
- ・音声・聴覚のための信号とシステム(スチュアート・ローゼン、ピーター・ハウエル著、荒井隆行、菅原勉 監訳)
- ・言語聴覚士の音響学入門(吉田友敬著)

以上の5冊すべて出版社は、海文堂です。

医療貢献学科 視覚科学専攻中心基礎科目

対人技術演習

小川昌代

3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

医療機関のスタッフの一員として働くために必要なコミュニケーション技術やマナーについて理解する。理解した事が相手に伝わるように技術を身につける。

【授業の目標】

医療現場に必要なコミュニケーションスキルを知り、身につける。特に臨床実習に向けて身につけたい基本的なコミュニケーション技術やマナーの重要性を理解し、演習で確認する。

【授業計画】

1. オリエンテーション(医療現場の現実と必要なマナー)
2. 第一印象の重要性
3. 挨拶の仕方
4. 電話応対
5. ビジネス文書(実習先 お礼状の書き方)
6. ロールプレイI
7. ロールプレイII

【評価方法】

出席状況と演習態度
ロールプレイ評価

【テキスト】

配布資料のみ

【参考文献・資料】

「患者対応マナーBOOK」堀堀 幸次 著 医学通信社
「PatientSatisfaction看護マナーブック」江藤 かおる 著 学習研究社

臨床心理学

戸田裕美子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人格理論、発達各期における心理臨床の問題や意識障害、適応障害などについて学び、さらにそれらに対する心理療法やカウンセリングの構造や特性について学ぶ。

【授業の目標】

1. 臨床心理学について学び、現代社会に生じる心理臨床の問題、意識障害、適応障害について、そのメカニズムを含め考察する。
2. 人格理論にもとづいた実践である心理療法を学び、心理的援助の理解を深める。

【授業計画】

1. 「臨床心理士」について(自己紹介)
2. 心理臨床の問題について
 - ・発達段階において考える
 - 乳幼児期、児童期・思春期、青年期、中年期、老年期
 - ・精神障害
3. 人格理論と心理療法
 - ・クライエント中心療法
 - ・精神分析療法
 - ・行動療法
4. アセスメント
5. 他職種との連携

【評価方法】

期末試験及び授業内に行われる小レポートによるが、授業への参加関与度を考慮する

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する

発達障害学

渡邊一功

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害等の発達障害について学習し、それらの障害の発生原因、機序、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業の目標】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害などの発達障害の発生原因、病態、医学的治療、教育的対応、福祉的支援について理解する。

【授業計画】

- 第1回 発達障害とは
概念 原因
- 第2回 精神発達障害(1)
知的障害
- 第3回 精神発達障害(2)
コミュニケーション障害 学習障害
- 第4回 精神発達障害(3)
注意欠陥多動障害
- 第5回 精神発達障害(4)
広汎性発達障害
- 第6回 運動発達障害(1)
脳性麻痺
- 第7回 運動発達障害(2)
神経筋疾患
- 第8回 重症心身障害児
- 第9回 発達障害の医療的ケア(1)
てんかん
- 第10回 発達障害の医療的ケア(2)
呼吸障害 摂食障害
- 第11回 発達障害の医療的ケア(3)
栄養障害 消化器疾患 睡眠障害
- 第12回 発達障害児の療育
- 第13回 発達障害の教育
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況と期末試験による

【テキスト】

発達障害児の医療・療育・教育(松本昭子・土橋圭子編 金芳堂)

【参考文献・資料】

発達障害医学の進歩1-20(診断と治療社)
小児神経学(加我牧子 稲垣真澄 有馬正高編著 診断と治療社ISBN:9784787816559)

090654015_0080 掲載順:0080

MCode:090653013_0190 ▲

言語聴覚学と社会福祉

遠藤尚志 山口千恵子

オムニバス 4年 前期・前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

福祉・介護分野での言語聴覚士の役割について理解する。特に介護保険制度の仕組み、高齢者福祉・介護におけるリハビリテーションの位置づけ、福祉・介護領域の専門職が対象とする領域、福祉・介護領域の専門職との連携方法について学ぶ。

【授業の目標】

失語症者の長期継続ケア(生活ケア)活動を日本の社会福祉制度(特に介護保険制度)の中で位置づけた上で、言語聴覚士が社会リハビリテーション活動を行うための原理と方法を身につける。

【授業計画】

- 言語聴覚士の職業活動を支える財源、制度および社会資源についての理解を深める。
- 言語聴覚士の社会的役割が分析的・論理的思考による問題の「診断と評価」にあることを知って、その認識のもとに評価報告書の作成を体験する。
- 言語聴覚士の活動が、「医学モデル」(障害を治す、軽減する)と「生活モデル」(ADLを外界とのコミュニケーションの出発点とする)と「社会モデル」(障害をもつ人を社会が受け入れる)の3つの交わる点にあることを理解する。
- 言語聴覚士の行う仲間づくりの活動の具体例から、「言葉で20%しか表現できないなら残りの80%は周りの私たちが引き受ける」という失語症者にやさしい社会への展望をもつ。

【評価方法】

- 事前レポートの提出(10点)
- 講義中の演習1~5の成績(各8点。計40点)

【テキスト】

広瀬肇(監修)「言語聴覚士テキスト」。医歯薬出版、2005年

【参考文献・資料】

遠藤尚志「言葉の海へー失語症ケアの始まりと深まり」。筒井書房、1996年
大田仁史・遠藤尚志・失語症者家族「失語症と言われたあなたへ」。エスコー、2008年

音響学

城 哲哉

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

調音音声学について実演を交え理解する。さらにソフトウェアを利用して音声の音響分析を行う。

【授業の目標】

- 次のような力の涵養を目標とする。
- IPA(国際音声字母)による音の表記、発音、聴き取り能力
 - 音響分析の基本的な技量
 - 調音器官の動きと音響出力の関係を理解する力
 - 音響分析の結果を分かりやすく提示する表現能力

【授業計画】

- 第1回 授業概要説明
- 第2回 IPA(国際音声字母)による日本語音声表記
- 第3回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(1)
- 第4回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(2)
- 第5回 IPA(拡張IPA含む)の発音、聴取、表記練習(3)
- 第6回 音声の録音、再生、処理、加工
- 第7回 音声分析法
- 第8回 日本語音声による分析法の実際:母音
- 第9回 日本語音声による分析法の実際:破裂音
- 第10回 日本語音声による分析法の実際:摩擦音
- 第11回 日本語音声による分析法の実際:鼻音、流音
- 第12回 日本語音声による分析法の実際:プロソディ
- 第13回 調音運動と音響特性(1)
- 第14回 調音運動と音響特性(2)
- 第15回 まとめ

【評価方法】

授業中の提出物 50%
最終レポート 50%

【テキスト】

音声工房を用いた音声処理入門(石井直樹著 コロナ社)

【参考文献・資料】

国際音声記号ガイドブック(国際音声学会編、竹林滋、神山孝夫訳 大修館書店)
日本語音声学入門(齊藤純男著 三省堂)
実践音声学入門(J.C.Catford著、竹林滋 他訳 大修館書店)
音声研究入門(今石元久編 和泉書院)
音声生成の科学(Ingo R. Titze著、新美成二監訳 医歯薬出版株式会社)
音声の音響分析(R.D.Kent、C.Read著、荒井隆行 他訳 海文堂)
新ことばの科学入門(G.J.Borden 他著、廣瀬肇訳 医学書院)

090654015_0090 掲載順:0090

MCode:090653013_0250 ★

形成外科学

大久保文雄

2年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

創傷治療と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業の目標】

臨床医学における形成外科の役割を中心に、口蓋裂の言語臨床、治療を理解する。

- 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患(頭頸部腫瘍を中心に)を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

【授業計画】

- 形成外科総論
 - 形成外科とは
 - 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 創傷治療と組織移植
- 口唇口蓋裂
 - 概念、発生、病理
 - 形成外科的治療
 - チーム医療
- 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定無し

【参考文献・資料】

講義中に配布

リハビリテーション医学

木村伸也 澤田泰洋 鈴木朋子 千鳥司浩 橋詰玉枝子

オムニバス 3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

リハビリテーション医学の基礎と臨床の実際について、リハビリテーション関連スタッフによる演習的内容も含めて学習する。

【授業の目標】

リハビリテーション医学の基礎とその臨床の実際について学び、関連職種によるチームアプローチについての理解を深める。

【授業計画】

- 1 リハビリテーション医学を学ぶ目的
- 2 国際生活機能分類 (ICF) について
- 3 廃用症候群とは
- 4 目標指向的リハビリテーション
- 5 リハビリテーションにおけるチームアプローチ
- 6 理学療法について
- 7 作業療法について
- 8 言語聴覚療法について
- 9 介護サポート方法についての演習

【評価方法】

出席状況、授業中の態度、レポート、期末試験にて総合的に評価する。

【テキスト】

新しいリハビリテーション (大川弥生 講談社現代新書)
介護保険サービスとリハビリテーション (大川弥生 中央法規)

【参考文献・資料】

目で見えるリハビリテーション医学 第2版 (上田敏 東京大学出版社)
その他、授業で随時紹介する。

ロービジョン医学演習

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「ロービジョン医学」での学習内容を踏まえ、各種補装具の選定、取り扱い、遠方・近方視訓練やロービジョンに関わるリハビリテーションの実際を学習する。

【授業の目標】

1. ロービジョンの評価法の手技を習得する
2. 各種補装具の特性を理解し操作法を習得する
3. 関係施設について知識を深める

【授業計画】

- 第1回 視覚障害に関する制度
- 第2回 ガイドヘルプの実際 (1)
- 第3回 ガイドヘルプの実際 (2)
- 第4回 ロービジョンでのコンピューター利用
- 第5回 読書評価に基づく拡大率の決定
- 第6回 光学的補助具の選定法
- 第7回 非光学的補助具の使用法 (1)
- 第8回 非光学的補助具の使用法 (2)
- 第9回 遮光眼鏡の選定法 (1)
- 第10回 遮光眼鏡の選定法 (2)
- 第11回 各種補助具の指導法
- 第12回 盲学校見学
- 第13回 レンズ工場見学
- 第14回 まとめ (1)
- 第15回 まとめ (2)

【評価方法】

出席を重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

視能学 (丸尾敏夫・久保田伸江・深井小久子)
ロービジョンケアの実践 (第2版) (高橋広編著 医学書院)
ロービジョンケアガイド (樋田哲夫編 文光堂)

ロービジョン医学

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

オムニバス 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ロービジョンの視覚科学的特性、心理社会的側面、および、その評価方法、援助方法について学ぶ。
(大庭紀雄教授) 高齢者と小児におけるロービジョンの病態の違い、ロービジョンの評価法や病歴の聴取法について学ぶ。
(川嶋英嗣教授) ロービジョンの定義や心理社会的側面、視覚特性について理解し、日常生活の行動にその視覚特性がどのように影響しているかについて理解を深める。
(川瀬芳克教授) 光学的・非光学的補装具の選定や遠方視・近方視訓練のテクニックの実際について習得する。また、チーム治療の必要性や、視機能以外の評価法および視覚以外の感覚を利用したリハビリテーションの実際についても習得する。

【授業の目標】

1. ロービジョンの代表的な疾患とその経過を理解する
2. 読書の評価法と拡大率算定方法について理解する
3. 光学的補助具の特性を理解する

【授業計画】

- 第1回 ロービジョンの定義
- 第2回 視機能障害をきたす代表的な疾患
- 第3回 ガイドヘルプの理論 (1)
- 第4回 ガイドヘルプの理論 (2)
- 第5回 ロービジョンとコンピューター
- 第6回 読書評価 (1)
- 第7回 読書評価 (2)
- 第8回 光学的補助具 (1)
- 第9回 光学的補助具 (2)
- 第10回 遮光眼鏡 (1)
- 第11回 遮光眼鏡 (2)
- 第12回 各種補助具の指導法 (1)
- 第13回 各種補助具の指導法 (2)
- 第14回 まとめ (1)
- 第15回 まとめ (2)

【評価方法】

出席を重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントなどを配布する。

【参考文献・資料】

視能学 (丸尾敏夫・久保田伸江・深井小久子)
ロービジョンケアの実践 (第2版) (高橋広編著 医学書院)
ロービジョンケアガイド (樋田哲夫編 文光堂)

神経系の解剖・生理・病理

渡邊一功

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

身体全体における神経系の位置づけを正しく把握した上で、神経系の構造、機能、病態について理解を深める。

【授業の目標】

神経系の構造、機能、病的状態についての基本的知識を体得する。

【授業計画】

- 第1回 神経解剖学の基礎的事項
- 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
- 第3回 随意運動のための神経伝導路
- 第4回 大脳皮質下の運動中枢
- 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
- 第6回 自律神経系、視床下部
- 第7回 脳神経
- 第8回 聴覚伝導路
- 第9回 視覚伝導路と視覚反射
- 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
- 第11回 大脳皮質
- 第12回 髄膜、脳室系、脳血管支配
- 第13回 中枢神経系の病理
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、期末試験による

【テキスト】

リープマン神経解剖学、第2版 (山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

【参考文献・資料】

臨床のための神経機能解剖学 (後藤文雄 天野隆弘著 中外医学社 ISBN:4-498-02880-5)
カラー図解神経の解剖と生理 (Ben Greenstein Adam Greenstein [著]/大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル ISBN9784895922692)
カラー図解臨床でつかえる神経学 (Reinhard Rohkamm著 大石実訳 メディカル・サイエンス・インターナショナルISBN978-4-89592-438-2)

2004年度から2007年度入学者対象

視覚認知特論

高橋伸子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

形態視、色彩視、立体視、運動視のメカニズムについて理解を深め、脳の視覚情報処理全体の中で、これらの視覚モジュールの位置づけについても考察する。

【授業の目標】

脳科学に基づく視覚情報処理モデルや視覚認知過程について学び、脳と視覚の関係について理解する。また、眼の進化や視覚の比較生理学から、ヒトの眼の特徴についての理解を深める。

【授業計画】

- 1) オリエンテーション
- 2) 視覚の進化
- 3) 視覚皮質の機能分化
- 4) 視覚情報処理経路
- 5) 視覚モジュールと統合
- 6) まとめ

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

脳のヴィジョン (S.ゼキ著 河内十郎訳 1995 医学書院)
動物は世界をどう見るか(鈴木光太郎著 1995 新曜社)
視覚の進化と脳 (三上章允編 1993 朝倉書店)

視能矯正学各論 I

平井淑江

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人の眼位や両眼視機能と眼球運動との関係を機能解剖学的に学習する。(平井淑江教授) 両眼視機能の正常像と病態像について学ぶ。

【授業の目標】

1. 両眼視機能の成り立ちと構造を理解する。
2. 外眼筋の解剖と眼球運動・眼位について理解する。
3. 機能的視覚障害である弱視・心因性視覚障害について理解する。

【授業計画】

講義方式による。検査機器やビデオを適宜使用する。学生の理解度を測定し、講義にフィードバックする目的でプリテストとミニテストを適宜行う。

- 第1回 両眼視機能の基礎 1. 眼窩・外眼筋・眼球運動機構
- 第2回 両眼視機能の検査法 1. 眼位、眼球運動
- 第3回 両眼視機能の基礎 2. 両眼視の神経機構、発達と劣化
- 第4回 両眼視機能の検査法 2. 同時視、融像、立体視、対応
- 第5回 視能矯正：両眼視訓練
- 第6回 機能的弱視 1. 定義、成因、病型
- 第7回 機能的弱視 1. 検査法：小児の視力検査と固視検査
- 第8回 機能的弱視 2. 検査、診断、治療
- 第9回 機能的弱視 2. 屈折矯正と眼鏡、遮蔽法
- 第10回 心因性視覚障害の成因・症候・治療
- 第11回 心因性視覚障害の検査
- 第12回 眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の成因・症候・治療
- 第13回 眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の検査
- 第14回 単位認定試験
- 第15回 まとめ

【評価方法】

視能矯正、視能訓練の概念と基本知識を理解し、実地に活用できるかどうかを測定する。
出席状況、授業態度、期末試験を加点法で評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

適宜紹介・資料配付

視覚科学専攻中心専門科目

視覚心理特論

高橋啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

錯視現象、知覚の恒常性、両眼立体視、奥行き知覚について、これまでの実験的研究の知見に基づきながら理解を深めることを通して、逆光学推論系としての視覚の特性とメカニズムについて考察する。
さらに、高次脳機能障害に基づく視覚障害者の症例研究から、中枢系の視覚メカニズムの特性について知見を深める。

【授業の目標】

視知覚のうち、特に初期知覚の特性についての知見を学ぶことで、課題解決推論系としての視覚情報処理系の特性について理解する。さらに、高次脳機能と視覚との関係について、症例に基づきながら知見を深める。

【授業計画】

- 第1回 ステレオグラムの実体験
- 第2回 ステレオグラムの意味するもの
- 第3回 計算推論系としての視覚情報処理系
- 第4回 ランダムドット・ステレオグラムという方法
- 第5回 ランダムドット・ステレオグラムがもたらしたもの
- 第6回 視覚系の適応性 1
- 第7回 視覚系の適応性 2
- 第8回 視覚系の適応性 3
- 第9回 視覚系の適応性 4
- 第10回 心理物理学と脳科学 1
- 第11回 心理物理学と脳科学 2
- 第12回 心理物理学と脳科学 3
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験 1
- 第15回 単位認定試験 2

【評価方法】

出席15点満点、単位認定テスト85点満点とし、両者合計で60点以上取得の者を合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

Q&Aでわかる脳と視覚－人間からロボットまで－ (乾敏郎 サイエンス社)
視覚の文法－脳が物を見る法則 (ドナルド・D・ホフマン 紀伊國屋書店)
(意識)とは何だろうか－脳の来歴、知覚の錯誤－ (下條信輔 講談社現代新書)
視覚の謎－症例が明かす (見るしくみ)

視能矯正学各論III

平井淑江

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視の病態、発症メカニズムとその検査について学習する。
(平井淑江教授) 機能・器質弱視の病態を検査する意義、原理、方法、検査理論について学習する。

【授業の目標】

弱視及び斜視の種類とその診断・治療・検査について包括的に理解する。眼振について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 斜視の種類
- 第2回 眼位・眼球運動・眼球運動の法則
- 第3回 上下斜視・AV型斜視・回旋斜視・交代性上斜視
- 第4回 頭位異常・回旋の検査
- 第5回 Bielschowsky testとPerksの3 step test
- 第6回 眼筋麻痺の検査：Hess赤緑試験
- 第7回 眼筋麻痺の検査：複像テスト
- 第8回 眼振：眼位性眼振の検査と対応
- 第9回 ケーススタディ
- 第10回 機械的斜視・筋原性斜視・牽引試験
- 第11回 斜視の手術・ボツリヌス
- 第12回 眼振の成因・症候・治療
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験 (1)
- 第15回 単位認定試験 (2)

【評価方法】

出席状況・受講態度・レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫 他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

プリントを適宜配布

視能矯正学各論 IV

大庭紀雄

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の脳機能の問題について理解を深め、視覚情報処理機構の特性と、種々の視覚障害との関連性、さらに高次脳機能障害や学習障害と視覚障害との関連性について学習する。

【授業の目標】

視覚のメカニズムとその損傷について認知神経心理学の知見に従って理解し、損傷というシミュレーションの意味と適用可能性を考えることが可能になるようにする。

【授業計画】

必要に応じて受講者が参加する簡単な実験を行い、またAV資料を用いて理解を深める。

第1回	視覚システムの機能と構造
第2回	認知神経心理学の概要 (1)
第3回	認知神経心理学の概要 (2)
第4回	視覚の問題 (1)
第5回	視覚の問題 (2)
第6回	視覚の問題 (3)
第7回	イメージの損傷 (1)
第8回	イメージの損傷 (2)
第9回	色彩の問題 (1)
第10回	色彩の問題 (2)
第11回	色彩の問題 (3)
第12回	視覚障害への対応 (1)
第13回	視覚障害への対応 (2)
第14回	まとめ
第15回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況 (20%)、随時のレポート (20%) と期末試験 (60%) で評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で随時紹介する。

視能訓練学各論 I

平井淑江

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視訓練、治療の目的、原理、適応、訓練の効果評価法、治療判定の基準について学習する。

【授業の目標】

1. 小児の視機能の発達と特性について理解する。
2. 診療録や病歴について記載法を習得する。
3. 弱視を原因別に分類しそれに応じた検査法・訓練法を計画する。

【授業計画】

第1回	弱視の訓練と治療の基本的概念
第2回	小児視力の発達と特性
第3回	現病歴・既往歴・家族歴
第4回	固視検査1. 他覚的検査 固視検査2. 自覚的検査
第5回	中心固視・偏心固視・偏心視、固視不良
第6回	屈折検査・矯正眼鏡・コンタクトレンズの選択
第7回	遮蔽法
第8回	光学的・薬理的遮蔽法
第9回	弱視の訓練器具と効果判定
第10回	訓練計画：治療基準と治療期間
第11回	ケーススタディ
第12回	訓練計画の評価
第13回	まとめ (1)
第14回	まとめ (2)
第15回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定検査等で総合的に判断する。

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

小児眼科の検査と視能訓練 (佐藤美保編 メディカ出版)

視能検査学各論 IV

大庭紀雄 川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査方法および検査結果の読み取りについて、さらに理解を深め、有効な視能矯正を行うための判断能力を習得する。
(大庭紀雄教授) 主要な病態因子の位置づけについて学ぶ。
(川瀬芳克教授) POSで検査結果を分析する技法について学ぶ。
(平井淑江教授) 入力系検査を基に、統合系、出力系の基本的な検査法の知識と技術を習得する。

【授業の目標】

1. 1年次より継続して開講した検査学総論、各論I, II, IIIの総仕上げとして視能訓練士が担当するすべての視能検査の方法と目的を理解する。
2. それぞれの検査のポイントを理解し、検査機器に習熟する。
3. すべての視能検査の習熟度が視能訓練士として国家資格レベルに達することを旨とする。

【授業計画】

1. 視力検査について
2. 屈折・調節検査について
3. 視野検査について
4. 眼位・眼球運動検査について
5. 両眼視機能検査について
6. 色覚検査について
7. 眼圧・涙液・角膜形状検査について
8. 瞳孔検査について
9. 眼瞼・眼球突出検査について
10. 電気生理検査について
11. 超音波検査について
12. 3次元眼底解析検査について
13. 眼科写真撮影法 (眼位・前眼部・眼底) について
14. 視能検査機器の管理について
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、小テスト、レポート、単位認定試験、

【テキスト】

視能学 (丸尾敏夫他 編 文光堂)

【参考文献・資料】

眼科検査ガイド (文光堂)

視能訓練学各論 II

田邊宗子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

斜視の病理学的理解とその矯正法について学ぶ。
斜視の視能矯正、光学的矯正、斜視の発症メカニズム、先天性、後天性斜視の診断と手術、薬物療法などの治療について学ぶ。

【授業の目標】

斜視の発症メカニズムの理解。斜視の分類と治療方法の理解。視能訓練士が行える視能訓練の適応者と訓練方法の理解と修得

【授業計画】

第1回	斜視弱視外来
第2回	弱視・斜視の検査
第3回	斜視の治療・訓練と分類 1
第4回	斜視の治療・訓練と分類 2
第5回	斜視の治療・訓練と分類 3
第6回	斜視の治療・訓練と分類 4
第7回	眼球運動と検査 1
第8回	眼球運動と検査 2
第9回	弱視訓練 1
第10回	弱視訓練 2
第11回	弱視訓練 3
第12回	斜視の訓練 1
第13回	斜視の訓練 2
第14回	期末テスト
第15回	まとめ

【評価方法】

主に期末試験により評価す。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映する。

【テキスト】

プリントを配布する。
眼科検査ガイド (眼科診療プラクティス編集委員編 文光堂)
視能学 (丸尾敏夫 久保田伸枝 深井小久子 文光堂)

【参考文献・資料】

視能矯正 (弓削経一編 金原出版)
視能矯正学 (粟屋忍、丸尾敏夫編 金原出版)

視能訓練学各論 III

田邊宗子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視の訓練と両眼視獲得訓練、融像訓練、網膜対応異常の矯正訓練について、その原理、適応、方法について学習する。

【授業の目標】

視能矯正・訓練の最終目的の確認と訓練の原理、適応、方法の修得

【授業計画】

1. 視能矯正・訓練の定義の理解。
2. 視能矯正と訓練の目的の理解。
3. 視能矯正と訓練の原則の理解
 - 1) 目的に応じた目標の設定とそのための訓練計画作成
 - 2) 訓練の評価と訓練中止の要因の把握
4. 実際の訓練方法の原理を理解し、学生同士で模擬実習を行う。

【評価方法】

主に期末試験により評価する。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリント配布
 視能矯正（弓削経一編 金原出版）
 視能矯正学（粟屋忍 丸尾敏夫 金原出版）
 視能学（丸尾敏夫 久保田伸枝 深井小久子 文光堂）

【参考文献・資料】

視能矯正マニュアル（丸尾敏夫監修 メディカル葵出版）

視能訓練学各論 IV

大庭紀雄 川瀬芳克

オムニバス 3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚障害について眼疾病から保有視機能の訓練および支援方法まで幅広く理解するとともに、これまでに学んだ知識と有機的に結合させ総合的な理解を進める。
 （大庭紀雄教授）眼疾病の特性とその治療、予後について学ぶ。
 （川瀬芳克教授）ロービジョンなどにおける視覚障害の特性とその訓練法について学習する。

【授業の目標】

1. 眼症状の類型別特徴および治療方法を学ぶとともに総合的な理解を進める。
2. 視覚障害の種類とその特性を理解し対応について学ぶ。

【授業計画】

1. 眼疾病の理解
 - 1) 視覚障害の原因となる眼疾患とその特性
 - 2) 視機能と眼疾患のかかわりの理解
2. 視覚とその障害
 - 1) 視機能障害の種類とその特性
 - 2) 視覚補助具の種類とその特性
 - 3) 視覚補助具と眼屈折の関係

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫他編 文光堂）
 適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ロービジョンケアの実際（第2版）（高橋広編 医学書院）

視能訓練学各論 IV

大庭紀雄 川瀬芳克

オムニバス 4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

様々な視覚障害について幅広く理解するとともに、それらに対する訓練方法、支援方法について学ぶ。
 （大庭紀雄教授）眼球震盪症の病理学的特性とその治療、訓練について学ぶ。
 （川瀬芳克教授）高齢者、ロービジョンなどにおける視覚障害の特性とその訓練法について学習する。

【授業の目標】

1. 眼振とその類型別特徴および治療方法を学ぶとともにプリズムによる矯正を理解する。
2. 年齢別にみた視覚の特性と障害の特徴と対応について学ぶ。
3. 学習障害や半側無視などにおける視覚の特徴と対応方法を理解する。
4. 視覚の病態についての基本知識を応用する能力を養う。

【授業計画】

1. 眼振
 - 1) 眼振の種類とその特徴
 - 2) 眼振の検査法
 - 3) 眼振の治療法
2. 視覚とその障害
 - 1) 視覚と視機能
 - 2) 年齢別にみた視覚の特性とその障害
 - 3) 年齢別にみたロービジョンの特性と対応
3. 学習障害および高次脳機能障害における視覚特性
 - 1) 視覚特性
 - 2) 評価法
4. 視能訓練に密接に関連する視能検査、視能矯正、眼光学、眼疾病学など広い分野の基本的知識と技法について再確認するとともに新しい知識を補完するために、演習問題を与えながら所期の目標達成のための授業を計画する。

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫他編 文光堂）
 適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ロービジョンケアの実際（第2版）（高橋広編 医学書院）

視能矯正学実習 I

新井公子 伊藤照子 川瀬芳克 笹倉美
田邊宗子 馬場美良子 平井淑江

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに確実な定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

基本的となる視機能検査を実習する。その検査の目的と方法を理解して自信を持って検査を行えるようにする。検査結果の記載法を習得する。検査結果の評価について理解する。

【授業計画】

1. 学生を6～8名のグループに分割し、1名の教員が一つの検査項目を担当する。
2. 学生は一つの検査項目につき、2回ずつ巡回する。（計12回）
3. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
4. 検査項目は1) 視力検査・レンズメーター 2) 静的視野検査、3) 電気生理検査 4) 両眼視機能検査 5) 眼位・眼球運動検査 6) 前眼部・眼底写真
5. 第1回は全体のオリエンテーション、14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等を総合的に評価する。

【テキスト】

視能学（丸尾敏夫編 文光堂）
 プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習 I

伊藤照子 笹倉公美 馬場美良子

3年 前期 選択 1単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに知識の定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

視能検査を実習する。検査の目的と方法を理解し自ら検査を自信を持って行えるようにする。特に、視力検査について徹底的に実習し臨地実習に自信を持って立ち向かえるようにする。

【授業計画】

1. 学生を7グループに分け（1グループ6名程度）、1名の教員が1グループを担当する。担当教員は全期間、同じグループを担当する。
2. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
3. 検査項目は1) 遠見視力 2) 近見視力 3) レンズメーター 4) 眼鏡 5) 両眼開放視力 6) 小児視力 7) 眼圧測定 などとする。
4. 第1回はオリエンテーション、14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等、総合的に評価する。

【テキスト】

「目でみる 視力・屈折検査の進めかた」(所敬・山下牧子著 金原出版)
「視能学」(丸尾敏夫他編 文光堂)
プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習 II

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

3年 後期 必修 7単位

【授業の概要】

大病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し、習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視機能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。

【授業の目標】

1. 医療従事者としてのあり方を学ぶ。
2. 視能矯正を中心に視覚の生理機能の検査や視能訓練を修得する。
3. 実習病院独自の臨床、研究分野を積極的に学ぶ。
4. 外來業務の流れを学ぶ。
5. チーム医療の一員としてふさわしい態度を身につける。

【授業計画】

1. 2名を1グループとし、8月、9月の2ヶ月間を実習期間とする。
2. 各グループは1ヶ月ずつ2施設で実習指導を受ける。
3. 本学の実習担当教員と学外実習指導者は緊密な連携を保ち学生の実習が円滑に行われるように指導する。
4. チーム医療の一員としての自覚と責任を認識し、視能訓練士としての仕事を学び、他の医療関係者と健全な人間関係を確立できるように援助する。

【評価方法】

学外実習指導者の評価に基づき本学実習担当教員が評価する。

【テキスト】

学外実習の手引き

【参考文献・資料】

特になし

視能矯正学実習 I

伊藤照子 笹倉公美 馬場美良子

3年 後期 選択 1単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに知識の定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

【授業の目標】

視能検査を実習する。検査の目的と方法を理解し自ら検査を自信を持って行えるようにする。特に、視力検査について徹底的に実習する。さらに、前期臨地実習をもとに必要検査項目の実習を行い、臨地実習に自信を持って立ち向かえるようにする。

【授業計画】

1. 学生を7グループに分け（1グループ6名程度）、1名の教員が1グループを担当する。担当教員は全期間、同じグループを担当する。
2. 学生は検者・被検者に分かれて実際に検査を行う。
3. 検査項目は1) 遠見視力・近見視力 2) レンズメーター 3) 眼鏡 4) 両眼開放視力 5) 小児視力 6) 視野検査 7) 眼位検査などとする。
4. 第1回は前期臨地実習報告、14回・15回は評価及び不足した実習の追加・質疑応答を行う。

【評価方法】

出席状況・実習態度・検査がすみやかに過不足なく行えたか等、総合的に評価する。

【テキスト】

「目でみる 視力・屈折検査の進めかた」(所敬・山下牧子著 金原出版)
「視能学」(丸尾敏夫他編 文光堂)
プリントを適宜配布

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学実習 III

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

4年 前期 必修 7単位

【授業の概要】

大病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視機能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。社会に出る前の最後の実習としての自覚を持ち基本的な視能矯正の実践技術を自信を持って行えるような能力を養い、患者さんから学ばせて貰っているという謙虚さを身につける。また、医療チームの一員としての責任と自覚を学ぶ。

【授業の目標】

1. 医療従事者としてのあり方を学ぶ。
2. 視能矯正を中心に視覚の生理機能の検査や視能訓練を修得する。
3. 実習病院独自の臨床、研究分野を積極的に学ぶ。
4. 外來業務の流れを学ぶ。
5. チーム医療の一員としてふさわしい態度を身につける。
6. 最後の学外実習として完成度を高める。

【授業計画】

1. 2名を1グループとし、2月、3月の2ヶ月間を実習期間とする。
2. 各グループは1ヶ月ずつ2施設で実習指導を受ける。
3. 本学の実習担当教員と学外実習指導者は緊密な連携を保ち学生の実習が円滑に行われるように指導する。
4. チーム医療の一員としての自覚と責任を認識し、視能訓練士としての仕事を学び、他の医療関係者と健全な人間関係を確立できるように援助する。
5. 実習を確実なものとする。

【評価方法】

学外実習指導者の評価に基づき本学実習担当教員が評価する。

【テキスト】

学外実習の手引き

【参考文献・資料】

特になし

視覚科学研究 I

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、実験・文献研究・調査をおこなうことで、視覚科学の基礎及び視能矯正学の臨床に関して視能訓練士として必要な専門的知識を深めるとともに、応用や現場への基礎研究知見の還元について幅広い視点から問題意識を習得する。

【授業の目標】

視覚科学、視能学の分野における卒業研究テーマを決定するための準備として、これらの分野における研究知見を学生各自の興味・関心に基づいて、文献研究を行い、研究テーマの絞り込みを行う。それと同時に、当該分野の原著論文を読解する技能についても習得をめざす。

【授業計画】

各自、関心のある問題を扱った原著論文を購読し、それについて報告を行う。なお学生1人につき3本の原著論文の報告を義務づける。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索1
- 第3回 文献検索2
- 第4回 文献報告1-1
- 第5回 文献報告1-2
- 第6回 文献報告1-3
- 第7回 文献報告1-4
- 第8回 文献報告2-1
- 第9回 文献報告2-2
- 第10回 文献報告2-3
- 第11回 文献報告2-4
- 第12回 文献報告3-1
- 第13回 文献報告3-2
- 第14回 文献報告3-3
- 第15回 文献報告3-4

【評価方法】

出席、演習態度、期末の単位認定レポートによって総合的に評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

090654316_0180 掲載順 :0180

MASTER ★

視覚科学研究 III

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究I・II」の成果を踏まえ、主体的に具体的な調査または実験等を計画し、学術研究として展開する。

【授業の目標】

「視覚科学研究I・II」での学習内容を踏まえ、卒業研究を展開する。

【授業計画】

各回、指定された課題について、レジュメを用いての進行中の卒業研究に関する報告を行い、ゼミ生全員で報告に基づき議論する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究報告1-1
- 第3回 研究報告1-2
- 第4回 研究報告1-3
- 第5回 研究報告2-1
- 第6回 研究報告2-2
- 第7回 研究報告2-3
- 第8回 研究指導
- 第9回 研究指導
- 第10回 研究報告3-1
- 第11回 研究報告3-2
- 第12回 研究報告3-3
- 第13回 研究報告3-4
- 第14回 研究報告3-5
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、授業態度、研究報告の成果によって総合的に判断する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、演習内で指示する。

視覚科学研究 II

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究I」で習得した問題意識をさらに発展させ、ゼミナール指導教員の特徴を生かした指導を受けながら、学術研究として展開する準備を行う。

【授業の目標】

視覚科学研究Iでの学習内容を踏まえ、卒業研究で扱う各自の研究テーマを決定する。

【授業計画】

各回、指定された課題について、2名ずつの報告を行い、ゼミ生全員で報告に基づき議論する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 事前指導1
- 第3回 研究テーマ報告1
- 第4回 研究テーマ報告2
- 第5回 研究テーマ報告3
- 第6回 研究テーマ報告4
- 第7回 研究テーマ決定
- 第8回 先行研究報告1
- 第9回 先行研究報告2
- 第10回 先行研究報告3
- 第11回 先行研究報告4
- 第12回 研究計画報告1-1
- 第13回 研究計画報告1-2
- 第14回 研究計画報告1-3
- 第15回 研究計画報告1-4

【評価方法】

出席、演習態度、期末の単位認定レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

090654316_0190 掲載順 :0190

MASTER ★

視覚科学研究 IV

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学・視能矯正学の各領域あるいはそれらの学際領域における独自の研究テーマについて、「視覚科学研究III」の成果に基づき、卒業研究として展開する。

【授業の目標】

「視覚科学研究I～III」の学習成果に基づき、卒業研究を仕上げるとともに、卒業論文を完成し、研究報告抄録を完成する。

【授業計画】

各回とも、指定された学生による研究報告、卒業論文作成の進捗の報告をレジュメに基づいて行い、ゼミ生全員により議論する。

- 第1回 研究報告・卒業論文作成指導1
- 第2回 研究報告・卒業論文作成指導2
- 第3回 研究報告・卒業論文作成指導3
- 第4回 研究報告・卒業論文作成指導4
- 第5回 研究報告・卒業論文作成指導5
- 第6回 研究報告・卒業論文作成指導6
- 第7回 研究報告・卒業論文作成指導7
- 第8回 研究報告・卒業論文作成指導8
- 第9回 研究報告・卒業論文作成指導9
- 第10回 研究報告・卒業論文作成指導10
- 第11回 卒業論文抄録集作成指導1
- 第12回 卒業論文抄録集作成指導2
- 第13回 卒業論文抄録集作成指導3
- 第14回 卒業論文抄録集作成指導4
- 第15回 卒業論文抄録集作成指導5

【評価方法】

出席状況、授業態度、毎回の研究報告によって総合的に評価する

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、演習内で指示する。

2004年度から2007年度入学対象科目

視能矯正学演習

川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

視能矯正の中心的課題である弱視や斜視に加えて、基礎的分野である光学、応用分野であるロービジョンを含め、視能矯正学の知識を課題と演習により再構築する。

【授業の目標】

知識の相互的な関連を付けるとともに、臨床の場で応用できる実践的な知識を習得する。

【授業計画】

1. 弱視および斜視
 - 1) 正常両眼視の理解
 - 2) 弱視および斜視の病因と臨床像
 - 3) 弱視および斜視の種類と検査・評価法
 - 4) 演習
2. 幾何光学、波動光学および眼光学
 - 1) 幾何光学の基礎と眼光学
 - 2) 波動光学と眼科臨床への応用
 - 3) 演習
3. ロービジョン
 - 1) ロービジョンに関する社会制度および関係法規
 - 2) 各種補助具とその特徴
 - 3) 光学的補助具の倍率と屈折異常の関係
 - 4) 演習

【評価方法】

授業内における小テストにより評価する。

【テキスト】

視能学
適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する

教養教育科目

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 ことばとジェンダー
- 第3回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第4回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第5回 <家族像>を描きなおよす
- 第6回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第7回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第8回 『青鞥』の女性たち
- 第9回 男性作家のジェンダー
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 幼い頃に出会った表現
- 第12回 映画のなかのジェンダー
- 第13回 「表現」と「政治」
- 第14回 まとめ

【評価方法】

学期末レポートの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンパワメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 「働くしかない男」と「働けない女」
- 第10回 性別分業をめぐる——現在と2055年の日本
- 第11回 男女をめぐる国際比較
- 第12回 女性解放運動の歩み
- 第13回 女性学・男性学の誕生
- 第14回 テスト

【評価方法】

学期末テストの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

ジェンダーと社会

森井マスキ

【授業の概要】

「女」や「男」がどのように描かれてきたか。なぜそのように描かれたのか。本講義では、文学作品や映画など、「表現」の中にあられたジェンダー規範を、社会的・歴史的・心理的視点から解きほぐしながら、自由で多様な〈性〉のあり方を探っていく。

【授業の目標】

私たちの人格や生き方を規定する〈性〉について、さまざまな作品を分析していく中で、その問題点に気づき、ジェンダーバイアスから自由な思考ができるようになることをめざす。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 近代の恋愛幻想—「或る女」
- 3 家父長制と女子教育—『十三夜』
- 4 近代の労働と主婦の誕生—『G・I・ジェーン』
- 5 性愛から純愛へ—『ベッドタイムアイズ』
- 6 家族神話の崩壊—「父の詫び状」
- 7 レイプ幻想—「ザ・レイプ」
- 8 お姫様婚姻譚—「美女と野獣」
- 9 少女マンガとフェミニズム—「マージナル」
- 10 男の子の全能感—「少年ジャンプ」
- 11 新たなセクシュアリティ—「親指Pの修行時代」
- 12 まとめ

【評価方法】

授業時に課すペーパーと、学期末テストの成績を総合して判断する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に、適宜紹介する。

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することをその目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

比較文化

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を理解するための枠組みや概念を学ぶとともに、いくつかの事例をとおして「文化」について考える。さらに、異文化交流についても講義する。その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化の理解
2. ことばと文化
3. 民族と国家と文化
4. エスニシティと文化
5. 言語、宗教、文化
6. イスラームの文化
7. イスラームと女性
8. 教育と文化
9. 文化と規範
10. 開発と文化
11. 文化のグローバル化

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 80%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 聴覚障害概要
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
3. 手話の概要
4. 手話演習
5. 視覚障害概要
6. 視覚障害者のコミュニケーション方法
7. 点字の概要
8. 点字演習

【評価方法】

手話や点字の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版社）

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と雑技
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況、受講態度、各回のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）
中国視聴数字図書館（北京芸術科学電子出版社）

生涯学習

畔柳和枝

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】

生涯学習に関する基本的概念を理解し、生涯学習活動の実践例を学びながら生涯にわたる学習を自ら実践していくための力量形成を図ることを目的とする。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯学習と学校教育
- 3 生涯発達の理論と背景
- 4 生涯学習と自己実現
- 5 生涯学習の国際的動向
- 6 地域社会と生涯学習
- 7 学習施設について
- 8 生涯学習の展望と課題
- 9 まとめ

【評価方法】

授業への取り組みとレポートによる総合評価

【テキスト】

随時、資料を配布する

【参考文献・資料】

随時、紹介する

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 歴史が家族の日々の暮らしの中から創られることを理解する
- (2) 家族や親族を巡るあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶ
- (3) 家族や親族の歴史と社会や政治の歴史との関係を考える
- (4) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟する

【授業計画】

- (1) 歴史の中での婚姻論・家族論の意味
- (2) 妻問婚の特徴1<万葉集を中心として>
- (3) 妻問婚の特徴2<日本霊異記を中心として>
- (4) 婿取婚の成立と特徴
- (5) 嫁取婚の成立と特徴
- (6) 密通法と離婚法の成立と展開
- (7) 江口と神埼<遊女の出現>
- (8) 婚姻と家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (9) 婚姻とイエ<所有・財産制度と婚姻の歴史>

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。ただし、受講者数の特に少ない場合は平常点による評価となります

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

伝統芸能

安田文吉

【授業の概要】

日本の伝統芸能である歌舞伎を中心に、能・狂言・人形浄瑠璃(文楽)も併せて、その歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどによる鑑賞と研究も行う。

【授業の目標】

日本の伝統芸能の研究を通して、日本文化の特色と本質を理解・把握する。

【授業計画】

1. 芸能とは
2. 芸能の発生
3. 民俗芸能・伝統芸能
4. 歌舞伎の成立 I
5. 歌舞伎の成立 II
6. 歌舞伎の女方
7. 歌舞伎の荒事
8. 歌舞伎の和事
9. 歌舞伎の舞台
10. 地芝居の楽しみ
11. 能・狂言
12. 人形浄瑠璃(文楽)
13. 日本伝統芸能の特色と意味

猶、学外授業として御園座十月の吉例顔見世興行(学生割引 三等400円)、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演(十二月・入場無料)などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

歌舞伎入門(おうふう)
歌舞伎のたのしみ(北白川書房)

【参考文献・資料】

その都度紹介する

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論(堀尾幸平著 中日文化 2,200円)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

書道

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

映像文化

吉村英夫

【授業の概要】

ミュージカル映画（音楽映画も）を鑑賞しながら、現代芸術としての映画の意味と意義を学習する。古いミュージカル映画の名作をふんだんに楽しみながら、映画の歴史やミュージカル映画の歴史にも言及する。

【授業の目標】

映画の魅力をもっとも映画的な映画といえるミュージカル映画を中心に知ることをめざす。映画は、ジャンル別や作家別に鑑賞し、系統的に理解することの意味を知る。映画的表現や技法の特徴を知り理解を深める。

【授業計画】

- 1、古典的ミュージカル映画や音楽映画を「まるごと1本」鑑賞しながら、楽しさを味わいたい。ミュージカル映画のルーツをたどりたい。
- 2、ミュージカル映画の歴史を知り映画史における意味を考察する。
- 3、ミュージカル映画のハイライトシーンを鑑賞したりして、ミュージカル映画におけるスターの輝きを知る。『Shall We ダンス?』等々。
- 4、『サウンド・オブ・ミュージック』『ウエスト・サイド物語』『雨に唄えば』『スクール・オブ・ロック』『プラス!』『シェルブールの雨傘』『スイング・タイム』『美女と野獣』（アニメ）等。（順不同）
- 5、天才的ミュージカル映画のスターであるジーン・ケリーとフレッド・アステアのダンスの妙技を楽しみ、その特徴を知る。
- 6、見た作品もあろうが大スクリーンでミュージカル映画を見たい。

【評価方法】

毎回提出のミニレポートを点数化する。従って欠席すればミニレポートは後日の受付はしないので、毎回出席毎回ミニレポート提出が成績の基礎になる。映画の上映時間によっては昼休みを多少犠牲にする延長があるので了解してほしい。テストを実施するかどうかは未定。映画を一本でも多く鑑賞したいので15回の講義となる。（夏期集中講義ではテストを行う）

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業通信「Limelight」を毎週発行予定。学生諸君が書いた感想文を匿名で収録する。ユニークで優れた感想文をLimelightに載せる。現在400号に近い。Limelightへの掲載数が成績とはほぼ正比例する。

ただし夏期集中講義ではミニレポート方式は不可能なのでLimelightは発行できないだろう。昼休みを含めて休み時間の不規則さを了解してほしい。

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っている。例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| | 2. 生物の進化 |
| 第2～6回 | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物—作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7～8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則—遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11～12回 | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

生き物の世界

江崎敏之

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球上の生物の持つ共通性と特殊性を学ぶ。生命の単位である細胞という概念を知り、細胞の外部から内部への情報伝達のしくみ、細胞の発生や分化のしくみ、生殖や遺伝のしくみなどをとりあげ、生命の基本を理解する。

【授業計画】

- | | |
|----------|-----------------|
| 第1回 | 1. 生物の多様性と一様性 |
| | 1) 生物の系統 |
| | 2) 生体を構成する物質 |
| 第2回～4回 | 2. 生物体のつくりとはたらき |
| | 1) 細胞の構造 |
| | 2) 酵素 |
| | 3) 光合成と呼吸 |
| 第5回～10回 | 3. 生命の連続性 |
| | 1) 生殖と減数分裂 |
| | 2) 発生と分化 |
| 第11回～14回 | 3) 遺伝 |
| | (1) 遺伝の法則 |
| | (2) 遺伝子と染色体 |
| | (3) 遺伝情報の複製 |
| | (4) 遺伝子の発現 |
| | (5) 遺伝子発現の調節 |

【評価方法】

出席状況とテストによる。

【テキスト】

使用しない。

生き物の世界

鹿島英佑 岡島徳岳

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生息しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

- (1) 地球上の生物を構成する動植物について基本的な知識と自然環境における役割を学び、自然と人間の関わりを知る。
- (2) 外来生物、動物由来感染症等、環境上の問題を知る。

【授業計画】

〔植物コース〕第1回～第7回
都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。
植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

〔動物コース〕第8回～第15回
動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、小動物の飼育管理、動物由来感染症、野生動物保護、自然環境の保全等の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、動物との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

【テキスト】

不要

食品の科学

来住準一

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

1. 食品の成分や栄養の基礎的な知識や食品の表示の意味を学ぶ。
2. 有機野菜やハーブなどの天然の食品は必ずしも安全ではなく、あらゆる食品にリスクが存在することを学ぶ。
3. 氾濫する食情報から正しい情報を選択するための考え方を学ぶ。

【授業計画】

普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回2つの類似した食品を提示し、受講者にその1つを選択してもらいます。

1. 食情報選択のヒント：リスクvs.ハザード
2. 水：ミネラルウォーターvs.水道水
3. トースト：バターvs.マーガリン／(実験) バターをつくろう
4. 癌の原因：主婦vs.淑徳大生vs.疫学者
5. ガム：グリーンガムvs.キシリトールガム/(実験)むし菌になり易さ度チェック
6. 紅茶飲料：無糖vs.砂糖不使用
7. お酒：モルツvs.バービカン／(実験) お酒の強さ度チェック
8. 朝食：洋食vs.和食／(実験) 人造いくらをつくろう
9. 牛肉：近江牛vs.近江和牛
10. トマト：減農薬vs.低農薬
11. 牛乳：ホモvs.ノンホモ(消費期限vs.賞味期限)
12. 機能性食品：健康食品vs.トクホ
13. 健康オタク○×クイズ
14. 環境ホルモン騒動：母乳vs.人工乳

【評価方法】

出席・毎回の提出物(30%)、期末試験(70%)。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

生命の科学

林博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

生活の化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき有機化合物の構造を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命の科学1-2(有機化合物の構造式、受容体と酵素のX線構造)
身近な現象の科学1-3(青いバラ、紅葉、タンパク質と変性、ジスルフィド結合、血液型、にぎり寿司、味、HbA1c値とパンのキツネ色、エビカニの色、瞬間接着剤)
ホルモンとフェロモン、特に最近構造決定されたチャパネゴキブリの性フェロモン
薬と作用の化学(モルフィネの構造から最強の鎮痛パッチの開発とベニシリンから最新の抗生物質への構造変換)
毒の化学(体内で究極の発がん物質に変化するタバコの成分などの毒)
青春から注意する病気
ヒット商品の化学1-3(最近発売され、ヒットした数々の生活関連商品の化学的なしくみ)などを最新の研究成果を紹介しながら分かり易いイラストで解説、有機化学の楽しさを学ぶ。

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で提出させ、解答と出席した授業の実時間数で成績評価する。

【テキスト】

毎回配布する教材(A3両面)で講義。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：細胞を狂わせる物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして
- 第14講 期末試験

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

入門法律学

辻田芳幸

【授業の概要】

社会生活は網の目のように張りめぐられた「法」という社会規範の上に成り立っています。そこでこの講座では、法のしくみと私たちの生活の関わりを、日常生活に関連した話題を中心に考えます。講義は授業計画に沿って進めますが、学生の関心事や時事の話題を随時取り入れたいと思っています。

【授業の目標】

日常生活がどのような法律問題に関連しているかを分析し、その解決の糸口を掴めるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 導入(情報社会と法律、知的財産権)
 - 第2回 オンラインショッピングと契約法(その1・契約の成立)
 - 第3回 オンラインショッピングと契約法(その2・なかったことにしたい)
 - 第4回 クレジット取引のしくみ
 - 第5回 Webへの写真掲載と著作権
 - 第6回 Webへの写真掲載と肖像権
 - 第7回 著作物とその自由利用(その1)
 - 第8回 著作物とその自由利用(その2)
 - 第9回 インターネットと刑事法
 - 第10回 交通事故と損害賠償
 - 第11～13回 その他の問題点
- 講義には学生の関心事を積極的に取り入れていきたいと考えています。したがってこの計画は、学生の関心方向や時事問題の紹介などによって、多少前後することがあります。

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

【テキスト】

印刷物を配布する

【参考文献・資料】

法律の条文を探すには、『セレクト六法』(岩波書店)が大きさと値段において手頃です。『判例六法』(有斐閣)は少し分厚くなりますが裁判例の要旨も掲載されています。専門分野の参考資料については、講義時に案内します。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためである。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 憲法総論
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 国民主権
- 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
- 第6回 基本的人権
- 第7回 教育を受ける権利
- 第8回 国会
- 第9回 内閣
- 第10回 裁判所
- 第11回 地方自治
- 第12回 国法の諸形式
- 第13回 国家と国家統治の基本
- 第14回 日本国憲法と法の支配
- 第15回 政府の手續に関わる諸権利

【評価方法】

主として中間試験及び期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I(改訂新版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

入門社会学

堀田裕子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総合的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていただけたらと思います。

【授業計画】

- 1) イントロダクション——社会学とは
- 2) 社会化と自我——人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為——地位と役割の社会的意義
- 4) 行為——行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織——集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体——人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配——支配する側/される側
- 8) 見えない権力——権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー——女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族——変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理——自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育——学校は何を教える所か
- 13) 情報化——ハイパースペースの中の人間
- 14) 医療——病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ——社会調査と社会をみる眼

【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

入門心理学

青柳真紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- c. 学習と記憶
- d. 忘却と変容
- e. 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- f. 防衛機制
- g. フロイトとユングの精神構造モデル
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人と集団
- k. 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

入門文化人類学

藤井真湖

【授業の概要】

文化人類学は、今日までその対象を拡張し続けてきたといえます。本講義では、過去15年に文化人類学の分野で用いられることが増えてきた最近のトピックを網羅したテキストを用いながら、そのなかでも特に重要な事項を幾つかとりあげて論じます。

【授業の目標】

文化人類学の現状を広く知ることを目標とします。

【授業計画】

本講義では、たとえば、次のようなトピックで講義をおこないます。

1. 古典的な文化人類学と現代的な文化人類学
2. 異文化理解
3. 本質主義と構成主義（構築主義）
4. 観光人類学
5. エスニシティ
6. ナショナリズム
7. 多文化主義
8. ムスリム
9. オリエンタリズム（1）（2）
10. ポストコロニアリズム
11. サバルタン

【評価方法】

出席と毎回出してもらいミニ・レポートおよび期末試験で判断します。

【テキスト】

毎回配布します。

【参考文献・資料】

『文化人類学 最新述語100』織部恒雄編 弘文堂

国際情勢

若松孝司

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

冷戦後の現在における諸問題、諸現象の多くが、冷戦に起源あるいは原因を持つことを理解し、現在の国際情勢を歴史的な視点から把握することを、本講義の目標とする。

【授業計画】

以下の項目について講義を行う。

- 1) 冷戦とは何か
- 2) パレスチナ・イスラエル問題
- 3) 北朝鮮とはどんな国なのか
- 4) 誰がフセインをつくったか
- 5) 民族紛争とその犠牲
- 6) わかりにくいアジア情勢

【評価方法】

出席状況と期末の筆記試験によって成績評価を決定する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

現代のマナー

市原江美

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

1. マナーの重要性や必要性について考え、理解する。
2. さまざまな場や状況に応じたマナーの知識を学び、それらを日常生活の中で実践できる。

【授業計画】

1. マナーとは
2. よい人間関係を築くためのマナー
 - (1) 第一印象の重要性
 - (2) 表情
 - (3) 身だしなみ
 - (4) 態度
 - (5) 言葉遣い
3. 電話対応のマナー
4. 来客対応のマナー
5. 訪問・面接のマナー
6. 文書・メールのマナー
7. 慶事・弔事のマナー

【評価方法】

出席状況、受講態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

現代のマナー

外村妃彩枝

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

社会人になるにあたってマナーの重要性や人としての心の在り方を理解し、マナーを「知識」として覚えるだけではなく、実際に「行動」に移すことができるようになること。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 第一印象の重要性
- 第3回 好印象を与える5つのポイント
- 第4回 学生と社会人の違い
- 第5回 言葉遣いと話し方
- 第6回 効果的なコミュニケーション
- 第7回 電話対応のマナー
- 第8回 文書のマナー
- 第9回 来客対応と訪問のマナー
- 第10回 慶事・弔事のマナー
- 第11回 食事のマナー
- 第12回 面接のマナー

【評価方法】

出席状況、受講態度、スピーチ 15%
期末試験 85%

【テキスト】

正しいマナー&こんな時どう言う事典 (竹内聡美著 高橋書店)

現代のマナー

佐々木紀子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

マナーの実践を通して、下記を習得する。

1. 人を慮る心と共に学び合う姿勢
2. 正しい知識と技術
3. 的確な判断力と行動力

【授業計画】

1. 目標の明確化
2. セルフ・チェック
3. マナーの重要性
4. 学生と社会人の違い
5. 第一印象の重要性
6. 基本的なマナー
 - (1) 挨拶と返事
 - (2) 表情
 - (3) 態度
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかいと話し方
7. 実践的なマナー
 - (1) 電話対応
 - (2) 来客対応と訪問
 - (3) 面接
8. マナーとタブー

【評価方法】

出席状況や授業態度などのプロセスと、単位認定試験の成績による結果を総合的に評価する。比率は3:7。詳細は第1講で説明するので、必ず出席すること。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拓けてもらえることががのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、修辭法など具体的に講義。

この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

話し方作法

鷲塚美知代

【授業の概要】

音声表現。
 (1)日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 (2)読む・話すことの実践と応用 (3)言葉の用法、を視点を、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】

話し方の基礎技術を身につけると同時に表現力を磨いていく。また、日常あふれる言葉の乱れを見直し、コミュニケーション能力の向上をはかる。敬語の基礎を身につける。

【授業計画】

- 1 言葉に敏感になろう。若者言葉から脱却するには？
- 2 発声の基礎知識（腹式呼吸、発声法）
- 3 発音の基礎知識（母音、子音、鼻濁音、無声化など）
- 4 共通語アクセント
- 5 現代言葉事情（気になる言葉遣い、メディアと言葉）
- 6 敬語（種類と働き、適切な表現）
- 7 表現力を磨く
- 8 気持ちを伝える

授業は講義が中心になるが、可能な限り積極的に実践を伴うものにする。

【評価方法】

レポートによる。随時、授業内に提出するコメント、発表あり。

【テキスト】

レジュメ・資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

高齢化社会を迎え、健康を維持し、生きがいのある生活を実現するために、運動不足、栄養のバランス、ストレス等、現代人に特有な健康上の問題点に着目して、学生生活と生活習慣の見直し、運動・スポーツ実践の重要性について理解する。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1～3回 | ガイダンスおよび現在社会における健康の諸問題
ライフステージと健康
大学生活と健康 |
| 第4～10回 | (骨密度や体組成の測定および万歩計測定)
身体の仕組みと働き
心と体の変化
大学生の体格・体力
運動不足とその影響
食生活と健康
ウエイトコントロール
生活習慣の修正 |
| 第11～13回 | 運動・スポーツの効果と安全性
トレーニングの基礎
運動・スポーツと環境・条件 |
| 第14～終了 | ライフスタイルと健康
まとめ |

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜、指示する。
 資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】

キャリア形成とは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。そのためには、自分を理解し、職業と社会経済動向の理解も深め、さらにキャリアの選択を可能にする心構えが必要になってきます。人が働くことを意識するのは、学生生活から職業生活へ移行する節目のときです。これから迎える職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、働くことを中心としたキャリア形成をぜひ描いておきましょう。それに必要な考え方や方策を実践的に学習します。

【授業の目標】

社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、その環境は目まぐるしく変化しています。そこで、本授業では、自分の将来に向けて、まずは自分なりの指針や目標を立て、その上で何を学び、どう行動すればよいかを考えます。
 また、その過程で新しい自分を発見し、自分らしさを磨いていくことで、自分の将来や働くことに対する不安や迷いを解消し、社会に羽ばたくことに臆することなく、希望を持って前向きに挑戦できるよう、自分なりの職業観を涵養します。
 キーワードは、4つ。①「自己研鑽」…たゆまぬ向上心。②「自己統合」…自分を見つめる。③「社会的存在」…社会における個人のあり方、自立/自律の自覚。④「真摯な姿勢」…前向きな学習姿勢、幅広い見識。
 これらの資質を基盤に、これからの21世紀をたくましく、自分らしく生きていくために、自らの人生設計を主体的に行うキャリア形成を実践します。

【授業計画】

1. 21世紀に求められる人材像とプロフェッショナル意識
2. キャリア形成のすそめと基本的資質
3. 社会経済の動向とキャリア形成の必要性
4. キャリア形成の体系とそのプロセス
5. 自己理解の演習①「キャリアの発達課題」
6. 自己理解の演習②「ライフキャリアの虹」
7. 自己理解の演習③「ライフスタイルとワークキャリアの価値観」
8. 自己理解の演習④「職業興味と職業適性」
9. 仕事理解の演習①「働く意味、仕事が成り立つ条件」
10. 仕事理解の演習②「業界研究、企業研究、仕事研究」
11. 仕事理解の演習③「さまざまな働き方とその実態」
12. 仕事理解の演習④「ビジネス基礎能力とコンピテンシー」
13. 意思決定の演習「職業選択における意思決定のあり方」
14. 将来の目標設定①「なりたい自分のキャリアモデル」
15. 将来の目標設定②「自分の目指すキャリアビジョン」

【評価方法】

筆記試験と出席状況

【テキスト】

キャリアの形成（樋口貴子著）

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

心理学および医学的な観点から多角的に心の成長や健康について講義する。現代ストレス社会の中で、自分らしく健やかな生活を過ごすために必要なセルフコントロールの実践や心の健康に関わる事例なども紹介する予定である。

【授業の目標】

心の健康管理に必要な大学生教養レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の病
2. ストレスと心の健康
3. 心の発達とメンタルヘルス
 - (1) 児童・思春期
 - (2) 老年期
 - (3) 女性のメンタルヘルス

【評価方法】

単位認定試験の結果を重視するが、出席日数や授業態度も評価の対象となる。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

健康とくすり

永井愼一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】

病気は、酵素の働きで過剰に生成する生理活性物質が受容体に結合することで発症し、くすりの大部分は、酵素と受容体の働きを阻害することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|--------|---|
| 第1回 | 全講義の要旨〔病気とくすりのまとめ〕を配布したのち、最新の医薬品事情や薬事行政などを解説 |
| 第2～3回 | くすりの基礎知識として、生体内運命、新しいくすりのかたち、受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせなど2回にわたって解説 |
| 第4回 | くすりの正しい知識を、イラスト入りの質問形式で学ぶ |
| 第5回 | 処方方だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、女性のくすりと検査器具、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説 |
| 第6回 | 頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた |
| 第7回 | 花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた |
| 第8回 | 生活習慣病の早期発見に不可欠な血液検査値のみかたと心疾患 |
| 第9～12回 | 生活習慣病である高血圧、がん、糖尿病と、近年若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因と治療薬 |

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で答えさせ、解答と出席した実授業時間数で成績評価する。

【テキスト】

教材（A3両面）を毎回配布して講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する

スポーツと文化

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツの歴史の変遷から、スポーツの文化的、社会的な側面について理解を深め、現代社会の中でどのような機能、役割を果たしているかを考える。

【授業計画】

- | | |
|--------|--|
| 第1～5回 | ・ガイダンス（導入）、スポーツとは何か
・スポーツは遊びから出発し、技能を追究する
・スポーツは舞踊とともに祭りと結びついていた
・スポーツは富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い
・スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレーの精神によって成り立つ |
| 第6～8回 | ・スポーツは教育、政治、科学が関係する
・スポーツは地理的環境に影響されることが大きい
・スポーツには民族性が反映される |
| 第9～12回 | ・スポーツには商業主義がつきまとう
・スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
・スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へ、また、「強いこと」から「美しいこと」へと対象を上げつつある |
| 第13～終了 | ・スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである
・まとめ |

【評価方法】

出席状況、授業内および学期末の課題レポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

スポーツ科目

スポーツ科学

鶴原香代子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしい運動量やスポーツ実践の大切さを認識し、安全に行うことを学び、運動・スポーツを通して人間関係の向上を図る。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、種目や施設・用具について
- 第2回～最終授業
・カロリーカウンター（万歩計）、体重計を利用して運動時の活動量を測り、自己の身体状況を把握することによって、自己管理の能力を身につける
・種目について
1) ミニテニス
2) ユニホック
3) ソフトバレーおよびインディアカ
4) バレーボール
5) 卓球
上記の種目について、基礎技術の習得からゲーム（フォーメーション、審判）の実践

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解度（20%）により総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

- 〔ボウリング〕
1. 実習日時 平成21年9月2日（水）・3日（木）・4日（金）
7日（月）・8日（火）・9日（水）
計6日間 9:30～12:40
2. 説明会 日時 平成21年7月11日（水）12:30～13:15
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 7,200円
5. 定員 60名
6. 内容
1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
2日目 ボウリングの歴史、基本動作
3日目 ボールのコントロール、軌道調整
4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
5日目 レンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
6日目 競技会説明、競技会（アメリカン方式3ゲーム）、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会、2004。

健康と運動

鶴原香代子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本技術の習得とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。

【授業計画】

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、施設・用具について
- 第2～3回 バドミントンの特徴やゲームについて（VTR）
シャトルに慣れる
・ラケットイング
・ストローク練習（アンダーハンド、サイドアーム、オーバーヘッド）
- 第4～6回 ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サービスからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、ブッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム（シングルス）
- 第7～9回 フォーメーションと戦術
・サービス（コースを決めて打ち分ける）
・ゲームの進め方（ルールの理解・審判）
・ゲーム（シングルス・ダブルス）の実践
- 第10～最終授業
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、種目の理解と学習意欲、参加態度（30%）、技能の習得（20%）より総合的（100%）に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜指示する。

スポーツ特殊講座（スケート）

鶴原香代子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎的技術の習得を行い、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】

1. 実習日時 平成21年9月2日（水）・3日（木）・4日（金）
7日（月）・8日（火）・9日（水）計6日間
時間：9:30～12:40
2. 説明会 日時：平成21年7月7日（火）16:45～17:35
場所：長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター（大須）
4. 実習費 9,600円
※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケータイングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況（70%）と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度（30%）により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケータイングの基礎」アイオーエム、1995。

言語活用科目 [日本語・英語]

実用日本語演習 (生活実用文)

大西和美

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業の目標】

日本語表現について、その変化の過程、世代間の相違等を踏まえつつ、日常生活において、より適切な表現ができるようになること。また、目的に応じた適切な文章が書けるようになること。

【授業計画】

1. ことばの知識
2. 敬語
3. 文の書き方
4. 手紙文
5. 挨拶文・依頼文・案内文
6. 小論文
なお、ことばの知識、敬語については、3～6の項目の間も常に平行して学習する。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、小テストなどによる。

【テキスト】

実践国語表現 (市川毅他 おうふう)
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

Basic English 1

二村慎一 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション基礎

二村慎一 他

【授業の概要】

英語力の向上の為にまずは基礎が大切である。基礎をもう一度確認することで大学レベルの英語の授業をさらに効果的に活用できると考える。授業は、そのためのステップとして、もう一度、英語基礎を一からやり直します。

【授業の目標】

文法を復習すること、そして基本的な例文を暗記することで英語の基礎を再確認する。
次回のTOEICスコア350を目指す。

【授業計画】

- 授業計画
- 1) 授業オリエンテーション
 - 2) 品詞
 - 3) 5文型
 - 4) 時制 <現在形・過去形>
 - 5) 進行形・未来形
 - 6) 完了形
 - 7) 助動詞
 - 8) 受動態
 - 9) 不定詞
 - 10) 動名詞
 - 11) 関係詞
 - 12) 比較級・最上級
 - 13) 仮定法
 - 14) まとめ
 - 15) まとめ
- 但し、授業の進行状況により内容を変更する場合があります。

この授業は、英語サポートプログラムである「基礎からのやり直し英語」と同時に履修することができる。同時に履修することにより、さらに英語の基礎力が付くと考える。「基礎からのやり直し英語」についての詳細は、授業中に説明をする。また、「基礎からのやり直し英語」のパンフレット(9号棟に設置)が用意されている。

【評価方法】

出席と小テスト

【テキスト】

Kikuji Saito, Michiko Joichi
「Simple Grammar シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法」 南雲堂 1,800円

【参考文献・資料】

講義の際に説明する
090656021_0040 掲載順:0040

Basic English 2

二村慎一 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
 2. 語彙力の増強
 3. 文法事項の整理
 4. 練習問題・確認テストなど
- なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 1 (Listening)

二村慎一 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. デイクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 3 (TOEIC 1)

安田千恵 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したデイクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 2 (Reading)

二村慎一 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 4 (Speaking 1)

PUDWILL, Larry A.

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

English 5 (TOEIC 2)

二村慎一 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 6 (Speaking 2)

PUDWILL, Larry A.

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

Advanced General English IG

鈴木久子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何年度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 - ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IH

鈴木久子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何年度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 - ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IIG

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 - ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced Academic English 09A

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09A」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
 To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
 英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
 Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

- 難波豊子
- ・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
 - ・分かりやすい日本語の検討
 - ・短い時間で、英文のメッセージを把握
 - ・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
 (1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
 (2)単語チェック
 (3)日本語への逐次通訳練習

内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週2回コースの授業で4単位の科目である。月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Advanced General English IIIH

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 - ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
 ＊宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced Academic English 09B

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目「Advanced Academic English 09B」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
 To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
 英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
 In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

- 難波豊子
- ・スラッシュ・リーディングによる情報処理
 - ・分かりやすい日本語の検討
 - ・短い時間で、英文のメッセージを把握
 - ・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
 (1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
 (2)単語チェック
 (3)日本語への逐次通訳練習

内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週2回コースの授業で4単位の科目である。月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

言語活用科目 [中国語]

中国語読解 1 A

中西千香 李昱 河井昭乃

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・文法面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶、疑問文、形容詞述語文
3. 子音、声調、曜日表現、省略疑問文、疑問詞疑問文
4. 音節、勧誘表現
5. 動詞述語文、指示代名詞
6. 我姓松本。自己紹介
7. 介詞“和”、副詞“也”“都”
8. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
9. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
10. 我们的大学。介詞“给”“在”
11. 名詞の修飾表現
12. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
13. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
14. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

李昱 胡桂蘭 大森信徳 河井昭乃 曹志偉 巖萍

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・音声面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

- 初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、日常会話表現の習得を目指す。
1. オリエンテーション
 2. 発音 (1)
 3. 発音 (2)
 4. 発音 (3)
 5. 発音 (4)
 6. あいさつ表現
 7. 時間の表し方
 8. 年齢を言う
 9. 家族について語る
 10. 自分の家について語る
 11. 学校について語る
 12. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

河井昭乃

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって学習する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

李昱 胡桂蘭

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語会話 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

中西千香 李昱 河井昭乃

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、旅行記・家族のこと・趣味など、学習者が興味を持てるような身近な題材を取り上げた。

1. 暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
2. 使役の表現“让”
3. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
4. 過去の経験表現「V+“过”」
5. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
6. 介詞“离”、連動文
7. 终于习惯了。疑問詞の連用、感嘆表現2
8. 自己の意見表示
9. 我做了一个夢。進行表現の「“在”+V」
10. 程度補語と可能補語、副詞用法の“地”
11. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”
12. 比較の表現、受身文
13. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1A2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

胡桂蘭 大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は旅先での中国語による買い物や換金など、基本的な会話が可能になる。なおHSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の定着をはかるためには＜中国語読解2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ会話能力のさらなる向上を目指す。日常の様々なシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、学習者が中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

1. 趣味を語る
2. 中国へ行く
3. ホテルのフロントで
4. 換金する
5. 道を尋ねる
6. バスに乗る
7. 電話をかける
8. タクシーに乗る
9. 実践会話練習

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話1A2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースA *聴解中心

李昱 楊衛平

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力・聴解力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイント は下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースB *読解中心

胡桂蘭 嚴萍

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。設定する目標、講義内容とカリキュラム上の位置づけは＜HSK基礎コースA＞に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を持つ学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK基礎コースA＞とは異なる教材を使用し、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものとする。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
3. “了”；形容詞述語文など
4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
5. 数量補語；“头”と“面”など
6. “有字句”；構造助詞“地”など
7. 量詞の重ね型；“把”構文など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；程度補語など
10. “被”構文；“在・正・正在”など
11. 方向補語；“多么”など
12. 複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

楊 衛平

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 应该感谢谁
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 骑自行车的张师傅
12. 数量補語。可能補語。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA *聴解中心

楊 衛平 中塚 亮

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 3

大森信徳 曹志偉 楊衛平

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語るができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
 2. 私達の中国語の先生
 3. 朝食を食べる
 4. タクシーに乗る
 5. 宿舍のおばさん
 6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB *読解中心

胡 桂蘭 楊 衛平

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解4

楊 衛平

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。なおHSK試験対策のためには<HSK 中等上級コースA>か<HSK 中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 自行车上的宝座儿
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コース A * 聴解中心

河井昭乃

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した学生を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK 初中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK 初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等上級コースA (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話4

楊 衛平 大森信徳

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK 中等上級コースA>か<HSK 中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
 2. 旅行に行く
 3. 体を鍛える
 4. ついてない一日
 5. ダイエット
 6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コース B * 読解中心

楊 衛平

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK 中等上級コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK 中等上級コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK 初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等上級コースB (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文1

胡 桂蘭

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のベースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース1 A *聴解中心

李 昱

【授業の概要】

中国語を二年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の6級または7級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK6級合格に要求される2500～3500前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース1 B *読解中心

胡 桂蘭 曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門1

周 素芬 曹 志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を生身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

胡 桂蘭

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース2A *聴解中心

李 昱

【授業の概要】

中国語を一年半以上学習した履修者を対象とするHSK受験対策の授業である。履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK7級合格に要求される3500～4000前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース2B *読解中心

曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

周 素芬 曹 志偉

【授業の概要】

一年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

言語活用科目 [韓国・朝鮮語]

韓国・朝鮮語入門

チョ スルソップ キム ソヨン 李 正子

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に習得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。

【授業の目標】

基礎的な名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

- 第1講～第4講 ハングルの読み書き1、まとめ
1) 基本母音字(10個)、挨拶1
2) 基本子音字1・2(平音9個・激音5個)、挨拶2
3) 合成子音字(激音5個)、名詞1
- 第5講～第8講 ハングルの読み書き2、まとめ
1) 合成母音字1・2(11個)、名詞2
2) 終声子音字1・2(7種)、名詞3
発音ルールとトレーニング、動詞1
- 第9講～第10講 外国語のハングル表記、まとめ
助詞1、上称形1、尊敬形1、まとめ
連結語尾1、助詞2、上称形2、尊敬形2、変則活用1
試験対策
中間試験
- 第11講～第12講 数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、
敬語、変則活用2
- 第13講～第14講 敬語、変則活用2
- 第15講 試験対策
- 第16講 中間試験
- 第17講～第18講 数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、
敬語、変則活用2
- 第19講～第20講 敬語、変則活用2
- 第21講～第23講 数詞と助数詞2、連結語尾4、助詞3、変則活用4
- 第24講～第25講 用言の名詞形、現在時制2、不可能形、曖昧形、
変則活用5、連結語尾5
- 第26講～第27講 助詞4、変則活用6、連結語尾6、回想の表現、
慣用表現2
- 第28講～第29講 試験対策
- 第30講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

キム ソヨン 金 賢珍 金 由那 金 美淑

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明、こんにちは
- 第2講 韓国は初めてですか
- 第3講 ここが寮です
- 第4講 授業は3月2日からです
- 第5講 MTって何ですか
- 第6講 どこで売っていますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 スタンドランプを見せてください
- 第9講 一杯飲みましょう
- 第10講 大学生活はどうですか
- 第11講 よく聞けば勉強になります
- 第12講 誕生パーティをしましょう
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

チョ スルソップ キム ソヨン 金 賢珍 李 芝賢

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明、入門講座の復習
- 第2・3講 サッカーがお好きですか。
過去の経験の敬語体、
理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
- 第4・5講 明日は何をされますか。
意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
- 第6・7講 郵便局に行く。
用言の連体形
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 喫茶店で。変則1、
仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
- 第11・12講 韓国料理屋で。変則2、
前置きの表現、逆接の表現、助数詞
- 第13・14講 道をたずねる。変則3、
案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

金 賢珍 尹 大辰 金 芝惠

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおとして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音と表記
- 第2講 終結語尾(叙述形・命令形)
- 第3講 数え方・否定形
- 第4講 各種助詞1
- 第5講 連体形
- 第6講 敬語の表現
- 第7講 変則用言
- 第8講 模擬試験
- 第9講 各種助詞2
- 第10講 挨拶・語句
- 第11講 活用表現1
- 第12講 活用表現2
- 第13講 読解
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験などの各種テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験4級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解2

李 芝賢 姜 信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第4・5講 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第6・7講 約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
- 第11・12講 電話をかける、紹介・案内の表現、曖昧さの表現
- 第13・14講 ショッピングをする、許諾・承認の表現
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策2

金 芝恵 尹 大辰

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 各種縮約形
- 第3講 受け身・使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞、する副詞
- 第5講 名詞作り、形容詞作り、数え方
- 第6講 各種助詞、不規則用言
- 第7講 終結語尾・接続助詞
- 第8講 模擬試験
- 第9講 語句・活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験3級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話2

金 由那 金 美淑

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2講 週末には何をしましたか
- 第3講 今晚またお電話いたします
- 第4講 趣味は料理とか旅行です
- 第5講 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6講 韓国料理ができますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 何をしようと思っていますか
- 第9講 どこにいらっしゃいますか
- 第10講 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11講 さる水曜日からです
- 第12講 このバックいくらだった
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解3

姜 信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んである程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 病院で。動詞の名詞形、希望・願望の表現、補助用言、話し手の意志・予定や推測の表現
- 第4・5講 バス停で。譲歩や強調の表現、能力・推測・予定・意図などの表現、理由や根拠を示す連用形、命令・指示の伝聞
- 第6・7講 銀行で。特定の動作を原因に提示する表現、物事の限界や程度・目標を示す表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 書店で。動作や動作の様態を示す連用形、はなはだしい程度の表現、動作継続の表現、状況の前置きを示す表現、伝聞を確認する表現、
- 第11・12講 韓国料理。仮定条件を示す表現、全面的な肯定の表現、付加表現、勧誘の伝聞、例示・容認・列挙・限定などを示す表現
- 第13・14講 天気。引用・伝聞の表現、相手の意向を聞く表現、
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語上級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

金 由那

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハンゲルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハンゲル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第2講 時間はいつがいいですか
- 第3講 自動引き落としのほうがいいと思います
- 第4講 曇りといっていました
- 第5講 春と思ったらレンギョと山つつじですね
- 第6講 本当に美味しいですね
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 民俗博物館に行ってきました
- 第9講 庭園文化について知りたいです
- 第10講 どちらが速いですか
- 第11講 使えますとも！
- 第12講 矢のように早いですね
- 第13講 下宿先を変えようかと思っています
- 第14講 会話を楽しむ
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策3

キム ソヨン 金 芝恵

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 漢字音の比較
- 第3講 受け身、使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞・する副詞
- 第5講 各種副詞、各種助詞
- 第6講 名詞作り、形容詞作り、動詞作り、名詞節作り
- 第7講 語句
- 第8講 模擬試験
- 第9講 活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハンゲル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

言語活用科目 [初めての外国語]

初めての外国語1 (ドイツ語)

須藤 勲

【授業の概要】

この授業では、ドイツ語を基礎から学びます。基本的な文法事項や、発音、聞き取りの練習を通して、ドイツ語を学んでいきます。また、外国語を学ぶ際には、その言葉が話す国の文化の理解が欠かせません。授業では、ドイツ語を話す国々の文化についても紹介していきます。

【授業の目標】

ドイツ語を理解し、使用するために必要な能力の向上を目指します。特にこの授業では、ドイツ語の表現能力を養い、必要な語彙を身につけることを目標にしています。ドイツ語の学習を通してドイツ語圏の文化についての理解を深めることも目標のうちです。

【授業計画】

さまざまな場面ごとの会話の例を学び、それを利用してパートナー練習を通して実際に使うことが出来るように練習を行います。同時に、文法事項を学ぶことでドイツ語を理解し、またドイツ語で表現するために必要な知識を身につけることを目指します。具体的な内容は次のとおりです。

- ・ドイツ語の特徴とドイツ語を話す国々の紹介
- ・動詞の現在人称変化、語順
- ・ドイツ語の語順、疑問文と答え方
- ・名詞の性と格
- ・定冠詞の格変化
- ・不定冠詞の格変化
- ・所有、否定冠詞
- ・人称代名詞
- ・前置詞
- ・話法の助動詞の変化、使い方

【評価方法】

数回の小テストと授業参加(40%)、および期末試験(60%)によって判断します。期末試験にだけ成績評価の重点を置くのではないので、小テストに関してもしっかりとした準備が求められます。

【テキスト】

クロイツング (小野他著 朝日出版社)

【参考文献・資料】

独和辞典

初めての外国語3 (ロシア語)

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理などロシア文化もたくさん紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話が出来ようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めていきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他ではなかなか学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かとずっと出会えること請け合いです！授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現とロシア人の名前の仕組み
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. いろいろな行為をロシア語で表現する①
10. いろいろな行為をロシア語で表現する②
11. 「～で～する」表現と数詞
12. 映画鑑賞
13. ロシア語で気持ちを表現しよう
14. 総復習
15. 試験

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】

- 1)挨拶-自己紹介-20までの数
- 2)名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3)職業についてたずねる -60までの数
- 4)何かを示す-持っているものについて話す-
- 5)好きなものを言う-100までの数-小テスト
- 6)年齢についてたずねる-疑問文と否定文の作り方
- 7)1000までの数-買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8)趣味について話す-小テスト
- 9)時間の使い方-時間割について話す
- 10)一週間の過ごし方
- 11)ある場所について説明する-小テスト
- 12)家族について話す
- 13)まとめ-映画観察
- 14)まとめ-映画観察
- 15)試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4 (スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、学習ゲームや練習問題を通して、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

出席 20%
授業中の提出物、小レポート 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

「未定」

初めての外国語5 (イタリア語)

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野において魅力で溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に創造力に富んだイタリア人には、興味と親しみが高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。

簡単に実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、バーやレストランでの注文の仕方。

その他、「何語を話しますか?」「私はおなかがいっぱいです」「私は眠いです」などの表現方法。

実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞(現在)などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら (改訂版) 遠藤礼子著 (白水社)

初めての外国語6 (ポルトガル語)

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語6(ポルトガル語)」は、ポルトガル語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。(詳細は授業にて説明します)

【授業計画】

第1回. プレゼンテーション

第2回. あいさつ

第3回. 発音

第4回. SER動詞

第5回. 男性名詞と女性名詞

第6回. 数字

第7回. TER動詞

第8回. 規則動詞 (ar動詞)

第9回. 規則動詞 (er,ir動詞)

第10回. ir動詞

第11回. 時間表現

第12回. 疑問詞

第13回. querer動詞

第14回. 今までの復習

第15回. 定期試験

の予定。また授業中にブラジルの文化や社会に関するDVDなども鑑賞予定。

【評価方法】

定期試験(口頭試験)と平常点(出席や授業態度)の評価により総合判断します。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

各自でブラジル・ポルトガル語の参考書を見ると良い。

おススメは「ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語」香川正子著 白水社

コンピュータ活用科目

情報スキル I (Word・PowerPoint)

外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに、Wordにおける文書表現の方法や特徴をはじめ、プレゼンテーション・ツールを利用した資料作成や発表の手段・方法について学習し、情報の処理能力や創造力を培うとともに、コンピュータの仕組みなど実践に対応する純粋な論理的知識も養う。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法を習得し、文書表現やプレゼンテーション技法についてコンピュータ実習を通じて体得する。

【授業計画】

1. Webメールの基本操作
2. メールマナーとセキュリティ
3. Windows操作(1): ファイルとフォルダ
4. Windows操作(2): 圧縮ファイル
5. Word操作(1): 文字の編集と装飾
6. Word操作(2): 文字の配置と印刷
7. Word操作(3): 図形の作成
8. Word操作(4): 表の作成
9. Word操作(5): まとめ、プレゼンテーションの概要
10. PowerPoint操作(1): 基本操作
11. PowerPoint操作(2): 図表の活用
12. PowerPoint操作(3): プレゼンテーションと資料作成
13. プレゼンテーション課題制作
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルI 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編・共立出版)

情報スキル III (ネットワークリテラシ)

奥村文徳 伊藤吉樹

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、ネットワークに関する基礎的かつ実践的な技能と知識を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、HTMLやXMLを利用したホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
3. LANの種類と仕組み
4. サーバの種類と仕組み
5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
6. ネットワークの実践、基本コマンド
7. セキュリティと情報倫理
8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
10. フレームとテーブルの作成
11. XMLの仕組み
12. XML文書とスタイルシートの作成
13. ホームページ課題制作
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「情報スキルI」「情報スキルII」を併せて履修することが望ましい。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」、2年前期の「情報活用スキルII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 第2版(共立出版)

情報スキル II (Excel・Access)

外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、Excelによる表計算処理を中心に、収集したデータの加工方法や特徴を的確に把握する技能を習得する。また、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原則や仕組み、特徴についての基礎知識を学習する。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータの仕組み、及びデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理、ハードウェアの仕組み
2. ソフトウェアの役割、情報ツールとマナー
3. 情報の表現: 基数変換、補数
4. Excel(1): データ入力と編集
5. Excel(2): 数式と関数
6. Excel(3): 相対参照と絶対参照
7. Excel(4): グラフの作成、印刷
8. Excel統計(1): 統計処理とは
9. Excel統計(2): 度数分布とヒストグラム
10. Excel統計(3): 代表値と散布度
11. Access(1): データベースの設計
12. Access(2): テーブル、フォームの作成
13. Access(3): クエリ、レポートの作成
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルII 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編・共立出版)

情報スキル IV (プログラミング)

奥村文徳 吉川和男 戸谷英司

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその技能と基礎知識を習得する。特に、プログラム言語が持つ特徴や機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造: IF、Select Case文
9. 繰り返し構造: For~Next文
10. 繰り返し構造: Do While~Loop、Do Until~Loop文
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門(西荒井学著 共立出版)

情報活用スキル I (情報ツールの活用)

奥村文徳 伊藤吉樹 勝野祐子

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、実社会において問題解決やプロジェクト推進の際にICTを実践的に活用できるように、必要な情報の検索ならびにその収集、収集した情報の分析、分析したデータの特性を効果的に表現する図表や説得力のある高度な文章の作成、さらには説得力のあるプレゼンテーションの実施まで、一連の情報ツール活用能力を習得する。

【授業の目標】

Word・Excelについての高度なスキルを身につけた上で、インターネットを利用した情報検索から文章による整理分析、PowerPointによる効果的な表現に至るまでの情報活用の流れを習得する。

【授業計画】

1. 情報活用とは
 2. 検索エンジンの活用、情報の信頼性
 3. Wordの実践(1):長文レポートの作成
 4. Wordの実践(2):脚注、索引、目次の作成
 5. Wordの実践(3):グラフ、図表目次の作成
 6. Excelの実践(1):データの加工・集計
 7. Excelの実践(2):データベースの集計
 8. Excelの実践(3):データの検索・抽出
 9. プレゼンテーションの計画
 10. プレゼンテーションの技法
 11. 総合演習(1)
 12. 総合演習(2)
 13. 総合演習(3)
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

なお、この授業では「情報スキルI」「情報スキルII」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用 (伊東俊彦他著 近代科学社)

資格取得スキル Ia (ITパスポート試験対策)

森 友紀 末次新市 時吉かおり

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般にわたる基礎的な技能や知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用できる能力を身につける。特に、ITパスポート試験の出題範囲である「テクノロジ系」を学習し、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、セキュリティ等の基礎知識や、アルゴリズムやプログラミングの論理的な思考力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ITパスポート試験概要、基礎理論(1):離散数学
2. 基礎理論(2):応用数学、情報に関する理論
3. アルゴリズムとプログラミング
4. コンピュータ構成要素
5. システム構成要素
6. ソフトウェア
7. 中間試験、前半のまとめ
8. ハードウェア、ヒューマンインタフェース
9. マルチメディア
10. データベース
11. ネットワーク(1):ネットワーク方式
12. ネットワーク(2):通信プロトコル、ネットワーク応用
13. セキュリティ(1):情報資産、情報セキュリティ管理
14. セキュリティ(2):情報セキュリティ対策、後半のまとめ
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、中間試験(割合:40%)、学期末試験(割合:40%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

情報活用スキル II (情報発信ツールの作成)

石丸 緑 伊藤吉樹

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、Webサイトに掲載する写真やイラスト、アニメーション画像などのデジタルコンテンツ制作に関する高度な技能と知識を習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じた表現方法を考慮し、問題解決を意識した情報発信ツールの開発を行う。

【授業の目標】

Photoshopを利用して、画像処理の知識とスキルを習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じたWebサイトを制作する。

【授業計画】

1. デジタル画像の基礎知識、Photoshopの基本操作
 2. 画像の補正:色調補正、トーンカーブ
 3. 画像の合成:選択範囲の作成、レイヤー機能
 4. 画像の加工:フィルタの適用
 5. 画像の描画:シェイプの作成
 6. 文字のレイアウト、レイヤースタイルの設定
 7. レイヤーマスクの作成
 8. 課題:画像編集
 9. アニメーションGIFの作成(1)
 10. アニメーションGIFの作成(2)
 11. 印刷、Web用ボタンの作成
 12. スライスツール、出力サイズの調整
 13. 課題:Webサイト制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業では、「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Photoshopレッスンブック CS3/CS2/CS/7対応 (ソシム)

資格取得スキル Ib (ITパスポート試験対策)

末次新市

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。特に、問題解決の手法やデータ分析、オフィスツールの活用に関する「ストラテジ系」の基礎知識、またコンピュータやネットワークを活用して、業務環境の整備を考えるための「マネジメント系」の基礎知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 企業活動:経営・組織、OR・IE、会計・財務
2. 法務(1):知的財産権、労働関連法規・取引関連法規
3. 法務(2):ガイドライン・技術者倫理、標準化
4. 経営戦略マネジメント(1):経営戦略手法・経営分析手法、ビジネス戦略
5. 経営戦略マネジメント(2):経営管理システム、技術戦略マネジメント
6. ビジネスインダストリ:ビジネスシステム、エンジニアリングシステム
7. 問題演習
8. 中間試験、前半のまとめ
9. システム戦略:情報システム戦略、業務プロセス
10. システム企画:システム化計画、要件定義、調達計画・実施
11. 開発技術:システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
12. プロジェクトマネジメント
13. サービスマネジメント、システム監査
14. 後半のまとめ、問題演習
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、中間試験(割合:40%)、学期末試験(割合:40%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

資格取得スキル II a (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、高度な技術者を目指す者としての知識と実践的な活用能力を習得する。特に午前問題を中心に、基礎理論から開発技術に至る「テクノロジ系」、プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントに関する「マネジメント系」、システム戦略や経営戦略などに関する「ストラテジ系」の幅広い知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 情報の基礎理論(1): データの表現と基数変換
2. 情報の基礎理論(2): 論理演算
3. ハードウェア(1): 動作原理、プロセッサの性能
4. ハードウェア(2): 記憶素子、補助記憶装置
5. ソフトウェア(1): OS、ジョブ管理とタスク管理
6. ソフトウェア(2): 実記憶管理、仮想記憶システム、プログラム言語
7. ファイルとデータベース(1): ファイル編成とデータベースの正規化
8. ファイルとデータベース(2): DBMS、SQL
9. 通信ネットワーク(1): 通信の仕組み
10. 通信ネットワーク(2): プロトコル、LAN、アクセス制御方式
11. システム開発(1): 開発手法、外部設計、内部設計、プログラム設計
12. システム開発(2): テスト技法、オブジェクト指向、信頼性設計
13. セキュリティ、情報化と経営
14. データ構造とアルゴリズム
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本(技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集(アイテック)

資格取得スキル II b (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。特に午後問題を中心に、テクノロジ系やマネジメント系、ストラテジ系についての応用問題に取り組み、データ構造、アルゴリズム、プログラム言語や表計算に関する問題を通して、論理的思考力と実務能力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ハードウェア
2. ソフトウェア
3. アルゴリズム(1): 整列・探索、配列処理
4. アルゴリズム(2): 文字列操作、擬似言語
5. プログラム開発: テスト手法
6. データベース: SQL、排他制御
7. 通信ネットワーク
8. 情報処理技術: 在庫管理、日程計画
9. プログラム設計(1): システム開発手順、仕様分析方法
10. プログラム設計(2): コード設計、画面設計、データ設計
11. プログラム言語
12. 過去問題対策(1)
13. 過去問題対策(2)
14. まとめ
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本(技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集(アイテック)

CGクリエイティングコース I (CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策)

伊藤吉樹 末次新市

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるため、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインへのアプローチ(Webサイト制作の流れ)
 2. コンセプトメイキング(Webサイトの種類とコンセプト)
 3. コンセプトメイキング(Web2.0、情報メディアについて)
 4. 情報の構造(情報の収集・分類、組織化、Webサイト構造)
 5. ページデザイン(レイアウト、タイポグラフィ)
 6. ページデザイン(グラフィックス、カラーコーディネート)
 7. ナビゲーション(ユーザインターフェース、ナビゲーションデザインの手法)
 8. 動きと音の効果(動きの技法と表現、音の演出)
 9. Webサイトを実現する技術(技術の基礎、Webサイト上の機能)
 10. Webサイトを実現する技術(Web制作の言語、バックエンドで活用する技術)
 11. Webサイトのテストと運用(Webサイトのテスト、Web解析)
 12. Webサイトのテストと運用(Webサイトの運用とリニューアル)
 13. 知的財産権、過去出題問題の検証と分析
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Webデザイン: コンセプトメイキングから運用まで 改訂版(CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザイン: Webページのための情報のデザイン(CG-ARTS協会)
Webデザイナー検定2級・3級問題集(CG-ARTS協会)

システム管理者コース II (ソフトウェア開発技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

「応用情報技術者試験(旧ソフトウェア開発技術者試験)」の合格を目標とする教育科目である。応用情報技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

応用情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学基礎上級(情報の基礎理論)
2. アルゴリズムとプログラミング(データ構造、探索、整列)
3. コンピュータシステム(ハードウェア)
4. コンピュータシステム(ソフトウェア、プログラム言語)
5. システム構成要素(集中・分散、構成、評価、信頼性、待ち行列)
6. システム開発と運用(システム開発手法とプロセスモデル)
7. データベース(関係データベースの基礎)
8. データベース(SQLとデータベース設計)
9. ネットワーク(通信技術、プロトコル、インターネット)
10. セキュリティと標準化(暗号化と認証、コンピュータウイルス、リスク対策)
11. マネジメント(工程管理、システム運用)
12. ストラテジ(経営戦略・経営工学、会計、関連法規・標準化)
13. 過去出題問題対策
14. 過去出題問題対策
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

授業前に掲示で指示する。

【参考文献・資料】

応用情報技術者合格教本(大滝みや子、岡嶋裕史著 技術評論社)
情報処理教科書 応用情報技術者(日高哲郎著 翔泳社)
応用情報技術者 予想問題集(アイテック情報技術教育研究部編著 アイテック)

CGクリエイティングコースⅡ (CGクリエイター検定Webデザイン部門1級試験対策)

伊藤吉樹

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるため、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインを始める前に：企画提案とコンセプトメイキング
2. グローバルナビゲーションのデザイン
3. ビットマップ画像の選択と抽出、編集・加工
4. フォトレタッチとフィルタや効果による高度な表現
5. ベクターグラフィックスのデザイン：
 ロゴ作成、ピクトグラム・地図の作成
6. スライスと最適化：Web画像の切り分けと書き出し
7. 課題制作：レイアウトデザイン
8. 基本コーディング：HTMLの基本タグとリンク
9. XHTMLとマークアップ：グルーピングと画像リンク
10. CSSの基本記述ルールとボックスモデル
11. CSSとXHTMLによるページレイアウト
12. JavaScriptによる動的表現：Flashによる動的表現
13. 総合課題制作：コンテンツ構築、デザインニング
14. 総合課題制作：コーディング、アップロード、講評
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

3週間でマスター Webデザインの教室（ソシム）

【参考文献・資料】

詳解 HTML & XHTML & CSS辞典（秀和システム）
詳解 JavaScript & DynamicHTML辞典 Ajax対応（秀和システム）

教職課程科目

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
 - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
 - ・ 法的根拠
 - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 今日の教育問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

教育原理

渡辺かよ子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・ 教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・ 教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
- 3 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
- 4 教育の目的
 - 教育目的とは/教育目的の歴史の変遷（古代ギリシャ～現代）
- 5 現代の教育

【評価方法】

授業内レポートとテスト。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- 国家（プラトン著 岩波書店）
 世界図説（コメニウス著 平凡社）
 エミール（ルソー著 岩波書店）
 学校と社会（デュエイ著 岩波書店）
 被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）

教師論

坂東 進

【授業の概要】

日本における明治維新以後の教員養成制度について、教員免許・資格・教員に求められる資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することで、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を進む人材の育成をめざす。

【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見るわが国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
 - (1) 青少年の心理と生徒理解
 - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
 - (3) 人権教育・同和問題
 - (4) 障害児教育
 - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
 - (6) 生涯教育・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
 - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
 - (2) 教員評価と学校組織の活性化
 - (3) 危機管理と説明責任

【評価方法】

課題提出、学習態度、出席状況、試験等により総合評価する

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する

【参考文献・資料】

授業中に必要に応じて紹介する

教育原理

植村広美

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえは学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・ 教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場、すなわち教育をするという視点から、学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・ 教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視角から理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身の理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 9. 他律的規範への順応
10. 11. 第二の誕生
12. 13. アイデンティティの確立
14. 生涯発達の視点と生き方
15. 自分探し(自分育て)の旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - ・外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐる/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

小塩允護

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害のある児童生徒への指導が従来の特殊教育諸学校や特殊学級等から、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから、今後教職に就く者が障害のある児童生徒の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、障害のある児童生徒の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

過去及び現在の特別支援教育の仕組みを理解するとともに、それぞれの障害の特性を理解し、個々の特別な教育的ニーズに応じるために学校教育では、どのように指導・支援する必要があるかを概略把握する。

【授業計画】

1. 特殊教育から特別支援教育への転換
2. 障害のある児童生徒の教育の現状
 - 特別支援学校における教育
 - 小・中学校等における障害のある児童生徒の教育
3. 障害の理解
4. 各種障害の特性と理解

【評価方法】

出席状況・授業中の学習態度・期末試験等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度の変遷
5. 教育法規と学校教育
6. 教育行政制度
7. 諸外国の教育制度

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

植村広美

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

教育制度の変遷の歴史、特徴、今日的な課題について理解すること。（詳細は授業にて説明する。）

【授業計画】

1. 学校教育制度の原理
2. 学校教育制度の変遷
3. 学校教育制度の比較
4. 日本の学校教育制度
5. 現代の学校教育制度

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探していきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の変遷を学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の一層の充実を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても論考する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程を考えるいくつかの視点
 - (3) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
 - キ 学習指導要領第七次改訂
- 3 現行学習指導要領総則編（小・中・高）
- 4 現行教育課程の事例検討（小・中・高）
- 5 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 6 教育課程にかかる今日的諸課題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

第1時限	講義に関する諸注意 講義の進め方と評価に関する注意、アンケートの実施
第2・3時限	「教育課程」とは何か
第4時限	わが国の教育課程改革の歴史(戦前)
第5・6時限	世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降) 特にアメリカにおける教育課程に関する考え方の変遷
第7・8・9時限	わが国における教育課程改革の歴史(戦後) ・学習指導要領の変遷史
第10時限	現行の学習指導要領の成立と問題点 ・いわゆる「学力低下」論争、その他について
第11時限	教育課程(カリキュラム)を編成する (高等学校…現行学習指導要領)
第12時限	小学校における「外国語」の授業について
第13時限	学びのモチベーションを高める授業とは
第14時限	諸外国における学校制度と教育課程 ・アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国
第15時限	試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

福祉科教育法 I

堀 正和

【授業の概要】

福祉教育の変遷や福祉教育の基礎的概念を学び、その上で福祉に関する学科や教科が設置された背景をさぐり、学校教育における福祉教育の諸問題を検討する。そして、福祉教育のあり方・福祉教育の意義と課題・これからの福祉教育の展望を考察する。

【授業の目標】

高等学校福祉科の各教材内容に応じた指導計画や授業展開を立案することができるようになる。

【授業計画】

1回	福祉教科創設の目的と教科の科目構成
2～5回	社会福祉基礎指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
6～10回	社会福祉制度指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
11～14回	社会福祉援助技術指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
15回	単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説－福祉編－(文部科学省)

福祉科教育法 II

堀 正和

【授業の概要】

新教科「福祉」について、指導要領の示す内容を検討しつつ、教科「福祉」に関する各科目の指導法とそのあり方を検討する。教科書をはじめとする教材の問題点、教育課程編成における留意点、他教科や科目間の連携、さらには、福祉科の教師に求められる資質についても検討する。

【授業の目標】

高等学校福祉科の各教材内容に応じた指導計画や授業展開を立案することができるようになる。

【授業計画】

1～5回	高齢者・障害者介護指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
6～8回	社会福祉実習指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
9～11回	社会福祉演習指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
12～13回	福祉情報処理指導法 (教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
14回	福祉科指導案の書き方と教育実習の意義
15回	単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説－福祉編－(文部科学省)

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実践についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

1	道徳と道徳教育 ・道徳と倫理 ・道徳教育思想の展開
2	道徳教育の現状と課題
3	道徳性の発達に関する理論
4	学校における道徳教育の実際 ・道徳教育の目標 ・道徳教育の内容 ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成 ・「道徳の時間」の指導の実際
5	道徳教育の歴史 ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷 ・戦後の道徳教育の展開
6	まとめとテスト

【評価方法】

学期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領(文部省 平成10年)
史料 道徳教育を考える(浪本勝年他編 北樹出版 他)

道徳指導法

小出隆司

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

1. 道徳とは何か
 - ・西欧に見る道徳思想について
 - ・日常生活における道徳について（市民性と公共性）
 - ・学校教育における道徳教育と子どもたちの考える道徳について
2. 道徳教育の歴史
 - ・学制公布から「教育勅語」を中心とした修身教育の内容と変遷
 - ・戦後「教育基本法」を土台とした道徳教育の展開
3. 学校教育における道徳教育の実際
 - ・改訂学習指導要領（2008年3月公布）における道徳教育の位置づけについて
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳教育の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳教育の時間」指導の実際、視聴覚教材の視聴
4. まとめ

【評価方法】

・期末レポート、課題図書感想文、毎時間の学習カードの記述内容、出席状況
学習参加の状況などを総合して評価する。

【テキスト】

・講義時にレジメを配布

【参考文献・資料】

・「中学校学習指導要領新旧比較」、講義時に課題図書など適宜紹介する。

090658526_0270 掲載順:0270

MCode:090107014_0330 ★

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）
＜学級＞の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社） 他

090658526_0280 掲載順:0280

MCode:090218017_0320 ★

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。
これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業の目標】

生徒指導の実質的な展開に資する知見やアプローチについての認識を基盤に、今日学校で生じている指導上の諸課題にどう対応していくかについて具体的に理解する。

【授業計画】

- 1 生徒指導にかかる二つの知見（基礎理論）と一つのアプローチ
 - (1) マスローの所論
 - (2) エリクソンの所論
 - (3) ロジャースの所論（ビデオ視聴）
- 2 生徒指導の四領域
 - (1) 在り方指導
 - (2) 生き方指導
 - (3) 学び方指導
 - (4) 保健指導
- 3 開発的指導と対症療法的指導（防火的指導、消火的指導）
- 4 在り方指導の実際
 - (1) 日常的指導項目
 - (2) 対症療法的指導項目
 - (3) 計画的指導項目
- 5 生き方指導の実際
 - (1) 生き方指導にかかる今日的課題
 - (2) 小・中・高という発達段階に応じた生き方指導
- 6 学び方指導（指導の固着と可変性）と保健指導（心と体の健康）
- 7 生徒指導にかかる今日的諸問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をおとして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- 第1時限 講義の進め方と評価などについての注意
・アンケートの実施
- 第2時限 「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか
・「生徒指導」（進路指導を含む）の歴史と発展
- 第3時限 生徒指導の意義と課題
・文部省「生徒指導の手引き（改訂版）」を読む
- 第4時限 生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展
・アメリカ、日本の場合
- 第5時限 発達心理（青年期の心理）
・子どもと大人の「境界」→「13歳論」
- 第6時限 生徒理解の方法と技術
- 第7時限 いまの中学・高校生が育ってきた時代背景
- 第8時限 いま学校でおこっていることも
・生徒の側から（いま中学・高校では）
生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）
- 第9時限 校則問題（制服・茶髪染髪・バイクなど）
・「いじめ」と「不登校」
・学校事故（授業・クラブ活動での事故）
- 第10時限 進路指導について
・学習のモチベーションを高めるために
ゲーム機やケータイと子どもたち
- 第11時限 「いまニート」について（平成16年は「キャリア教育元年」）
懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり）
・少年事件の手続き上の問題点（触法少年、虞犯少年、犯罪少年）
- 第13・14時限 学校に関する事柄を特集したビデオを見る。
・学級崩壊とは（NHKの特集番組）
・最北の酪農高校で（「桜の花の咲く頃」）
- 最終回 試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
・「自分」は他者との関係の中で育つ
・教師－生徒の相互影響過程
・生徒理解
3. 教育相談
・学校における教育相談
教育相談の位置づけ、教育相談の特質
・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
・適応と不適応
・問題行動のとらえ方とその対応
・学校への不適応を考える
・非行・いじめを考える

【評価方法】

レポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

中野靖彦

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒－教師関係のあり方を考えながら、人との関わり、コミュニケーションの仕方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師－生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

参考書として、中野著「鏡は先に笑わない」風媒社 を考えている。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 8. 正確に「聴く」とは
9. カウンセリングの実際例
10. 11. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
12. 13. 応答訓練
14. ロールプレイ
15. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 楠元町子 佐藤成哉
佐藤実芳 中嶋真弓 坂東進 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。

- (1) ボランティア活動の在り方ー福祉との関連について (伊藤昭道)
- (2) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題 (後口伊志樹)
- (3) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (4) 国際化と異文化理解 (楠元町子)
- (5) 人間と自然環境 (佐藤成哉)
- (6) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (7) 情報化社会における読書 (中嶋真弓)
- (8) 中高生の進路問題を考える (坂東進)
- (9) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する (プレゼンテーション能力) スキルを学ぶ。

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星が丘)

1. 全体、各テーマ別 8月10日 ※1月27日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月16日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 8月31日 ※2月19日
 - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
4. 各テーマ別 9月4日 ※2月26日
 - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月9日 ※3月3日
 - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
 - (2) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

後口伊志樹

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習及び介護等体験に取り組む上で必要な心構えを確立させるとともに、実習並びに体験を通して望ましい教師像を追求することができるよう、生徒指導、学習指導等の方法について基本的理解と実践力を身に付けさせる。

【授業計画】

- 1 教育問題を題材に発話力の向上 (実践3分間スピーチ)
- 2 教育実習の意義と目的
- 3 教育実習の内容と方法
- 4 教育実習記録について
 - ・ 実習記録の意義と内容
 - ・ 実習記録の実践的方法
- 5 授業研究について
 - ・ 教材研究の意義と方法
 - ・ ティーチャング・プランの意義と試案作成
 - ・ 教具の工夫
 - ・ 発問と板書の実践的方法
- 6 教育実習に関する全般的留意事項
- 7 介護体験について
 - ・ 社会福祉施設等並びに特別支援学校の理解と社会連帯
 - ・ 障害者介護の心構え
 - ・ 体験報告と質疑応答
- 8 まとめ

【評価方法】

授業コメント・カード、課題レポート、授業内の発表、期末試験、出席率により総合的に評価する。

【テキスト】

授業時参考文献の紹介とともに、資料プリントを配布する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

- 1 教育実習の意義と目的
 - ・ 前年度実習の様子
 - ・ 「先輩からの一言」
- 2 教育実習の内容と方法
 - ・ 教育実習の領域
 - ・ 教育実習の方法
- 3 教育実習記録の意義、書き方
- 4 授業研究
 - ・ 教材研究、教具の意義
 - ・ 学習理解を深めるための発問・板書の仕方
 - ・ 模擬授業の実施
- 5 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
- 6 介護体験事前指導
 - ・ 障害者・高齢者の理解、社会福祉施設等の種類と役割
 - ・ 特別支援学校教育の理解、障害児 (者) 介護への心構え
- 7 介護体験事後指導
- 8 まとめとテスト

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導『フィリア』(全国特殊学校長会編著 ジアース教育新社)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

1. 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたりとともに学級事務を担当する。
2. 教科担任として
前半では、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。後半では、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言を得て、授業をより充実させるよう努める。
3. 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価 (生徒指導、学習指導、実習態度) に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
 - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
 - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
 - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
 - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

国際理解教育論

植村広美

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

学校図書館司書教諭科目

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみにでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学校図書館メディアの構成

担当者未定

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。
この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。
また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。
そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えたとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論①）
2. 社会教育と学校教育の関連性（総論②）
3. 司書教諭の専門性と学習支援
4. 専門性の醸成と実践活動プロセス
5. 専門性の醸成の場としての学校図書館
6. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
7. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
8. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
9. 学校図書館における情報サービスと学習指導
10. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義
11. 公教育と私教育との関連及びそれぞれの評価過程
12. 学習支援としての学校図書館活動

【評価方法】

授業内での課題：40%
期末試験：60%

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。
児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、実例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
(1) 読書との出会いとよこび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
(1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
(2) 少年期・青年期における読書との出会い
(3) 読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
(1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
(2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
(1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
(2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
(1) 情報収集のための「読書」と思索のための読書
(2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

プリントを配布する。

情報メディアの活用

担当者未定

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

会計教育科目

初級簿記（3級程度） *基礎総合

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）B *工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）A *商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意意思決定I、設備投資の意思決定
- 第11回 構造的意意思決定II
- 第12回 構造的意意思決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

1. 直前答練第1回、解説
2. 直前答練第2回、解説
3. 直前答練第3回、解説
4. 直前答練第4回、解説
5. 全国公開模擬試験、解説
6. ファイナルチェック問題、解説
7. 直前総まとめ
8. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

三浦克人 藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記3級過去問題集（大原簿記学校著 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習A *商業簿記

藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本支店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記2級過去問題集（大原簿記学校 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習B *工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

体験教育科目

英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナー I (中国)

馮 富榮

【授業の概要】

この講義では、言語実践を通して、言葉を知り、相手を理解し、さらに自ら発信して、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間程度の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 修了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修に参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは国際交流センターの掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

【参考文献・資料】

適宜に指示する

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部) ほかは特になし

Get together and Talk I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

“One World Cultural Exchange” Get Together and Talk I seminar, 2009

<Course outline>

Students are provided with ample opportunities to improve their English communication skills through dialog with international students. All lectures and activities will be conducted in English. This 2-credit intensive English course is offered to all departments

Students must be available for the full length of the program and they must be motivated to improve their speaking skills in English while actively participating in all aspects of the program.

Course size is limited to 30 students.

【Course objectives】

Course objective is to participate in a cultural exchange with people from other parts of the world. Learn about international societies from native people from Asia Africa, and Europe. Your guide through this lecture Series is Richard S. Harris an American who has been teaching in Japan for over 21 years.

【Course schedule】

<Class activities and assignments>

- 1) International students give presentations on their cultures and participate in Group discussions.
- 2) Japanese students will be required to do two short written assignments about culture, one is pre seminar survey and the other is post seminar assignment.

【Assessment】

Course Assessment

60% of grade will be based on course participation.

40% of grade will be based on assessment of written assignments

【Textbooks】

not required

Get together and Talk II

小沢 茂

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのプロトコル接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held on Tuesdays over 2nd and 3rd periods, 10:50 - 2:50, Wednesdays 4th and 5th Periods 3:00-6:10pm and Thursdays 3rd and 4th Periods 1:20-4:30pm.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch/or break! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students.Topics for discussion will differ week to week. Some example topics are listed below.

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Topic preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

<http://www.apple.com/support/isdigit/>

コミュニティ・サービスラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が地域(学外)における実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、地域で活躍するボランティア団体や行政などと協働しながら、EXPOエコマナーを活用した環境活動、ボランティア啓発活動などの企画を行いながら、実践へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画・運営を受けて、地域で活躍するボランティア団体や行政等と協働しながらEXPOエコマネーを活用した環境活動の他、ボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI~IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献: ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外場で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動(事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

コミュニティ・サービスラーニング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

【授業の概要】

さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。

この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよく互いを理解するためのお手伝いをします。具体的には、外国人(主に、ブラジル、フィリピン)の中高生たちが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真や動画を撮影し、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらい現場実践型プログラム、そのお手伝いです。

この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かして欲しいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、アーカイビングなど)

この実習は昨年以降に続き2年目です。すべては参加者の皆さんのやる気次第ですが、きっと思い出に残る実習になると思います。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

- プレセミナー
プレ1日目 4月(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板にて提示)
授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備
プレ2日目 7月(場所、日程等、詳細はCCC掲示板にて提示)
事前調査発表
- 8月集中講義日程(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板を確認のこと)
1日目 アイスブレイキンググループ分け
メディア技術研修(長久手キャンパス)
2日目 参加学生作品制作
3日目 現地ワークショップ1日目
4日目 現地ワークショップ2日目
- 振り返り
9月または10月

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

- ・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏(著)
- ・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部(編集)
- ・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会(2008年出版予定)
- ・「メディア・プラクティス」セリカ書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

地域活動総合演習 IA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 IIA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。

なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

地域活動総合演習 IIB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

障がい者支援ボランティア入門

谷口明広 石黒文字

【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

【授業の目標】

- (1) 障害学生支援に関心をもち、障害のある人のニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人への支援技術を身に付け、共に学ぶ実践を実行する。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
 - (1) 肢体障害者の理解
 - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 視覚障害者の理解
 - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 聴覚障害者の理解
 - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動の実践
7. 愛知淑徳大学における支援のシステム
8. 共に生きる社会を目指して

【評価方法】

1. 出席を評価の中心とする。
2. ボランティアの体験レポート
3. 最終レポートの提出

【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)」とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする他、受講生全員がボランティアを体験できる場も設定する予定です。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動に参加することの意義を考える
3. 基本的な用語とキーワードを学ぶ
- 4～8. 地域で活躍するボランティア活動から学ぼう
- 9～11. 企業の社会貢献とは？
 - ※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外による活動を予定しています
12. 行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13. ボランティア団体の抱える課題とは？
14. 地域にあるボランティア・市民活動推進機関とは？
15. 総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

インターンシップ概論

小林三太郎 井上博進

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適な職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づけられる。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジネスマナー講座
7. キャリアプランの作成
8. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適な職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。

1. ガイダンス
2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

キャリアデザイン

小林三太郎

【授業の概要】

現代の社会情勢は大きく変化してきている。その状況下で学生が早い段階に大学で学ぶことの意義を認識しキャリア形成のために視野を拡大することが重要となる。

授業前半は社会で活躍している方々に現在までの「人生の経験談、キャリア形成について、社会人とは」について講演していただく。授業後半は毎回ディスカッションを取り入れ、入学後の初期段階から「大学で何を学ぶか」、社会で「働くとは」について考える。また、学生自らのキャリア形成を考えることを目的とする。

【授業の目標】

様々な人の人生観や経験談を参考にディスカッションを行い、自らのキャリア形成を考える機会とし、学生自身の視野を拡大することを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. キャリア概論①
3. キャリア概論②
4. 人生とキャリアについて（全6回）
5. グループディスカッション（全4回）
6. 考察及びレポート

【評価方法】

出席とレポートにより評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。